

# 2024年度 情報関係科目シラバス 目次

## 1 履修手続き

1.1	情報関係科目の履修日程	3
1.2	情報関係科目の設置科目	4
1.3	メディア授業科目について	4
1.4	情報関係科目 時間割	5
	和泉キャンパス時間割	5
	駿河台キャンパス時間割	6
	生田キャンパス時間割	7
	メディア授業科目時間割	8
1.5	情報関係科目の履修申請に関する注意	9
1.6	情報関係科目の履修申請に関するFAQ	10
1.7	情報関係科目の履修確定後の注意	11

## 2 WEB履修申請

2.1	WEB履修申請に必要なもの	12
2.2	WEB履修申請の注意点	12
2.3	WEB履修申請の手順	13
2.4	WEB履修申請の取り消し手順	16
2.5	WEB履修申請の変更手順	16
2.6	一次履修申請の結果確認手順	16
2.7	二次履修申請について	17
2.8	履修修正について	17

## 3 情報関係科目の概要

3.1	情報関係科目の教育目標	18
3.2	情報関係科目の編成	18
3.3	各階層の概要	18
3.4	各科目の概要	19
3.5	各階層の概要	20
3.6	情報関係科目 実力確認テスト	24

## 4 エレメンタリー階層の科目

### 【ICT エレメンタリー】

大塚 和彦	26
小川 有希子	26
小久保 秀之	27

## 5 基本階層の科目

### 【ICT ベーシック I・II】

内田 俊郎	28
大塚 和彦	29
岡田 昭夫	30
岡田 浩之	32
小川 有希子	33
片瀬 和子	34
加藤 浩	35
亀山 浩文	36
近藤 佐保子	37
小久保 秀之	38
小林 信三	39
瀬山 実穂	40
高須 淳宏	41

高橋 忍	42
巽 久行	43
永井 保夫	44
野口 喜洋	45
橋本 政樹	46
茨田 大輔	47
深澤 琢也	48
松村 茂	49
屋敷 聡	50
山本 和義	51
龍前 三郎	52

## 6 応用階層の科目

### 【ICT 統計解析 I・II】

井田 正道	53
小久保 秀之	54
開沼 泰隆	55
野口 喜洋	56
橋本 政樹	57
龍前 三郎	58

### 【ICT データベース I・II】

後藤田 洋伸	59
高須 淳宏	60
野口 喜洋	61
山本 和義	62

### 【ICT メディア編集 I・II】

加藤 晋	63
後藤田 洋伸	64
高見澤 秀幸	65
古屋 俊彦	66
元村 直樹	67
龍前 三郎	68

### 【ICT アプリ開発 I・II】

巽 久行	69
野口 喜洋	70
茨田 大輔	71

### 【ICT コンテンツデザイン I・II】

小林 信三	72
宮原 俊之	73

## 7 総合発展階層の科目

### 【ICT 総合実践 I・II】

小林 信三	74
岡田 昭夫	75

Appendix A	明治大学の情報サービスについて	77
Appendix B	施設案内図	81
Appendix C	情報関連講習会について	85

## 1. 履修手続き

- ❗ 情報関係科目は受講者制限科目です。他の科目と重複しないように、時間割をよく考えたうえで履修申請してください。
- ❗ 原則として、自分の在籍するキャンパス以外に設置されている情報関係科目は履修できません。(例外あり)詳細はp.9の⑧をご確認ください。

### 1.1 情報関係科目の履修日程

〈WEB履修登録システム URL〉 <https://rishu-web.mind.meiji.ac.jp/rishuinfo.htm>

<p>一次募集 【抽選】</p>	<p>■ 履修申請期間【抽選】 4月4日(木) 13:00 ~ 4月8日(月) 9:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 上記期間に、WEB履修登録システム上で履修申請(取消・変更を含む)ができます。メンテナンスによるシステム停止期間に注意してください。</li> <li>● 希望者が定員を超えたクラスは抽選となります。結果発表を必ず確認してください。</li> </ul> <p>■ システム停止期間 ※以下期間は履修申請できません。 4月5日(金) 9:30 ~ 4月6日(土) 10:00</p> <p>■ 結果発表 4月8日(月) 17:00 ~ WEB履修システム上で発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 結果確認手順はp.16の2.6「一次履修申請の結果確認手順」に記載しています。</li> <li>● 履修確定した科目の取消・変更を希望する場合は、二次募集・履修修正期間にWEB履修登録システム上で申請してください。</li> <li>● 抽選処理等が終了次第発表しますので、発表時間が変更される可能性があります。</li> </ul>
<p>二次募集 【先着順】</p> <p>(追加・削除可)</p>	<p>■ 履修申請期間【先着順】 4月9日(火) 13:00 ~ 4月10日(水) 9:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一次募集の結果、定員に空きがあるクラスのみ先着順で申請を受け付けます。</li> <li>● 定員の空き状況は、本ページ下部記載の<a href="#">情報関係科目 HP</a>より確認できます。二次募集開始後は、履修登録画面で確認してください。</li> </ul> <p>■ 結果発表 → WEB上で申込み完了=履修確定となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 履修登録確認ページに希望の科目が表示されていれば、履修は確定しています。</li> <li>● 履修が確定次第、授業に出席することができます。</li> </ul>
<p>履修修正 【先着順】</p> <p>(追加・削除可)</p>	<p>■ 履修修正期間【先着順】 4月16日(火) 13:00 ~ 4月18日(木) 9:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 二次募集の結果、定員に空きがあるクラスのみ先着順で申請を受け付けます。定員の空き状況は、ページ下部記載の<a href="#">情報関係科目 HP</a>より確認できます。履修修正期間開始後は、履修登録画面で確認してください。</li> <li>● 一次・二次募集で確定した科目の削除を希望する方はこの期間にWEB履修登録画面で削除をしてください。(削除手順はp.16の2.4「WEB履修申請の取り消し手順」参照)</li> <li>● 履修修正期間後の修正は一切できません。</li> </ul> <p>■ 結果発表 → WEB上で申込み完了=履修確定となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 履修登録確認ページに希望の科目が表示されていれば、履修は確定しています。</li> <li>● 履修が確定次第、授業に出席することができます。</li> </ul>

〈定員空き状況確認(情報関係科目 HP)〉[https://www.meiji.ac.jp/edu-info/about\\_ict.html](https://www.meiji.ac.jp/edu-info/about_ict.html)

## 1.2 情報関係科目の設置科目

情報関係科目の設置科目は下表のとおりです。

履修する科目名をよく確認してから履修申請を行ってください。

科目名	履修可能な学部・学年	単位数
ICT エレメンタリー	法学部 商学部 政治経済学部 文学部 農学部 経営学部 情報コミュニケーション学部 ※ 国際日本学部 ※  <b>1 年次～</b>	2 単位
ICT ベーシック I・II		
ICT 統計解析 I・II		
ICT データベース I・II		
ICT メディア編集 I・II		
ICT アプリ開発 I・II		
ICT コンテンツデザイン I・II		
ICT 総合実践 I・II		

※情報コミュニケーション学部2017年度以降入学者は、「ICT エレメンタリー」のみ履修できません。

※国際日本学部の学生は「ICT ベーシック I」のみ履修できません。

※理工学部と総合数理学部の学生は、情報関係科目を履修できません。

## 1.3 メディア授業科目について

### (1) メディア授業科目とは

- ・本学では、すべての授業回数のうちの半数を超える回においてメディア授業(オンライン形式による授業)を実施する授業科目を「メディア授業科目」と定義します。
- ・メディア授業科目の修得単位は、60単位を上限に、卒業要件単位として認められます。(卒業要件単位の扱いについて、詳細は所属学部の便覧・シラバスで確認すること。)

### (2) 情報関係科目の「メディア授業科目」は、以下の条件で実施されます。

- ① 原則として、定期試験を含めた**全授業回をオンライン形式で実施**します。
- ② 授業形式は「リアルタイム型」・「オンデマンド型」・「リアルタイム・オンデマンド併用型」のいずれかになります。
- ③ 学修習慣の維持を目的とし、**曜日時限を定めて開講**されます。
- ④ メディア授業科目はキャンパス間の履修制限をおこないません。所属キャンパスに関わらず**全キャンパスの学生が履修可能**です。

#### <メディア授業科目履修の注意>

- ・補講等で一部対面形式を交える場合があります。その場合は担当教員から Oh-o!Meiji システムで事前にお知らせされます。
- ・メディア授業科目を履修する場合は、学習に使えるパソコンを用意すること(スマホ・タブレット不可)。また Office ソフト (Word、Excel、PowerPoint)、その他授業で指定されたソフトウェアをインストールすること。【参照】 <https://www.meiji.ac.jp/isc/msca/of365.html>

### (3) 対象の授業科目

- ① p.26～p.76 の講義シラバスで科目名の最後に[M]が付いている授業科目が対象です。
- ② メディア授業科目の時間割は、p.8 を参照してください。

# 1.4 情報関係科目時間割

## 和泉キャンパス

※このページは「対面授業科目」の時間割です。「メディア授業科目」の時間割はp.8を参照してください。

### 春学期

	1限(9:00-10:40)				2限(10:50-12:30)				3限(13:30-15:10)				4限(15:20-17:00)				5限(17:10-18:50)				
	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	
月	ICTベーシックⅠ	内田俊郎	M411	28	ICTベーシックⅠ	内田俊郎	M411	28	ICTベーシックⅠ	加藤浩	M413	35									
	ICTベーシックⅠ	加藤浩	M413	35	ICTベーシックⅠ	龍前三郎	M412	52	ICTメディア編集Ⅰ	龍前三郎	M412	68									
	ICT統計解析Ⅰ	龍前三郎	M412	58	ICTベーシックⅠ	加藤浩	M413	35													
					ICTベーシックⅠ	巽久行	M414	43													
火									ICTベーシックⅠ	巽久行	M414	43	ICTアプリ開発Ⅰ	巽久行	M414	69	ICTベーシックⅠ	橋本政樹	M414	46	
									ICT統計解析Ⅰ	開沼泰隆	M412	55									
水	ICTベーシックⅠ	片瀬和子	M411	34	ICTベーシックⅠ	片瀬和子	M411	34	ICT統計解析Ⅰ	橋本政樹	M411	57	ICTベーシックⅠ	橋本政樹	M411	46	ICTベーシックⅠ	橋本政樹	M411	46	
	ICTベーシックⅠ	屋敷聡	M412	50	ICTベーシックⅠ	屋敷聡	M412	50					ICTメディア編集Ⅰ	古屋俊彦	M412	66					
木					ICTベーシックⅠ	山本和義	M414	51	ICTデータベースⅠ	山本和義	M414	62	ICTデータベースⅠ	山本和義	M414	62					
					ICTメディア編集Ⅰ	元村直樹	M412	67													
金	ICTベーシックⅠ	屋敷聡	M412	50	ICTベーシックⅠ	屋敷聡	M412	50	ICTエレメンタリー	大塚和彦	M412	26	ICTベーシックⅠ	大塚和彦	M412	29	ICTベーシックⅠ	大塚和彦	M412	29	
					ICTメディア編集Ⅰ	後藤田洋伸	M414	64									ICTベーシックⅠ	小久保秀之	M413	38	

### 秋学期

	1限(9:00-10:40)				2限(10:50-12:30)				3限(13:30-15:10)				4限(15:20-17:00)				5限(17:10-18:50)				
	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	
月	ICTベーシックⅡ	内田俊郎	M411	28	ICTベーシックⅡ	内田俊郎	M411	28	ICTベーシックⅡ	加藤浩	M413	35									
	ICTベーシックⅡ	加藤浩	M413	35	ICTベーシックⅡ	龍前三郎	M412	52	ICTメディア編集Ⅱ	龍前三郎	M412	68									
	ICT統計解析Ⅱ	龍前三郎	M412	58	ICTベーシックⅡ	加藤浩	M413	35													
					ICTベーシックⅡ	巽久行	M414	43													
火									ICT統計解析Ⅱ	開沼泰隆	M412	55	ICTアプリ開発Ⅱ	巽久行	M414	69	ICTベーシックⅡ	橋本政樹	M414	46	
水	ICTベーシックⅡ	片瀬和子	M411	34	ICTベーシックⅡ	片瀬和子	M411	34	ICT統計解析Ⅱ	橋本政樹	M411	57	ICTベーシックⅡ	橋本政樹	M411	46	ICTベーシックⅡ	橋本政樹	M411	46	
	ICTベーシックⅡ	屋敷聡	M412	50	ICTベーシックⅡ	屋敷聡	M412	50					ICTメディア編集Ⅱ	古屋俊彦	M412	66					
木					ICTベーシックⅡ	山本和義	M414	51	ICTデータベースⅡ	山本和義	M414	62	ICTデータベースⅡ	山本和義	M414	62					
					ICTメディア編集Ⅱ	元村直樹	M412	67													
金	ICTベーシックⅡ	屋敷聡	M412	50	ICTベーシックⅡ	屋敷聡	M412	50	※ICTベーシックⅠ	大塚和彦	M412	29	ICTベーシックⅡ	大塚和彦	M412	29	ICTエレメンタリー	小久保秀之	M413	27	
					ICTメディア編集Ⅱ	後藤田洋伸	M414	64									ICTベーシックⅡ	大塚和彦	M412	29	

※秋学期 金曜3限大塚先生は「ICTベーシックⅠ」です。秋学期のICTベーシックⅡとは同時履修できません。(P.9参照)

# 駿河台キャンパス

※このページは「対面授業科目」の時間割です。「メディア授業科目」の時間割はp.8を参照してください。

## 春学期

	1限(9:00-10:40)				2限(10:50-12:30)				3限(13:30-15:10)				4限(15:20-17:00)				5限(17:10-18:50)							
	科目	担当者	教室	ラボ入員	科目	担当者	教室	ラボ入員	科目	担当者	教室	ラボ入員	科目	担当者	教室	ラボ入員	科目	担当者	教室	ラボ入員				
月					ICTデータベースI	山本和義	2094	62	ICTベーシックI	山本和義	2094	51	ICTベーシックI	山本和義	2094	51	ICT統計解析I	龍前三郎	2123	58				
火									ICTアプリ開発I	巽久行	2123	69	ICTメディア編集I	後藤田洋伸	2063	64	ICTメディア編集I	後藤田洋伸	2063	64	ICTデータベースI	後藤田洋伸	2063	59
水					ICT統計解析I	開沼泰隆	2094	55	ICTデータベースI	高須淳宏	2094	60	ICTメディア編集I	元村直樹	2053	67	ICTデータベースI	高須淳宏	2094	60	ICT総合実践I	岡田昭夫	2053	75
木									ICTメディア編集I	元村直樹	2053	67	ICTコンテンツデザインI	宮原俊之	2063	73								
金					ICT統計解析I	井田正道	2053	53	ICTベーシックI	永井保夫	2063	44	ICTメディア編集I	加藤晋	2053	63	ICTデータベースI	永井保夫	2063	44	ICTメディア編集I	加藤晋	2053	63
					ICTコンテンツデザインI	小林信三	2064	72	ICT総合実践I	小林信三	2064	74	ICTメディア編集I	加藤晋	2053	63								

※春学期 金曜4限永井先生は「ICTベーシックII」です。2023年度までにベーシックIを単位修得して、ベーシックIIを未修得の学生が、当該科目を履修することができます。春学期のICTベーシックIとは同時履修できません。(P.9参照)

## 秋学期

	1限(9:00-10:40)				2限(10:50-12:30)				3限(13:30-15:10)				4限(15:20-17:00)				5限(17:10-18:50)							
	科目	担当者	教室	ラボ入員	科目	担当者	教室	ラボ入員	科目	担当者	教室	ラボ入員	科目	担当者	教室	ラボ入員	科目	担当者	教室	ラボ入員				
月					ICTデータベースII	山本和義	2094	62	ICTベーシックII	山本和義	2094	51	ICTベーシックII	山本和義	2094	51	ICT統計解析II	龍前三郎	2123	58				
火									ICTアプリ開発II	巽久行	2123	69	ICTメディア編集II	後藤田洋伸	2063	64	ICTメディア編集II	後藤田洋伸	2063	64	ICTデータベースII	後藤田洋伸	2063	59
水					ICT統計解析II	開沼泰隆	2094	55	ICTデータベースII	高須淳宏	2094	60	ICTメディア編集II	元村直樹	2053	67	ICTデータベースII	高須淳宏	2094	60	ICT総合実践II	岡田昭夫	2053	76
木									ICTメディア編集II	元村直樹	2053	67	ICTコンテンツデザインII	宮原俊之	2063	73								
金					ICT統計解析II	井田正道	2053	53	ICTベーシックII	永井保夫	2063	44	ICTメディア編集II	加藤晋	2053	63	ICTデータベースII	永井保夫	2063	44	ICTメディア編集II	加藤晋	2053	63
					ICTコンテンツデザインII	小林信三	2064	72	ICT総合実践II	小林信三	2064	74	ICTメディア編集II	加藤晋	2053	63								

※秋学期 金曜4限永井先生は「ICTベーシックI」です。秋学期のICTベーシックIIとは同時履修できません。(P.9参照)

# 生田キャンパス

※このページは「対面授業科目」の時間割です。「メディア授業科目」の時間割はp.8を参照してください。

## 春学期

	1限(9:00-10:40)				2限(10:50-12:30)				3限(13:30-15:10)				4限(15:20-17:00)				5限(17:10-18:50)			
	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁
月	ICTベーシックI	高橋忍	0603	42	ICTベーシックI	高橋忍	0603	42												
火																				
水																				
木																				
金																				

## 秋学期

	1限(9:00-10:40)				2限(10:50-12:30)				3限(13:30-15:10)				4限(15:20-17:00)				5限(17:10-18:50)			
	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁
月	ICTベーシックII	高橋忍	0603	42	ICTベーシックII	高橋忍	0603	42												
火																				
水																				
木																				
金																				

## メディア授業科目 時間割

このページは「メディア授業科目」の時間割です。原則として全授業回がオンライン形式で実施されます。メディア授業科目について詳細は、p.4「1.3 メディア授業科目について」を参照してください。駿河台・和泉・生田・中野すべてのキャンパスの学生が履修できます。

### メディア授業科目【春学期】

	1限(9:00-10:40)				2限(10:50-12:30)				3限(13:30-15:10)				4限(15:20-17:00)				5限(17:10-18:50)							
	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁				
月					ICTベーシック I (M)	茨田大輔	-	47	ICTベーシック I (M)	松村茂	-	49	ICTベーシック I (M)	松村茂	-	49	ICTベーシック I (M)	松村茂	-	49				
									ICTベーシック I (M)	亀山浩文	-	36	ICTベーシック I (M)	亀山浩文	-	36								
									ICTベーシック I (M)	岡田昭夫	-	30	ICTベーシック I (M)	岡田昭夫	-	30								
火	ICTベーシック I (M)	瀬山実穂	-	40	ICTベーシック I (M)	瀬山実穂	-	40	ICTベーシック I (M)	瀬山実穂	-	40	ICTベーシック I (M)	瀬山実穂	-	40								
	ICTベーシック I (M)	野口喜洋	-	45	ICTベーシック I (M)	野口喜洋	-	45	ICT統計解析 I (M)	野口喜洋	-	56												
	ICTベーシック I (M)	小林信三	-	39	ICTベーシック I (M)	小林信三	-	39																
水	ICTエレメンタリー(M)	小川有希子	-	26	ICTベーシック I (M)	小川有希子	-	33	ICTベーシック I (M)	岡田昭夫	-	30	ICTベーシック I (M)	岡田昭夫	-	30	ICTベーシック I (M)	岡田昭夫	-	30				
	ICTベーシック I (M)	近藤佐保子	-	37	ICTベーシック I (M)	近藤佐保子	-	37	ICTベーシック I (M)	近藤佐保子	-	37	ICTベーシック I (M)	小川有希子	-	33	ICTベーシック I (M)	小川有希子	-	37				
									ICTベーシック I (M)	小川有希子	-	33												
木	ICTベーシック I (M)	瀬山実穂	-	40	ICTベーシック I (M)	瀬山実穂	-	40	ICTメディア編集 I (M)	高見澤秀幸	-	65	ICTベーシック I (M)	深澤琢也	-	48	ICTベーシック I (M)	深澤琢也	-	48				
	ICTアプリ開発 I (M)	野口喜洋	-	70	ICTアプリ開発 I (M)	野口喜洋	-	70	ICTデータベース I (M)	野口喜洋	-	61	ICTメディア編集 I (M)	高見澤秀幸	-	65	ICT統計解析 I (M)	小久保秀之	-	54				
金	ICTベーシック I (M)	岡田浩之	-	32	ICTベーシック I (M)	岡田浩之	-	32	ICTベーシック I (M)	高須淳宏	-	41	ICTベーシック I (M)	高須淳宏	-	41	ICTアプリ開発 I (M)	茨田大輔	-	71				

### メディア授業科目【秋学期】

	1限(9:00-10:40)				2限(10:50-12:30)				3限(13:30-15:10)				4限(15:20-17:00)				5限(17:10-18:50)							
	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁	科目	担当者	教室	シラバス頁				
月					ICTベーシック II (M)	茨田大輔	-	47	ICTベーシック II (M)	松村茂	-	49	ICTベーシック II (M)	松村茂	-	49	ICTベーシック II (M)	松村茂	-	49				
									ICTベーシック II (M)	亀山浩文	-	36	ICTベーシック II (M)	亀山浩文	-	36								
									ICTベーシック II (M)	岡田昭夫	-	31	ICTベーシック II (M)	岡田昭夫	-	31								
火	ICTベーシック II (M)	瀬山実穂	-	40	ICTベーシック II (M)	瀬山実穂	-	40	ICTベーシック II (M)	瀬山実穂	-	40	ICTベーシック II (M)	瀬山実穂	-	40								
	ICTベーシック II (M)	野口喜洋	-	45	ICTベーシック II (M)	野口喜洋	-	45	ICT統計解析 II (M)	野口喜洋	-	56												
	ICTベーシック II (M)	小林信三	-	39	ICTベーシック II (M)	小林信三	-	39																
水	ICTエレメンタリー(M)	小川有希子	-	26	ICTベーシック II (M)	小川有希子	-	33	ICTベーシック II (M)	岡田昭夫	-	31	ICTベーシック II (M)	岡田昭夫	-	31	ICTベーシック II (M)	岡田昭夫	-	31				
	ICTベーシック II (M)	近藤佐保子	-	37	ICTベーシック II (M)	近藤佐保子	-	37	ICTベーシック II (M)	近藤佐保子	-	37	ICTベーシック II (M)	小川有希子	-	33	ICTベーシック II (M)	近藤佐保子	-	37				
									ICTベーシック II (M)	小川有希子	-	33												
木	ICTベーシック II (M)	瀬山実穂	-	40	ICTベーシック II (M)	瀬山実穂	-	40	ICTメディア編集 II (M)	高見澤秀幸	-	65	ICTベーシック II (M)	深澤琢也	-	48	ICTベーシック II (M)	深澤琢也	-	48				
	ICTアプリ開発 II (M)	野口喜洋	-	70	ICTアプリ開発 II (M)	野口喜洋	-	70	ICTデータベース II (M)	野口喜洋	-	61	ICTメディア編集 II (M)	高見澤秀幸	-	65	ICT統計解析 II (M)	小久保秀之	-	54				
																	※ICTメディア編集 I (M)	高見澤秀幸	-	65				
金	ICTベーシック II (M)	岡田浩之	-	32	ICTベーシック II (M)	岡田浩之	-	32	ICTベーシック II (M)	高須淳宏	-	41	ICTベーシック II (M)	高須淳宏	-	41	ICTアプリ開発 II (M)	茨田大輔	-	71				

※秋学期 木曜5限高見澤先生は「ICTメディア編集 I (M)」です。秋学期のICTメディア編集 II とは同時履修できません。(p.9参照)



## 1.5 情報関係科目の履修申請に関する注意

- ① 情報関係科目は WEB から履修申請を行います。WEB 履修申請の方法については「2WEB 履修申請 (p.12～p.17)」を参照してください。
- ② 情報関係科目の履修申請は、全ての科目を春学期の履修申請期間に行ってください(秋学期開講の科目も春学期の履修申請期間に履修申請します。秋学期履修修正については、春学期授業終了日までに Oh-o! Meiji にてお知らせします)。
- ③ 情報関係科目は、全ての科目が2単位・半期で開講されます。
- ④ 理工学部・総合数理学部生は情報関係科目を履修できません。
- ⑤ 各科目で I と II を両方とも履修する場合は、I の授業内容を前提に II の授業内容を組んでいるため、I と II を同じ教員で履修することが望ましいです。
- ⑥ 「ICT エレメンタリー」以外の情報関係科目は、I の単位を修得しないと II の履修はできません。春学期の I と秋学期の II を同時に履修申請することは可能ですが、I の単位を修得できなかった場合は、II の履修登録は自動的に削除されます。その場合、II は翌年度以降に履修申請をすると「新規」履修の扱いとなります。  
※国際日本学部の学生は、「アカデミック・ICT リテラシー」を修得しないと、「ICT ベーシック II」の履修はできません。ただし、春学期の履修申請時に申請をすることは可能です。  
※2024 年度春学期 金曜 4 限に ICT ベーシック II を開講していますが、2023 年度までに、ICT ベーシック I を修得していなければ、当該科目は履修できません。
- ⑦ 各科目とも I だけの履修も可能です。
- ⑧ 原則として、自分の在籍するキャンパス以外に設置されている科目は履修できません。  
(下記を除く)  
※国際日本学部生は、和泉または駿河台キャンパス開講の「ICT ベーシック I」以外の科目を履修することができます。  
※農学部生は、和泉または駿河台キャンパス開講の「ICT エレメンタリー」・「ICT ベーシック I II」以外の科目を履修することができます。  
**※「メディア授業科目」は、全キャンパスの学生が受講可能です。**
- ⑨ 一次募集で履修申請者が定員を超えた科目は抽選を行います。
- ⑩ 既に単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- ⑪ 半期で「I」「II」を同時に履修することはできません。

### <履修できない例>

「ICT ベーシック I」(大塚先生)秋学期 和泉 金曜 3 時限、  
「ICT ベーシック II」(大塚先生)秋学期 和泉 金曜 4 時限の履修は不可。

「ICT ベーシック I」(永井先生)春学期 駿河台 金曜 3 時限、  
「ICT ベーシック II」(永井先生)春学期 駿河台 金曜 4 時限の履修は不可。

「ICT ベーシック I」(永井先生)秋学期 駿河台 金曜 4 時限、  
「ICT ベーシック II」(永井先生)秋学期 駿河台 金曜 3 時限の履修は不可。

「ICT メディア編集 II [M]」(高見澤先生)秋学期 メディア授業科目 木曜4時限、  
「ICT メディア編集 I [M]」(高見澤先生)秋学期 メディア授業科目 木曜5時限の履修は不可。

## 1.6 情報関係科目の履修申請に関する FAQ

**Q1. 一次の履修申請をしなかったのですが、二次の履修申請からでも履修登録はできますか？**

A1. 定員を満たしていない授業のみ先着で申請可能です。

**Q2. 一次申請時(抽選)に同一名称の科目を複数申請することはできますか？**

A2. 不可です。

対面授業とメディア授業科目など授業形態が異なる場合でも、同一名称の科目を申請・履修することはできません。

**Q3. 一度登録した授業や一次申請で抽選確定した授業を取消して、二次・履修修正で別の授業を希望したいのですが、可能ですか？**

A3. 二次申請期間内または情報関係科目の履修修正期間内(※)であれば可能です。情報関係科目が抽選科目であることをよく考えたうえで、やむを得ない場合は、WEB履修登録システムで取り消しをしてください。なお、抽選で確定した科目を取り消しすると復活はできませんので注意してください。また、履修修正期間終了後の取り消しは、原則として認められません。手順については p.16 の「2.4WEB履修申請の取り消し手順」を参照してください。

※情報関係科目の履修修正期間等の日程は、学部設置科目の日程とは異なりますので注意してください。

**Q4. 履修申請したはずなのに、WEB履修システムの「履修登録確認」画面に科目が表示されません。なぜですか？**

A4. 「履修登録画面」で「申込み」ボタンの押し忘れが考えられます。「申込み」ボタンを押さないと内容は保存されません。学期ごとに申込みボタンを押してください。

**Q5. 抽選前の希望を取消・変更したいのですが、可能ですか？**

A5. 一次申請期間内であれば可能です。手順については p.16 の「2.4WEB履修申請の取り消し手順」及び「2.5WEB履修申請の変更手順」を参照してください。

**Q6. WEB履修システムの「履修登録確認」ページで「抽選確定」と表示されていますが、Oh-o!Meijiのクラスウェブの時間割には反映されていません。履修は出来ないのでしょうか。**

A6. 履修登録確認ページで「抽選確定」と表示されていれば、Oh-o! Meiji のクラスウェブに反映されていなくても問題ありません。Oh-o! Meiji クラスウェブへの反映は、一次及び二次申請期間については、**4月11日(木)**となります。(一次申請終了時点では反映されません。)

履修修正期間に申請したものについては、**4月19日(金)**に反映されますので確認してください。

**Q7. 二次申請期間前・履修修正期間前の「定員の空き状況」は事前に公開していますか？**

A7. 一次、二次終了時点の定員の空き状況は、下記情報関係科目 HP にて確認できます。WEB履修申請開始後は、履修登録画面で直接確認してください。

[情報関係科目について | 明治大学 \(meiji.ac.jp\)](http://meiji.ac.jp)

Q8. 1年生のときに「ICTベーシックⅠ」の単位を取ったのですが、2年生以上で「ICTベーシックⅡ」を履修するときにも同じ教員でないと履修できませんか？

A8. 同じ教員でなくても履修可能です。(教員によって、シラバスで指定している場合もありますので、各自でシラバスを確認してください。)

なお、同じ教員を希望しても、抽選になった場合に優先はされません。

Q9. 抽選になった場合、高学年の方が当選確率は高くなりますか？

A9. 抽選は、学部・学年・新規履修か再履修かなどの条件は、考慮されません。

Q10. 情報関係科目は異なる階層の科目を同じ年度で履修することは可能ですか？

A10. 前提条件・配当年次・制限単位数内であること等の条件を満たしていれば可能です。

Q11. 再履修の場合どのように履修申請するのですか？

A11. 新規履修と同様の履修申請手続きを行ってください。

Q12. 教職を取得する上で必要な情報関係科目を教えてください。

A12. 「資格課程案内」を参照してください。不明な点は、資格課程事務室で確認してください。

Q13. スマートフォンやタブレット、携帯電話からWEB履修申請はできますか？

A13. 動作保証していません。

Q14. 履修を希望するメディア授業科目と同一曜日時限に、別の科目を履修申請できますか？

A14. 不可です。授業形態に関わらず、同一曜日時限には一つの授業しか履修できません。

## 1.7 情報関係科目の履修確定後の注意

所属学部等の履修申請を行うときには、下記の点に注意してください。

- ① 情報関係科目も履修上限単位数に含まれます。履修上限をオーバーした場合、履修エラーとなり、すべての履修が無効になる可能性がありますのでご注意ください。  
(再履修の単位については所属学部の窓口で確認してください。)
- ② 最終的な履修状況は、所属学部から公開される「個人別時間割表」で必ず確認してください。
- ③ この冊子に掲載しているp.26～p.76の各授業内容について、変更が生じる場合、Oh-o! Meijiシステム上の各シラバスの「シラバスの補足」欄に記載されますので確認してください。

※情報関係科目に関する連絡事項は、Oh-o! Meiji システムの「お知らせ」で連絡します。

## 2 WEB 履修申請

WEB 履修申請は下記サイトから手続きを行ってください。

<WEB 履修登録システムの URL>

<https://rishu-web.mind.meiji.ac.jp/rishuinfo.htm>

### 2.1 WEB 履修申請に必要なもの

#### (1) 共通認証システムの ID とパスワード

- ① WEB 履修申請のページは共通認証システムの ID とパスワードを使用してログインします。共通認証システムの ID は学生番号(学生証に記載されている 10 桁の数字)、パスワードは、Oh-o! Meiji システムを利用するときのパスワードと同じものです。新入生の共通認証システムのパスワードは、入学手続き時に申請した英字と数字のパスワードが初期設定されています。
- ② 共通認証システムのパスワードを忘れてしまった場合は、所属学部の窓口・各キャンパスのメディア支援事務室でパスワード再設定の手続きを行ってください。

#### (2) WEB 履修申請を行うパソコン

- ① 大学設置のパソコン(AppendixB「施設案内図」(p.81～)参照)、または自宅等のパソコンから WEB 履修申請のページにアクセスしてください。
- ② ブラウザは、Windows 版の Microsoft Edge を利用してください。それ以外の Mac やスマートフォンなどのブラウザでの動作保証はしていません。

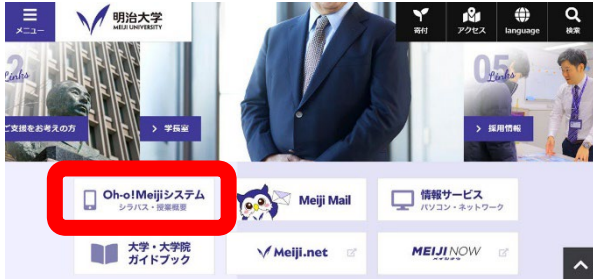
### 2.2 WEB 履修申請の注意点

- ① WEB履修申請のページは、20分間操作がない場合は自動的に接続が切断されます。あらかじめ希望するクラスを決めた上で申請を行ってください。
- ② 操作方法や履修について質問がある場合は、各キャンパスのメディア支援事務室(中野キャンパスは中野キャンパス事務室)の窓口で確認してください。  
なお、原則として電話での問い合わせはできません。
- ③ 定員を超えたクラスは抽選となります。必ず抽選結果の確認をしてください。  
(※抽選の際に申請をした順番は関係ありません。)
- ④ WEB履修期間中の4月5日(金)9:30~4月6日(土)10:00は、メンテナンスのためWEB履修申請ページは利用できません。
- ⑤ 履修申請の締切日は回線が混み合うことが予想されますので、余裕をもって履修申請手続きを行ってください。

## 2.3 WEB履修申請の手順

### (1) 明治大学 HP (<https://www.meiji.ac.jp/>)

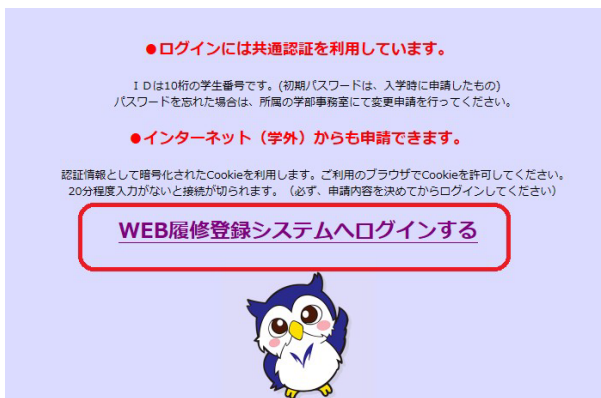
ページ下部にある「Oh-o!Meiji システム」のアイコンをクリックします。



### (2) 「Oh-o!Meiji システム」のページが表示されます。関連サイトリンクに「WEB履修登録システム」のリンクがあるので、そちらをクリックします。



### (3) 下図のページが表示されますので、注意事項を確認し、「WEB履修登録システムへログインする」をクリックします。



### (4) 「MeijiUniversitySingleSign-On 共通認証システム」のページが表示されます。



- ① 学生番号と共通認証パスワードを入力します。  
※文字・数字はすべて半角で入力してください。  
※パスワードは入力すると●で表示されます。
- ② 「sign in」ボタンをクリックします。

### (5) 「WEB履修登録システム」ページが表示されます。



- ① 「お知らせ」欄にシステム停止等の情報が記載されますので、必ず確認してください。
- ② 「Login」ボタンをクリックします。

### (6) 「履修申請 TOP」ページが表示されますので、事務室からのお知らせを確認し、「履修登録」を選択します。



(7)「履修登録」ページが表示されます。

① 開講期と開講地区を選択します。

※メディア授業科目は、開講地区が「その他」となります。

受講を希望する場合は、開講地区「全キャンパス」もしくは「その他」を選択し、申込みをしてください。

② 「情報科目」を選択し、希望する曜日・時限をそれぞれ選択します。

③ 選択可能なクラスが表示されますので、希望する教員のクラスを選択します。一次申請期間についてのみ、定員を超えていても申請は可能ですが、定員を超えているクラスは抽選を行います。

④ ③で選択したクラスが時間割表内の該当の曜日・時限枠「a」と「b」に表示されます。

⑤ 右上の「申込み」ボタンをクリックします。

※秋学期の履修申請も行う場合は、上記①～⑤を繰り返します。

⑥ 「戻る」ボタンをクリックします。

①

開講期 春学期 開講地区 全キャンパス  
 ※申込みは半期毎です。開講期変更前に「申込み」ボタンの押し忘れに注意してください！！

申込み 戻る

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
Mm						
1	a					
	b					
2	a					
	b					
Lm						
3	a					
	b					
4	a					
	b					
5	a					
	b					
6	a					
	b					
7	Nm					

④

② 学部(共通教育)、曜日、時限を選択後、科目名を選択してください

★登録・変更後は「申込み」ボタンを押してください！

<input type="radio"/> 法 <input type="radio"/> 文 <input type="radio"/> 経営 <input type="radio"/> 総合教理 <input checked="" type="radio"/> 情報科目	<input type="radio"/> 商 <input type="radio"/> 理工 <input type="radio"/> 情コミ <input type="radio"/> 共通外国語 <input type="radio"/> 国際連携	<input type="radio"/> 政経 <input type="radio"/> 農 <input type="radio"/> 国際 <input type="radio"/> 資格課程 <input type="radio"/> 国際協力	<input checked="" type="radio"/> 月 <input type="radio"/> 水 <input type="radio"/> 金 <input type="radio"/> 衆	<input type="radio"/> 火 <input type="radio"/> 木 <input type="radio"/> 土 <input type="radio"/> 不定	<input type="radio"/> Mm <input checked="" type="radio"/> 2限 <input type="radio"/> 3限 <input type="radio"/> 5限 <input type="radio"/> 7限-Nm	<input type="radio"/> 1限 <input type="radio"/> Lm <input type="radio"/> 4限 <input type="radio"/> 6限
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

!集中講義(マウスでクリックすると削除可能)

!曜日時限変更可能科目(クリックで削除可能)

0000aモジュールのみ取り直し  
 0000bモジュールのみ取り直し  
 0248ICTデータベースI(山本和義) /スルガダイ(時 諸教/定員:1/46)

③

対面授業は開講キャンパス名が表示されます。  
 メディア授業科目は「★メディア授業」と表示されます。

### 申請時に間違いやすい点

- ・手順②の「情報科目」の選択を行わないと情報関係科目が表示されません。
- ・手順③でクラスの選択を行うと時間割内に選択したクラスが表示されますが、**手順⑤の「申込み」ボタンを押さないと内容は確定されません。「申込み」ボタンを押すことを忘れないでください。**
- ・申請は半期ごとです。秋学期の科目も履修する場合は、秋学期のクラスも忘れずに申請を行ってください。

(8)「履修申請 TOP」ページに戻りますので、「履修登録確認」を選択し、履修登録確認ページへ移動します。

履修申請TOP

お知らせ

共通教育・自学部 全学部

学部名 事項

システム運用状況

共通教育・自学部 全学部

運用学部名	履修受付	履修登録確認
情報コミュニケーション学部	通常受付	実施中
共通(外国語科目)	通常受付	実施中
共通(資格科目)	通常受付	実施中
共通(情報科目)	通常受付	実施中
84留学生関係科目	通常受付	実施中
共通(大学院科目)	通常受付	実施中
PJ(大学院科目)	通常受付	実施中
国際協力	通常受付	実施中
共通(スポーツ語学)	通常受付	実施中

(9)「履修登録確認」ページが表示されます。

- ① 履修登録した内容の確認を行います。
- ② 履修登録の内容に間違いがなければ履修申請手続きは完了です。

「Logout」ボタンをクリックして終了してください。

なお、一次申請の時点では履修が確定したわけではありません。

必ず結果発表を確認してください。

結果発表の確認方法は、「2.6 一次履修申請の結果確認手順」を参照してください。

Digital Campus

Logout

HOME

履修登録

履修登録確認

資格申請(資格課程用)

コース登録(政経、情コミ)

国際協力科目受講上の注意

HELP

印刷 抽選結果等は警告備考欄のコメントをご確認ください。疑問があれば事務室に相談してください。

警告・備考	期別	曜日	時限	対時限	開講学部	授業科目名	単位数	教員氏名	教室名
	春学期	月曜	2a	月2b	情報科目	ICTデータベースI	2	山本和義	2094メディア教室

※申請したはずのクラスが表示されないときは、(7) ⑤の「申込み」ボタンの押し忘れが考えられます。再度、(7) ①～⑤を行ってください。

それでも解決できない場合は、各キャンパスのメディア支援事務室(中野キャンパスは中野キャンパス事務室)へ相談してください。

※履修登録内容を印刷したい人は、「印刷」ボタンをクリックしてください。

## 2.4 WEB履修申請の取り消し手順

- (1) 2.3「WEB履修申請の手順」の(7)②までの操作を行います。
- (2) 「履修登録」ページの右下の枠から「0000aモジュールのみ取り消し」、または「0000bモジュールのみ取り消し」のどちらかを選択します。
- (3) 時間割表から該当のクラスが削除されていることを確認し、右上の「申込み」ボタンをクリックします。
- (4) 「履修登録確認」ページで、希望のクラスが削除されていることを確認して申請取消完了です。

学部(共通教育)、曜日、時限を選択後、科目名を選択してください

★登録・変更後は「申込み」ボタンを押してください！

0000aモジュールのみ取り消し  
0000bモジュールのみ取り消し  
0248ICTデータベースI(山本和義)/スルガダイ(申請数/定員:1/46)

0000aモジュールのみ取り消し  
0000bモジュールのみ取り消し  
0248ICTデータベースI(山本和義)/スルガダイ(申請数/定員:1/46)

## 2.5 WEB履修申請の変更手順

- (1) 「2.4WEB履修申請の取り消し手順」に従い、変更したい科目の申請取り消しを行います。
- (2) 「2.3WEB履修申請の手順」に従い、再度変更したい科目の履修申請を行います。
- (3) 「履修登録確認」ページで希望のクラスが表示されていることを確認したら、申請変更の手続きは完了です。

## 2.6 一次履修申請の結果確認手順

- (1) WEB履修申請ページにログインします。
  - ① 「履修登録確認」ページへ移動します。
  - ② 「警告・備考」欄を確認します。  
当選していたら【抽選確定】、落選していたら【抽選もれ】と表示されます。

履修登録確認

抽選結果等は警告備考欄のコメントをご確認ください。疑問があれば事務室に相談してください。

警告・備考	期別	曜日	時限	対時限	開講学部	授業科目名	単位数	教員氏名	教室名
	新学期	月曜	4限		情報科目	ICTベーシックI	2	翼 久行	M414メディア教室
	新学期	月曜	4限		情報科目	ICTベーシックII	2	翼 久行	M414メディア教室



## 2.7 二次履修申請について

一次の履修申請で定員に満たないクラスは、先着順で二次の履修申請を行います。

### (1) 二次のWEB履修申請の手順について

基本的に一次の履修申請と同じですが、下記の点が異なります。

- ・「2.3 WEB履修申請の手順」(1)～(6)を実施後に表示される「履修登録」画面右下のカッコ内の数字は、(現在の申込者数／残り定員)となります。

※「残り定員」は当確者の削除申請があった場合に変動します。

### (2) 二次の履修申請結果について

二次の履修申請結果は、履修申請手続きを行った後に「履修登録確認」ページへ行き、履修申請をしたクラスが記載されていれば履修が確定となります。

一次の時のように「抽選確定」や「抽選もれ」は表示されません。

## 2.8 履修修正について

二次募集の結果、定員に満たないクラスは、先着順で追加申請を行います。

一次・二次募集で確定した科目の取消(削除)を行う場合も、この期間中にWEB上で申請してください。(p.16「2.4 WEB履修申請の取り消し手順」参照)

### (1) 履修修正のWEB履修申請・申請結果確認の手順について

基本的に一次・二次の履修申請と同じです。下記の点に注意の上、履修申請を行ってください。

- ・情報関係科目の履修修正期間の日程は、学部設置科目の履修修正期間の日程とは異なりますので注意してください。
- ・履修修正期間後の修正は一切できません。

### 3 情報関係科目の概要

#### 3.1 情報関係科目の教育目標

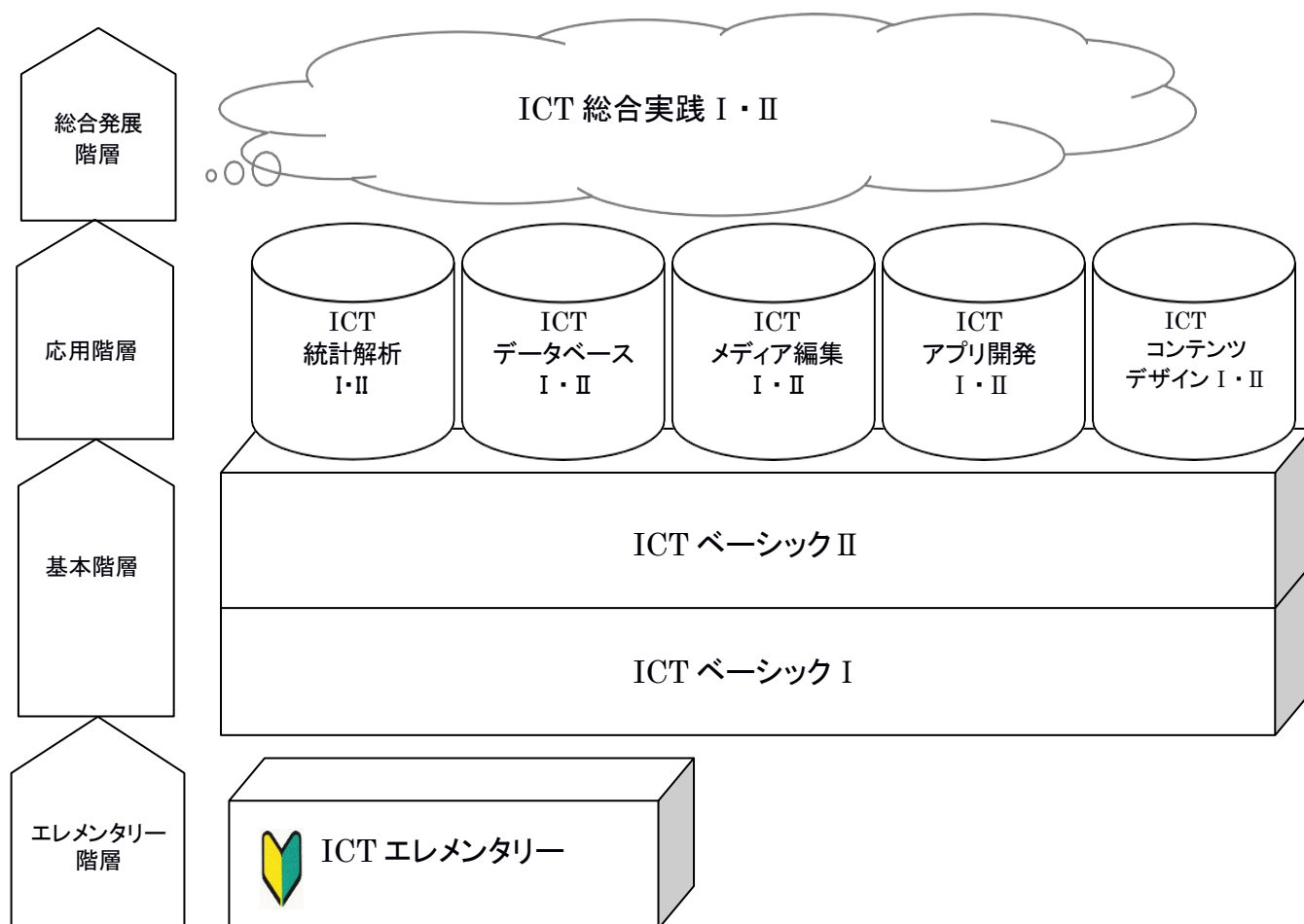
情報関係科目は、情報に関する基礎的な知識と、情報技術を活用するために必要な情報機器の基本操作を習得し、各学部の教育におけるリテラシーとしての役割を担っています。また、情報モラルを理解したうえで、情報化が進展する社会へ積極的参画できる能力を養うことを目標としています。

#### 3.2 情報関係科目の編成

情報関係科目は、各科目をエレメンタリー階層、基本階層、応用階層、総合発展階層の4階層に分類し、エレメンタリー階層の科目から、総合発展階層の科目へステップアップしていく段階的科目構成としています。

- 「ICT エレメンタリー」以外の情報関係科目は、Iの単位を修得しないとIIの履修はできません。
- 各科目ともIの授業内容を前提にIIの授業内容を構成しているため、I・IIと同じ教員の授業を履修することが望ましいです。
- 「情報関係科目実力確認テスト」(p.24 参照)を利用すれば、現在の自分の知識レベルと情報関係科目の各科目で要求される知識レベルを確認でき、自分がどの階層の科目を受講するのに適しているか判断することができます。

#### 3.3 科目概要図



## ICTとは



ICT (Information and Communication Technology) とは「情報通信技術」のことで、情報や通信に関する技術の総称です。情報関係科目では時代に即した ICT 活用能力の習得と、各学部の専門科目において、ICT スキルの活用ができる能力を養うことができます。

### 3.4 各階層の概要

#### ① エレメンタリー階層

高校の教科である情報で十分な成果を上げられなかった学生を対象に、現代の情報社会で最低限の活動を円滑に行うために必要な知識とスキルと動機付けを目標とします。ICT ベーシック I・II の前段階の授業で、半期2 単位のみの科目です。

#### ② 基本階層

ICTに関する基礎的な知識やPCの基本操作、情報倫理などの内容を扱います。大学生として必要な情報技術、新しい技術やシステムへの対応力、情報倫理、メディアとの接し方、コンテンツの扱い方などを総合的に習得することを目標とします。

また、「ICT ベーシック I」では、履修者が最低限習得すべき項目を示した「ミニマムリクワイアメント」を設定し、どの教員で履修をしても、最低限習得する知識レベルが保証されるしくみとしています。

#### ③ 応用階層

基本階層で習得した ICT の基礎知識や PC の操作技術などをベースに、情報の各分野をより専門的に学習する階層です。統計処理、画像・動画編集、コンテンツ作成、プログラミング、コンピュータサイエンス、データベース、メディア論、サーバー構築、ネットワーク技術などを取り扱います。

#### ④ 総合発展階層

アプリケーション活用のスキルを確認しながら、それを実践で役立てる ICT 能力の習得を目指す階層です。プロジェクト形式で課題に取り組み、問題発見・情報収集・コンテンツ作成・成果発表プレゼンテーションなど、トータルな ICT スキルの習得を目標とします

### 3.5 各階層の概要

#### ①エレメンタリー階層の科目

科目名	ICTエレメンタリー
主な内容	<p>高校の教科「情報」で十分な成果を上げられなかった学生を対象に、現代の情報社会で最低限の活動を円滑に行うために必要な知識とスキルを習得します。</p> <p>(1) 情報化社会でのICTスキルの必要性            (2) パソコンの基本            (3) 電子メールについて            (4) インターネットの利用方法            (5) Word、Excel、PowerPointの使い方            (6) 明大ICTスキル、キャンパスリテラシーなど</p>

#### ②基本階層の科目

科目名	ICTベーシック I・II
主な内容	<p>ICTに関する基礎的な知識やパソコンの基本操作、情報倫理などの大学生として最低限必要な情報の学習を総合的に行います。</p> <p>ICTベーシック I では、履修者が最低限習得すべき項目を「ミニマムリクワイアメント」として設定し、どの教員で履修しても最低限習得する知識レベルを保証するしくみとしています。</p> <p>ICTベーシック II では、ICTベーシック I の内容を各担当教員の専門を活かしてより深く習得していく内容となっています。</p> <p><b>【I】（ミニマムリクワイアメント）</b></p> <p>(1) ICT基礎（Oh-o!Meijiの利用方法、メールの使い方、セキュリティ）            (2) インターネット資源活用            (3) PC、Officeリテラシー（PC基本操作、Word、Excel、PowerPoint）            (4) メディアとのつきあい方            (5) 倫理と法律            (6) プレゼンテーション、ディスカッション            (7) 実社会とICT など</p> <p><b>【II】</b></p> <p>ICTベーシック I の内容を、担当教員の専門を活かしてより深く習得し、ICTの理解を深める。</p>

③ 応用階層の科目

科目名	ICT統計解析 I・II
主な内容	<p>統計的データ分析を行うために必要な統計解析の基礎的な知識・手法を学習します。表計算ソフト(Excel)や統計処理ソフト(SPSSなど)を活用し、実践的な演習を豊富に行いながら、データ分析および統計解析の基礎的な知識・手法を習得します。</p> <p><b>【I】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 統計解析の概要</li> <li>(2) データの種類と統計解析の種類</li> <li>(3) 表計算ソフト、統計処理ソフトの使い方</li> <li>(4) 統計の分析手法について（度数分布、回帰分析、確率など）</li> <li>(5) 基礎的な統計解析の演習</li> </ol> <p><b>【II】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 統計解析の技法</li> <li>(2) 表計算ソフト、統計ソフトSPSSなどを活用したデータ分析演習</li> <li>(3) 統計の分析手法について（単回帰分析、重回帰分析など）</li> <li>(4) 統計解析手法のまとめ</li> </ol>

科目名	ICTデータベース I・II
主な内容	<p>データベースを中心した情報処理の知識や技術を習得します。情報収集の手法、電子化テキストの活用、リレーショナル・データベース、データベース管理やデータベース作成などの実践的スキルを習得します。</p> <p><b>【I】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) データベース、データベース管理システムについて</li> <li>(2) 数値情報、テキスト情報の表現やデジタル化について</li> <li>(3) テーブルの作成</li> <li>(4) クエリ・フォーム・レポートなどの作成</li> <li>(5) 情報検索</li> </ol> <p><b>【II】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) データベースの設計・構築</li> <li>(2) テーブルの正規化</li> <li>(3) リレーショナル・データベースとデータベース管理システム</li> <li>(4) レコードの検索、SQLの基礎</li> <li>(5) WEBにおけるテキスト処理、データベースの作成など</li> </ol>

科目名	ICTメディア編集 I・II
主な内容	<p>プレゼンテーションの前段階として必須である素材画像や素材動画、音声などの編集スキルを、素材となる動画撮影、作品制作などの実習を行いながら習得します。また、コンテンツに関する著作権についても触れます。</p> <p>※担当教員により扱う内容が異なります。 詳細は、担当教員ごとの授業内容を確認してください。</p> <p><b>【I】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 画像編集ソフトの使い方、動画編集ソフトの使い方</li> <li>(2) 画像、動画、音声の加工・編集</li> <li>(3) 著作権など</li> </ol> <p><b>【II】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 映像作品制作</li> <li>(2) アニメーション作成</li> <li>(3) 企画実習、撮影実習、編集実習</li> <li>(4) 制作した作品の発表など</li> </ol>

科目名	ICTアプリ開発 I・II
主な内容	<p>ICTの基盤となるシステム構築を扱う科目です。プログラミングの基礎からスタートし、オリジナルのアプリケーションを制作します。普段利用しているアプリを自ら制作する体験をします。</p> <p><b>【I】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) プログラミングとは</li> <li>(2) 数値情報、文字情報の表現</li> <li>(3) 条件判断処理、繰り返し処理、配列とリストなどについて</li> <li>(4) プログラミング実習、電話帳DBプログラムの作成など</li> </ol> <p><b>【II】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イベント駆動プログラミングとは</li> <li>(2) プログラミング実習、電卓プログラムの作成</li> <li>(3) チーム別自由テーマのアプリ開発</li> <li>(4) プログラムコンテストなど</li> </ol>

科目名	ICTコンテンツデザイン I・II
主な内容	<p>eラーニングコンテンツの制作体験を通して、インストラクショナル・デザインを学ぶとともに様々な分野で応用できるデザイン力を習得します。 制作演習を経て、制作発表会の開催と報告書の提出ができるようにします。</p> <p><b>【I】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) eラーニングとは</li> <li>(2) インストラクショナル・デザインの基本</li> <li>(3) 著作権について</li> <li>(4) 使用するシステムの説明、教材企画書の作成</li> <li>(5) 制作演習・発表会など</li> </ol> <p><b>【II】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) インストラクショナル・デザインのモデルと分析</li> <li>(2) eラーニングの効果的な活用法</li> <li>(3) eラーニングにおける評価技法</li> <li>(4) 教材企画書の作成</li> <li>(5) 制作演習・発表会など</li> </ol>

④ 総合発展階層の科目

科目名	ICT総合実践 I・II
主な内容	<p>情報関係科目の各科目を横断的に扱い、最終的には実社会でも役立つプレゼンテーションができるトータルなスキルを習得します。</p> <p>※担当教員の専門及び年度により扱う内容が異なる場合があります。</p> <p><b>【I】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 情報化社会の今・行く末</li> <li>(2) プレゼン制作の企画・構成</li> <li>(3) プレゼンソフトの上級スキルトレーニング</li> <li>(4) プレゼンの準備・実施など</li> </ol> <p><b>【II】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) メディアと情報化社会</li> <li>(2) 話し方トレーニング</li> <li>(3) 話し方コンテスト</li> <li>(4) 仮想コンペプレゼン（商品開発コンペプレゼン）の実習など</li> </ol>

## 3.6 情報関係科目実力確認テスト

情報関係科目履修希望者向けに「実力確認テスト」を用意しています。この「実力確認テスト」では、

- 履修するならどの情報関係科目がよいか？
- 大学入学時に必要とされる情報の知識・技術をどの程度有しているか？

などを自己診断することができますので、履修際の参考にしてください。

なお、このテストの受験は任意ですので、受験していなくても情報関係科目の履修登録はできます。

### ◆注意

- ・ 「実力確認テスト」の点数が判断基準に該当するかしないかに関わらず、履修条件を満たしていれば情報関係科目の履修登録をすることができます。
- ・ 結果は履修抽選の当落に影響しません。
- ・ 結果は履修登録した情報関係科目の単位取得・評価の資料とはなりません。

### ◆出題内容

高等学校の課程・中等教育学校の後期課程・特別支援学校の高等部の課程で学習する内容を含んだ以下の分野から出題しています。

「情報化社会とデジタルデータ」

「OSとパソコンの管理」

「ネットワーク」

「情報機器とその仕組み」

「アプリケーションソフトの活用」

「ネットワーク社会のルールとマナー」

### ◆出題数

アンケート8問(診断テストの点数には関係ありません)、設問30問(1問5点、合計150点満点)。問題形式は全て選択式です。

### ◆制限時間／所要時間

制限時間はありません。所要時間は30分程度ですが、個人差があります。

### ◆実力確認テスト利用可能期間

2024年4月1日(月)から5月31日(金)まで

### ◆実力確認テスト URL

以下のHP(情報関係科目トップページ)「4. 実力確認テスト」に、テストURL等の詳細を掲載していますので、ご確認ください。

[https://www.meiji.ac.jp/edu-info/about\\_ict.html](https://www.meiji.ac.jp/edu-info/about_ict.html)



## 実力確認テスト判断基準

得点	判断基準
60点未満	<p>&lt;推奨する受講科目&gt; 「ICTエレメンタリー」(エレメンタリー階層)</p> <p>高等学校等で学習する知識・技術を十分には有していません。</p>
60点～85点	<p>&lt;推奨する受講科目&gt; 「ICTベーシックⅠ・Ⅱ」 (基本階層)</p> <p>大学入学時に必要とされる情報の知識・技術を十分には有していません。</p>
90点～120点	<p>&lt;推奨する受講科目&gt; 「ICTベーシックⅠ・Ⅱ」 (基本階層) 「ICT統計解析Ⅰ・Ⅱ」 (応用階層) 「ICTデータベースⅠ・Ⅱ」 (応用階層) 「ICTメディア編集Ⅰ・Ⅱ」 (応用階層) 「ICTアプリ開発Ⅰ・Ⅱ」 (応用階層) 「ICTコンテンツデザインⅠ・Ⅱ」 (応用階層)</p> <p>大学入学時に必要とされる情報の知識・技術はある程度理解しています。しかし、これから大学で専門分野を研究していくためには、今の知識・技術を更に向上させていく必要があります。早めに基礎を固めたいなら基本階層、より難しい内容にチャレンジしてみたいなら応用階層を選択してください。</p>
125点～135点	<p>&lt;推奨する受講科目&gt; 「ICT統計解析Ⅰ・Ⅱ」 (応用階層) 「ICTデータベースⅠ・Ⅱ」 (応用階層) 「ICTメディア編集Ⅰ・Ⅱ」 (応用階層) 「ICTアプリ開発Ⅰ・Ⅱ」 (応用階層) 「ICTコンテンツデザインⅠ・Ⅱ」 (応用階層)</p> <p>大学入学時に必要とされる情報の知識・技術は十分に有していますが、大学生活に必要な知識・技術はこれから身につけなければなりません。</p>
140点以上	<p>&lt;推奨する受講科目&gt; 「ICT総合実践Ⅰ・Ⅱ」 (総合発展階層)</p> <p>すでに情報の知識・技術は十分に有していますので、最高レベルの情報関係科目を受講しましょう。</p>

科目ナンバー: IF ACD 025 J	
ICTエレメンタリー	大塚 和彦

### ●授業の概要・到達目標

コンピュータの操作が苦手な人を対象としたパソコンの基本操作や Microsoft Office(Word, Excel, PowerPoint)などの修学に必要なアプリケーションの操作方法、電子メールや情報検索などインターネットの基本的な利用方法について実習する。

レポートを作成したり、調べたりするのに必要なスキルの習得を主眼とし、「自分はコンピュータが苦手だから」という言葉を使わないでもすむように、抵抗感を持たずに使えること、わからないことをなんとかしたいと思えるような気持ちを持てるようにすることを到達目標とします。

### ●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション、コンピュータの基本、Oh-olMeiji の使い方
- [第 2 回] Windows の基本操作方法、Meiji Mail の使い方 (基本編)
- [第 3 回] Meiji Mail の使い方 (実践編)
- [第 4 回] インターネットセキュリティ
- [第 5 回] 画像ファイルの編集
- [第 6 回] Word: 基本的な操作方法
- [第 7 回] Word: 文章の作成
- [第 8 回] Word: 画像ファイル
- [第 9 回] Word: 出力 (印刷、PDF ファイルの作成)
- [第 10 回] Excel: データ入力、基本的な計算
- [第 11 回] Excel: 基本的な関数、相対参照、絶対参照
- [第 12 回] Excel: グラフの作成
- [第 13 回] PowerPoint: スライドの作成、図形並べる
- [第 14 回] PowerPoint: スライドショーの実施

### ●履修上の注意

座っているだけでは、見てるだけではなにも身につけません。やる気を持って失敗をしながら、とにかくやってください。極力、欠席をしないようにしてください。欠席時の内容は自分で追いつく努力をしてください。

作業、課題はやらないものは評価がありません。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

授業中にやったことを踏まながらでもいいので、一人でもできるように復習をしてください。とにかくやることです。最初は拙いものでも時間がかかってもいいです。少しずつ上達すれば。

### ●教科書

指定しない。

### ●参考書

指定しない。  
(インターネットであれ、書籍であれ、参考にできるものは何でも活用してください)

### ●課題に対するフィードバックの方法

締切後の講義にて、解説を実施する。

### ●成績評価の方法

課題・レポート 60% (出来上がって提出したもの)  
講義への取り組み 40% (授業終了時に提出したもの)

講義時間終了時点で、提出してもらいます。この時点では完成しないものは各自時間を作って取り組んでください。どれくらい授業中にいろんなことを試してたというものをそこでは見ます。出来上がったものは、上出来なものが必ずしも高評価ではありません。自分がどれだけやっているのかも評価します。(提出時の口上ではなく、データの中にそれを感じさせるものを期待します)

期末試験は実施しません。

### ●その他

人に教えてもらうのは大いにやってください。でも、課題を「やってもらう」は意味がありませんし、やってる人が損をしますので厳粛に対応します。せっかく時間を使うのですから、何某か身になることに時間を使ってください。

科目ナンバー: IF ACD 026 J	
ICTエレメンタリー (M)	小川 有希子

### ●授業の概要・到達目標

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる ICT (情報通信技術) 活用能力を習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識および、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Office (Word/Excel/PowerPoint) の活用法について、基礎的な内容を中心に学習する。

具体的には、以下のような状態になることを目標とする。  
1) Word の基本操作を覚え、簡単な資料作成ができるようになる。  
2) Excel の基本操作を覚え、四則演算や簡単なデータ集計、グラフ作成などができるようになる。  
3) PowerPoint の基本操作を覚え、スライド作成ができるようになる。

### ●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション、Oh-olMeiji および 学内ネットワークの使い方 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 2 回] コンピュータ および インターネットの基礎知識、情報セキュリティと情報モラル [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 3 回] コンピュータの基本操作、電子メールの書き方、Meiji Mail の使い方 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 4 回] Word(1): 基本機能と基本操作 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 5 回] Word(2): 書式設定・レイアウト調整 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 6 回] Word(3): 作図 および 資料作成 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 7 回] a: Word 小テスト実施、b: Word 小テストの解説 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 8 回] PowerPoint(1): 基本機能と基本操作 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 9 回] PowerPoint(2): スライドの組み立てと作成 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 10 回] Excel(1): 基本機能と基本操作① [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 11 回] Excel(2): 基本機能と基本操作② [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 12 回] Excel(3): 関数によるデータ処理 および 表・グラフ作成① [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 13 回] Excel(4): 関数によるデータ処理 および 表・グラフ作成② [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- [第 14 回] a: Excel 小テスト実施、b: Excel 小テストの解説と全体のまとめ [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

### ●履修上の注意

- ・本授業はメディア授業科目として開講される。授業は毎回、Zoom によるリアルタイム配信型で行う。
- ・Zoom 上で、またはクラスウェブを使って毎回出席をとする。
- ・本授業は同教員が担当する「ICT ベーシック I (M)」に比べて、基礎的な内容により比重を置くことを意識した授業であるが、かぶる内容もあるので、同教員の「ICT エレメンタリー (M)」と「ICT ベーシック I (M)」を同時に履修することは推奨しない。
- ・本授業は、基本的には Windows の授業である。Mac 版 Office (Office for Mac) を使っても構わないが、Windows 版 Office と操作性が若干異なる部分については、本授業ではサポートしきれない可能性があることを念頭に置いて、履修するかを判断すること。
- ・自分所有のパソコンが Mac の場合は、大学のメディア自習室の Windows パソコンで受講することを検討してほしい。
- ・教員への質問は原則として授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段もいくつか検討している。詳細は授業中に説明する。
- ・授業中は TA (Teaching Assistant) もいるので、わからないことは TA にも質問できる。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

- ・授業前に、Oh-olMeiji のクラスウェブで配布する授業資料を確認しておくこと (さらっと見る程度で良い)。
- ・授業中の実習時間で作成および提出する課題を用意するが、授業中に完成しなかった場合は、次回授業までに完成させてください。次回の授業開始時に「再提出」という形で提出してもらおう (つまり、各自の進捗状況に応じて、授業後に相応の学習時間を確保する必要がある)。
- ・授業時に理解が不十分だった点を復習すること。コンピュータの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外にも自主学習の時間を確保することが求められる。日頃から積極的に、スマホではなく「パソコン」を使うことを心掛けてほしい。

### ●教科書

指定しない。授業資料は Oh-olMeiji のクラスウェブで配布する。

### ●参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

みなさんの提出物を見たうえで、間違えが多かった点や気をつけてほしい点などを、授業中にフィードバックする。小テストを実施した際には b モジュールで解説を行う。

### ●成績評価の方法

- ・Word の小テスト: 25%
- ・Excel の小テスト: 25%
- ・PowerPoint の完成度: 25%
- ・授業中に実施する課題の提出状況と完成度: 25%
- ・出席回数が授業全体の 2/3 (10 回) に満たない者への評価は原則として F とする。コロナ等に罹患する、といった不測の事態を常に想定し、各自の責任において十分な出席回数を確保すること。なお、15 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ※対面形式での試験は行わない。

### ●その他

授業内容は履修者数 および 受講生の習得度や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

科目ナンバー: IF ACD 025 J	
ICTエレメンタリー	小久保 秀之

●授業の概要・到達目標

スマホは使うけど、キーボードを使うパソコンに慣れていないというパソコン初心者を対象とします。具体的には、キーボードによる日本語のタイピング速度が、1分間に100文字未満の人を想定します。それ以上に速く打ち込める人は、ベーシックなど他の講義を受講するのが妥当です。実習では、パソコンの基本操作、タイピング練習、大学のメールシステム、大学で標準的なソフトとして使うMicrosoft OfficeのWord・Excel・PowerPointの基本的な操作法を予定しています。また、技術・社会の急激な変化に伴ってインターネットやアプリの利用法も急激に変化しているため、今後の「常識」になるであろう事柄（保安対策やオンライン購入など）にも触れる予定です。最終的に、今後の社会生活に必要な感覚と技術がどのようなものなのか理解・体感できることを目標とします。

●授業内容

- [第1回] AI時代に求められる基礎技能と感覚(PC、スマホ、インターネット、タイピング)について
- [第2回] パソコンとインターネットの基礎(大学のPCの基本操作。インターネットの仕組みなど)、タイピング練習
- [第3回] 電子メールと簡単な文書作成、タイピング練習
- [第4回] ウェブサイトの閲覧、資料検索、図書館(OPAC)使用方法
- [第5回] 保安対策(セキュリティ)について、タイピング練習
- [第6回] Word(1) 基本的な使用方法、表組、図形
- [第7回] Word(2) 改ページ、ページレイアウト、PDFの作成
- [第8回] オンライン商品購入時の注意事項
- [第9回] PowerPoint(1) 基本的な使用法・発表における留意点
- [第10回] PowerPoint(2) 発表用ファイルの作成
- [第11回] PowerPoint(3) 発表
- [第12回] Excel(1) 基本的な計算と関数、ワークシートの基本操作
- [第13回] Excel(2) グラフ作成
- [第14回] フェイクニュース、SNSによる情報操作の問題

●履修上の注意

授業は日本語で行います。実習の授業が多いので、遅刻しないようにしてください。数回の課題提出を予定しています。課題は必ず提出してください。

●準備学習(予習・復習等)の内容

実習した技能が身に付くよう、時間を作って復習してください。たとえば、タイピングの上達には時間がかかるので、講義時間内の練習だけでは不足です。自分のタイピング速度が遅いと感じた人は、自分で練習してください。

●教科書

指定しません。必要な資料は、Oh-olMeijiに掲載します。

●参考書

Word、Excel、PowerPointの参考書は、自分のレベルにあった適当な本を書店の店頭で選んでください。

●課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜行います。

●成績評価の方法

課題60%、平常点(授業への貢献、授業への参加度)40%

●その他

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅠ	内田 俊郎

●授業の概要・到達目標

パソコンの基本操作や Microsoft Office 等の基本的なアプリケーションの利用法、インターネットを利用した情報の収集、整理、発信の方法を実習する。同時に、パソコンを利用するうえで不可欠なコンピュータの基礎知識とインターネットのしくみ、インターネットを安全に利用するのに必要なセキュリティに関する知識や情報倫理を学ぶ。  
今後の学生生活に必要なパソコンのスキルと知識を獲得し、インターネットを安全に利用できるようになることが到達目標である。

●授業内容

- [第 1 回] 授業内容の紹介、パソコンの基本操作、Oh-o!Meiji の利用法、AI について
- [第 2 回] 電子メール、MIND のルール、日本語入力、Word による文書の作成の基礎
- [第 3 回] コンピュータの仕組み：ハードウェア、Excel：基本操作
- [第 4 回] コンピュータの仕組み：ソフトウェア、Excel：数式の利用
- [第 5 回] コンピュータ内部での情報の表現、Excel：相対参照と絶対参照
- [第 6 回] インターネットの仕組みと歴史、情報検索、Excel：関数の利用法
- [第 7 回] 安全なインターネット利用のための知識、Excel：グラフの作成
- [第 8 回] 著作権と情報倫理、ブラウザについて、HTML の初歩 (1)
- [第 9 回] いろいろなメディア、HTML の初歩 (2)
- [第 10 回] Excel の総合演習：インターネットから国勢調査のデータを取得し Excel で分析する。
- [第 11 回] Excel と Word の総合演習：第 10 回で分析した内容をもとにレポートを作成する。
- [第 12 回] PowerPoint：基本操作、プレゼンテーション資料の作成方法
- [第 13 回] PowerPoint：プレゼンテーションの実施
- [第 14 回] PowerPoint：プレゼンテーションの実施、まとめ

●履修上の注意

実習と講義を行う。10 回以降は実習中心。  
実習は、授業時間に集中して取り組んでください。  
極力、欠席しないようにしてください。

●準備学習(予習・復習等)の内容

講義に関しては配布資料を再読し、疑問点を質問すること。  
コンピュータの操作等に関しては、授業で実習したことを再度、独力で操作してみることに。

●教科書

指定しない。  
必要な資料は pdf ファイルなどで配布する。

●参考書

授業に使用するわけではないが以下の 2 冊を挙げておく。  
『教養としてのコンピュータサイエンス講義』B. カーニハン著、酒匂寛訳、(日経 BP)  
『ChatGPT の頭の中』S. ウルフラム著、高橋聡訳、(早川書房)  
他にも必要に応じて授業時に紹介する。

●課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答・解説は Oh-o!Meiji で公開する。  
実習の課題の解説は課題回収後の授業時に行う。

●成績評価の方法

実習については課題を課す。  
講義に関しては小テストを行う。  
配点は課題が 65%、小テスト 30%、その他、授業への貢献などが 5%

●その他

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅡ	内田 俊郎

●授業の概要・到達目標

ICT ベーシックⅠで学んだことをふまえ、さらに進んだコンピュータの活用方法を学ぶ。  
おもに以下の 2 つの内容を扱う。  
1. Excel を用いたシミュレーション  
2. ExcelVBA (Visual Basic for Application) によるマクロの作成

到達目標は以下の 2 点である。

1. コンピュータによるシミュレーションとはどんなものなのか、基礎的な理解を得る。
2. 条件分岐や繰り返し、配列などを用いた簡単なマクロを作成しプログラミングの初歩を体験してみる。

●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション、Excel の基本操作の復習
- [第 2 回] シミュレーションとは、人口シミュレーションの説明
- [第 3 回] 人口シミュレーションのためのワークシートの作成
- [第 4 回] 人口シミュレーションの実行
- [第 5 回] 結果の可視化
- [第 6 回] さまざまな設定によるシミュレーションによる結果の比較
- [第 7 回] シミュレーションの結果のまとめ方、レポートの作成
- [第 8 回] Excel のマクロとは。記録マクロを作る。
- [第 9 回] VBA の基本、簡単なマクロを書いて実行してみる。
- [第 10 回] アルゴリズム、条件分岐を含むマクロの作成
- [第 11 回] 条件分岐と繰り返しを含むマクロの作成
- [第 12 回] 繰り返しを含むマクロの作成
- [第 13 回] 配列を含んだマクロの作成
- [第 14 回] VBA の総合演習

●履修上の注意

実習中心の授業なので、授業時間内に集中して取り組んでください。  
極力、欠席しないでください。  
課題は提出が遅れても必ず提出してください。

●準備学習(予習・復習等)の内容

予習は配布資料を読んでくること。  
復習としては、実習した内容を自習室で独力でやってみること。

●教科書

特に指定しない。  
必要な参考資料は PDF 等のファイルで配布する。

●参考書

適宜、授業時に紹介する。

●課題に対するフィードバックの方法

課題は提出後の授業時で解説し、解答例を Oh-o!Meiji に載せる。  
レポートのフィードバックは冬休み後に Oh-o!Meiji で行う。

●成績評価の方法

課題 90%、平常点(授業態度、積極性) 10%

●その他

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシック I	大塚 和彦

### ●授業の概要・到達目標

電子メール、WWWを使った資料収集・コミュニケーションや Word や Excel などの一般的な操作方法といった技術的な内容の他、ネットワーク社会における基本的な知識、倫理などについて習得する。

技術面では、実際に体験することで操作方法を身に付けることが主眼であるので、多く課題に取り組み様々な経験を積みあげることが重視する。

### ●授業内容

<p>[第 1 回] パソコンの基本操作</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Windows の基本操作方法</li> <li>2. Oh-o!Meiji の基本操作</li> <li>3. Meiji Mail の基本操作</li> </ol> <p>[第 2 回] コンピュータの基本</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. OS とソフトウェア</li> <li>2. デジタル表現</li> <li>3. アルゴリズム</li> </ol> <p>[第 3 回] 電子メールとブラウザ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子メールの基本知識</li> <li>2. 電子メールのマナーと注意点</li> <li>3. ネットワーク利用時のセキュリティ</li> </ol> <p>[第 4 回] Web システムについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブラウザの基本操作</li> <li>2. 検索エンジンの仕組み</li> <li>3. 検索エンジンを用いた検索</li> </ol> <p>[第 5 回] インターネットの仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの歴史</li> <li>2. TCP/IP の基礎</li> <li>3. ドメイン名</li> </ol> <p>[第 6 回] コミュニケーションとマスメディア</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネットワークコミュニケーション</li> <li>2. 多様なコミュニケーションツール</li> </ol> <p>[第 7 回] 情報倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネットワークのルールと法律</li> <li>2. 保護される権利</li> <li>3. 引用と盗作</li> </ol> <p>[第 8 回] Word による文書作成 I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Word の基本</li> <li>2. 一般的な文書作成</li> </ol> <p>[第 9 回] Word による文書作成 II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 罫線</li> <li>2. オブジェクト (図、数式)</li> </ol> <p>[第 10 回] Excel によるデータ処理 I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Excel の基本</li> <li>2. 関数を用いた計算</li> </ol> <p>[第 11 回] Excel によるデータ処理 II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絶対参照、相対参照</li> <li>2. グラフの作成</li> </ol> <p>[第 12 回] PowerPoint による表現 I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PowerPoint の基本</li> <li>2. 図形描画</li> </ol> <p>[第 13 回] PowerPoint による表現 II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン</li> <li>2. アニメーション</li> </ol> <p>[第 14 回] 総括</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●履修上の注意

基本的なコンピュータの操作・用語については理解できているレベルを想定して授業を進行します。ただ、教えられたことを覚えればよいというスタンスではなく、やったことを元に別のわからないことに遭遇したときの解決のきっかけになるように学んでください。講義を欠席した場合に翌週「先週欠席したのでわかりませんでした」と課題作業中に言うことがないようにしてください。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

講義終了時に次回の内容を説明します。課題等を必ず終わらせるようにしてください。欠席した場合でも、出された課題は問い合わせるなどして翌週の講義開始までには提出することを原則とします。

### ●教科書

なし

### ●参考書

なし

### ●課題に対するフィードバックの方法

締切後の講義にて、解説を実施する。

### ●成績評価の方法

以下の 2 種類の提出物によって評価する。

- 1) 講義中に課した作業などでの課題
- 2) 締切を指定したレポート

1)、2) の評価をそれぞれ 50% として評価する。  
定期試験は実施しない。

### ●その他

課題の評価は指示された内容に即していない場合を除き、技術的な出来不出来よりも積極性等を重視します。課題未提出が複数あると単位修得は厳しくなるので、まじめに取り組む姿勢が重要である。また、他人の課題の複製等不正行為に関しては厳しく処置します。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシック II	大塚 和彦

### ●授業の概要・到達目標

プレゼンテーションやホームページ作成を通じて、コンピュータを道具として目的遂行を行うことができることを到達目標とする。

・プレゼンテーションでは、個人あるいは 2 人のグループでプレゼンテーションの企画、調査を行い、全グループがそれぞれプレゼンテーションを自ら実際に行い、相互評価をする。  
・Web ページ作成では、各自で実際に Web ページの構成・企画ならびに作成を行い、最終的には自分のページをネット上に公開する。  
・プログラミングでは、ひな形をベースにプログラミングを体験することでコンピュータの動作の仕組みの基本的理解を行う。

### ●授業内容

<p>[第 1 回] プレゼンテーションについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンテーションの注意事項</li> <li>2. 効果的なプレゼンテーションについて</li> </ol> <p>[第 2 回] プレゼンテーション準備 I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマ設定</li> <li>2. プレゼン対象に関する調査</li> </ol> <p>[第 3 回] プレゼンテーション準備 II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼン内容の立案</li> <li>2. 発表用の提示データの作成</li> </ol> <p>[第 4 回] プレゼンテーション準備 III</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発表用の提示データの作成</li> <li>2. 配布資料の作成 (PDF)</li> </ol> <p>[第 5 回] プレゼンテーション実践 I</p> <p>グループごとの発表および相互評価</p> <p>[第 6 回] プレゼンテーション実践 II</p> <p>グループごとの発表および相互評価</p> <p>[第 7 回] Web ページ作成 I</p> <p>HTML の基本要素 1 (フォント、改行、ブロックなど)</p> <p>[第 8 回] Web ページ作成 II</p> <p>HTML の基本要素 2 (背景、画像、リンク)</p> <p>[第 9 回] Web ページ作成 III</p> <p>HTML の基本要素 3 (スタイル)</p> <p>自分の HP の企画</p> <p>[第 10 回] Web ページ作成 IV</p> <p>自分の HP の作成</p> <p>インターネットへの公開方法</p> <p>[第 11 回] プログラミング I</p> <p>ひな形をベースにプログラミングを体験する</p> <p>ラジオボックスやボタンを使用した背景色の切替</p> <p>[第 12 回] プログラミング II</p> <p>簡易電卓の作成 I</p> <p>ボタンを押して数字を表示する (1 桁 → 複数桁)</p> <p>[第 13 回] プログラミング III</p> <p>簡易電卓の作成 2</p> <p>足し算・引き算を実行する</p> <p>[第 14 回] 総括</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●履修上の注意

キーボード入力、Word や PowerPoint の基本操作、Meiji Mail を使用したメールの送受信 (添付ファイルを含む) は ICT ベーシック I 等により一人ですべて操作できることを前提とします。

大きな 3 つの柱は複数回の講義を通じて最終目標を目指します。欠席等により講義を受けなかった場合にはその部分については自身で講義内容の確認をするなどし、次回講義に支障なくすることが求められます。特にプレゼンテーションはグループで進行しますのでグループ内でのコミュニケーションが必要となります。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

各テーマで使用するソフトウェアの操作等が滞りなくできるように事前に確認しておくことが必要となります。また、企画や実際の作成は講義時間のみでは十分な時間が確保できないので、個人で進められるものについては予習・復習として進め、講義時間は説明や打ち合わせが中心になるようにしてください。

### ●教科書

なし

### ●参考書

なし

### ●課題に対するフィードバックの方法

締切後の講義にて、解説を実施する。

### ●成績評価の方法

1) 各テーマで途中で課す課題 (プレゼンテーションデータや HTML など)  
2) プレゼンテーションの相互評価  
3) 公開したホームページ  
4) プログラミングに関するレポート

の 4 点で評価する。最終成果物である 2-4) が 60%、講義中の課題 1) が 40% で配分する。  
定期試験は実施しない。

### ●その他

課題等については出来不出来よりも積極性等を重視します。そのため、課題未提出が複数あると単位取得は厳しくなるので、まじめに取り組む姿勢が重要である。

他人の課題の複製やグループメンバーにまかせっけりにするなど不正行為あるいは迷惑行為に関しては厳しく処置します。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI (M)	岡田 昭夫

## ●授業の概要・到達目標

アカデミックリテラシーとしての情報論(「メディア社会はクソ社会?」) - 「医療」を通じて「人」を考えよう

いよいよ始まるぞー。  
この授業でボクがキミに求めるのは、「キミの心の水面にたつた波を鎮める」ための「哲学」だ。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かない。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切なたどきと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しよう!!  
それと、この授業はノリが良くないといつてこれられないぞ。ボクはキミとの「心の距離」が限りなく近いところに居たいんだ。そして楽しく、ざつぱらんに率直にハナシを進める。実社会に出て仕事をするとき「怒られ上手は教わり上手」なんだよ。気軽に上司や先輩が怒ることのできる後輩は可愛がられ、仕事を教えやすいんだ。だから授業では、楽しんで、そのノリに慣れて欲しい。そして、ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しみ、マジに考えていこう!!  
そこキミっ! ボクが、明治大学は「スゴイっ!!」と思うのは20年以上前のボクの着任当初から、「メディアから理想的な距離を置くことを教える授業」を目指していることだ。明治大学は先読みを誤らないと、いつもボクは感じている。ボクは駿河台で3年4年生のための「ICT総合実践」という科目を担当しているけど、履修者のみんなは大きなプレッシャーに押しつぶされそうになりながら必死に就活しているよ。今やらなきゃいけないことは山ほどあるんだ。相変わらず「卒業までにWordとExcelができればいいや・」そんな感覚でいるキミ、甘すぎるっ!  
この授業ではPCの技術を使う「使う人間の側面」「科学的機構」「使用方法リテラシーの側面」の3本立てを進めるぞ。キミたちには、「メディアに使われてしまう」のではなく「メディアを使いこなしてよく生きる人」になって欲しい。そして何より「楽しくなければ授業じゃない」というノリで毎日を徹底的に楽しんでいく。キミも仲間にはいらないか?

## ●授業内容

上で話したとおり今年度はすべての授業は「メディア授業(オンデマンド型)」で行う。

[第1回] イントロダクション、そして「前へ」  
まずボクが何者かを知ってもらいたいし、キミが何者かも知りたい。そのあと春学期の授業でどう「楽しむ」かを説明しよう。そして、ワセダのボクがうらやむ明治の「前へ」を一緒に考えよう。明治ってステキだぜ。はっきり言ってうらやましいよ。  
それから、今、「キミたちの何がヤバイのか」「社会の何がヤバイのか」しっかり考えて、自分の変革の端緒にしてほしい。

[第2回] 最終プレゼンのテーマである課題の説明  
この授業では、みんなに適宜、課題研究を進めてもらって、その成果をPowerPointのスライドにまとめて、プレゼンコンテンツを制作してもらおう。  
その課題研究のテーマは、ボクの副専攻の分野から、今の医療でホットな話題を10個程度説明するから、リラクスして見て欲しい。「へー、今医療でこんなことが問題になっているのか…」と感じ取ってほしい。視聴録、キミが取り扱いたいテーマをひとつ選択して報告してもらう。  
その過程で明治大学のIT環境への習熟(Oh-o/Meiji, Meiji Mail等、グループワークにおける情報共有方法)も紹介する。

[第3回] いまどきの大学生のライフプランニング、「立ち止まる勇気」「遠まわりを楽しむ勇気」  
キミたちは学窓を巣立つ時、どのよう将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、といふか多すぎる。Covid-19を思い出せ。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような職種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。じゃあ、どうするよ??

[第4回] 知らないことやババァ! Internetの原理、概念、注意点  
今回は覚悟して欲しい。インターネットの原理、「知らなかったこと」がどんなに「怖い」ことか実感する。これを知って、被害者にも加害者にもならない「インターネット社会人」を目指してくれ!!

[第5回] ゼットイに身につけたいネットワークのセキュリティー  
たとえば、オリンピックを誘致するとき、諸外国よりWi-Fi環境が遅れているとか言って、都バスの中や、駅構内までフリーWi-Fiを設置した。だけどWi-Fiって電波だよな。公共空間に電波を飛ばしてプライベートなデータを送って大丈夫なの?? このような機構の原理を理解しておかないと、安全で理知的なメディアユーザー(サ)にはなれない。わかると結構コワイから覚悟しておけよ。というわけでインターネットの原理とそれに立脚した「正しい」使い方を理解してもらおう。

[第6回] インターネットやSNSを利用した犯罪のやり方教えます?  
キミたちは明治大学の精鋭だ。みんな一人一人が神官にはたまった「紫紺の大校旗」を背負っている。その誇りと責任を実感していると思う。だからキミに敢えて、インターネットやSNSでどう犯罪が行われるかを説明するぞ。これが理解できたら、それから身を守る方法を理解できるからだ。キミには「人を大切にするためにメディアを使う」という使命がこの授業によって与えられた。だから今日犯罪の手法を理解できたら、この授業を取っていないキミの友達も守ってやれっ!!

[第7回] PC解剖実習  
今回は、ちょっと理科系傾向強し!! だけど心配すんな。キミが明治の文系学生だって知っているから、わかりやすくやるよ。ボクはびっくりした。「PCって日本語がわかるんだー」って思ってるヤツが結構いる。そんなワケないぞ(怒)!!  
そこで今回は電気というエネルギーがなぜ社会の意味のある「情報」に変わるのか、理論と解剖による実習まで!! オンラインでやっちゃうからガンバレよ!!

[第8回] 失われた社会性を求めて そして「前へ2」  
きょうは、「失われた社会性」を取り戻すために、授業終了時に生まれ変わるほどの覚悟を決めて欲しい!!!  
まずは、ボクの明治の教え子「関先生」が登場してもらおう。「明治大好き」で「明治論」。公立中学で7年間社会科教諭として勤務した後、卒業当時から宣言していたように、昨年3月に退職した。そして、かつてよく宣言していたように「世界放浪」に出た。  
彼を例にして、キミがメディア社会で「失った」「満喫できなかった」社会性について考えて、それらを取り戻す努力を始めよう!

[第9回] メディア社会の医学的側面  
今回は「科学」を一歩進めて、情報化社会の「医学」的側面について考えよう。このメディア社会におけるコモディティの特性を理解できると、「毎日生きることが人体実験」ということに実感を持つ。その恐ろしさに気づいて「ピピッ」たちの授業は合格だ。

[第10回] 「できる子」養成プロジェクトその1-1 プレゼンスキルトレーニング1  
—PowerPoint図形実習、めっちゃ楽しめ!!  
今回は楽しみながらスライドを作っていく。作っている方が楽しくないと、見ている方はゼットイつまらん!!  
そのため、明治大学ICTを「明治大学附属泉小学校」にして、「図画の時間」をやる。そしてPowerPointのお絵描き大会を始める!! しっかり頑張って挑戦してほしい。図形実習、けっこうハまる。

[第11回] 「できる子」養成プロジェクトその1-2 プレゼンスキルトレーニング2  
—アニメーション講習会  
その後はそれらを動かしていくぞ。PPのアニメーション効果の特訓だ。がんばれっ!! 聴衆って動きが無いと飽きてくる。だって、キミだって何かの授業で動きの無い動画コンテンツ見せられて、眠さって眠るんだろ。  
そこで、印象深いプレゼン作りで、初級から上級を指導しよう。

[第12回] 「できる子」養成プロジェクトその2 物の調べ方入門—Reference講習会  
長く大学で先生やってると、学生の成績の差ってどこから出てくるんだろうということについて一つの答えが見えてくる。それは情報収集力だ。ゼミの発表でもレポートでも情報収集力のあるヤツは、良いコンテンツを作ることができる。そこで、今回は「できる子養成プロジェクト」第2弾として、学術情報収集のノウハウ講習会だっ!!

今回の授業が終わると(身につけるって意味だぞ!!) ゼットイこの授業を取ってない友達に差をつけたと感じるぞ。

[第13回] 「できる子」養成プロジェクトその3 点の取れるレポートの書き方(学術文書制作入門)  
大学でレポートを提出すると多くの学生が気にすること。「先生、ちゃんと読んでくれているのだろうか…」 中学高校と違って多くの場合、提出したレポートが添削され返却されること少ないからだ。  
そこで、ゼットイちゃんと読んでもらえるレポートの書き方を考えよう。それには、学術文書の書き方という「お作法」に準拠した書き方をすればいい。これを身につければ、キミのレポートはゼットイいい点がつく!! きょうはこの「お作法」を身につけてよう。

[第14回] 「できる子」養成プロジェクトその4 Excel超入門講習会 そして授業の総括「メディアはセカンドベスト」  
さあ今回は最終回だ。社会人に必須の表計算Excelをトレーニングやるぞ!! なぜか明治でもワセダでもExcelは回避される…でも大丈夫、ボクもそうだった。だから楽しくExcelを体験するぞ。ボクに任せろっ!! 授業の最後では、関数を応用して、キミにボクがいつも明治でやっている成績集計を「バーチャル体験」してもらおう。そして楽しく自分でスキルアップする秘訣も教えるぞ。  
そして総括だ。この授業では一貫して「メディアは人を大切にするために使う」ということを言ってきたし、考えてきた。きょうは前期の最終回だ。そこでも一度原点座標に戻ろう。メディアって便利だけど、「やっぱ、生身の人間が最高だよなっ!!」ってことを再認識しよう。もともとボクの授業は学生たちにインターネットで、「オカダ先生の命の授業」と評されてきた。だから今日は、「生身の人間が最高っ!!」っていう渾身の「命の授業」をやるから楽しみにしてほしい。

## ●履修上の注意

ボクのICTベーシックIIも併せて履修することを強く推奨する。また出席を心がけて欲しい。

[まず最初に! この授業はメディア授業だよ。]  
授業実施曜日の午前0:00 ~ Oh-o/Meiji システムで授業コンテンツが閲覧できる。授業コンテンツはそれ以降学期中はいつでも見られることはできるが…  
☆出席の申告にあたる授業の感想、これを「きょうのひとこと」と呼んでいるけど、これの提出は、授業実施曜日の午前0:00 ~ 翌週の授業実施の前日の23:30までに記入してもらうことになっている。だからその期間内で、随時(オンデマンド)で受講すればいいということだ。

[以下のトレーニングを重視するので、それに資する経験を日ごろから心掛けてほしい。]  
[1] Oh-o/Meiji Systemの習熟  
この授業では教材の配布や、調査の回答等にほぼ毎回使用する。他の授業でも体講連絡からレポートの回収に至るまで種々に利用されているので、早期に慣れてほしい。

[2] Meiji Mailの利用  
明治大学の学生間では、学年が上がるとICTでMeiji Mailの使用を教わったにも関わらず、疎遠になってしまう傾向がある。やたらSNSに依存する傾向の強い現在、@meiji.ac.jpというキミにとって最も格式の高いメアドを大切に使う習慣を下級生のうちに身につけてほしい。

[3] 著作権の知識と合法行為の習慣化  
SNSがツールとして、その背景知識を置き去りにして一人歩きを始めている。この授業でしっかり著作権について学んでほしい。そして授業の中に留めることなく、キミのSNS全体を再検証してほしい。もし知らずに著作権侵害をキミが行ってしまっていたら、即刻是正してほしい。ひとりひとりが笑える明治大学の紫紺の大校旗を背負っている自覚を忘れずに!

出席確認の方法: Oh-o/Meijiの毎回の授業に合わせてレポート欄に設置した「きょうのひとこと」に今回の授業の感想を記入して送信することで出席とする。

履修者の連絡窓口: 学生教員の意見交換の方法: Oh-o/Meijiの毎回の授業に合わせてディスカッション欄に設置した「\*月\*\*日の授業に関して」欄で行う。その他、「授業に関するお知らせ」欄を利用して適宜必要事項を連絡する。

## ●準備学習(予習・復習等)の内容

- 1) 授業で習得した、リファレンススキルを駆使して、各人のテーマである医療問題について、半年間かけて調査研究を進めることになる。これは自主自学の精神で、学問的興味に基づいて、各課題研究班で適宜に進めてもらうことになる。
- 2) ICTのスキルの実習が中核を占める。したがって授業で学んだだけでは意味がない。各自の大学でのアカデミックムの実践の中で、可能な限り実践に努めること。
- 3) 「社会という巨大な書物」を読むことを心がける。すなわち授業外で、課題研究のために、社会に飛び出し、フィールドワークを積極的に展開してほしい。
- 4) 今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!! 今は何んのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進むにつれてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。

## ●教科書

医療問題が最終プレゼンのテーマとなる。そこで死生観に関するボクの著作を使用する。  
「シナモンロールにハチマシをかけて 一太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語—」岡田昭夫著  
(銀の鈴社 刊) ISBN: 978-4-87786-274-9 C0095  
授業開始時点までに必ず入手しておいて欲しい。  
教材は当方からさまざまなものを適宜配布する。  
また授業用Webページ「Oh-o/Meiji」にオンデマンド教材が格納されている。

## ●参考書

参考図書、参考資料はその都度一緒に考えよう。  
リファレンス能力を身につけて、必要な参考文献や参考情報にたどりつけること。それはこのあとキミの実力の主たる部分として評価される。自分に必要な情報に自力でたどり着ることが大切だ。そのためにも自力ならボクはいくらでもする。

## ●課題に対するフィードバックの方法

オンデマンドでオンラインの授業であるけれど、いつも「つながっている」感を大切にしたい。そこでOh-o/Meijiの「ディスカッション」の記入・送信期限を、各回授業開始の初日から2週間を確保している。また毎回の授業後に記入する感想である「きょうのひとこと」が、各回授業開始の初日から6日間記入送信できるよう設定してある。それらを用いてコミュニケーションをとり、「つながっている」感を実現したい。

## ●成績評価の方法

- ・各自が選択したテーマに関して作成したプレゼンテーションスライドの巧拙 50%
  - ・各自が毎回の授業履修後に提出する授業の感想である「きょうのひとこと」を参考にして把握した「授業をどのくらい楽しんでいるか」20% 楽しんでいるヤツほど評価が高くなる。
  - ・テキスト読了後の感想文の巧拙 30% ただしこれを提出したことを単位認定評価の前提条件とする。
  - ・以上を斟酌して評価する。
- 筆記試験は、これを行わない。

## ●その他

出席(授業への参加)を心がけて欲しい。とにかく授業を楽しんでほしい。そして半年経ったとき、素敵な達成感を味わって欲しい。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII (M)	岡田 昭夫

## ●授業の概要・到達目標

このキミっ! ちょっと聞くけど COVID-19 とウクライナ問題で激変する情報化社会の中で、そえある明治大学で学問をやり、有為な人材として社会へ出ていくためにはどうしたいと思う? COVID-19 直前の就職市場は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で、有効求人倍率は2倍を超えた。しかし最近はどうぞ。徐々に回復はしているが…、有効求人倍率は1.3倍程度。この状況は少なからずキミたちに及ぶ。そんな一先が見えない情報化社会の中で何を身につければいいか、また就活を有利に展開するにはどのようなスキルを身につければいいか。ボクは春学期のシラバスで次のようにキミに言ったよな。

ボクは駿河台で3年4年生のための「ICT 総合実践」という科目を担当しているけど、履修者のみんなは大きなプレッシャーに押しつぶされそうになりながら必死に就活しているよ。今やらなきゃいけないことは山ほどあるんだ。相変わらず「卒業までに Word と Excel ができればいいや・。」そんな感覚でいるキミ、甘すぎるっ!

そして春学期のこの授業では、PC の技術を「使う人間の側面」「科学的機構」「使用方法リテラシーの側面」の3本柱で進めてきた。そして「楽しめなければ授業じゃない」のノリでみんなど楽しんだ。あとキミのキャリアに必要なものは何だろう。

そこで秋学期は、徹底的にキミのアート表現力の研鑽に励むぞ。社会に出ると、仕事でポスターやカード、更にはメニューに至るまで様々な資料、特に画像の入ったデザインが重要なウエイトを占める印刷物等を作ることが必要になる。あるいはデザインの洗練されたスライドを作ることは日常業務だ。そこで秋学期はこの辺のアートなトレーニングで徹底的に楽しむぞ。考えてみよう。キミは前期のボクの授業でスライド制作は超上級者になった。その上画像を自由自在に操ることができれば「鬼に金棒」さ。社会人になって、スキルで他者を一歩も二歩もリードできるぞ。だが待て、明治の学生にアートかよ…、ちょっと心配?? いやいやボクが頑張るから、一緒にめっちゃ楽しんで欲しい!

秋学期は、100分の授業時間の中に可能な限り実習時間を取り込んで、画像処理でワイワイガヤガヤ目一杯楽しんで行く。キミも仲間に入らないか?

## ●授業内容

今年度の秋学期もすべての授業は「メディア授業 (オンデマンド型)」で行うぞ。

[第1回] 情報化社会におけるメッセージ発信方法  
これから学ぶスキルが今後のキャリアビルディングにどのように重要にかかわってくるかを、具体的事例で説明するぞっ。

[第2回] 画像修正第1回目  
きょうから画像処理で楽しむぞー!! まず第1回目はパッチによる修正とエアブラシによる修正をマスターしてもらおう。楽しんで挑戦してくれい。

[第3回] 画像修正第2回目  
きょうは画像修正の第2回目だよ。きょうはいよいよ実際に「心霊写真」を作って、そのカラクリを理解してもらおう。そのあと「スタンプツール」による修正をマスターしてもらおう。これがまたハマるんだよな。

[第4回] 画像修正第3回目  
いよいよ今回から「ヒトの容貌修正プロジェクト」開始!! 今回と次回で、メイクのノリでヒトの容貌の修正に慣れよう。今や、履歴書の写真からスナップショットに至るまで、容貌の修正って当たり前に行われている。その原理を理解してスキルを身につけよう。これをやると、しみじみ「メイクって怖いよな…」と思うよ。

[第5回] 画像修正第4回目  
今回は「ヒトの容貌修正プロジェクト」完成の日。完成したキミの作品にキミがホレホレするかも… いままで練習してきたスキルの総動員だ。とにかくまず楽しんでくれ!!

[第6回] 画像合成第1回目  
前回までの画像修正、結構楽しかった、だろ??  
いよいよ、今回から、画像の合成に挑戦するぞ!! まずは基本原理を理解する実習をやろ。そのあと明治のメディア環境のすごさを見せるから、ビックリすんな。きょうもめっちゃ楽しみにしてくれい!!

[第7回] 画像合成第2回目「レオナルド・ダ・ヴィンチの秘密を暴く!!」  
このところずーっと長いこと、根を詰めて、画像処理ソフトの習熟にトライしてきた。だから今回は少しリラックスしてしよう!! 今回は「レオナルド・ダ・ヴィンチの秘密を暴く!!」をやろ。何百年も前の秘密を知った人を抹殺しようとかくらんできた秘密結社まである(らしい)。知らないよ!! 次の授業からキミが忽然と消えたら、抹殺されたと思て諦めるから(!?)。まあ、覚悟を決めて楽しんでくれ。みんな途中で熱狂しちゃうから、授業中に「待て!!」とか「まあ、待て」と言われたら、ちゃんと待つんだぞ。

[第8回] 画像合成第3回目  
さあ、今回から本格的に画像合成に取り組むぞ。ボクらハーレー乗りにとってアメリカの「デイトナビーチ」は聖地だ。そこで撮ったハーレーオヤジの写真に、ハーレーに乗ったボクを合成してツーショットの記念写真にしてもらう。そのためにまず今日は、素材となるボクの写真から、ボクとハーレーだけを「完璧にきれいに」切り出してもらおう。いままでやってきた「顔聞選択」の方法を利用して完璧にやってくれ。はつきり言っておくぞ!! 間違っても「ボクの腕が割れてた」とか「腕が一本切れてる」とか、ボクを傷物にしたヤツツ、「許さんぞー!!」とにかく素材の切り抜きが丁寧でないと、完成作品の精度があがらないことを思い知ってくれ。とにかく楽しんで!!

[第9回] 画像合成第4回目  
今回はいよいよ、ハーレーオヤジとボクの写真が合体されて、ツーショットの記念写真になる。ただ、やってみるといろいろな調整が必要になることが分かる。前回もそうだが、細かい調整を地道に積み重ねていかないと完成度の高い作品はできない。それって、ものづくりの基本だから、じっくり楽しんでやってくれよな。きょうのメインイベントは、2つの写真(ハーレーオヤジとボクのだよ) サイズ、色、明るさを調整して、合成した時に自然な雰囲気を出さないと。これができれば自然な合成ができるから、楽しんで。くれぐれも慌てて結果を出さないことだよ。

[第10回] 画像合成第5回目  
いよいよ今回でハーレーオヤジとの2ショットが完成だ。ここまできて妥協したら、元子もないぞ、もったいないよ。リアルな影を頑張って作ってくれ。そしてクルマのリアハッチでボクのバイクの一部が隠れるワザはどうやるんだろ。コンテンツをヒントに、キミの実力で考えて、課題を克服しよう。がんばれば!!

[第11回] 文字デザイン  
いやー、もうすぐまた1年でいちばん楽しい(ツライ)日が来るぞ。わかってるだろ、クリスマスだよ。そこで、きょうの文字デザイン頑張っておしゃれなクリスマスカードを作ったりしたりして…、もちろん、素敵なクリスマススイフが来るかも。あっゴメンこれ妄想だった… とにかく、文字デザイン頑張っポスターでもカードでも自由自在に作れるようになってくれ。

[第12回] 総合的画像処理トレーニング—Santa Fe の制作 その1  
今回と次回で、総合的な画像処理のトレーニングをするぞ。つまり、修正・合成・文字デザインのすべてが絡んだ訓練をしていく。それにしても実践的トレーニングはオモシロイ、ハマる。登場人物はウチの奥さんと、ボクの仲良し卒業生2人。まあ、楽しんでくれい!!

[第13回] 総合的画像処理トレーニング—Santa Fe の制作 その2 最終評価課題の制作方法の説明  
さあ、今回で Santa Fe を完成させるぞ。前回の指示で画面から消えてしまった仲良し卒業生の1人が元居た位置をどう修復するか最大のポイント、かな。意外と基本的な矩形選択の修復と半透明のエアブラシで上手くいくぞ!!  
がんばって、完成させてくれよ。これが完成するってことは、総合的な技術が高まったということだから、自分を褒めてやってくれ。さあ、楽しんで完成させよう!!

[第14回] 最終評価課題の「obispo」の制作方法の説明、1年間の授業の総括。  
まずは最終評価課題の「obispo」の制作方法を説明するぞ。キューバの首都ハバナの歴史の保存地区オビスポ通りでパフォーマーとボクとキミが遊んでいる合成写真を作るってヤツさ。この制作はキミの培った実力でガンバレ!!  
その後、何をやるかはヒ・ミ・ツ  
今回の授業を終えて半年間(あるいは1年間)を振り返ると、キミはボクが授業で言い続けてきた「メディアは人を大切にするために」っていうことを、この授業を取っていないキミの友人に雄弁に語れるようになっているはずさ。この授業で得たものを次に回してほしい!!

## ●履修上の注意

ボクの ICT ベーシック I も併せて履修することを強く推奨する。また出席を心がけて欲しい。

[まず最初に! この授業はメディア授業だよ。]  
授業実施曜日の午前 0:00 ~ Oh-of Meiji システムで授業コンテンツが閲覧できる。授業コンテンツはそれ以降学期中はいつでも見ることが出来るが…  
☆出席の申告にあたる授業の感想、これを「きょうのひとこと」と呼んでいるけど、これの提出は、授業実施曜日の午前 0:00 ~翌週の授業実施の前日の 23:30 までに記入してもらうことになっている。だからその期間内で、随時(オンデマンド)で受講すればいいということだ。

[以下のトレーニングを重視するので、それに資する経験を日ごろから心掛けてほしい。]  
[1] Oh-of Meiji System の習熟  
この授業では教材の配布や、調査の回答等にほぼ毎回使用する。他の授業でも体講連絡からレポートの回収に至るまで種々に利用されているので、早期に慣れてほしい。

[2] 画像処理スキルの習熟  
PowerPoint によるプレゼンが重視される現今、そのスライド制作においても、カードやポスター等の制作においても、または DTP(Desk Top Publishing) においても、キミの完成を十二分に表現できる画像処理の技術は、キャリア・ビルディング中でもアドヴァンストな部分として極めて重要だ。楽しみながら身につけてほしい。そこで日頃から、ポスターや広告等よく観察して、そのそれらに使用された画像処理技術を推定する習慣を身につけてほしい。

[3] 著作権の知識と合法行為の習慣化  
キミの Web ページを公開する際、キミは授業を聞いて緊張するはずだ。それは Web ページの公開を通じて、キミはインターネット社会人としてデビューすることを意味し、そのことはキミに権利を付与するのみならず義務も課してくるからだ。自分が被害者にも加害者にもならないための準備を怠ってはならないということだ。その時、特に重要なのが著作権の概念だ。  
そのことはキミの SNS 生活においても全く同じことが言える。SNS がツールとして、その背景知識を置き去りにして一人歩きを始めている。この授業で著作権についてももう一度しっかり学んでほしい。そしてそれを授業の中に留めることなよ、キミの SNS 全体を再検証してほしい。もし知らずに著作権侵害をキミが行ってしまったら、即刻は正してほしい。ひとりひとりが染みある明治大学の紫紺の校旗を背負っている自覚を忘れずに!

出席確認の方法: Oh-of Meiji の毎回の授業に合わせてレポート欄に設置した「きょうのひとこと」に今回の授業の感想を記入して送信することで出席とする。

履修者の連絡窓口・学生教員の意見交換の方法: Oh-of Meiji の毎回の授業に合わせてディスカッション欄に設置した「\*月\*日の授業に関して」欄で行う。その他、「授業に関するお知らせ」欄を利用して適宜必要事項を連絡する。

## ●準備学習(予習・復習等)の内容

- (1) 画像処理は、非常に興味深く楽しい作業である。しかしアプリケーションの操作はかなり複雑である。授業外で自習室等でいかに長い時間を費やして親しんだかが成否のカギである。
- (2) 今回授業で使用する Gimp は、幸いフリーソフトなので、自宅等での自主的な復習に期待する。
- (3) この授業が進むにつれ、キミはとてつもない技術が身につく、その技術の社会的影響力の大きさに身震いが出るだろう。その時なんだよ!!! その時に至ったらメディアや ICT や AI などというものの、本質的な存在意義や恐ろしさに対して、真の理に到達してくれるだろう。オレはそれを目指しているんだよ。

## ●教科書

授業の底流には常に、「メディアを通じて人を大切にすること」というコンセプトがある。メディア社会での自分の基本座標が見えなくなったとき読んでもらうためにサブテキストを用意する。  
『シナモンロールにハチミツをかけて 一太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語—』 岡田昭夫著  
(銀の鈴社 刊) ISBN: 978-4-87786-274-9 C0095

## ●参考書

教材は当方からさまざまなものを適宜配布する。また Oh-of Meiji System に格納されているので適宜ダウンロードしてもらおう。

## ●課題に対するフィードバックの方法

オンデマンドでオンラインの授業であるけれど、いつも「つながっている」感を大切にしたい。そこで Oh-of Meiji の「ディスカッション」の記入・送信期限を、各回授業開始の初日から2週間を確保している。また毎回の授業後に記入する感想である「きょうのひとこと」が、各回授業開始の初日から6日間記入・送信できるよう設定してある。それらを用いてコミュニケーションをとり、「つながっている」感を実現したい。

## ●成績評価の方法

・各自が制作して提出した「画像修正作品集」スライドの巧拙 35% ただしくれぐれも言っておくが、完成度が高いほど高い評価をもらえるなど考えるなっ!! オレはキミの努力の跡が見たいだけなんだよ。  
・各自が制作して提出した「画像合成作品集」スライドの巧拙 35% ただしこれも同じだよ!! オレはキミの努力の跡が見たいだけなんだよ。  
・各自が毎回の授業履修後に提出する授業の感想である「きょうのひとこと」を参考にして把握した「授業をどのくらい楽しんでいるか」30% 楽しんでいるヤツほど評価が高くなる。  
・以上を斟酌して評価する。  
筆記試験は、これを行わない。

## ●その他

出席(授業への参加)を心がけて欲しい。とにかく授業を楽しんでほしい。そして半年経ったとき、素敵な達成感を味わって欲しい。

科目ナンバー：IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	岡田 浩之

### ●授業の概要・到達目標

本講義では、「習うより慣れる。豊富な演習を通じてインターネット技術を学ぶ」をキャッチフレーズにして以下の三つの項目に焦点を当てた授業を行う。

○インターネットの利用

- ・PCの仕組みや構成
- ・インターネットの仕組みの理解
- ・電子メールの送受信とホームページの閲覧
- ・文章作成の基礎
- ・明治大学総合情報ネットワーク(MIND)の理解

○情報倫理

- ・破られないパスワードはなぜ必要か
- ・知的財産権に関する理解
- ・プライバシーとネットワークセキュリティ

○情報文化

- ・電子商取引の普及
- ・メディアとしてのインターネットの可能性

### ●授業内容

[第1回] イントロダクション [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・本講座の目的と方針
- ・単位取得の条件
- ・簡単なアンケート

[第2回] インターネットとセキュリティ [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・明治大学総合情報ネットワーク(MIND)
- ・Oh-olMeijiの使い方
- ・メールの送信と受信
- ・破られないパスワードはなぜ必要か
- ・ネットワークセキュリティの基礎

[第3回] 情報社会における倫理 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・知的財産権に関する理解
- ・インターネットにおけるプライバシー

[第4回] 電子商取引 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・電子商取引の概要
- ・5年後の電子商取引

[第5回] パソコンによる文章作成 (1) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・Microsoft Office ソフト (Word, Excel, PowerPoint) の使い方

[第6回] パソコンによる文章作成 (2) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・Microsoft Wordによる文章作成の応用 (その1)

[第7回] パソコンによる文章作成 (3) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・Microsoft Wordによる文章作成の応用 (その2)

[第8回] インターネットの利用 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・ホームページとは何か?
- ・ウェブブラウザによるホームページの閲覧
- ・インターネットによる情報検索

[第9回] インターネットへの情報発信 (1) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・ホームページ作成の入門

[第10回] インターネットへの情報発信 (2) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・ホームページ作成演習 (1)

[第11回] インターネットへの情報発信 (3) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・ホームページ作成演習 (2)

[第12回] インターネットへの情報発信 (4) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・ホームページ作成演習 (3)

[第13回] インターネットへの情報発信 (5) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・ホームページ作成演習 (4)

[第14回] メディアとしてのインターネットの可能性 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・高度情報通信社会の到来をインターネットの普及を通して探る。

### ●履修上の注意

インターネット、ソーシャルメディア等、変化の早い分野を扱います。日頃から、新聞、インターネット等で最新の情報の収集を心がけてください。本授業はメディア授業 (リアルタイム配信型) で実施する。出席の確認はクラスウェブの出勤管理で行う。質問は随時メールで受け付ける。質問あるいは連絡用の教員メールアドレスは初回の授業で案内する。その他、授業中に設定するZoomのブレイクアウトルーム機能により、教員と履修者および履修者同士の意見交換を行う。

※大事なお知らせ  
この授業は演習を行うので、iPhone やタブレットでは受講できません。この授業はマイクと画像をオンにできる環境で受講して下さい。声を出せない場所での受講はできません。

※授業中の課題  
授業中の課題は授業時間内に提出することが必要です。Microsoft Excel および Word、PowerPoint が動作するパソコンで授業に参加することが必須です。iPhone やタブレット (iPad 等) では受講できません。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

インターネットを利用した犯罪が年々増加しています。新聞、インターネット等で身近な例を纏めてください。

### ●教科書

無し

### ●参考書

授業中に紹介する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

Oh-olMeiji のレポート機能を利用する。

### ●成績評価の方法

レポートやプレゼンテーションの評価 (60 パーセント)、および平常点 (授業への積極的な参加や発言) (40 パーセント) で成績を評価する。試験は実施しない。

### ●その他

シラバスでは全14回の授業をメディア授業 (リアルタイム配信型) で実施するとしていますが、必要に応じてオンデマンド型授業を実施する場合があります。詳しくは授業中に指示をします。

科目ナンバー：IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	岡田 浩之

### ●授業の概要・到達目標

本講義では、「習うより慣れる。豊富な演習を通じて実践的な知識を身に付ける」をキャッチフレーズにして以下の二つの項目に焦点を当てた授業を行う。

○コンピューティング

- ・Excel 入門
- ・Excel による統計データ処理

○プレゼンテーション

- ・シナリオ作成
- ・インターネットによる情報収集
- ・効果的な発表技法

### ●授業内容

[第1回] イントロダクション [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・本講座の目的と方針
- ・単位取得の条件
- ・簡単なアンケート

[第2回] Excel 入門 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・Excel により、表計算の基本的な知識を身に付ける。

[第3回] Excel による統計データ処理 (1) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・Excel を使い統計データを処理し、レポートにまとめる技術を学ぶ。

[第4回] Excel による実験データ処理 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・Excel を使い統計データを処理し、実験レポートにまとめる技術を学ぶ。

[第5回] 効果的なプレゼンテーション技法 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・PowerPoint の基本操作の習得

[第6回] プレゼンテーション演習 1 (1) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・各自が設定したテーマに従い、プレゼンテーションを作成する。

[第7回] プレゼンテーション演習 1 (2) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・各自が設定したテーマに従い、プレゼンテーションを作成する。

[第8回] プレゼンテーション演習 1 (3) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・各自が作成したプレゼンテーションを発表する。

[第9回] プレゼンテーション演習 1 (4) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・各自が作成したプレゼンテーションを発表する。

[第10回] プレゼンテーション演習 2 (1) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・グループごとにプレゼンテーションを作成する。

[第11回] プレゼンテーション演習 2 (2) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・グループごとにプレゼンテーションを作成する。

[第12回] プレゼンテーション演習 2 (3) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・グループごとにプレゼンテーションを作成する。

[第13回] プレゼンテーション演習 2 (4) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・グループ発表

[第14回] プレゼンテーション演習 2 (5) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

- ・グループ発表

### ●履修上の注意

インターネット、ソーシャルメディア等、変化の早い分野を扱います。日頃から、新聞、インターネット等で最新の情報の収集を心がけてください。本授業はメディア授業 (リアルタイム配信型) で実施する。出席の確認はクラスウェブの出勤管理で行う。質問は随時メールで受け付ける。質問あるいは連絡用の教員メールアドレスは初回の授業で案内する。その他、授業中に設定するZoomのブレイクアウトルーム機能により、教員と履修者および履修者同士の意見交換を行う。

※大事なお知らせ  
この授業は演習を行うので、iPhone やタブレットでは受講できません。この授業はマイクと画像をオンにできる環境で受講して下さい。声を出せない場所での受講はできません。

※授業中の課題  
授業中の課題は授業時間内に提出することが必要です。Microsoft Excel および Word、PowerPoint が動作するパソコンで授業に参加することが必須です。iPhone (iPhone 等) やタブレットでは受講できません。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

プレゼン演習は十分な準備と練習が必須です。授業時間内で足りない部分は予習、復習の時間を活用してください。

### ●教科書

無し

### ●参考書

授業中に紹介する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

Oh-olMeiji のレポート機能を利用。

### ●成績評価の方法

レポートやプレゼンテーションの評価 (60 パーセント)、および平常点 (授業への積極的な参加や発言) (40 パーセント) で成績を評価する。試験は実施しない。

### ●その他

シラバスでは全14回の授業をメディア授業 (リアルタイム配信型) で実施するとしていますが、必要に応じてオンデマンド型授業を実施する場合があります。詳しくは授業中に指示をします。



科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	小川 有希子

### ●授業の概要・到達目標

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる ICT (情報通信技術) 活用能力を習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識および、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Office (Word/Excel/PowerPoint) の活用法について、網羅的に学習する。

具体的には、以下のような状態になることを目標とする。

- 1) Word を使って、図表や画像を組み込んだ資料や、レポート文書を作成することができるようになる。
- 2) Excel を使って様々なデータ処理ができるようになる。基本的な関数を扱えるようになる。見映えの良い図表を作成することができるようになる。
- 3) PowerPoint を使って効果的なプレゼンテーション資料を作成し、伝わるプレゼンテーションを実践することができるようになる。

### ●授業内容

[第 1 回]	イントロダクション、Oh-o!Meiji および 学内ネットワークの使い方 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 2 回]	コンピュータ および インターネットの基礎知識、情報セキュリティと情報モラル [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 3 回]	コンピュータの基本操作、電子メールの書き方、Meiji Mail の使い方 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 4 回]	Word(1): 基本機能と基本操作 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 5 回]	Word(2): 書式設定・レイアウト調整 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 6 回]	Word(3): 作図 および 資料作成 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 7 回]	Word(4): レポート作成演習 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 8 回]	PowerPoint(1): 基本機能と基本操作 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 9 回]	PowerPoint(2): スライドの組み立てと作成 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 10 回]	Excel(1): 基本機能と基本操作 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 11 回]	Excel(2): 関数によるデータ処理 および 表・グラフ作成① [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 12 回]	Excel(3): 関数によるデータ処理 および 表・グラフ作成② [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 13 回]	PowerPoint によるプレゼンテーション実習 および 相互評価 (第 1 回) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 14 回]	PowerPoint によるプレゼンテーション実習 および 相互評価 (第 2 回) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

### ●履修上の注意

- ・本授業はメディア授業科目として開講される。授業は毎回、Zoom によるリアルタイム配信型で行う。
- ・Zoom 上で、またはクラスウェブを使って毎回出席をとる。
- ・本授業は同教員が担当する「ICT エレメンタリー [M]」に比べて、やや難しい内容まで扱うことを意識した授業であるが、その内容も兼ねて、同教員の「ICT エレメンタリー [M]」と「ICT ベーシック I [M]」を同時に履修することは推奨しない。
- ・本授業は、基本的には Windows の授業である。Mac 版 Office (Office for Mac) を使っても構わないが、Windows 版 Office と操作性が若干異なる部分については、本授業ではサポートしきれない可能性があることを念頭に置いて、履修するかを判断すること。
- ・自分所有のパソコンが Mac の場合は、大学のメディア自習室の Windows パソコンで受講することを検討してほしい。
- ・教員への質問は原則として授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段もいくつか検討している。詳細は授業中に説明する。
- ・授業中は TA (Teaching Assistant) もいるので、わからないことは TA にも質問できる。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

- ・授業前に、Oh-o!Meiji のクラスウェブで配布する授業資料を確認しておくこと (ざらっと見る程度で良い)。
- ・授業中の実習時間で作成および提出する課題を用意するが、授業中に完成しなかった場合は、次回授業までに完成させておくこと。次回の授業開始時に「再提出」という形で提出してもらう (つまり、各自の進捗状況に応じて、授業後に相応の学習時間を確保する必要がある)。
- ・授業時に理解が不十分だった点を復習すること。コンピュータの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外にも自主学習の時間を確保することが求められる。日頃から積極的に、スマホではなく「パソコン」を使うことを心掛けてほしい。

### ●教科書

指定しない。授業資料は Oh-o!Meiji のクラスウェブで配布する。

### ●参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

みなさんの提出物を見ただけで、間違いが多かった点や気をつけてほしい点などを、授業中にフィードバックする。PowerPoint によるプレゼンテーション実習においては、その場で講評する。

### ●成績評価の方法

- ・授業中に実施する課題の提出状況と完成度: 50%
  - ・最終プレゼンテーション (PowerPoint 作成への取り組みや PowerPoint の完成度も含む): 50%
  - ・出席回数が授業全体の 2/3 (10 回) に満たない者への評価は原則として F とする。コロナ等に罹患する、といった不測の事態を常に想定し、各自の責任において十分な出席回数を確保すること。なお、15 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ※対面形式での試験は行わない。

### ●その他

授業内容は履修者数 および 受講生の習得度や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	小川 有希子

### ●授業の概要・到達目標

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる ICT (情報通信技術) 活用能力を習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識、および Microsoft Office (Word/Excel/PowerPoint) の活用法は既に身に付けていることを前提として、画像や動画の編集・加工や Web ページの作り方といった、「こういうことが出来るようになったらいいな」と思うような、一段上の ICT 活用能力習得への扉を開くことに資する内容を学習する。

具体的には、以下のような状態になることを目標とする。

- 1) Photoshop の基本操作を覚え、簡単な画像加工ができるようになる。
- 2) Illustrator の基本操作を覚え、簡単なイラストやロゴ作成などができるようになる。
- 3) Premiere の基本操作を覚え、簡単な動画編集や動画加工ができるようになる。
- 4) 簡単な Web ページを作れるようになる。

### ●授業内容

[第 1 回]	イントロダクション、本授業の進め方・スケジュール および 使用するソフトウェアについて [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 2 回]	Web ページ制作 (1): HTML の基本を理解する [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 3 回]	Web ページ制作 (2): CSS の基本を理解する [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 4 回]	Photoshop(1): 基本機能と基本操作 ※代替フリーソフトも使用可 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 5 回]	Photoshop(2): 画像の編集・加工 ※代替フリーソフトも使用可 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 6 回]	Illustrator(1): 基本機能と基本操作 ※代替フリーソフトも使用可 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 7 回]	Illustrator(2): イラスト作成 ※代替フリーソフトも使用可 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 8 回]	Premiere(1): 基本機能と基本操作 ※代替フリーソフトも使用可 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 9 回]	Premiere(2): 動画の編集・加工 ※代替フリーソフトも使用可 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 10 回]	Web ページ制作 (3): 見映えの良い Web ページの作り方①、Web ページの企画を立てる [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 11 回]	Web ページ制作 (4): 見映えの良い Web ページの作り方②、Web ページの企画を立てる [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 12 回]	Web ページ制作 (5): 制作したコンテンツを自分の企画した Web ページに取り込む [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 13 回]	Web ページ制作 (6): グループ内で意見交換しながら修正を加え、自分の Web ページを完成させる [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
[第 14 回]	最終課題作品発表会 (相互評価含む) [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

### ●履修上の注意

- ・本授業はメディア授業科目として開講される。授業は毎回、Zoom によるリアルタイム配信型で行う。
- ・Zoom 上で、またはクラスウェブを使って毎回出席をとる。
- ・本授業は、同教員も含め複数の教員が担当している「ICT ベーシック I」[「ICT ベーシック I (M)」]において目標とされている、「最低限習得すべき ICT 活用能力 (Word/Excel/PowerPoint の基本操作)」は既に身に付けていることを前提として、Word/Excel/PowerPoint 以外のソフトウェアに触ってみたい人向けの授業である。
- ・Adobe Photoshop/Illustrator/Premiere といった、本授業で使用するソフトウェアについての事前知識は必要としない。使ったことになって構わない。むしろ、これらのソフトウェアを初めて触ってみる、最初の一步を踏み出したい初心者歓迎する。
- ・Adobe のソフトウェアを個人で準備する場合は有料版になるので、Adobe のソフトウェアの代替フリーソフト (無料で使えるもの) も使用可とする。代替フリーソフトについては授業中に説明する。
- ・が、各キャンパスには Adobe のソフトウェアがインストールされているパソコンが並んだメディア自習室もあるので、大学のパソコンで受講することを積極的に検討してほしい。
- ・代替フリーソフトの操作性については本授業ではサポートしきれない可能性があることを念頭に置いて、履修するかを判断すること。
- ・教員への質問は原則として授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段もいくつか検討している。詳細は授業中に説明する。
- ・授業中は TA (Teaching Assistant) もいるので、わからないことは TA にも質問できる。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

- ・授業前に、Oh-o!Meiji のクラスウェブで配布する授業資料を確認しておくこと (ざらっと見る程度で良い)。
- ・授業中の実習時間で作成および提出する課題を用意するが、授業中に完成しなかった場合は、次回授業までに完成させておくこと。次回の授業開始時に「再提出」という形で提出してもらう (つまり、各自の進捗状況に応じて、授業後に相応の学習時間を確保する必要がある)。
- ・授業時に理解が不十分だった点を復習すること。コンピュータの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外にも自主学習の時間を確保することが求められる。日頃から積極的に、スマホではなく「パソコン」を使うことを心掛けてほしい。

### ●教科書

指定しない。授業資料は Oh-o!Meiji のクラスウェブで配布する。

### ●参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

みなさんの提出物を見ただけで、気をつけてほしい点などを授業中にフィードバックする。また、よく出来ている提出物も授業中に適宜紹介していく。最終課題作品発表会においては、その場で講評する。

### ●成績評価の方法

- ・授業中に実施する課題の提出状況と完成度: 50%
  - ・最終課題作品制作への取り組みと作品の完成度 および 発表: 50%
  - ・出席回数が授業全体の 2/3 (10 回) に満たない者への評価は原則として F とする。コロナ等に罹患する、といった不測の事態を常に想定し、各自の責任において十分な出席回数を確保すること。なお、15 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ※対面形式での試験は行わない。

### ●その他

授業内容は履修者数 および 受講生の習得度や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅠ	片瀬 和子

### ●授業の概要・到達目標

日々進化するネットワーク社会の現状を知り、学生生活および社会人生活に必要なパソコン等 ICT (Information and Communication Technology) の正しい活用方法、ネットワーク社会での健全な処し方の習得を目的とする。  
最新の具体的事例や調査結果を交えた講義と PC を利用した実習を並行的に行い、PC からのメールの送受信、Word、Excel、PowerPoint の操作方法をはじめ、学生生活や就職活動、さらに社会人になってからも必ず役立つ ICT の基本的な活用方法を習得する。

### ●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション
- [第 2 回] コンピュータの基本的仕組みとインターネットの変遷、PC の基本操作
- [第 3 回] PC のセキュリティ設定、Oh-o!Meiji の利用方法
- [第 4 回] ネットワーク社会の脅威と適切な処し方・マナー (1)
- [第 5 回] ネットワーク社会の脅威と適切な処し方・マナー (2)
- [第 6 回] 電子メール送受信の留意点・マナー
- [第 7 回] Meiji Mail の利用方法、電子メールの実践 (社会人へのお礼メールを作成し、ミニレポートとして提出)
- [第 8 回] Word の基本操作の習得・実践
- [第 9 回] Excel の基本操作の習得・実践
- [第 10 回] PowerPoint の基本操作の習得・実践
- [第 11 回] ICT に関するトピック (話題になっている事項) についてのディスカッション
- [第 12 回] レポートの書き方 (Word の応用操作とレポートの基本的書式の習得)
- [第 13 回] 指定したテーマによるレポート作成
- [第 14 回] 授業総括

### ●履修上の注意

PC 教室での授業であるが、教員の講義と PC 操作による演習を平行して行う。  
講義を聴講する際は、各自の卓上の PC を操作せず、教員用 PC 画面が映し出されたディスプレイをみて話を聴くこと。  
PC 操作については、その都度指示する。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

配布資料を読み込む、ダウンロードする等、事前準備が必要になる場合は、その都度指示する。

### ●教科書

逐次、最新の情報 (各種調査結果、関連 Web サイト、刊行物等) を提示しながら講義を行う。

### ●参考書

『情報通信白書』、総務省

### ●課題に対するフィードバックの方法

レポートの採点終了後、レポートの全体講評をフィードバックする。

### ●成績評価の方法

授業中の態度を考慮しつつ、レポートによって成績評価を行う。  
点数配分は、平常点 (授業中の態度等) 20%、レポート 80%。  
遅刻、欠席は講義に支障を来すため、10 分以上の遅刻は該当日の平常点を 1/2 とする。  
授業中にスマートフォン・携帯電話を操作したり、他の授業のために卓上の PC を使用した場合は、即座に該当日の平常点を 0 点とする。

### ●その他

PC を素手で直接操作することになるので、授業終了時には、PC のキーボード、電源等の消毒を丁寧に行ってから退席すること。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅡ	片瀬 和子

### ●授業の概要・到達目標

学生生活や社会人として仕事をする上で、プレゼンテーション (各種成果や自身の思考の提示・発表) 能力が非常に重要である。ICT ベーシックⅡでは、学生生活および社会人生活で必要不可欠なプレゼンテーション力の基礎を身につけることを目的として、Word、Excel、PowerPoint の応用操作の実習を行い、これらのソフトを活用したデジタルプレゼンテーション力を習得する。

具体的には、以下のスキルを習得する。

1. ゼミ形式の授業で必須となり、社会人生活でも有用な「レジュメ」の基本的な作成方法の習得
2. PowerPoint の図形描画機能 (表作成も含む)、図形の効果的なプレゼンテーション方法=アニメーション機能の習得
3. 写真を挿入したプレゼンテーションファイルの作成方法の習得
4. Excel による各種グラフ作成方法とグラフ入り PowerPoint の作成方法の習得 (正しいグラフ作成スキルの習得は今後非常に有用)
5. PowerPoint 上でのグラフデータ分析方法の習得

以上の実習により、今後の学生生活や社会人生活で有用なデータ分析およびプレゼン資料作成方法を体得する。

### ●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション コンピュータ上でのデジタル・プレゼンテーションの概要紹介
- [第 2 回] Word によるレジュメ (簡条書形式のプレゼンテーションファイル) の作成  
[課題] Word を使って指定された文献のレジュメを作成
- [第 3 回] PowerPoint の応用 (1) プレゼンテーション用ファイルの設定方法の習得、図形描画機能の習得
- [第 4 回] PowerPoint の応用 (2) 図形描画の作成、アニメーション機能の習得
- [第 5 回] PowerPoint の応用 (3) 写真入りプレゼンテーションファイルの作成  
[課題] スマートフォンやデジタルカメラで撮影した写真を PowerPoint に取込んだプレゼンテーションファイルを作成
- [第 6 回] Excel の応用操作 (1) 各種グラフ作成 (学生生活、社会人生活で必須な Excel によるグラフ作成術を複数回に渡って徹底指導)
- [第 7 回] Excel の応用操作 (2) 各種グラフ作成
- [第 8 回] Excel の応用操作 (3) 各種グラフ作成
- [第 9 回] Excel と PowerPoint の応用操作 (1) グラフ作成、グラフの PowerPoint への貼り付け、PowerPoint 上でのグラフデータ分析
- [第 10 回] Excel と PowerPoint の応用操作 (2) グラフデータ分析結果のプレゼンテーションファイル作成  
[課題] 各自でグラフ作成、グラフデータ分析したプレゼンテーションファイル (PowerPoint) の作成
- [第 11 回] PowerPoint の応用 (3) 表作成等 PowerPoint のより高度なプレゼンテーション機能の習得
- [第 12 回] プレゼンテーションファイルの作成 (1)  
[課題] PowerPoint、Excel、デジタル画像等を用いた総合的なプレゼンテーションファイルの作成
- [第 13 回] プレゼンテーションファイルの作成 (2)
- [第 14 回] 授業総括

### ●履修上の注意

PC 教室での授業であるが、教員の講義と PC 操作による演習を平行して行う。  
講義を聴講する際は、各自の卓上の PC を操作せず、教員用 PC 画面が映し出されたディスプレイをみて話を聴くこと。  
PC 操作については、適宜指示する。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

配布資料を読み込む、ファイルをダウンロードする等、事前準備が必要になる場合は、その都度指示する。

### ●教科書

特に指定しない。  
PC 演習等で使用するファイルや配布資料は、逐次、用意する。

### ●参考書

『(パワーアップ版) わかる! 伝わる! プレゼン力』、佐藤佳弘、(武蔵野大学出版会)

### ●課題に対するフィードバックの方法

レポート提出後、レポートの全体講評をフィードバックする。

### ●成績評価の方法

授業中の態度を考慮しつつ、ミニレポート (3 回)、および最後に作成するレポートによって評価する。  
点数配分は、平常点 (授業中の態度等) 10%、レポート 90%。  
遅刻、欠席は講義に支障を来すため、10 分以上の遅刻は該当日の平常点を 1/2 とする。  
授業中にスマートフォン・携帯電話を操作したり、他の授業のために卓上の PC を使用した場合は、即座に該当日の平常点を 0 点とする。

### ●その他

PC を素手で直接操作することになるので、授業終了時には、PC のキーボード、電源等の消毒を丁寧に行ってから退席すること。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックI	加藤 浩

●授業の概要・到達目標

ICT ベーシックIでは、インターネットを中心に、高度情報化社会の成り立ちとしくみを理解し、その恩恵を安全に享受することができるような基本的情報リテラシーを習得することを目標とする。

具体的には、次のようなトピックを扱う。

- ・インターネットの仕組み
- ・電子メールの仕組みと活用
- ・ウェブの仕組みと活用
- ・情報検索
- ・情報倫理
- ・知的財産権
- ・Word、Excel、PowerPointの基礎演習
- ・ウェブによる情報発信演習

●授業内容

- [第1回] イントロダクション／パソコンのハードウェア解説と基本操作演習
- [第2回] インターネットの歴史と原理／明大のICT環境解説
- [第3回] 電子メールの仕組みと演習
- [第4回] インターネットの様々なサービスの活用演習
- [第5回] インターネット情報検索演習
- [第6回] 情報セキュリティ（調べ学習と発表：グループワーク）
- [第7回] Word 基礎演習（小レポート）
- [第8回] PowerPoint 基礎演習（小レポート）
- [第9回] Excel 基礎演習（小レポート）
- [第10回] ウェブのしくみとHTML
- [第11回] ウェブページの設計・制作演習（1）～ホームページ・ビルダーの基本操作とアップロード～
- [第12回] ウェブページの設計・制作演習（2）～ナビゲーション・デザイン～
- [第13回] 知的財産権
- [第14回] ウェブページの設計・制作演習（3）～オリジナル作品制作～

●履修上の注意

各自 USB メモリを用意し、毎回の授業に持参すること

●準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-ol Meiji で配付するレジメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。欠席した場合は各自で Oh-ol Meiji からレジメを取得してキャッチアップすること。  
各種アプリケーションソフトの演習では、授業時間内に出す課題が次の時間までの小レポートとなる。  
ウェブページ制作は、授業外の時間を活用してオリジナルな作品を完成させることが必要になる。

●教科書

使用しない

●参考書

使用しない

●課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーについては、個別のものには直接返答を書き、同様のコメントが複数ある場合には授業中にフィードバックする。Office ソフトの小レポートについては、原則、メールでチェック後に提出してもらう。

●成績評価の方法

最終レポート 50%、小レポート（3回）30%、平常点 20%（欠席 -5 点 / 回、公欠・遅刻 -2.5 点 / 回）。  
3/4 以上の出席と全レポートの提出を単位認定の必要条件とする。  
部・サークル活動を事由とする欠席は、たとえ体育会の部の試合でも公欠扱いにはしないので、部・サークル活動がある者は出席の可能性をよく検討した上で履修すること。ただし、ゼミ試験等学校の公式行事、伝染病感染、忌引の場合には、書面で第三者の証明があるときに限り公欠とし、出席扱いで、ただし、単純欠席の半分を減点する。  
定期試験は行わない。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックII	加藤 浩

●授業の概要・到達目標

ICT ベーシックIIでは、聞き手に十分理解し、納得してもらおうプレゼンテーション（発表）ができるようになることを目標にプレゼン技法を学ぶ。単に PowerPoint の使い方の学習ではなく、プレゼンの心構え、アイデアを洗練していく手法、プレゼンテーションの構成、説得力を高める方法、理解しやすい説明資料など、プレゼンの内容に重点をおいて実践的に演習する。相互批評を行うなどのグループ活動を通して、実際のプレゼン構築のプロセスを修得する。

●授業内容

- [第1回] イントロダクション（次回までの宿題を出すので必ず出席すること）
- [第2回] プレゼンの理論と心構え：プレゼンとはどういう実践か
- [第3回] アイデアの説明、ディスカッションによる批判的検討(1)
- [第4回] アイデアの説明、ディスカッションによる批判的検討(2)
- [第5回] アイデアの説明、ディスカッションによる批判的検討(3)
- [第6回] プレゼンの構成・ストーリー
- [第7回] プレゼン資料作成の注意点：アイデアの図解表現
- [第8回] 発表時の注意点、発表準備
- [第9回] 発表リハーサル（1）
- [第10回] 発表リハーサル（2）
- [第11回] 発表リハーサル（3）
- [第12回] プレゼン本番と相互評価（1）
- [第13回] プレゼン本番と相互評価（2）
- [第14回] 授業の振り返り

●履修上の注意

本授業は履修人数に応じて(8名以上の場合)2～3人でグループを作り、グループで協力して1つのプレゼンを作り上げる [b] グループワーク [/b] の形態で実施することがある。他グループ / 他者のプレゼンを批判的に検討し、議論するので、それへの積極的な参加が要請される。授業参加への積極性の乏しい人、グループワークが苦手な人、他者からの批判に過度に敏感な人には不向きかもしれないので履修を熟考すること。  
各自 USB メモリを用意して、毎回の授業に持参すること。

●準備学習（予習・復習等）の内容

テーマのアイデアを考えてくる、授業内で配布されたワークシートを埋めてくる、全3回のプレゼンの準備をするなどの宿題を小レポートとして課す。グループワークになった場合には、授業外の時間にグループで集まって相談や準備や練習をする必要も生じる。

●教科書

『レポートの組み立て方』、木下是雄、(筑摩書房)

●参考書

『プレゼンテーションの実際』、加藤浩、(培風館)・『入門 考える技術・書く技術』、山崎康司、(ダイヤモンド社)

●課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーについては、個別のものには直接返答を書き、同様のコメントが複数ある場合には授業中にフィードバックする。小レポートについては、各自のプレゼン練習の際にフィードバックする。最終プレゼンについては相互評価を行う。

●成績評価の方法

小レポート・中間報告（小レポートと中間プレゼンテーション）35%、最終プレゼンテーション（相互評価）50%、平常点 15%（欠席 -5 点 / 回、公欠・遅刻 -2.5 点 / 回）  
3/4 以上の出席と全レポートの提出と3回予定されているプレゼンの実施を単位認定の必要条件とする。  
部・サークル活動を事由とする欠席は、たとえ体育会の部の試合でも公欠扱いにはしないので、部・サークル活動がある者は出席の可能性をよく検討した上で履修すること。ただし、ゼミ試験等学校の公式行事、感染症、忌引の場合には、書面で第三者の証明があるときに限り公欠とし、出席扱いで、ただし、単純欠席の半分を減点する。  
定期試験は行わない。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	亀山 浩文

### ●授業の概要・到達目標

次の項目を取り上げつつ、情報とは何かについて考察し、現代社会とコンピュータ及びコンピュータネットワークとの関わり合いについて理解する。インターネット上の情報資源を日常的に活用できる能力を身に付け、情報社会を生きる基礎体力を養うことを目標とする。  
特に、ビジネスソフトウェア (Word・Excel・PowerPoint) の基本的活用法を学ぶ。また、学生諸君自らがプレゼンテーションを体験する機会を設ける。プレゼン内容は学生相互に評価する。(オンデマンド型での発表方法は授業で指示する)  
ICT ベーシック II を共に履修することを勧める。

- ・情報とは
- ・コンピュータにできること (原理・歴史・現状・将来)
- ・インターネットの利用 (Web・メール・SNS・blog・クラウド)
- ・情報の検索、獲得、整理、加工、利用、管理 (Word・Excel・PowerPoint の基礎)
- ・情報社会の問題点

### ●授業内容

毎回パソコンを利用して実習を行い、理解を深める。一部ビデオ教材を使用する。  
[第 1 回] イントロダクション: 利用するコンピュータ環境及び Oh-olMeiji システムの紹介 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 2 回] ネットワークの利用 (1) インターネットの歴史・現状・仕組み [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 3 回] ネットワークの利用 (2) 情報倫理 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 4 回] ネットワークの利用 (3) e-mail, WWW, SNS [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 5 回] ハードウェアおよびソフトウェアの基礎知識 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 6 回] 人とコンピュータの情報処理: コンピュータの基礎原理と情報表現 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 7 回] 情報の検索・獲得と加工・利用 (1) Word の基礎 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 8 回] 情報の検索・獲得と加工・利用 (2) Word によるレポート作成技法 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 9 回] 情報の検索・獲得と加工・利用 (3) 検索エンジンとコピーの功罪 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 10 回] 情報の検索・獲得と加工・利用 (4) Excel の基礎 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 11 回] 情報の検索・獲得と加工・利用 (5) Excel の応用 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 12 回] 情報の検索・獲得と加工・利用 (6) PowerPoint の基礎 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 13 回] 情報の検索・獲得と加工・利用 (7) プレゼンテーションの実際 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 14 回] a のみ: コンピュータ犯罪と情報セキュリティ [メディア授業 (オンデマンド型)]

### ●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。  
すべての授業は、講義動画を Oh-olMeiji システムなどを通じて配信するオンデマンド型で行う。  
講義動画に関する情報は、原則毎週月曜日の授業開始 3 時間前までに Oh-olMeiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。  
なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し、出席確認及び理解度確認を行う。授業で作成した成果物 (ファイル) の提出を求めることもある。  
また、Oh-olMeiji クラスウェアのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けるので、大いに活用すること。  
初回の授業で、教員への質問・相談窓口として専用メールアドレスを履修者に通知する。実習を伴う科目であるので、欠席をしないこと。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

学修に必要な情報は、全て Oh-olMeiji システムに掲載する。  
授業時間内に行った課題を復習し、指示された成果物 (ファイル) を作成すること。  
不明な点があればメールなどで質問をすること。  
また、Oh-olMeiji システム上に提示される次回の授業に関する資料を読んでおくこと。

### ●教科書

内容は多岐に渡るため、特に指定しない。

### ●参考書

特に指定しない。  
必要があれば、授業中に指示する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業の内容に沿ったレポート課題をほぼ毎回課す。  
提出前に質問があれば、Oh-olMeiji システムのディスカッション機能を用いて答える。ディスカッション機能を用いれば、議論の内容を履修者全員が見ることができるので、課題作成の参考となるであろう。  
提出されたレポートは内容を確認の上、必要があれば履修者全員に注意事項を示すことがある。  
また、履修者個別に修正や再提出を求めることがある。  
全体連絡と個別連絡についても Oh-olMeiji システムを利用する。  
必要であれば電子メールでの連絡も可能である。

### ●成績評価の方法

レポート (2 回) (50%)、授業への取り組みの状況 (50%) により判断する。  
単位取得のためには課された 2 つのレポートを提出することを要求する。  
授業への取り組みの状況は、理解確認テスト及び授業で作成した成果物で評価する。  
成果物の提出は、Oh-olMeiji システムを用いて、すべて電子的に行う。  
対面形式での試験は行わない。

### ●その他

タッチタイプの訓練は履修者の自主的練習に期待する。  
授業でタイプ独習ソフトを紹介する。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	亀山 浩文

### ●授業の概要・到達目標

ICT ベーシック I での学習を踏まえて、コンピュータと情報ネットワークについて更に理解を深める。  
ビジネスソフトウェア (Word・Excel・PowerPoint) のより進んだ活用法を学び、様々な問題の解決のためにコンピュータを活用できる能力を養うことを目標とする。  
クラウドコンピューティングやホームページ作成法、プレゼンテーション技法、Web アンケートの方法についても解説し、実習を行う。  
データベースについても触れる。在学中だけでなく実社会でも役立つ実践的な知識を身につける。

- ・マルチメディア情報の表現
- ・ソフトウェアの基礎知識 (OSS とクラウドコンピューティング)
- ・Web 型文書の作製と利活用
- ・コンピュータによる問題解決の方法
- ・Excel の活用 (データからの情報抽出・分析・視覚化)
- ・コンピュータシミュレーション入門
- ・PowerPoint の活用
- ・Word による論文作成技法

### ●授業内容

毎回パソコンを利用して実習を行い、理解を深める。一部ビデオ教材を使用する。  
[第 1 回] イントロダクション: 利用するコンピュータ環境 (ハードウェアとソフトウェア) の紹介 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 2 回] マルチメディア情報: 静止画とビデオの原理・編集 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 3 回] ソフトウェアの基礎 (1) 様々な OS, OSS (Open Source Software) の利用 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 4 回] ソフトウェアの基礎 (2) クラウドコンピューティング [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 5 回] Web 型文書の作成 (1) HTML 入門 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 6 回] Web 型文書の作成 (2) Web 作成支援ソフトウェアの利用 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 7 回] Web 型文書の作成 (3) ネットワークを活用した情報蓄積と勉強への応用 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 8 回] Web を用いた大規模アンケートとその集計 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 9 回] Excel の活用 (1) 問題解決の方法 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 10 回] Excel の活用 (2) データベース機能と情報の視覚化 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 11 回] コンピュータシミュレーション (1) モデル化とシミュレーション [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 12 回] コンピュータシミュレーション (2) カオスと複雑系の話題から [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 13 回] Word による論文作成技法 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
[第 14 回] a のみ: PowerPoint の活用 (スライド作成技法と発表の技術) [メディア授業 (オンデマンド型)]

### ●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。  
すべての授業は、講義動画を Oh-olMeiji システムなどを通じて配信するオンデマンド型で行う。  
講義動画に関する情報は、原則毎週月曜日の授業開始 3 時間前までに Oh-olMeiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。  
なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し、出席確認及び理解度確認を行う。授業で作成した成果物 (ファイル) の提出を求めることもある。  
また、Oh-olMeiji クラスウェアのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けるので、大いに活用すること。  
教員への質問・相談窓口として専用メールアドレスを履修者に通知する。実習を伴う科目であるので、欠席をしないこと。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

学修に必要な情報は、全て Oh-olMeiji システムに掲載する。  
授業時間内に行った課題を復習し、指示された成果物 (ファイル) を作成すること。  
不明な点があればメールなどで質問をすること。  
また、Oh-olMeiji システム上に提示される次回の授業に関する資料を読んでおくこと。

### ●教科書

講義内容は多岐にわたるので、特に指定しない。

### ●参考書

特に指定しない。  
必要があれば、授業中に指示する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業の内容に沿ったレポート課題をほぼ毎回課す。  
提出前に質問があれば、Oh-olMeiji システムのディスカッション機能を用いて答える。ディスカッション機能を用いれば、議論の内容を履修者全員が見ることができるので、課題作成の参考となるであろう。  
提出されたレポートは内容を確認の上、必要があれば履修者全員に注意事項を示すことがある。  
また、履修者個別に修正や再提出を求めることがある。  
全体連絡と個別連絡についても Oh-olMeiji システムを利用する。  
必要であれば電子メールでの連絡も可能である。

### ●成績評価の方法

レポート (50%)、授業への取り組みの状況 (50%) により判断する。  
単位取得のためには課されたレポートを提出することを要求する。  
授業への取り組みの状況は、理解確認テスト及び授業で作成した成果物で評価する。  
成果物の提出は、Oh-olMeiji システムを用いて、すべて電子的に行う。  
対面形式での試験は行わない。

### ●その他

多くのソフトウェアを紹介するが、全てフリーソフトウェア (無料) である。  
コンピュータシミュレーションでは高校初年レベルの数式を一部使わざるを得ないが、授業で詳説するので、特別な前提知識は全く不要ない。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	近藤 佐保子

### ●授業の概要・到達目標

本講では、はじめに明治大学での情報システムについて確認し、コンピュータをコミュニケーションツールとしてとらえて、メールの送受信、Webでの情報検索と収集、またWebへの情報発信を身につけます。昨今は、スマートフォンの利用が多いと思いますが、キーボードからの入力にも慣れるよう、タイピングの手法を再確認します。

続いて、Wordを利用した文書作成技術、PowerPointを利用したプレゼンテーション技術を身につけます。

さらに、Excelの基礎を学び、身近にあるデータの簡単な整理に利用できるようにします。また、インターネット環境で思いがけないことから被害者・加害者になることがないよう、情報社会を生きるうえでの倫理を学びます。

本講を通じて、コンピュータをコミュニケーションツールとして使いこなすとともに、問題を分析・解決して発信していくツールとして使いこなすための基礎固めを目指します。

本講では以下を到達目標とします。

- ①明治大学における情報システムを理解し、正確な利用ができること
- ②コンピュータをコミュニケーションツールとしてとらえ、メールやWebでのインタラクティブなコミュニケーションができること
- ③今後の勉強・研究や仕事に必要な文書作成技術を身につけること
- ④表計算ソフトを利用して身近なデータを整理し、問題の分析と解決に役立たせることができること
- ⑤自分の主張をプレゼンテーションソフトを用いて効果的に伝えられること
- ⑥情報倫理を理解し、情報社会における快適な生活が送れるようになること

[授業形態について]  
本科目にリアルタイム型の配信は予定していません。  
授業の時間にあわせて準備している必要はありません。「オンデマンド型」になります。各回、PowerPointの授業説明と、必要に応じて動画(録画)による操作説明を随時、アップロードしていく予定です。

ほぼ毎週に近く、実習課題が出題されます。授業時間に合わせる必要はありませんが、課題提出が遅れないよう、週に1度以上は、確認してください。

メディア授業のため、授業のなかで実施する実習が課題となります。そのため、課題の提出回数は若干多くなります。

自宅などでの課題作成には以下の環境を整備するようにしてください。

- ・キーボードのあるPCでのWord、Excel、PowerPointの実習を含みます。
- ・明治大学へのVPN接続を必要とする場合があります。

### ●授業内容

- [第1回] (メディア授業・オンデマンド型) イントロダクション：授業の進め方など/明治大学での情報システム Oh-oMeijiの機能について  
キーボードのタイピングと日本語入力
- [第2回] (メディア授業・オンデマンド型) コミュニケーション・ツールとしてのコンピュータ1  
メールシステムと送受信、CcとBcc、メールのマナーとファイルの添付
- [第3回] (メディア授業・オンデマンド型) コミュニケーション・ツールとしてのコンピュータ2  
明治大学でのWeb利用と様々なURLの検索  
情報倫理1 - SNSをめぐる被害と加害行為など、情報倫理アンケートの実施
- [第4回] (メディア授業・オンデマンド型) Windowsの基本と文書作成の基礎1 - ファイルとフォルダ、Wordを利用した基礎的な文書の作り方、簡単な表作成など
- [第5回] (メディア授業・オンデマンド型) 文書作成の基礎2 - Wordによるビジネス文書の作り方
- [第6回] (メディア授業・オンデマンド型) 文書作成の基礎3 - Wordによるレポートの書き方
- [第7回] (メディア授業・オンデマンド型) プレゼンテーションの基礎1 - PowerPointによるスライド作成の基礎
- [第8回] (メディア授業・オンデマンド型) プレゼンテーションの基礎2 - PowerPointの様々な機能、アニメーションの設定など
- [第9回] (メディア授業・オンデマンド型) 発表スライドを作ってみよう - テーマの選択・構成を考える・素材を集める
- [第10回] (メディア授業・オンデマンド型) 表計算ソフトの基礎1 - Excelの基礎的な使い方
- [第11回] (メディア授業・オンデマンド型) 表計算ソフトの基礎2 - Excelにおける様々な関数の利用
- [第12回] (メディア授業・オンデマンド型) 表計算ソフトの基礎3 - Excelにおけるグラフの作成
- [第13回] (メディア授業・オンデマンド型) 情報倫理2 - 被害者・加害者にならないために
- [第14回] (メディア授業・オンデマンド型) PowerPointによるプレゼンテーション - 効果的な発表を目指し、相互評価してみましょう

### ●履修上の注意

初心者を対象としているので、情報リテラシーに関する一定の知識や技術の要件はありません。ただし、情報機器に「慣れる」ことは大切です。日ごろスマートフォンだけしか触らない方も多いのではないのでしょうか？

できるだけパソコンや特にキーボードにも触れる機会を作ってみてください。

また、日常生活のなかで、情報社会をめぐる報道などにも関心を持つようにしてください。そうしてみたら、頻りに情報やコンピュータに関する事件を耳にするのではないのでしょうか？ どうしたら被害者や加害者にならずに情報社会を快適に生きていけるか、そんなことも少し考えてみましょう。

○本科目はメディア授業科目です。

○オンデマンド型であるため、出席は課題提出により評価します。

○対面にかかわる授業資料として、各回の教材をPowerPointスライド他で作成し、Oh-oMeiji上に掲載するとともに[Panopto]から録画の配信を行います。

○学生と教員との意見交換や質問の場として、Oh-oMeijiのディスカッション機能を利用し、情報共有して質問に対応します。個人的な質問はアンケート機能でお受けします。また講師室での質問の機会を設ける予定です。

○Oh-oMeijiのディスカッション機能は学生さん同士のディスカッションに利用できます。積極的に意見交換をしてみてください。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

講義内容は積み重ねです。前回の授業でよく理解できなかったところがあれば振り返り理解してくるとともに、実習で追いつかなかった部分は必ず追いついてから次回の授業に臨んでください。課題が出された場合は必ず完成してきてください。

### ●教科書

特に指定しない。  
教材は授業時にプリントおよび電子ファイルで配布する。

### ●参考書

[インターネットコミュニケーション] 和田悟・近藤佐保子 (培風館)  
[実践 コンピュータリテラシー入門] 宮脇典彦 他 (実教出版)  
[Excelによるデータ解析の基礎] 宮脇典彦・坂井和男 他 (培風館)  
[大学一年生のための情報リテラシー] 小椋理子 編著 (丸善出版)

### ●課題に対するフィードバックの方法

各課題については、Oh-oMeiji上に解答例を掲示し、解説を行う。

### ●成績評価の方法

授業での複数回の提出課題:50%、期末課題:25%、およびプレゼンテーション25%として、評価する。プレゼンテーションについては、スライドショーの動画の作成提出をもって、実際の発表に代える予定である。対面形式での試験は実施しません。

### ●その他

毎回の授業への出席の積み重ねが技術の習得や向上につながると考えます。真摯に臨んでください。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	近藤 佐保子

### ●授業の概要・到達目標

本講では前半にExcelを利用して、ICTベーシックIで習得した技術を深めてコンピュータを利用した問題解決の仕方学びます。

また、それをPowerPointを用いてプレゼンテーションし、他者に効率的に伝えることを学びます。後半ではHTMLの基礎を学びWebによる情報発信ができることを目指します。

World Wide Webの技術はそもそも何のためにあるのか、ICTベーシックIで学んだことを踏まえ、ユニバーサルデザインにも目を向けましょう。

本講では以下を到達目標とします。

- ① Excelを用いて、統計的手法を用いた基礎的な分析により、問題の解決を考えられること
- ② PowerPointを用いて理解したことや他者に伝えたいことを効果的に表現できること
- ③ HTML5の技術を用いて、Webページが作成でき、そこにおいて自己表現ができること
- ④ ユニバーサル環境が理解できること

[授業形態について]  
本科目にリアルタイム型の配信は予定していません。  
授業の時間にあわせて準備している必要はありません。「オンデマンド型」になります。各回、PowerPointの授業説明と、必要に応じて動画(録画)による操作説明を随時、アップロードしていく予定です。

ほぼ毎週に近く、実習課題が出題されます。授業時間に合わせる必要はありませんが、課題提出が遅れないよう、週に1度以上は、確認してください。

メディア授業のため、授業のなかで実施する実習が課題となります。そのため、課題の提出回数は若干多くなります。

自宅などでの課題作成には以下の環境を整備するようにしてください。

- ・キーボードのあるPCでのWord、Excel、PowerPointの実習を含みます。
- ・明治大学へのVPN接続を必要とする内容を含みます。

### ●授業内容

- [第1回] (メディア授業・オンデマンド型) イントロダクション：授業の進め方など/Excelの基礎の確認・データの種類の(質的・量的)
- [第2回] (メディア授業・オンデマンド型) Excelによる問題の分析と解決1 - 基本統計量・ヒストグラムなど
- [第3回] (メディア授業・オンデマンド型) Excelによる問題の分析と解決2 - 2つの現象の関係は？ 相関と散布図
- [第4回] (メディア授業・オンデマンド型) Excelによる問題の分析と解決3 - 原因と結果の関係でとらえよう 帰属分析
- [第5回] (メディア授業・オンデマンド型) Excelによる問題の分析と解決4 - 質的データと仮説検定
- [第6回] (メディア授業・オンデマンド型) Web上のデータはどこにどんな形であるのか？  
- 様々な目書を見てみよう - 発表テーマの選択
- [第7回] (メディア授業・オンデマンド型) PowerPointによるプレゼンテーション - Excelでの分析結果を発表する
- [第8回] (メディア授業・オンデマンド型) HTMLを書いてみよう1 - HTML5は何を目指しているのか？ 基本的な構造と書き方
- [第9回] (メディア授業・オンデマンド型) HTMLを書いてみよう2 - 基本的なタグでWebページを書いてみよう
- [第10回] (メディア授業・オンデマンド型) HTMLを書いてみよう3 - 様々なデザインを可能にするCSS
- [第11回] (メディア授業・オンデマンド型) HTMLを書いてみよう4 - JavaScriptで動きを持たせる
- [第12回] (メディア授業・オンデマンド型) HTMLを書いてみよう5 - Canvasで絵を描いて動かそう
- [第13回] (メディア授業・オンデマンド型) Webのユニバーサル環境について/自分のページをHTML5で改良しよう
- [第14回] (メディア授業・オンデマンド型) Webページの完成とアップロード

### ●履修上の注意

ICTベーシックIの内容が理解できていることを前提とします。

日ごろ、情報社会をめぐる報道などにも関心を持つようにしてください。

また多くの皆さんが毎日のようにWebを何らかの形で見ていると思います。もし皆さんの視覚や聴覚に不自由があったとしたら、どのようにWebができていたら情報を得やすいでしょうか？そんなことも少し考えてみましょう。

○本科目はメディア授業科目です。

○オンデマンド型であるため、出席は課題提出により評価します。

○対面にかかわる授業資料として、各回の教材をPowerPointスライド他で作成し、Oh-oMeiji上に掲載するとともに[Panopto]から録画の配信を行います。

○学生と教員との意見交換や質問の場として、Oh-oMeijiのディスカッション機能を利用し、情報共有して質問に対応します。個人的な質問はアンケート機能でお受けします。また講師室での質問の機会を設ける予定です。

○Oh-oMeijiのディスカッション機能は学生さん同士のディスカッションに利用できます。積極的に意見交換をしてみてください。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

講義内容は積み重ねです。前回の授業でよく理解できなかったところがあれば振り返り理解してくるとともに、実習で追いつかなかった部分は必ず追いついてから次回の授業に臨んでください。課題が出された場合は必ず完成してきてください。

### ●教科書

特に指定しない。  
教材は授業時にプリントおよび電子ファイルで配布する。

### ●参考書

[インターネットコミュニケーション] 和田悟・近藤佐保子 (培風館)  
[実践 コンピュータリテラシー入門] 宮脇典彦 他 (実教出版)  
[Excelによるデータ解析の基礎] 宮脇典彦・坂井和男 他 (培風館)  
[大学一年生のための情報リテラシー] 小椋理子 編著 (丸善出版)  
[HTML5プロフェッショナル認定試験レベル1攻略テキスト] 中島俊治 (秀和システム)

### ●課題に対するフィードバックの方法

各課題については、Oh-oMeiji上に解答例を掲示し、解説を行う。

### ●成績評価の方法

授業での複数回の提出課題:50%、期末課題:25%、およびプレゼンテーション25%として、評価する。プレゼンテーションについては、スライドショーの動画の作成をもって、実際のプレゼンテーションに代える予定です。対面授業での試験は実施しません。なお、ホームページの作成については、学内のWebサイトへのアクセスを行うので、VPN接続が必要ですよ。

### ●その他

毎回の授業への出席の積み重ねが技術の習得や向上につながると考えます。真摯に臨んでください。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックI	小久保 秀之

### ●授業の概要・到達目標

<p>到達目標 大学におけるレポートの作成・提出・発表の基礎知識・基礎技能の習得。</p> <p>授業の概要 大学の授業で課題レポートの提出が必要な場合があります。この授業は大学でのレポート作成に慣れていない初学者向けです。レポートは電子ファイルで作成・保存・提出する必要があるため、大学のPC、Word、Excelの基礎的な使用法、Oh-olMeijiシステム、大学の電子メールを扱います。また、レポートの構成とレイアウト、図表の作成、文献資料の収集・整理、適正な引用・参照の仕方、盗作・改ざんの問題なども扱います。さらに、PowerPointによる発表演習も予定しています(受講人数によって発表形式を変える可能性があります)。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●授業内容

<p>[第1回] レポートの目的と種類、テーマの立て方、PCと電子ファイル保存の基礎</p> <p>[第2回] Wordの基本的な使用法と提出方法(Oh-ol Meijiシステム、電子メール)</p> <p>[第3回] 必要な資料の収集と評価(インターネットによる検索、図書館の利用)</p> <p>[第4回] Wordのレイアウト、適正な引用・参照、研究不正の問題</p> <p>[第5回] Excel(1) 基本的な計算と関数、ワークシートの基本操作</p> <p>[第6回] Excel(2) グラフ作成</p> <p>[第7回] 図表を組み込んだレポート作成、ファイルのセットの圧縮</p> <p>[第8回] 要旨の作成、機械翻訳の利用、論文査読</p> <p>[第9回] 発表(1) PowerPointの基本的な使用法</p> <p>[第10回] 発表(2) 発表用ファイルの作成</p> <p>[第11回] 発表(3) ポスター形式</p> <p>[第12回] 発表(4) 対面形式</p> <p>[第13回] 発表(5) オンライン形式</p> <p>[第14回] 総論(インターネットでの公表など)</p> <p>受講人数によって発表形式を変える可能性があります。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●履修上の注意

<p>授業は日本語で行います。 実習の授業があるので、遅刻しないようにしてください。 数回の作業課題の提出を予定しています。課題は必ず提出してください。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

<p>実習した技能が身に付くよう、時間を作って復習してください。また、適当な参考書を事前に読むようにしてください。</p>
---------------------------------------------------------------

### ●教科書

<p>指定しません。 必要な資料は、Oh-ol Meijiに掲載します。</p>
----------------------------------------------

### ●参考書

<p>■ Word、Excel、PowerPointの参考書は、自分のレベルにあった適当な本を書店で選んでください。 レポートの書き方の参考書は多数出版されています。以下に示したのはその例です。各自で適当と思う参考書を探して選んでください。</p> <p>記録物のレポート(看護者記録、患者記録、観察記録、見学実習記録、会議録)は看護師向けの参考書がわかりやすい。実務を前提としているので、具体的に、明確。</p> <p>■ 『看護学生のためのレポート &amp; 実習記録の書き方 第2版』、百瀬千尋(メヂカルフレンド社)、2016。</p> <p>■ 『ナースのためのレポートの書き方 第2版: 仕事で使える「伝わる文章」の作法』、水戸美津子(中央法規出版)、2020。</p> <p>■ 『看護師に役立つレポート・論文の書き方 第5版』、高谷修、(金芳堂)、2019。</p> <p>学術専門領域を限定したもの。</p> <p>■ 『経済論文の書き方』、経済セミナー編集部、(日本評論社)、2022。</p> <p>■ 『図解でわかる! 理工系のためのよい文章の書き方 論文・レポートを自力で書けるようになる方法』、福地健太郎、(翔泳社)、2019。</p> <p>一般的なレポートを対象としたもの。</p> <p>■ 『最新版 論文の教室: レポートから卒論まで』、戸田山和久、(NHK出版)、2022。</p> <p>■ 『レポート・論文の書き方入門 第4版』、河野哲也、(慶應義塾大学出版会)、2018。</p> <p>■ 『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方(第2版)』、吉田健正、(ナカニシヤ出版)、2004。</p> <p>■ 慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員、『学生による学生のための「ダレレポート脱出法」』、慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員、(慶應義塾大学出版会)、2014。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●課題に対するフィードバックの方法

<p>授業時に質問してくれれば参考意見を述べます。</p>
-------------------------------

### ●成績評価の方法

<p>課題 60%、平常点(授業への貢献、授業への参加度) 40%</p>
---------------------------------------

### ●その他

<p></p>
---------

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	小林 信三

### ●授業の概要・到達目標

生成 AI 時代の ICT 基礎スキルアップ～生成 AI を先生にして効率的に ICT スキルを身につけよう！～

近年、生成 AI を使った便利なサービスやツールが急速に普及しています。その流れは、ビジネス界のみならず、大学教育や研究分野においても例外ではありません。知りたい情報を即座に Google で検索するように、あなたがパソコンやスマホでやりたいこと、困ったことは生成 AI が的確に答えてくれるのです。Excel でのグラフ作成はどうやるの？ Word のページ番号はどう入れるの？ ホームページはどうやって作るの？

さて、皆さんは、そのやり方を教えてくれる授業まで気長に待ちますか？

前期「ICT ベーシック I」では、まずは生成 AI の基本的な使い方をマスターし（簡単です）、そのスキルをフルに活用して、ICT の基礎的な知識や技術 当科目のミニマムリクワイアメント参照）をしっかり身につけていきます。

「大学での学びをもっと楽しくする。大学を卒業したら楽しく仕事をこなせる。」こんな ICT スキルをぜひこのコースで身に付けてください！

### ●授業内容

各授業は基本的にオンライン授業（下記 Google Meet を使用）とします。授業 URL> <https://meet.google.com/fkt-iiaj-zvi>

オンライン授業では、3～4 人が 1 チームになって各回の学習トピックについて演習・ディスカッションを行います（チーム学習）。各授業（100 分）でのチーム学習の基本的な流れは以下の通りです。

- 事前知識の整理：学習トピックについて知っていること、知りたいこと、仲間へ伝えたいことなどを各自まとめる。
- 事前知識をチームで共有する。
- Web や生成 AI を使って、事前知識についてより深く調べてみる。
- 調べた情報をチームで共有・検証し、その結果をとりまとめる。
- とりまとめた結果をチームごとに発表する。

※ 各回 1-5 のアウトプットを成績評価の対象とします。

- 【各回の学習トピック】
- [第 1 回] 生成 AI の使い方・Oh-o!Meiji の使い方【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 2 回] 生成 AI の使い方・メールの使い方【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 3 回] ICT にまつわるセキュリティ【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 4 回] インターネットの仕組みとその資源の活用【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 5 回] プレゼンテーションツールでできること【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 6 回] プレゼンテーションツールで作ってみる【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 7 回] 表計算ツールでできること【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 8 回] 表計算ツールで作ってみる【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 9 回] 文書作成ツールでできること【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 10 回] 文書作成ツールで作ってみる【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 11 回] ネット社会の影を知る（メディアとのつきあい方）【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 12 回] ICT にまつわる倫理と法律【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 13 回] チーム自由トピック【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 14 回] チーム自由トピック【メディア授業（リアルタイム型）】

### ●履修上の注意

- 授業実施方法：以下 Google Meet によるメディア授業（リアルタイム型）  
授業 URL> <https://meet.google.com/fkt-iiaj-zvi>
- 出席確認方法  
授業で使用するコミュニケーションシステムへの授業内課題の登録
- 意見交換方法  
オンライン上での質疑応答およびグループディスカッション
- 履修者への連絡及び連絡窓口  
Oh!-o Meiji「クラスウェア」および講師メールアドレス ([kobavshi.shinzo@gmail.com](mailto:kobavshi.shinzo@gmail.com))
- その他  
・普段使い慣れているパソコン、タブレット PC があればそれを使ってください。（Windows、Mac、Chromebook 等、機種 OS は問いません）  
・授業で使用するアプリは原則としてオンライン（ブラウザ）で無償利用が可能なものを使用します。従って、個別 PC へのインストール等が必要な有償ライセンスのアプリ（Microsoft Office 製品や Adobe 製品）は原則として使用しません。  
・スマホのみでの受講は原則禁止です。スマホは、授業の補助ツールとして適宜利用してください。  
・授業中は筆記用具（紙とペン）を必ず用意してください。

### ●準備学習（予習・復習等）の内容

事前学習 / 事前知識  
・各トピックについての事前知識（知っていること、興味関心、疑問・知りたいことなど）を所定のシステムに登録する。  
事後学習 / 学習成果  
・各トピックについての学習成果（気づいたこと、講師やクラスの仲間へ伝えたいこと、関連する情報など）を所定のシステムに登録する。

### ●教科書

特になし。

### ●参考書

特になし。

### ●課題に対するフィードバックの方法

各回、チーム内でのディスカッションやクラス内でのチーム発表の際に相互評価（コメント・アドバイス等）を行います。

### ●成績評価の方法

以下の 4 つの課題提出物について成績を評価・採点します。なお、それぞれの課題の提出方法 / 評価基準については、授業のなかで説明します。不明な点があれば都度講師に確認してください。

- 事前学習：30%
- 事後学習：30%
- チーム成果発表：20%
- 授業貢献（最終成果に対する相互評価）：20%

※ 対面形式での試験は行わない。

### ●その他

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	小林 信三

### ●授業の概要・到達目標

生成 AI 時代の ICT 実践スキルアップ～生成 AI を武器にして実践的な ICT スキルを身につけよう！～

近年、生成 AI を使った便利なサービスやツールが急速に普及しています。その流れは、ビジネス界のみならず、大学教育や研究分野においても例外ではありません。知りたい情報を即座に Google で検索するように、あなたがパソコンやスマホでやりたいこと、困ったことは生成 AI が的確に答えてくれるのです。このアンケート調査の結果をどう分析したらいいの？ 事業計画書ってどう書くの？ 私の英文メールでもちゃんと伝わるかな？ などなど。

さて、皆さんは、そのやり方を教えてくれる授業まで気長に待ちますか？

後期「ICT ベーシック II」では、前期「ICT ベーシック I」で習得した生成 AI と ICT の活用スキルを応用し、さらに発展的な ICT ツール（動画編集、Web サイト、電子書籍といったコンテンツ制作ツール）を使いこなして、今の皆さんの関心事や将来の目的をテーマにした（130 年後（2054 年）の日本の社会はこうなっている！）プロジェクト型の実践演習を行います。

「大学での学びをもっと楽しくする。大学を卒業したら楽しく仕事をこなせる。」こんな ICT スキルをぜひこのコースで身に付けてください！

### ●授業内容

各授業は基本的にオンライン授業（下記 Google Meet を使用）とします。授業 URL> <https://meet.google.com/fkt-iiaj-zvi>

オンライン授業では、3～4 人が 1 チームになってプロジェクト型のチーム学習を行います。各授業（100 分）でのチーム学習の基本的な流れは以下の通りです。

- 事前知識の整理：学習トピックについて知っていること、知りたいこと、仲間へ伝えたいことなどを各自まとめる。
- 事前知識をチームで共有する。
- Web や生成 AI を使って、事前知識についてより深く調べてみる。
- 調べた情報をチームで共有・検証し、その結果をとりまとめる。
- とりまとめた結果をチームごとに発表する。

※ 各回 1-5 のアウトプットを成績評価の対象とします。

- 【各回の学習トピック】
- [第 1 回] プロジェクト企画コンセプト：「30 年後（2054 年）の日本の社会はこうなっている！」【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 2 回] プロジェクトチーム編成・企画会議（はじめの意見交換）【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 3 回] チーム企画会議：情報・アイデア収集【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 4 回] チーム企画会議：プロジェクト企画検討【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 5 回] チーム企画会議：プロジェクト企画発表資料の作成（スライド）【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 6 回] - プロジェクト企画発表会 - 【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 7 回] 動画編集ツールの紹介とプロジェクト成果への応用検討会議【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 8 回] Web サイト構築ツールの紹介とプロジェクト成果への応用検討会議【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 9 回] 電子書籍作成ツールの紹介とプロジェクト成果への応用検討会議【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 10 回] チーム発表コンテンツ作成会議①【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 11 回] チーム発表コンテンツ作成会議②【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 12 回] チーム発表コンテンツ作成会議③【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 13 回] - チーム成果発表会① - 【メディア授業（リアルタイム型）】
  - [第 14 回] - チーム成果発表会② - 【メディア授業（リアルタイム型）】

### ●履修上の注意

- 授業実施方法：以下 Google Meet によるメディア授業（リアルタイム型）  
授業 URL> <https://meet.google.com/fkt-iiaj-zvi>
- 出席確認方法  
授業で使用するコミュニケーションシステムへの授業内課題の登録
- 意見交換方法  
オンライン上での質疑応答およびグループディスカッション
- 履修者への連絡及び連絡窓口  
Oh!-o Meiji「クラスウェア」および講師メールアドレス ([kobavshi.shinzo@gmail.com](mailto:kobavshi.shinzo@gmail.com))
- その他  
・普段使い慣れているパソコン、タブレット PC があればそれを使ってください。（Windows、Mac、Chromebook 等、機種 OS は問いません）  
・授業で使用するアプリは原則としてオンライン（ブラウザ）で無償利用が可能なものを使用します。従って、個別 PC へのインストール等が必要な有償ライセンスのアプリ（Microsoft Office 製品や Adobe 製品）は原則として使用しません。  
・スマホのみでの受講は原則禁止です。スマホは、授業の補助ツールとして適宜利用してください。  
・授業中は筆記用具（紙とペン）を必ず用意してください。

### ●準備学習（予習・復習等）の内容

事前学習 / 事前知識  
・各トピックについての事前知識（知っていること、興味関心、疑問・知りたいことなど）を所定のシステムに登録する。  
事後学習 / 学習成果  
・各トピックについての学習成果（気づいたこと、講師やクラスの仲間へ伝えたいこと、関連する情報など）を所定のシステムに登録する。

### ●教科書

特になし。

### ●参考書

特になし。

### ●課題に対するフィードバックの方法

チーム成果発表会にて、各自の発表に対してクラス内での相互評価（コメント・アドバイス等）を行います。

### ●成績評価の方法

以下の 4 つの課題提出物について成績を評価・採点します。なお、それぞれの課題の提出方法 / 評価基準については、授業のなかで説明します。不明な点があれば都度講師に確認してください。

- 事前学習：30%
- 事後学習：30%
- チーム成果発表：20%
- 授業貢献（最終成果に対する相互評価）：20%

※ 対面形式での試験は行わない。

### ●その他

科目ナンバー：IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	瀬山 実穂

### ●授業の概要・到達目標

現代ではインターネット・コンピュータは必要不可欠なツールとなっています。この授業では特にコンピュータを苦手な学生を対象とし、今後大学生活を送る上でコンピュータを便利に使いこなせるようスキルを身につけ、情報の取り扱いの重要性について理解することを目的とします。特に以下の点に焦点を当てて授業を進めます。

- ・コンピュータの基礎知識
- ・インターネットの基礎知識
- ・Word・Excel・PowerPointの基本操作
- ・レポートのためのPC基礎技術
- ・インターネットの閲覧・情報発信
- ・ICTツールの基本的利用法

### ●授業内容

授業の進行により、内容は前後することがあります。

[第1回] イントロダクション、アカウント確認 [メディア授業 (オンデマンド型)]  
 インターネットの基礎知識 (パスワードの重要性、不正アクセス禁止法)、インターネットセキュリティ、基本操作 [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第2回] Word 基礎2 (簡単な文書の作成) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第3回] コンピュータの基礎知識 (用語、ウイルス対策等)、学内サイトの利用、PC基本操作、ファイル管理、外部のメールサービス、Oh-olMeijiの使い方 [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第4回] インターネットの活用と注意点 (外部サイトの利用、個人情報の取り扱い、ネットマナー等)、Meiji Mail と Oh-olMeiji の設定 [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第5回] Word 基礎1 (文字入力等)、電子メール (マナー、注意点、操作法等)、Meiji Mail の使い方 [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第6回] Word 基礎2 (簡単な文書の作成) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第7回] PowerPoint 基礎1 (簡単なスライド作成) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第8回] PowerPoint 基礎2 (画像の取り扱い等)、総合演習の事前提出課題についての説明 [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第9回] PowerPoint 基礎3 (プレゼンテーション操作等) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第10回] Excel 基礎1 (データ入力、簡単な関数、絶対参照、相対参照) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第11回] Excel 基礎2 (グラフ等) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第12回] Excel 基礎3 (並べ替え等) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第13回] Word 基礎3 (レポート形式の文書作成、情報の取り扱い等を含むレポート作成上の注意) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第14回] 総合演習 (「おすすめサイト」の相互評価) [メディア授業 (オンデマンド型)]

### ●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて講義動画や配布資料等を Oh-olMeiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。資料は毎回の授業が行われる日時 (対面授業と同じ日程で更新) までに配信し、「お知らせ」を更新します。視聴期間内に資料をすべて視聴し、課題を提出することで出席確認とします。学生からの連絡手段として質問・問い合わせ用にメールアドレスを公開するとともに、問い合わせフォームを設置します。教員から学生へ連絡がある場合は Oh-o ! Meiji 「お知らせ」からお送りしますので、必ず確認してください。オンラインのため学生同士の間接の交流はありませんが、第14回授業でおすすめサイトを相互評価することにより他の学生と情報を共有します。第1回の授業で出席の取り方やパソコン環境についての説明をしますので、履修予定の人は必ず視聴して履修を決めてください。第1回の授業では出席確認はしませんが、視聴状況は成績決定時の参考にすることがあります。授業内容に Oh-olMeiji や Meiji Mail の使い方などが含まれるため、主に1、2年生向けの内容が多くなります。授業の説明は和泉キャンパスのメディア教室の環境 (Windows11、Office2021 予定) を基準に行います。その他の環境 (Mac など) の操作方法のフォローはできませんので各自で対応してもらうこととなります。ほぼ毎回の授業で作成課題を提出してもらいます。授業で作成する課題以外に授業時間外の課題があるので、自習が必要です。就職活動などで忙しい3・4年生にはおすすめできません。資料の視聴はスマートフォン等でも構いませんが、課題の作成等の実際の操作にはパソコンを使ってください。大学のパソコンも使用できますが、活動制限指針の変更により大学に立ち入れなくなる可能性があるため、自宅でもパソコンを使える環境があることを前提します。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

予習は必要ありませんが、授業時間外に作成する課題があります

### ●教科書

なし

### ●参考書

授業で紹介します

### ●課題に対するフィードバックの方法

提出課題にコメントをつけるので、ポートフォリオで確認してください。重要な連絡がある場合は「お知らせ」から個人宛に送信します

### ●成績評価の方法

平常点 (出席状況 40%)、課題 (60%) の割合で成績を付けます。視聴期間内に資料をすべて視聴し、課題を提出することで出席確認とします。全授業数の1/3の欠席で単位修得不可とします。欠席数が少なくても、平常点・課題・提出物により単位取得不可となることもあります。\*対面形式での試験は行いませんが、最終課題 (事前提出課題を含む) の提出がない場合は単位の取得は不可とします

### ●その他

科目ナンバー：IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	瀬山 実穂

### ●授業の概要・到達目標

現代ではインターネット・コンピュータは必要不可欠なツールとなっています。この授業では特にコンピュータを苦手な学生を対象とし、今後大学生活を送る上でコンピュータを便利に使いこなせるようスキルを身につけ、様々なデータを取り扱うことができ、プレゼンテーションの重要性・方法、ICTツールの利用法を理解することを目的とします。特に以下の点に焦点を当てて授業を進めます。

- ・Wordの詳細設定
- ・Excelを使ったデータ処理
- ・プレゼンテーション
- ・ICTツール使いこなし

### ●授業内容

授業の進行により、内容は前後することがあります。

[第1回] イントロダクション、ICTベーシックIの確認 (ログイン確認等) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第2回] PowerPoint 1 (春学期の内容の復習、基本操作等) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第3回] PowerPoint 2 (グラフ、SmartArt、アニメーション等) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第4回] PowerPoint 3 (応用操作) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第5回] PowerPoint 4 (実際のプレゼンテーションの操作、配布資料等)、オンラインプレゼンテーションの予行演習 [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第6回] オンラインプレゼンテーションについての説明、注意点 [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第7回] Excel 1 (春学期の内容の復習) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第8回] Excel 2 (簡単な関数、グラフ、いろいろな表示形式) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第9回] Excel 3 (並べ替え、いろいろな集計方法) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第10回] Excel 4 (他シートの参照、応用的な関数、ピボットテーブル) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第11回] Word 1 (春学期の内容の復習、細かな文書設定、レイアウト設定等) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第12回] Word 2 (レポート形式の文書の詳細な設定等) [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第13回] オンラインプレゼンテーション1 [メディア授業 (オンデマンド型)]

[第14回] オンラインプレゼンテーション2 [メディア授業 (オンデマンド型)]

### ●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて講義動画や配布資料等を Oh-olMeiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。資料は毎回の授業が行われる日時までに配信し、「お知らせ」を更新します。視聴期間内に資料をすべて視聴し、課題を提出することで出席確認とします。学生からの連絡手段として質問・問い合わせ用にメールアドレスを公開するとともに、問い合わせフォームを設置します。教員から学生へ連絡がある場合は Oh-o ! Meiji 「お知らせ」からお送りしますので、必ず確認してください。オンラインのため学生同士の間接の交流はありませんが、第13・14回授業でオンラインプレゼンテーションで相互評価を行います。希望者には他学生からの評価内容をまとめたものをお送りします (必須ではありません)。第1回の授業で出席の取り方やパソコン環境についての説明をしますので、履修予定の人は必ず視聴して履修を決めてください。授業内容に Office ソフトの復習なども含まれるため、主に1、2年生向けの内容が多くなります。授業の説明は和泉キャンパスのメディア教室の環境 (Windows11、Office2021 予定) を基準に行います。その他の環境 (Mac など) の操作方法のフォローはできませんので各自で対応してもらうこととなります。Oh-olMeiji や Meiji Mail の使い方、Word、Excel、PowerPoint、インターネットの基本操作、パソコンの基本知識は知っているものとして授業を進めます。ほぼ毎回の授業で作成課題を提出してもらいます。授業で作成する課題以外に授業時間外の課題があるので、自習が必要です。就職活動などで忙しい3・4年生にはおすすめできません。資料の視聴はスマートフォン等でも構いませんが、課題の作成等の実際の操作にはパソコンを使ってください。大学のパソコンも使用できますが、活動制限指針の変更により大学に立ち入れなくなる可能性があるため、自宅でもパソコンを使える環境があることを推奨します。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

予習は必要ありませんが、授業時間外に作成する課題があります

### ●教科書

なし

### ●参考書

授業で紹介します

### ●課題に対するフィードバックの方法

提出課題にコメントをつけるので、ポートフォリオで確認してください。重要な連絡がある場合は「お知らせ」から個人宛に送信します

### ●成績評価の方法

平常点 (出席状況 40%)、課題 (60%) の割合で成績を付けます。視聴期間内に資料をすべて視聴し、課題を提出することで出席確認とします。全授業数の1/3の欠席で単位取得不可とします。欠席数が少なくても、平常点・課題・提出物により単位取得不可となることもあります。\*対面形式での試験は行いませんが、オンラインプレゼンテーションに必要なファイルの提出がない場合や第13回・第14回に欠席した場合は単位の取得は不可とします

### ●その他



科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	高須 淳宏

### ●授業の概要・到達目標

授業はすべて【メディア授業(リアルタイム型)】で行います。ICT ベーシックは、ICTに関する基本的な知識と処理技術を身につけることを目的としています。本授業では、コンピュータとネットワークに関する技術的な基本事項を説明するとともに、電子メールやMicrosoft Officeなどのソフトウェアを使い基本的な情報処理技術を身につけるための演習を行います。また、効果的なプレゼンテーションを行うためには、科学的な根拠を示すことが重要になります。そこで、Excelを用いて統計処理の基本的な事項を学ぶことで、科学的根拠を整える過程を学びます。

到達目標は以下のとおりです。

- (1) ICTに関する基礎知識の習得
  - ・コンピュータとネットワークに関する基本用語とその意味を理解し、書籍や記事に現れるICT用語を正しく理解できる
  - ・統計処理の基本を理解し、科学的根拠となるデータの意味を解釈できる
- (2) 基本的な情報処理技術の習得
  - ・ICT基本ツールを活用できる
  - ・簡単な統計処理を行うためにExcelの機能を活用できる

### ●授業内容

授業はすべて【メディア授業(リアルタイム型)】で行います。

[第1回] イントロダクション【メディア授業(リアルタイム型)】  
授業の目的と進め方  
使用するPCの機能やソフトウェア  
評価方法

[第2回] コンピュータの概要と電子メールの使い方【メディア授業(リアルタイム型)】  
コンピュータの歴史  
コンピュータの基本操作  
電子メールなどの基本ツールの使い方

[第3回] インターネットについて【メディア授業(リアルタイム型)】  
インターネットの歴史  
インターネットの仕組み

[第4回] インターネット資源の活用【メディア授業(リアルタイム型)】  
インターネット上の情報資源  
Web検索

[第5回] Wordの基本操作【メディア授業(リアルタイム型)】  
ファイル作成  
文字入力

[第6回] Wordを用いた文書の作成(1)【メディア授業(リアルタイム型)】  
文書フォーマット  
図表の挿入

[第7回] Wordを用いた文書の作成(2)【メディア授業(リアルタイム型)】  
レポートの作成

[第8回] Excelの基本操作(1)【メディア授業(リアルタイム型)】  
Excelの概要  
基本操作

[第9回] Excelの基本操作(2)【メディア授業(リアルタイム型)】  
表形式データの操作

[第10回] Excelの基本操作(3)【メディア授業(リアルタイム型)】  
グラフの作成

[第11回] Excelによる統計処理(1)【メディア授業(リアルタイム型)】  
基本統計処理

[第12回] Excelによる統計処理(2)【メディア授業(リアルタイム型)】  
応用統計処理

[第13回] Excelによるデータ分析(1)【メディア授業(リアルタイム型)】  
基本データ分析

[第14回] Excelによるデータ分析(2)【メディア授業(リアルタイム型)】  
応用データ分析

### ●履修上の注意

本授業はメディア授業科目として開講します。授業はZoomによるリアルタイム配信型で行います。授業では、スライドを用いて概念、操作方法等を説明します。演習では、Microsoft Officeを使用します。Officeインストール済みのPCなどの演習のための環境を用意してください。出席は、Oh-ol Meijiの出席登録機能を使用します。意見交換には、Zoomを使用します。履修者へは、本授業用のWebページ上に連絡事項を掲示するとともに、電子メール([takasu@nii.ac.jp](mailto:takasu@nii.ac.jp))で問い合わせを受け付けます。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

特に予習の必要はありません。授業の内容を確認する小課題を出題しますので復習に活用してください。

### ●教科書

指定教科書はありません。授業に関連する資料はオンラインで閲覧できるようにします。

### ●参考書

指定参考書はありません。授業に関連する資料はオンラインで閲覧できるようにします。

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで質問とフィードバックの時間を設けます。

### ●成績評価の方法

対面形式での試験は行いません。平常点(授業中の態度・実習への積極的参加)25%、小課題25%、レポート50%で評価します

### ●その他

USBメモリを用意してください。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	高須 淳宏

### ●授業の概要・到達目標

授業はすべて【メディア授業(リアルタイム型)】で行います。ICT ベーシックは、ICTに関する基本的な知識と処理技術を身につけることを目的としています。本授業では、コンピュータとネットワークに関する技術的な基本事項を説明するとともに、プレゼンテーションツールを中心に基本的な情報処理技術を身につけるための演習を行います。また、効果的なプレゼンテーションを行うための構成やスライドの作成方法についても学びます。

到達目標は以下のとおりです。

- (1) ICTに関する基礎知識の習得
  - ・ICTに関する倫理と基本的な法律を理科している
- (2) 基本的な情報処理技術の習得
  - ・PowerPointを用いて効果的なプレゼンテーションのスライドを作成できる

### ●授業内容

授業はすべて【メディア授業(リアルタイム型)】で行います。

[第1回] イントロダクション【メディア授業(リアルタイム型)】  
授業の目的と進め方  
使用するPCの機能やソフトウェア  
評価方法

[第2回] 倫理と法律(1)【メディア授業(リアルタイム型)】  
プライバシーの概要  
個人データと個人情報保護法

[第3回] 倫理と法律(2)【メディア授業(リアルタイム型)】  
知的財産  
著作権

[第4回] PowerPointの概要【メディア授業(リアルタイム型)】  
PowerPointの概要

[第5回] PowerPointの基本操作(1)【メディア授業(リアルタイム型)】  
スライドの操作

[第6回] PowerPointの基本操作(2)【メディア授業(リアルタイム型)】  
テーマとレイアウト

[第7回] PowerPointの基本操作(3)【メディア授業(リアルタイム型)】  
図形の操作

[第8回] PowerPointの基本操作(4)【メディア授業(リアルタイム型)】  
アニメーションの設定

[第9回] PowerPointを用いたプレゼンテーション(1)【メディア授業(リアルタイム型)】  
プレゼンテーションの構成

[第10回] PowerPointを用いたプレゼンテーション(2)【メディア授業(リアルタイム型)】  
グラフの活用

[第11回] プレゼンテーション演習(1)【メディア授業(リアルタイム型)】  
グループに分かれてプレゼンテーションと質疑応答

[第12回] プレゼンテーション演習(2)【メディア授業(リアルタイム型)】  
グループに分かれてプレゼンテーションと質疑応答

[第13回] プレゼンテーション演習(3)【メディア授業(リアルタイム型)】  
グループに分かれてプレゼンテーションと質疑応答

[第14回] レポートの作成演習【メディア授業(リアルタイム型)】  
テキスト、図、表を組み合わせたレポートの作成演習

### ●履修上の注意

本授業はメディア授業科目として開講します。授業はZoomによるリアルタイム配信型で行います。授業では、スライドを用いて概念、操作方法等を説明します。演習では、Microsoft Officeを使用します。Officeインストール済みのPCなどの演習のための環境を用意してください。出席は、Oh-ol Meijiの出席登録機能を使用します。意見交換には、Zoomを使用します。履修者へは、本授業用のWebページ上に連絡事項を掲示するとともに、電子メール([takasu@nii.ac.jp](mailto:takasu@nii.ac.jp))で問い合わせを受け付けます。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

特に予習の必要はありません。授業の内容を確認する小課題を出題しますので復習に活用してください。

### ●教科書

指定教科書はありません。授業に関連する資料はオンラインで閲覧できるようにします。

### ●参考書

指定参考書はありません。授業に関連する資料はオンラインで閲覧できるようにします。

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで質問とフィードバックの時間を設けます。

### ●成績評価の方法

対面形式での試験は行いません。平常点(授業中の態度・実習への積極的参加)25%、小課題25%、レポート50%で評価します

### ●その他

USBメモリを用意してください。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックI	高橋 忍

●授業の概要・到達目標

情報化社会でのコンピュータの役割、ネットワークシステムの仕組みと、利用する際の注意点や問題点とその対策についての講義を行う。  
Office ソフトを使って、文章、表、グラフ等を統合したレポートを作成の実習を行う。

また、プレゼンテーションの資料を作成し、発表の実習を行う。  
ホームページを作成、掲載の実習を行う。

ネットワークシステムの仕組みを理解する。利用する際の注意点や問題点を理解し、対策を実行できる。  
これにより、効率的で、正しく、危険のないネットワークの利用ができることを到達目標とする。

Office ソフトを使って、文章、表、グラフ等を統合したレポートが作成できることを到達目標とする。  
また、プレゼンテーションの資料を作成し、効果的な発表ができることを到達目標とする。

●授業内容

- [第 1 回] a: イントロダクション (ICT ベーシックで学ぶことは何か)  
b: 基本操作、学内ネットワークの利用と注意点、Oh-ol Meiji システムの利用方法
- [第 2 回] コンピュータの構成、ハードウェア、ソフトウェア
- [第 3 回] インターネットの仕組みの理解と利用、問題点と対処法、Oh-olMeiji システム利用時の注意事項
- [第 4 回] 電子メールシステムの理解と利用、問題点と対処法
- [第 5 回] インターネットの仕組み、WAN と LAN でのデータ通信の仕組み
- [第 6 回] インターネットでのセキュリティシステム
- [第 7 回] a: 学習理解の確認  
b: 情報収集と注意点
- [第 8 回] ネットワーク上での犯罪と対策、安全性と法律、コミュニケーションでの注意点
- [第 9 回] Word の基本操作
- [第 10 回] Excel の基本操作
- [第 11 回] a: アプリケーションの相互性  
b: PowerPoint の基本操作
- [第 12 回] PowerPoint で資料作成と発表
- [第 13 回] ホームページの作成
- [第 14 回] a: ホームページの掲載と管理  
b: まとめ

●履修上の注意

実習を伴う授業なので、欠席や遅刻はしないこと。  
学習理解の確認として、授業時に筆記試験を行います。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

予習として、次回の項目について、各自の現在持つ知識を確認しておく。  
復習として、授業で行った操作については、同様の操作を自習し、確認すること。  
また、内容については、予習した内容と比較し、整理しておくこと。

●教科書

特に指定しない。

●参考書

『30時間アカデミック Office 2021』杉本くみ子著 (実教出版)  
ISBN:978-4-407-35943-5

●課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては Oh-olMeiji システムのレポート欄にコメントを掲載する。  
直接提出する課題に対しては提出時に口頭でコメントする。  
発表に対しては発表時にコメントする。

●成績評価の方法

課題 50%、筆記試験 40%、授業貢献度 10%  
実習を伴うので、欠席が 4 回以上の場合単位を認めない。  
筆記試験を受けていない場合、未提出の課題がある場合は単位修得できない。課題の提出遅れは減点。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックII	高橋 忍

●授業の概要・到達目標

コンピュータの構成とハードウェアについて講義を行う。  
Excel の様々な機能を使った実習を行う。  
テーマを設定し、それに対しての、情報収集、表、グラフの作成、発表、レポートの作成の実習を行う。

コンピュータの構成とハードウェアについて理解する。  
Excel の機能を理解し、利用できることを到達目標とする。

テーマの設定をし、それに対しての、効率的な情報収集ができること。  
Excel の機能を使って、必要かつ効果的な表、グラフの作成ができること。  
適切な表現で、表、グラフの説明ができること。  
プレゼンテーションソフトを使って資料を作成し、効果的な発表ができること。  
また、講評を行うことで、客観的な視点から検討することができること。  
以上の事ができることを、到達目標とする。

●授業内容

- [第 1 回] Excel の機能
- [第 2 回] Excel で表の作成
- [第 3 回] Excel でグラフの作成
- [第 4 回] ハードウェアの構成、データの表示法、演算回路
- [第 5 回] ハードウェアでの演算処理
- [第 6 回] a: 学習理解の確認  
b: テーマの設定
- [第 7 回] 情報収集
- [第 8 回] 表とグラフの作成 (1) とディスカッション。
- [第 9 回] 表とグラフの作成 (2) とディスカッション。
- [第 10 回] PowerPoint の基本操作
- [第 11 回] PowerPoint で発表資料の作成
- [第 12 回] プレゼンテーションと講評
- [第 13 回] レポート作成
- [第 14 回] Excel でのマクロ機能

●履修上の注意

実習を伴う授業なので、欠席や遅刻はしないこと。  
学習理解の確認として、授業時に筆記試験を行います。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

予習として、ICT ベーシックI で学んだ基本操作について、復習しておく。  
また、次回の講義項目について、各自の現在持つ知識を確認しておく。  
設定したテーマについてのデータを収集しておく。

復習として、授業で行った操作については、同様の操作を自習し、確認すること。  
また、講義内容については、予習した内容と比較し、整理しておくこと。  
ディスカッションで指摘された内容を訂正しておくこと。

●教科書

特に指定しない。

●参考書

特に指定しない。

●課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては Oh-olMeiji システムのレポート欄にコメントを掲載する。  
直接提出する課題に対しては提出時に口頭でコメントする。  
発表に対しては発表時にコメントする。

●成績評価の方法

課題 60%、筆記試験 30%、授業貢献度 10%  
実習を伴うので、欠席が 4 回以上の場合単位を認めない。  
筆記試験を受けていない場合、未提出の課題がある場合は単位修得できない。課題の提出遅れは減点。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅠ	異 久行

### ●授業の概要・到達目標

<p>1. 授業の概要</p> <p>情報化社会において主体性や創造性を発揮するには、コンピュータで情報や通信を扱う資質を有することが要求されます。本講義では、コンピュータリテラシーとプレゼンテーションを柱とした情報学の基礎と、知的活動の道具としてコンピュータを活用することを学びます。具体的なテーマは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータリテラシー、プレゼンテーション</li> <li>・オフィス情報処理 (Microsoft Office)</li> <li>・ICT (情報通信技術) と情報システム</li> <li>・情報化社会の対処法、情報倫理とセキュリティ</li> <li>・インターネットリソースと情報検索</li> <li>・メディアとコミュニケーション</li> </ul> <p>2. 到達目標</p> <p>情報処理の技能 (スキル) を修得し、自身の知的活動を高める能力 (アビリティ) を身につける。また、情報学における基礎知識や ICT の用語・基本機能などが説明できる。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●授業内容

<p>授業は講義と実習で進めます (おおよそ、講義が3割、実習が7割です)。受講に際して予備知識は必要としませんが、指定する講習会内容の習得と授業の復習を求めます。</p> <p>[第1回] a: イントロダクション、PCの基本操作 b: Windowsの基本操作、ブラウザ操作</p> <p>[第2回] Oh-olMeiji, レポート機能とポータル機能、お知らせ転送</p> <p>[第3回] Meiji Mail, メール操作、To/Cc/Bcc、メールマナー、添付ファイル</p> <p>[第4回] 情報セキュリティ、脅威と対策、情報資産管理</p> <p>[第5回] Wordの基本操作、文書編集</p> <p>[第6回] Wordによるレポート作成、レポートの組み立て方</p> <p>[第7回] インターネットの仕組み、資源の活用、情報検索、文献検索 (OPAC)</p> <p>[第8回] Excelの基本操作、表のグラフ化</p> <p>[第9回] Excelによるデータ処理、関数の利用</p> <p>[第10回] PowerPointの基本操作、プレゼンテーションの流れ</p> <p>[第11回] 発表技法、論理的で説得力のある展開</p> <p>[第12回] メディア考察、ネット社会の光と影、情報倫理と法律、学内ルール</p> <p>[第13回] プレゼン&amp;ディスカッション (情報化社会を議論する)</p> <p>[第14回] a: 実社会と ICT、コンピュータ環境の構築法 b: 講義のふりかえりとまとめ</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●履修上の注意

<p>実習を伴う授業なので欠席や遅刻はしないこと。授業時の演習と、3~4週ごとに講義内容に沿ったレポート課題を出題します。レポート課題は全部で5題ほどです。また、授業内演習や推奨する講習会で作成したファイルは提出すること (成績評価に加点します)。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

<p>オンラインの情報関連講習会 (<a href="https://www.meiji.ac.jp/edu-info/menu/koshukai.html">https://www.meiji.ac.jp/edu-info/menu/koshukai.html</a>) は積極的に受講のこと。以下の講習会が授業内容に該当します。「Word(入門)」、「Word(レポート作成)」、「Excel」、「PowerPoint(入門)」。さらに学びたい人には「PowerPoint(デザイン)」も推奨します。なお、講習会名称は適宜変更になる場合があります。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●教科書

<p>特に指定しません。授業で使用する資料はファイルで配布します。</p>
---------------------------------------

### ●参考書

<p>『レポートの組み立て方』、木下是雄、ちくま学芸文庫、(筑摩書房)。『最新版 大学生のためのレポート・論文術』、小笠原喜康、講談社現代新書、(講談社)。『改訂版 論理的にプレゼンする技術』、平林純、サイエンス・アイ新書、(SBクリエイティブ)。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●課題に対するフィードバックの方法

<p>授業内での演習やレポート課題のフィードバックは「Oh-olMeiji」システムを利用して実施します。</p>
-----------------------------------------------------------

### ●成績評価の方法

<p>平常点 (授業への貢献度、授業内演習) 40%、レポート課題 (5題ほど) 60%で判断します。定期試験は行いません。提出日を遅延したレポート課題は減点するので注意すること。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●その他

<p>授業内演習や情報関連講習会で作成したファイル、および、レポート課題は、Oh-olMeijiにて提出のこと。その際、ファイル名は「課題番号・授業時限・学部・学年・組・番号・氏名」とすること (例えば、課1月1法1-10-100 明治太郎. 拡張子)。電子メールで提出する場合は件名も指示するので順守すること。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅡ	異 久行

### ●授業の概要・到達目標

<p>1. 授業の概要</p> <p>コンピュータを用いて、与えられた問題を調査・分析する手法、結果を発表して理解・納得を得る手法などを学びます。講義内容は、インターネット上でのインタラクティブなコミュニケーションによる情報発信、アプリケーションソフトウェアを用いたデータの分析や検索、簡単なプログラミングによる評価や解析などです。具体的なテーマは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の利用と発信</li> <li>・データ収集とデータ検索</li> <li>・問題の整理、分析と処理</li> <li>・問題解決へのアプローチ</li> <li>・知的活動の方法論</li> <li>・伝え伝わる表現法</li> </ul> <p>2. 到達目標</p> <p>与えられた問題を分析し解決を図る技術を身につける。特にコンピュータを活用して、論理的思考力・分析力・解決力・判断力・発信力・コミュニケーション力などの能力を向上させる (このような意思決定や戦略プロセスを育むことは自身の糧となり将来を支える資産となり得る)。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●授業内容

<p>授業は講義と実習で進めます (おおよそ、講義が2割、実習が8割です)。受講に際して予備知識は必要としませんが、指定する講習会内容の習得と授業の復習を求めます。</p> <p>[第1回] 情報の利用と発信 (1)、ウェブページの作成</p> <p>[第2回] 情報の利用と発信 (2)、ウェブプログラミング</p> <p>[第3回] 情報の利用と発信 (3)、ウェブページの編集</p> <p>[第4回] 情報の利用と発信 (4)、ウェブページの公開</p> <p>[第5回] データの収集と検索 (1)、データベースの概念</p> <p>[第6回] データの収集と検索 (2)、テーブルの基本操作</p> <p>[第7回] データの収集と検索 (3)、クエリーの基本操作</p> <p>[第8回] データの収集と検索 (4)、データベースの設計</p> <p>[第9回] 問題解決へのアプローチ (1)、Excelのマクロとは</p> <p>[第10回] 問題解決へのアプローチ (2)、ExcelVBAの基本</p> <p>[第11回] 問題解決へのアプローチ (3)、ExcelVBAプログラミング</p> <p>[第12回] 問題解決へのアプローチ (4)、ExcelVBAの応用</p> <p>[第13回] 問題解決手法、意思決定手法、問題分析の方法論、思考のプロセス</p> <p>[第14回] a: プレゼン技法、ストーリーの構成と演出 b: 講義のふりかえりとまとめ</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●履修上の注意

<p>実習を伴う授業なので欠席や遅刻はしないこと。授業時の演習と、3~4週ごとに講義内容に沿ったレポート課題を出題します。レポート課題は全部で5題ほどです。ICTベーシックⅠの準備学習欄で指定したオンラインの情報関連講習会を未受講、もしくは、指定した講習会内容の知識がない学生は、当該講習会を本講義前に自習のこと。また、授業内演習や、準備学習欄で推奨するオンラインの情報関連講習会および生田システム講習会で作成したファイルは提出すること (成績評価に加点します)。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

<p>オンラインの情報関連講習会 (<a href="https://www.meiji.ac.jp/edu-info/menu/koshukai.html">https://www.meiji.ac.jp/edu-info/menu/koshukai.html</a>) は積極的に受講のこと。このうち、「Access」講習会は授業内容に該当します。また、オンラインの生田システム講習会 (<a href="https://www.meiji.ac.jp/isys/seminar/system.html">https://www.meiji.ac.jp/isys/seminar/system.html</a>) も受講のこと。このうち、「HTML&amp;CSS」講習会は授業内容に該当します。さらにウェブプログラミングを学びたい人には「JavaScript」も勧めます。なお、講習会の名称は適宜変更になる場合があります。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●教科書

<p>特に指定しません。必要な資料はファイルで配布します。</p>
-----------------------------------

### ●参考書

<p>『スラスラわかるHTML&amp;CSSのきほん 第3版』、狩野祐東、(SBクリエイティブ)。『できる Access 2021 Office 2021 &amp; Microsoft 365 両対応』、きたみあきこ&amp;できるシリーズ編集部、(インプレスブックス)。『増強改訂版 できるイラストで学ぶ 入社1年目からのExcel VBA』、きたみあきこ&amp;できるシリーズ編集部、(インプレスブックス)。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●課題に対するフィードバックの方法

<p>授業内での演習やレポート課題のフィードバックは「Oh-olMeiji」システムを利用して実施します。</p>
-----------------------------------------------------------

### ●成績評価の方法

<p>平常点 (授業への貢献度、授業内演習) 40%、レポート課題 (5題ほど) 60%で判断します。定期試験は行いません。提出日を遅延したレポート課題は減点するので注意すること。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●その他

<p>授業内演習や情報関連講習会で作成したファイル、および、レポート課題は、Oh-olMeijiにて提出のこと。その際、ファイル名は「課題番号・授業時限・学部・学年・組・番号・氏名」とすること (例えば、課1月1法1-10-100 明治太郎. 拡張子)。電子メールで提出する場合は件名も指示するので順守すること。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅠ	永井 保夫

●授業の概要・到達目標

本講義では、情報機器などの操作と特徴の理解のほか、インターネットの利用の基礎技法の習得を通して、情報に対する基本的な姿勢・態度を養うことを主眼とする。  
本講義を通して、情報化社会で生活していく中で、基本となるコンピュータに関する基礎知識(ソフトウェアとハードウェア)、インターネットの仕組みと使い方、情報倫理、Office リテラシーなどの ICT に関する基本的な知識の習得を目標とする。

●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション、ICT 基礎 (Oh-olMeiji & Meiji Mail & セキュリティ)
- [第 2 回] PC リテラシー (PC 基礎と基本操作)
- [第 3 回] コンピュータにおける情報の表し方
- [第 4 回] コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- [第 5 回] インターネット資源活用 (WWW)
- [第 6 回] インターネット資源活用 (メール)
- [第 7 回] インターネット資源活用 (検索)
- [第 8 回] インターネット資源活用 (セキュリティ 1)
- [第 9 回] インターネット資源活用 (セキュリティ 2)、メディアとの付き合い方
- [第 10 回] 倫理と法律
- [第 11 回] Office リテラシー (1) Word の基本操作
- [第 12 回] Office リテラシー (2) Excel の基本操作
- [第 13 回] Office リテラシー (3) PowerPoint の基本操作
- [第 14 回] プレゼンテーション・ディスカッション (実社会と ICT の事例紹介)、まとめ

●履修上の注意

授業は前半を講義、後半を演習(実習)という構成で実施する。授業中に、適宜、課題や宿題を課す。出席は毎回とる。ICT 技術の基本技術を身につけたい人を対象にして、Office リテラシーだけでなく、IT パスポート(情報処理技術者試験)のテクノロジー系の内容まで教えていく予定である。

●準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分は授業中に質問すること。また、参考書や関係する書籍・文献の該当箇所を読んで復習しておくこと。

●教科書

特に定めない。

●参考書

『令和 06 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の IT パスポート教室 (情報処理技術者試験)』栢木 厚著 (技術評論社)

●課題に対するフィードバックの方法

授業時に出席した課題については、その日の授業の最後、または、次の授業のはじめに解説する。レポート課題については、提出締め切り後に、解説を授業時に説明、または、Oh-olMeiji で公開する。

●成績評価の方法

2 回のレポート提出により評価する (1 回目:50%、2 回目:50%)。ただし、欠席が 1/3 以上の場合には単位修得できないものとする。定期試験は実施しない。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅡ	永井 保夫

●授業の概要・到達目標

本講義は、情報機器を問題解決やその成果の表現に有効活用するための方法の習得を主眼とする。  
本講義を通して、コンピュータを実際に利用して、情報を加工する(コンピューティング)技術と情報を発信する(プレゼンテーション)技術を習得することを目標とする。具体的には、前者では Excel を利用したドキュメントの作成についての応用操作、Java 言語を用いたプログラミング、後者では PowerPoint を利用したプレゼンテーションについての習得を目標とする。

●授業内容

- [第 1 回] 開講にあたって (イントロダクション)
- [第 2 回] Excel の利用 (1) 基本操作の復習、表の編集・修飾などの操作、関数の概念の理解
- [第 3 回] Excel の利用 (2) グラフの作成、計算式の設定、絶対番地指定、関数の理解
- [第 4 回] Excel の利用 (3) Word との連携、印刷設定、複合グラフ作成方法の理解
- [第 5 回] Excel の利用 (4) 役に立つ関数、DB 機能、ソートなどの応用操作についての理解、まとめ
- [第 6 回] Java 言語によるプログラミング (1) Java 言語を用いたコンピュータプログラミングの基本的概念の理解
- [第 7 回] Java 言語によるプログラミング (2) 基本的な処理をおこなうプログラムの理解
- [第 8 回] Java 言語によるプログラミング (3) 手続き型プログラミングの理解
- [第 9 回] Java 言語によるプログラミング (4) 簡単なプログラムの作成
- [第 10 回] Java 言語によるプログラミング (5) オブジェクト指向プログラミング、まとめ
- [第 11 回] PowerPoint を利用したプレゼンテーション (1) 基本操作の復習、表、グラフ、図形の作成、SmartArt の理解
- [第 12 回] PowerPoint を利用したプレゼンテーション (2) アニメーション機能、プレゼンテーション原稿の作成、配付資料の作成の理解、プレゼンテーション時の心得、まとめ
- [第 13 回] PowerPoint を利用したプレゼンテーション演習 (1) 受講者のプレゼンテーションとルーブリックによる評価
- [第 14 回] PowerPoint を利用したプレゼンテーション演習 (2) 受講者のプレゼンテーションとルーブリックによる評価の続き、まとめ

●履修上の注意

授業は前半を講義、後半を実習(演習)という構成で実施する。授業中に、適宜、課題や宿題を課す。出席は毎回とる。プログラミングは初心者を対象とするので、特別な知識は必要としない。

●準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分は授業中に質問すること。また、参考書や関連する書籍・文献の該当箇所を読んで復習しておくこと。

●教科書

特に定めない。

●参考書

『やさしい Java 第 7 版』高橋麻奈著 (SB クリエイティブ)

●課題に対するフィードバックの方法

授業時に出席した課題については、その日の授業の最後、または、次の授業のはじめに解説する。レポート課題については、提出締め切り後に、解説を授業時に説明、または、Oh-olMeiji で公開する。

●成績評価の方法

2 回のレポート (各 35%) とプレゼンテーション (30%) により評価する。ただし、欠席が 1/3 以上の場合には単位修得できないものとする。定期試験は実施しない。

●その他

Java プログラミングでは、統合開発環境として JDoodle を利用する。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	野口 喜洋

## ●授業の概要・到達目標

<p>PC、携帯端末、クラウドを含む ICT 環境は、知的生産の 4 フェーズすべて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 収集・入力</li> <li>2) 加工・処理</li> <li>3) 整理・保存</li> <li>4) 発信・出力</li> </ol> <p>で利用できる究極の情報メディアです。この授業では、ICT 環境を、自分が専攻している学問分野・志望する職業・理想の生活などに照らして、何のために、どのように使うかという目的を明らかにし、さまざまな角度から学びます。</p> <p>この授業の到達目標は、ICT 環境という新しいメディアに対する基本スキルと、安全な活用のためのメディア・リテラシーを習得することです。</p> <p>初心者が対象ですから、ハードウェアと OS の基礎知識や、ワープロ・表計算・プレゼンソフトなど基本的なアプリケーションの利用法も教えますが、街の PC 教室のように情報スキルを習得するだけが目的ではありません。</p> <p>ICT 環境は情報(伝達)メディアですから、不特定他者と双方向に情報をやりとりします。使い方を誤れば自分が被害を受けたり、他者を加害する危険もあります。したがって、この新しいメディアに対するメディア・リテラシーも、実社会に出るために必須です。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●授業内容

[第 1 回]	a のみ: イントロダクション (ICT リテラシーとは) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 2 回]	パソコンと OS の基礎 (ハードウェア、基本ソフト、アプリケーション) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 3 回]	Word による文書作成 1 (文字、文、文章、文書) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 4 回]	Word による文書作成 2 (書式とレイアウト、文書の修飾) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 5 回]	課題レポート 1: 複雑な書式の文書 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 6 回]	課題レポート 1 を完成 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 7 回]	Excel 入門 1 (数式と関数、表計算) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 8 回]	Excel 入門 2 (グラフ作成) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 9 回]	課題レポート 2: 自由テーマによる表計算とグラフ化 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 10 回]	発想法 (KJ 法) によるアイデアのまとめ方 (PowerPoint により KJ 法チャートを作成) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 11 回]	インターネットの基礎 (メディアとしての特質、各種サービス、電子メール) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 12 回]	Web からの情報収集 (Web の機能としくみ、検索サイト、メディアとのつきあい方) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 13 回]	課題レポート 3: Web を用いた調査 (テーマ決定、素材の収集と整理) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 14 回]	課題レポート 3 を完成 (レポートの書き方) [メディア授業 (オンデマンド型)]

## ●履修上の注意

<p>この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web 講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-ol Meiji の科目トップページにリンクがある「<a href="#">授業ポータル</a>」と、そこからリンクされている各回の「<a href="#">授業フォルダ</a>」に配置します。「<a href="#">授業フォルダ</a>」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒しで公開することもありますので、履修者は「<a href="#">何回目の授業か</a>」に注意してください (表の最下行が今回の授業とは限りません)。</p> <p>「課題レポート (1~2 回の授業中に作業する課題)」の提出は、Oh-ol Meiji のレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。</p> <p>各回の授業開始時には、<a href="#">ZOOM ミーティング (OOH: オンライン・オフィス・アワー)</a> を開きますので、後述の案内を見て、参加していただきます。パスワードは「987782」です。ミーティングでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は 10 分程度です。</p> <p>各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時に Oh-ol Meiji の「<a href="#">クラスウェブ/出席送信</a>」機能を用いて行います。各回の出席パスワードは、上記「<a href="#">授業ポータル</a>」に記述されています。出席送信の 30 分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。</p> <p>授業時間内の講師や TA さんへの質問・相談は、上記ミーティングの「<a href="#">グループチャット</a>」で行います。TA さんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「<a href="#">画面共有</a>」機能を利用してください。</p> <p>授業時間外は、<a href="#">講師宛のメール</a>で質問してください。回答までに 2~3 日かかる場合があります。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●準備学習 (予習・復習等) の内容

<p>予習として Web 講義資料の該当部分を読んでください。Web 講義資料はページ上下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「<a href="#">授業フォルダ</a>」が公開されていないなくても、全回分を読むことができます。オンデマンド型ビデオ教材 (これらは基本的にメディア授業用です) を視聴する必要はありません。</p> <p>また、授業中に理解が不十分だったところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用するなどして復習し、理解してください。</p> <p>課題レポート (提出物を伴う課題) について、基本的には、授業時間以外の作業は要求しませんが、提出物の作成に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●教科書

指定しません。
---------

## ●参考書

<p>「<a href="#">授業ポータル</a>」からリンクされている Web 講義資料は、時間の都合などで、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自の PC 画面を最大限活用するために、Web 講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●課題に対するフィードバックの方法

<p>提出された「課題レポート」については、各回の「<a href="#">授業フォルダ</a>」を用いたファイル共有や、「<a href="#">連絡会 (OOH)</a>」内の「<a href="#">グループチャット</a>」「<a href="#">画面共有</a>」などを用いてフィードバックを返すことができます。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●成績評価の方法

<p>平常点 (授業への参加度および貢献度) 50%、課題レポート 50%。</p> <p>部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくださいれば、出席扱いにしています。</p> <p>課題レポートの提出は Oh-ol Meiji の「<a href="#">クラスウェブ/レポート</a>」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。</p> <p>この授業では、定期試験は行いません。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●その他

<p>前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、Web 講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴したりして、次回までにキャッチアップ (他の履修者のレベルに追いつく) してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「<a href="#">準備学習 (予習・復習等) の内容</a>」欄に示した方法で予習・復習すると、内容的には同じです。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	野口 喜洋

## ●授業の概要・到達目標

<p>PC、携帯端末、クラウドを含む ICT 環境は、それ自体優れた情報 (伝達) メディアですが、決して単一のメディアではなく、役割も使い勝手も違うさまざまなアプリやサブメディア (ブログ、SNS、e-Mail、zoom など) の集合体であり、しかもそれらは時とともに激しく変化してゆきます。授業を通して学ぶ正確な知識と、目的を明確にした自分なりの方針をもって接しないと、情報とメディアの奔流に流されることになりかねません。</p> <p>この授業の到達目標は、ICT ベーシック I で学んだ各分野の基礎の上に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や調査データを処理する</li> <li>・知的成果物を情報発信する</li> <li>・プレゼンテーションを実践する</li> </ul> <p>など、分野ごとの応用・実践的知識を積み上げ、社会で通用する ICT スキルとリテラシーを身につけることです。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●授業内容

[第 1 回]	a のみ: イントロダクション (ICT の応用・実践スキルとは) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 2 回]	Excel 応用 1 (統計・データベース機能) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 3 回]	Excel 応用 2 (記述統計の基本) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 4 回]	Excel 応用 3 (確率密度分布と推測統計の基本) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 5 回]	課題レポート 1: 基礎的統計手法について的小テスト [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 6 回]	Web による情報発信 1 (ハイパーテキスト、タグ付け言語と HTML5、スタイルシート CSS3、演習: 自宅周辺の紹介) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 7 回]	Web による情報発信 2 (演習: リンク集、Web ページのデザイン) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 8 回]	課題レポート 2: 自己紹介サイトの設計 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 9 回]	課題レポート 2 を完成: サイトの実装とテスト [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 10 回]	プレゼンテーションのための PowerPoint 利用法 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 11 回]	プレゼンテーション実践 1 (テーマ決定から構想固めまで) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 12 回]	プレゼンテーション実践 2 (資料作成) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 13 回]	課題レポート 3: テーマ発表 1 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第 14 回]	課題レポート 3: テーマ発表 2 [メディア授業 (オンデマンド型)]

## ●履修上の注意

<p>この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web 講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-ol Meiji の科目トップページにリンクがある「<a href="#">授業ポータル</a>」と、そこからリンクされている各回の「<a href="#">授業フォルダ</a>」に配置します。「<a href="#">授業フォルダ</a>」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒しで公開することもありますので、履修者は「<a href="#">何回目の授業か</a>」に注意してください (表の最下行が今回の授業とは限りません)。</p> <p>「課題レポート (1~2 回の授業中に作業する課題)」の提出は、Oh-ol Meiji のレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。</p> <p>各回の授業開始時には、<a href="#">ZOOM ミーティング (OOH: オンライン・オフィス・アワー)</a> を開きますので、後述の案内を見て、参加していただきます。パスワードは「987782」です。ミーティングでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は 10 分程度です。</p> <p>各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時に Oh-ol Meiji の「<a href="#">クラスウェブ/出席送信</a>」機能を用いて行います。各回の出席パスワードは、上記「<a href="#">授業ポータル</a>」に記述されています。出席送信の 30 分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。</p> <p>授業時間内の講師や TA さんへの質問・相談は、上記ミーティングの「<a href="#">グループチャット</a>」で行います。TA さんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「<a href="#">画面共有</a>」機能を利用してください。</p> <p>授業時間外は、<a href="#">講師宛のメール</a>で質問してください。回答までに 2~3 日かかる場合があります。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●準備学習 (予習・復習等) の内容

<p>予習として Web 講義資料の該当部分を読んでください。Web 講義資料はページ上下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「<a href="#">授業フォルダ</a>」が公開されていないなくても、全回分を読むことができます。オンデマンド型ビデオ教材 (これらは基本的にメディア授業用です) を視聴する必要はありません。</p> <p>また、授業中に理解が不十分だったところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用するなどして復習し、理解してください。</p> <p>課題レポート (提出物を伴う課題) について、基本的には、授業時間以外の作業は要求しませんが、提出物の作成に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●教科書

指定しません。
---------

## ●参考書

<p>「<a href="#">授業ポータル</a>」からリンクされている Web 講義資料は、時間の都合などで、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自の PC 画面を最大限活用するために、Web 講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●課題に対するフィードバックの方法

<p>提出された「課題レポート」については、各回の「<a href="#">授業フォルダ</a>」を用いたファイル共有や、「<a href="#">連絡会 (OOH)</a>」内の「<a href="#">グループチャット</a>」「<a href="#">画面共有</a>」などを用いてフィードバックを返すことができます。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●成績評価の方法

<p>平常点 (授業への参加度および貢献度) 50%、課題レポート 50%。</p> <p>部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくださいれば、出席扱いにしています。</p> <p>課題レポートの提出は Oh-ol Meiji の「<a href="#">クラスウェブ/レポート</a>」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。</p> <p>この授業では、定期試験は行いません。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●その他

<p>前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、Web 講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴したりして、次回までにキャッチアップ (他の履修者のレベルに追いつく) してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「<a href="#">準備学習 (予習・復習等) の内容</a>」欄に示した方法で予習・復習すると、内容的には同じです。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅠ	橋本 政樹

●授業の概要・到達目標

「情報ツールを使いこなそう、情報社会を体感しよう」  
 本講座は、初級者を対象として、「パソコンやインターネットについての基礎知識および技法を習得すること」を目的とする。情報ツールの利用法だけでなく、将来のビジネス社会での活用・開発にも繋がる知識と技術を学ぶ。特にICTベーシックⅠでは、「情報の発信」に関わるネットワーク上での情報のやりとり、WEBの特性、情報セキュリティの重要性について理解を深め、現代の情報社会を俯瞰する。  
 授業はメディア教室において、目的に沿った内容の講義と実習を行う。その中でテーマ別に実習の課題を数回出題し、レポートとして提出してもらう。

●授業内容

[第 1 回] イントロダクションとコンピューティング1(ハードウェア・ソフトウェア)  
 本講座の目的・内容、課題、教育支援システム (Oh-olMeiji) 等について説明し、コンピュータの構成を学習する。  
 [第 2 回] コンピューティング2 (システム構成)  
 情報の単位、システムの形態や信頼性、特にクラウドコンピューティングの概念を理解する。  
 [第 3 回] インターネット1 (ネットワークの歴史と仕組み)  
 インターネットの歴史、ネットワークの基本構成、通信プロトコル、学内ネットワーク (Oh-olMeiji) を学ぶ。  
 [第 4 回] インターネット2 (電子メール、情報検索、ファイル転送)  
 電子メールや情報検索の仕組み、ファイル転送の技術を学ぶ。  
 [第 5 回] 情報セキュリティと情報倫理  
 情報社会の特性と法制度の趣旨を理解し、被害者にも加害者にもならない対策を考える。  
 [第 6 回] ネットワーク社会の現状と展望 (ノイズ、バイアス、連鎖バズル)  
 SNS 等のネットワーク技術の進展やこれまでの経験から、ネットワーク社会を俯瞰する。  
 [第 7 回] 文書作成 (法定文書のまとめ方と図表の作成)  
 Word を用いて、株主総会議事録とわかり易い案内図を作成する。  
 [第 8 回] 表計算 (計算・グラフ化とデータ管理)  
 Excel を用いて、関数計算・グラフ作成・データベースの機能を学習する。  
 [第 9 回] プログラミング(フローチャート・プログラム作成と実行)  
 Visual Basic または Python を用いて、簡単なプログラムを組み、アルゴリズムを理解する。  
 [第 10 回] Web アプリケーションと Web 環境  
 代表的な Web アプリケーションとそのフレームワークを理解する。  
 [第 11 回] HTML による Web ページ作成 1  
 HP 記述言語の概要を理解し、簡単な Web ページを作る。  
 [第 12 回] HTML による Web ページ作成 2  
 CSS、JavaScript を取り入れた Web ページを作る。  
 [第 13 回] ファイル転送とマルチメディア技術  
 ネットワークへの公開・編集・管理の方法を学び、実施する。また圧縮・伸長の技術を理解する。  
 [第 14 回] プレゼンテーション技法 (発表構成、作成手順、スライド作成)  
 いくつかの事例を参考にして、発表のための効果的な技法を学習する。

●履修上の注意

・継続的な出席  
 ・課題の提出

●準備学習 (予習・復習等) の内容

各自、席に着いたら、PC を操作しながら、前回の実習内容を復習すること。

●教科書

特になし。  
 必要に応じて、プリントまたはファイルを配布する。

●参考書

随時参考文献を紹介する。  
 (参考 URL: <https://www.toranoko.net/web>)

●課題に対するフィードバックの方法

課題発表による出席者とのコミュニケーション (質問・意見交換) を通して、多くの視点からの批評を体感する。

●成績評価の方法

課題レポート 40%、授業態度 30%、小テスト 30% の割合で成績評価を行う。  
 期末の定期試験は行わない。

●その他

将来の仕事や人的ネットワーク、資格取得 (士業)、起業などを真剣に考える人に、有用な課題を心掛けています。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅡ	橋本 政樹

●授業の概要・到達目標

「情報を活かそう、発信しよう」  
 本講座では情報社会を眺望しながら、コンピュータやネットワークについての知識や技法を、実践的に学習する。  
 実際のビジネス活用や処理技術を意識しながら、データ分析やプログラミングによる問題解決の手法を学び、創造的に表現する技法を習得する。  
 [運営方法]  
 講義の進め方は ICT ベーシックⅠと同じであるが、情報の本質を学ぶために、ここではデータマイニングという新しい統計的な分析手法の学習を中心に展開する。  
 まず「仮定の株式投資」や「ネットリサーチ」を題材にして、ネットワークより情報を収集し、次に Excel や Visual Basic 等を使って分析、モデル化、シミュレーションを行い、ポートフォリオ評価や知の発見を試みる。さらに分析・調査結果のプレゼンテーションを行う。  
 これらのプロセスには、継続的なスキルアップを必要とするので、授業態度を重視し出席は毎回とる。

●授業内容

[第 1 回] イントロダクション  
 本講座の目的・内容、課題等について説明する。また情報の特性・価値を考える。  
 [第 2 回] データの収集・整理  
 主なデータ収集法と、それらの整理の仕方を学ぶ。  
 [第 3 回] データの見える化 (グラフと表の作成)  
 スポーツデータを用いて、ヒストグラムや散布図を作成し、データの特徴をビジュアル的に把握する。  
 [第 4 回] データの数値化 (代表値・散布度)  
 平均値・標準偏差等の数値尺度を理解し、グラフ化したデータの性質を数値で把握する。  
 [第 5 回] 相関分析 (何かと何かの関係)  
 経済指数や相性診断データを用いて、共分散・相関係数を求め、データ間の関連を見つめる。  
 [第 6 回] 回帰分析 (何かが何かへ影響する関係)  
 各変数・係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。  
 [第 7 回] VBA によるプログラミング 1  
 マクロ機能の VBA を使って、プロシジャを作成し、オリジナル関数によるデータの分析を試みる。  
 [第 8 回] VBA によるプログラミング 2  
 企業の財務データを用いて、簡単なプログラムによる投資シミュレーションを行う。  
 [第 9 回] Processing によるプログラミング 1  
 簡単な図形を描いて、静的なデザイン、イメージを生成する。  
 [第 10 回] Processing によるプログラミング 2  
 関数を使って、動的なデザイン、アニメーションを作成する。  
 [第 11 回] プレゼンテーションの技法  
 発表の目的と構成、進行と演出 (伝える) の技法を学ぶ。  
 [第 12 回] プレゼンテーションの準備 1  
 各自自分の夢・将来像について考え、その発表の準備を行う。  
 [第 13 回] プレゼンテーションの準備 2  
 各自自分の夢・将来像について考え、その発表の準備を行う。  
 [第 14 回] プレゼンテーションの実演  
 各自作成したものを皆の前で発表し、意見交換を行う。

●履修上の注意

・継続的な出席  
 ・課題の提出  
 ・課題の発表

●準備学習 (予習・復習等) の内容

各自席に着いたら、PC を操作しながら、前回の実習内容を復習すること。

●教科書

特になし。  
 必要に応じて、プリントやファイルを配布する。

●参考書

随時参考文献を紹介する。  
 (参考 URL: <https://www.toranoko.net/tokei>)

●課題に対するフィードバックの方法

課題発表による出席者とのコミュニケーション (質問・意見交換) を通して、多くの視点からの批評を体感する。

●成績評価の方法

課題レポート 40%、授業態度 30%、小テスト 30% の割合で成績評価を行う。  
 期末の定期試験は行わない。

●その他

将来の仕事 (リサーチ・企画・コンサルティング)、資格取得 (語学・情報・士業)、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けています。

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	茨田 大輔

●授業の概要・到達目標

ICTに関する基礎的な知識やPCの基本操作、情報倫理などの大学生として最低限必要な情報の学習を総合的に行う。電子メールおよびインターネット資源の正しい活用方法を理解する。また、MS-Officeの基礎的な使用方法を学習し、PowerPointを用いてプレゼンテーションの実習を行う。

●授業内容

- [第1回] イントロダクション、PCの基本操作 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第2回] Oh-olMeijiの利用方法、電子メールの基礎 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第3回] Wordの基礎1 (書式、段落、ページ設定、ヘッダー、インデント) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第4回] Wordの基礎2 (表の挿入、図形の挿入、テキストボックス、見出し、校閲機能) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第5回] インターネット資源の活用方法 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第6回] セキュリティおよびメディアとの付き合い方 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第7回] 倫理と法律、実社会とICT [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第8回] Excelの基礎1 (表計算、関数、罫線、オートフィル) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第9回] Excelの基礎2 (絶対参照、相対参照、グラフ作成) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第10回] PowerPointの基礎1 (テーマ設定、レイアウト、図形挿入) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第11回] PowerPointの基礎2 (グループ化、アニメーション) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第12回] プレゼンテーション実習1 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第13回] プレゼンテーション実習2 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第14回] プレゼンテーション実習3 [メディア授業 (リアルタイム型)]

●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。授業は原則 Zoom によるリアルタイム配信と専用システムを使ったリアルタイム型で行う。専用システムを用いて画面共有を行うことによって受講状況を確認するため、専用システムへのアクセスが必須となる。また、講義内容の一部については、毎回の実習課題によって理解度調査する。  
電子メールやフィードバックコメントのチェックの癖をつけておくこと。  
教員の環境は Windows であるため、Windows ユーザーであることが望ましい。Mac ユーザーでも受講は可能であるが、Windows との相違点については各自で調べる必要がある。学生間で情報共有してもよい。授業時間外であれば、生田仮想デスクトップ PC を用いて Windows 環境を利用することもできる。(参考サイト: <https://www.meiji.ac.jp/isys/vdesktop/index.html>)

また、Oh-ol Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

講義と実習を中心に行う。

●教科書

毎回提示する講義資料を教材とする。

●参考書

なし

●課題に対するフィードバックの方法

電子メール、Oh-olMeiji のフィードバックコメント、専用システムを用いて行う。

●成績評価の方法

平常点(授業への参加態度) (20%)、実習課題・プレゼンテーション (80%) によって評価する。  
定期試験は行わない。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	茨田 大輔

●授業の概要・到達目標

MS-Office を用いて、学術論文や学術的なプレゼンテーション等で行う資料作成を行うための基礎的な方法を習得する。前半は簡単な数値解析およびデータ処理方法を題材とし、必要な Excel の操作方法を学ぶ。データの生成や特殊な処理を用いる場合、Visual Basic for Applications(VBA)を使用する。後半は前半で学んだ方法を用いて作成したグラフ等の図を Word および PowerPoint に貼り付けて資料作成の実習を行う。最後に作成した PowerPoint 資料を用いてプレゼンテーションの実習を行う。

●授業内容

- [第1回] イントロダクション、ICTベーシックIの復習 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第2回] Excelの応用1 (表計算の基礎) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第3回] Excelの応用2 (表の加工) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第4回] Excelの応用3 (グラフの加工) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第5回] Excelの応用4 (VBAプログラミングの基礎) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第6回] Excelの応用5 (VBAプログラミングの応用) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第7回] Excelの応用6 (統計) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第8回] Excelの応用7 (実習) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第9回] Wordを用いた資料作成1 (フォーマットのある資料作成方法) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第10回] Wordを用いた資料作成2 (実習) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第11回] PowerPointを用いた資料作成1 (フォーマットのある資料作成方法) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第12回] PowerPointを用いた資料作成2 (実習) [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第13回] プレゼンテーション実習1 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第14回] プレゼンテーション実習2 [メディア授業 (リアルタイム型)]

●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。授業は原則 Zoom によるリアルタイム配信と専用システムを使ったリアルタイム型で行う。専用システムを用いて画面共有を行うことによって受講状況を確認するため、専用システムへのアクセスが必須となる。また、講義内容の一部については、毎回の実習課題によって理解度調査する。  
電子メールやフィードバックコメントのチェックの癖をつけておくこと。  
教員の環境は Windows であるため、Windows ユーザーであることが望ましい。Mac ユーザーでも受講は可能であるが、Windows との相違点については各自で調べる必要がある。学生間で情報共有してもよい。授業時間外であれば、生田仮想デスクトップ PC を用いて Windows 環境を利用することもできる。(参考サイト: <https://www.meiji.ac.jp/isys/vdesktop/index.html>)

また、Oh-ol Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

講義と実習を中心に行う。

●教科書

毎回提示する講義資料を教材とする。

●参考書

なし

●課題に対するフィードバックの方法

電子メール、Oh-olMeiji のフィードバックコメント、専用システムを用いて行う。

●成績評価の方法

平常点(授業への参加態度) (20%)、実習課題・プレゼンテーション (80%) によって評価する。  
定期試験は行わない。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	深澤 琢也

### ●授業の概要・到達目標

**【授業の概要】**  
 学生生活の際に最低限必要とされる PC リテラシー(PC の基本的な使い方、メールの正しい書き方とマナー、オフィス系ソフトの基本的な使い方) と、社会人になるにあたって知っておくべき ICT 上のマナーやルールなどを学びます。

**【到達目標】**  
 1. 明治大学で利用できるシステムを最大限に活用できること  
 2. PC を利用して効率的かつ効果的にレポートを作成し、発表できること

### ●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション (Oh-olMeiji、メールの利用方法、およびセキュリティの重要性) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 2 回] インターネットの資源活用 (インターネットの仕組みと効率的な検索方法の習得) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 3 回] メディアとのつきあい方 (メディアを利用するときのマナー、ルール、モラル、および関連する倫理と法律の理解) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 4 回] Word の基本操作 [1] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 5 回] Word の基本操作 [2] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 6 回] Word の基本操作 [3] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 7 回] Excel の基本操作 [1] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 8 回] Excel の基本操作 [2] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 9 回] Excel の基本操作 [3] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 10 回] PowerPoint の基本操作 [1] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 11 回] PowerPoint の基本操作 [2] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 12 回] PowerPoint の基本操作 [3] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 13 回] PowerPoint を利用した発表資料作成 [1] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 14 回] PowerPoint を利用した発表資料作成 [2] [メディア授業 (オンデマンド型)]

### ●履修上の注意

この講義はオンデマンドの講義形態です。

したがって、(1) 動画を視聴して自主的に学習できる方、(2) 質問をメールで行える方、(3) わからないことがあれば自主的にインターネットや書籍などで情報を収集することができる方の履修をおすすめします。もちろん、いつでも質問を受け付けていますので、遠慮なく質問して頂いて結構です。サポートいたします。

毎回、講義内容をしっかりと修得し身に付けられるよう、そして出席確認の方法として講義後一週間以内に提出する提出課題があります。以下の場合は単位を付与致しませんのでご注意ください。

1. 最終課題の提出がない場合
2. 毎回の提出課題で未提出のものが 5 回以上になった場合

オンデマンドの講義形態なので、原則講義日の該当時限帯に視聴するというスタイルですが、柔軟に受講して頂いて構いません。また、講義内容は連続性が高いため、極力出席するようにして下さい。毎回の講義動画中に提出課題を課しますので、その提出有無をもって出席確認及び理解度確認を行います。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

予習としては、授業資料にざっと目を通し、分からない言葉などがあれば事前に調べるようにして下さい。授業で修得する知識だけに頼らず、わからないことは自分でインターネット検索をするなどして調べる姿勢が重要です。

復習としては、毎回の提出課題を実践することが重要ですので、着実に一回一回内容を理解するために反復練習することが重要です。

もともとの基礎知識にもよりますが、目安として予習復習であわせて 2 時間程度必要となります。

### ●教科書

特に定めません。

### ●参考書

授業中に適宜、情報を提供します。

### ●課題に対するフィードバックの方法

講義中で、前回講義の課題レポートへのフィードバックを総括してお知らせします。

### ●成績評価の方法

提出課題 (毎回授業中に課す理解度チェックのためのレポート) が 50 点、最終課題 (第 13 回および第 14 回目の PowerPoint を利用した発表資料作成) が 50 点、合計 100 点満点で総合評価を行う。  
 ※対面形式での試験は行わない。

### ●その他

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	深澤 琢也

### ●授業の概要・到達目標

**【授業の概要】**  
 ICT ベーシックIでの授業内容を習得していることを前提に進めます。本授業では主に、ゼミ (とくに経営学や商学分野) での研究活動や卒論を執筆する際に必要な ICT スキルを学びます。

**【到達目標】**  
 1. 明治大学で利用できるデータベースを利用して、必要な資料 (論文や統計データ、新聞記事など) を的確にサーチできること  
 2. 研究調査デザインができること  
 3. Excel を有効活用して、データの分析ができること  
 4. 執筆ルール (参考文献表記方法や引用のルールなど) に則ってレポートや論文を執筆できること

### ●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション (春学期の振り返りと本授業で求められるタスクの説明) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 2 回] 明治大学図書館ウェブサイトの活用 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 3 回] 研究の出発 (良い仮説を導く) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 4 回] アンケートフォームの作成練習 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 5 回] 質問文作成の基本原則 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 6 回] アンケートに用いる尺度とデータ入力方法 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 7 回] 分析方法 [1] (単純集計とクロス集計) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 8 回] 分析方法 [2] (相関分析) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 9 回] 尺度 (選択肢) を考える [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 10 回] レポートおよび論文執筆のルール (作法) について学ぶ [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 11 回] 仮説検証型レポート・論文の構成について学ぶ [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 12 回] 研究成果の発表 (とくに PowerPoint を用いた発表) について学ぶ [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 13 回] 最終課題レポート作成について [1] [メディア授業 (オンデマンド型)]
- [第 14 回] 最終課題レポート作成について [2] [メディア授業 (オンデマンド型)]

### ●履修上の注意

この講義はオンデマンドの講義形態です。

したがって、(1) 動画を視聴して自主的に学習できる方、(2) 質問をメールで行える方、(3) わからないことがあれば自主的にインターネットや書籍などで情報を収集することができる方の履修をおすすめします。もちろん、いつでも質問を受け付けていますので、遠慮なく質問して頂いて結構です。サポートいたします。

毎回、講義内容をしっかりと修得し身に付けられるよう、そして出席確認の方法として講義後一週間以内に提出する提出課題があります。以下の場合は単位を付与致しませんのでご注意ください。

1. 最終課題の提出がない場合
2. 毎回の提出課題で未提出のものが 5 回以上になった場合

オンデマンドの講義形態なので、原則講義日の該当時限帯に視聴するというスタイルですが、柔軟に受講して頂いて構いません。また、講義内容は連続性が高いため、極力出席するようにして下さい。毎回の講義動画中に提出課題を課しますので、その提出有無をもって出席確認及び理解度確認を行います。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

予習としては、授業資料にざっと目を通し、分からない言葉などがあれば事前に調べるようにして下さい。授業で修得する知識だけに頼らず、わからないことは自分でインターネット検索をするなどして調べる姿勢が重要です。

復習としては、毎回の提出課題を実践することが重要ですので、着実に一回一回内容を理解するために反復練習することが重要です。

もともとの基礎知識にもよりますが、目安として予習復習であわせて 2 時間程度必要となります。

### ●教科書

特に定めません。

### ●参考書

授業中に適宜、情報を提供します。

### ●課題に対するフィードバックの方法

講義中で、前回講義の課題レポートへのフィードバックを総括してお知らせします。

### ●成績評価の方法

提出課題 (毎回授業中に課す理解度チェックのためのレポート) が 50 点、最終課題 (ICT スキルを活用したうえで自身の興味のあるテーマの研究レポート) が 50 点、合計 100 点満点で総合評価を行う。  
 ※対面形式での試験は行わない。

### ●その他



科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックI [M]	松村 茂

## ●授業の概要・到達目標

<p><b>授業概要</b></p> <p>情報社会と言われる今日、私たちが情報にアクセスする方法は多様化し、その機会と量は飛躍的に増加しています。また個人が容易に情報を加工し有用な情報を創り出すことができ、その情報に広く社会に対して発信できるようになりました。</p> <p>情報社会では個人の情報リテラシー（能力）が求められています。情報リテラシーは、パーソナルコンピュータ等情報端末やインターネットの仕組みに加えて、著作権、SNSに関わるトラブル・人権侵害等を理解し、情報の収集・整理・加工・分析・発表・発信できる能力です。</p> <p>本講座（春学期）は、情報リテラシーの向上を目的としその基礎編として、コンピュータとインターネットの理解、インターネットセキュリティと著作権等の理解、問題解決の方法論の習得、Excelを活用したデータの収集と加工、Wordによる仮説の検証・レポートの作成、発表のためのPowerPointの作成までを行います。</p> <p><b>到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィス系アプリケーションソフトと画像処理ソフトの活用技術の基礎的な習得</li> <li>・コンピュータ・インターネットの理解とセキュリティ対策の習得</li> <li>・問題発見・解決方法・検索手法の習得</li> </ul> <p>具体的には、講義内容に記したものを講義します。</p> <p>なお、さらに情報リテラシーをより高めるクラウドコンピューティングとその基礎的な理解を助けるホームページの活用については、応用編としてICTベーシックII（秋学期）で行います。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●授業内容

<p>授業はすべて [メディア授業 (リアルタイム型)] です。すべてオンラインで実施します。対面では行いません。</p> <p>毎回の授業内容は次の通り。</p> <p>[第1回] パソコン・インターネットの基本: OS、Oh-oMeiji (レポート機能等)、電子メールのマネー (Cc, Bcc 等)、SNS、漢字変換ソフト、タイピングの練習 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第2回] OS: ファイルの保存、Excel: 基本操作 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第3回] Excel: データベースの作成と活用 (ソートと抽出)、基本的な関数 (合計、平均等) [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第4回] Excel: 絶対参照・相対参照、関数 (判定関数、セルを数える等) [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第5回] Excel: グラフの作成 (折れ線・棒・ドーナツ)、グラフの作成 (2軸化・グラフの強調) [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第6回] パソコンの仕組み: OSの役割、漢字変換ソフト、ショートカット、ドライブとパス、フォルダ、ファイル名、拡張子、タスクマネージャー、インターネットの仕組み、問題発見・解決・報告・プレゼンテーションとオフィスソフト3種の関係 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第7回] インターネットの仕組み、ファイル名・拡張子、ドライブとパス、ファイルサイズ、ビット・バイト、タスクマネージャ等 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第8回] 知的財産権、インターネットの光と影: 不正アクセス禁止法 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第9回] デジタル化とデータ量: 画像とは、画像ソフト、写真・画像のファイルの特徴、画像サイズや色の調整、写真の加工 (切り抜きとレイヤーの追加/スナップショット) [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第10回] Word: 文字・段落 (行)・セッション (段組)・ページ (マージン) の設定操作・画像の挿入 (浮動配置)・ヘッダー・フッター・インデント [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第11回] Word: 表の作成・Excelとの連携、スマートアート、テキストボックス、校閲機能 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第12回] PowerPoint: プレゼンテーションの基礎 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第13回] PowerPoint: スライドマスター、必要なスライド枚数、pdfとは何か [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第14回] インターネット: ドメイン、URL、通信方式、インターネットの共有とセキュリティ、アップデートとバージョンアップ、検索 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●履修上の注意

<p>(1) 本授業は[メディア授業科目]です。14回すべてをリアルタイム・オンライン zoom で実施します。受講にあたってはパソコンを利用します。タブレット、スマホは適しません。受講できません。パソコン (Windows OS あるいは macOS) で受講してください。</p> <p>(2) 出席は zoom の掲出氏名で行います。また、毎回、【コミュニケーションフォーム】(詳細は授業開始時に説明します) を入力してもらいます (所要時間: 5~10分)。このフォームの入りも出席に必要です。</p> <p>(3) 教員への質問は、zoom チャット機能で行います。授業中いつでも受け付けます。授業時間外の質問は専用フォームから受け付けます。</p> <p>(4) 適宜、学生間の意見交換を zoom チャット、グループドライブなどで実施します。</p> <p>(5) 履修者への連絡は、Oh-oMeiji クラス web に掲出します。</p> <p>(6) 自宅パソコン等で受講する場合、必要なアプリケーションソフト (無料版) をインストールしてもらうことがあります。</p> <p>(7) 授業後授業の動画を配信します。配信日は毎週木曜日です。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●準備学習 (予習・復習等) の内容

<p>予習 (15分): 毎回の授業の内容は、履修者限定で Web に公開されていますので、事前に毎回の内容を確認して下さい。</p> <p>復習 (20分): 毎回授業の終了時に、理解できた点と理解できていないと思う点等を提出してもらいます。この作業から、自身の復習のポイントとしてください。理解できない点はできるだけ後の授業で解説しますが、各自異なるため、まずは自ら動画での復習とインターネット上の情報を活用し復習してください。</p> <p>なお、毎回のテーマを理解しなければ提出課題に取り組みません。必ず授業内容を理解しパソコン上で操作できるようにしてください。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●教科書

独自のもの (web に掲載) を用意します。
-------------------------

## ●参考書

授業の中で必要に応じて紹介します。
-------------------

## ●課題に対するフィードバックの方法

Excel、画像編集ソフト、Word、PowerPoint 各1回の課題提出で行います。未完成等課題条件を満たしていないものについては再提出を求めます。また、各課題について、採点后、採点基準、講評を行います。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●成績評価の方法

成績評価は、Excel、画像編集ソフト、Word、PowerPoint 各1回の課題提出で行います。各評価は25%ずつです。試験は行いません。ただし、進捗状況によって画像編集ソフトを使った課題は省略し、WordやPowerPointの課題に含めることがあります。課題数が3回の場合、各評価は1/3ずつです。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●その他

--

科目ナンバー: IF ACD 126 J	
ICTベーシックII [M]	松村 茂

## ●授業の概要・到達目標

<p><b>授業概要</b></p> <p>情報社会での仕事は情報を作り出す作業に変質しています。話題の ChatGPT が有能であればあるほど、私達人間がどれだけ価値ある情報を作り出せるかが問われています。しかし、情報は一人で作れるものではありません。チームで作り出すものです。テレワークで移動しながら現場を見て仮説を生み出し、ネットワーク上で公し、マネジメント能力、コミュニケーション能力を使って新たな価値ある情報を作っていきます。言葉を変えれば、これからの社会では自己の持つ情報と技術 (スキル) を個々ネットワーク上で協働しながら新しい情報を作り出す能力が求められているのです。またこれらの能力を開発することが自己プロデュースでもあります。</p> <p>本講座ではインターネットの思想を押さえながらこれからの時代を生き抜くテレワーカーのためのポイントをお伝えします。自分自身をネットワーク上で社会化する自己プロデュースとして、ホームページを制作する能力、クラウドコンピューティングを使いながらディスカッションしていく能力を実践的に高めていきます。クラウドコンピューティングの実践は多様ですが、本講座では Google が提供する各種のツールを使い、ネットワーク上でチームを結成し情報を作り上げる作業を展開していきます。ホームページの制作では、HTML と CSS を学びます。</p> <p><b>到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの思想を理解する</li> <li>・web サーバーを理解する</li> <li>・HTML と CSS を学び自らのプロモーションサイトを制作する</li> <li>・Google の提供するサービスを使ってネットワーク上で作業する</li> <li>・クラウドコンピューティングを理解する</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●授業内容

<p>授業はすべて [メディア授業 (リアルタイム型)] です。すべてオンラインで実施します。対面では行いません。</p> <p>毎回の授業内容は次の通り。</p> <p>[第1回] 情報社会の働き手・働き方を考える。テレワーク社会とはどのような社会か? テレワーク社会に相応しい働き方や働き手とはどのような人か。デジタルフォーメーションDX、社会のデジタル化、もうのインターネット IoT、自己プロデュースの社会。クラウドコンピューティングの理解。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第2回] ブラウザーでみるパソコンとインターネットの世界並びにエディターの世界: パソコン内のディレクトリーと URL の相違を理解する。csv、HTML、text など各種の拡張子を理解しながら、PC 内蔵ハードディスクドライブ内のファイルをブラウザーを觀察し、ディレクトリとフォルダ、URL、URI を理解する。メールサーバ、ファイルサーバなどサーバとパソコンの相違を理解する。エディターについては、その機能と役割を理解し、エディターの使い方を習得する。</p> <p>[第3回] HTML の基礎 (その1): 情報発信・情報共有のための HTML を知る。HTML の構造。文字と見出し、文章の構成。Word の文書を HTML 化する。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第4回] HTML の基礎 (その2): HTML のさまざまなタグを知る。画像や Google マップ等の挿入の方法を学ぶ。また Word との比較や CSS の役割について学ぶ。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第5回] サーバの理解: サブドメインの HTML: サーバに HTML ファイルをアップするためには多様な情報を付加する必要がある。そのための meta 情報を学ぶ。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第6回] サーバの理解: 明治大学サーバを使いながらサーバへの転送 (アップロード・ダウンロード)、FTP について学ぶ (Filezilla を使う)。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第7回] CSS の基礎 (その1): CSS を学びながらコンピュータの仕組みやさまざまなデジタル化を理解する。CSS では HTML ファイルとのリンク、文字の装飾や2カラムサイト化を学ぶ。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第8回] CSS の基礎 (その2): margin、padding、border、id、class。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第9回] 画像のデジタル化の仕組み、画像処理。オンラインイメージエディタ [Pixlr] を使い画像の解像度を変更する、また web 用に軽い画像ファイルに変更する。色指定の仕組み、RGB カラー・色数と16進法、カラーコードを知る。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第10回] HTML の役割: メタ情報、XML、SEO、検索エンジン (Google など)、生成系 AI (ChatGPT など) などインターネットの思想を理解する。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第11回] web ページの公開 (アップロード): ここまでの HTML ファイルと css ファイル、画像ファイル等を明治大学のサーバにアップロードし web 公開を体験する。また、非公開機能を使うクラウドコンピューティングの理解と体験。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第12回] クラウドコンピューティングの理解と体験: web とメールの仕組み、速い理解。Google ドライブを利用する。Google ドキュメント・スプレッドシートを利用する。Google ドライブをスマートフォンから利用する。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第13回] Google ドライブの共有機能を活用し、チーム課題に取り組み、仮説を立て Google フォームを活用しデータを集める。チームでレポートの同時編集機能を活用し調査を実施しながら議論し作成する。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p> <p>[第14回] javascript 超入門 web 制作をさらに発展させるために。 [メディア授業 (リアルタイム型)]</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●履修上の注意

<p>(1) 本授業は【メディア授業科目】です。14回すべてをリアルタイム・オンライン zoom で実施します。受講にあたってはパソコンを利用します。タブレット、スマホは適しません。受講できません。パソコン (Windows OS あるいは macOS) で受講してください。</p> <p>(2) 出席は、zoom の掲出氏名で行います。また、毎回、【コミュニケーションフォーム】(詳細は授業開始時に説明します) を入力してもらいます (所要時間: 5~10分)。このフォームの入りも出席に必要です。</p> <p>(3) 教員への質問は、zoom チャット機能で行います。授業中いつでも受け付けます。授業時間外の質問は専用フォームから受け付けます。</p> <p>(4) 適宜、学生間の意見交換を zoom チャットなどで実施します。</p> <p>(5) 履修者への連絡は、Oh-oMeiji クラス web に掲出します。</p> <p>(6) 自宅パソコン等で受講する場合、必要なアプリケーションソフト (無料版) をインストールしてもらうことがあります。</p> <p>(7) クラウドコンピューティングを体験するために、パソコンの他にスマホも利用します。</p> <p>(8) 授業後授業の動画を配信します。配信日は毎週木曜日です。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●準備学習 (予習・復習等) の内容

<p>予習 (15分): 毎回の授業の内容は、履修者限定で Web に公開されていますので、事前に毎回の内容を確認して下さい。</p> <p>復習 (20分): 毎回授業の終了時に、理解できた点と理解できていないと思う点等を提出してもらいます。この作業から、自身の復習のポイントとしてください。理解できない点はできるだけその後の授業で解説しますが、各自異なるため、まずは自ら動画での復習とインターネット上の情報を活用し復習してください。なお、毎回のテーマを理解しなければ提出課題に取り組みません。必ず授業内容を理解しパソコン上で操作できるようにしてください。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ●教科書

独自のもの (web に掲出) を用意します。予習・復習にも利用してください。
-----------------------------------------

## ●参考書

授業の中で適宜紹介します。
---------------

## ●課題に対するフィードバックの方法

各中間課題については採点后、採点基準、講評を行います。最終課題については講評を Oh-oMeiji に公開します。
-----------------------------------------------------------

## ●成績評価の方法

成績評価は複数回の中間課題の評価 (30%)、最終課題 (web 制作) の評価 (70%) で評価します。最終の課題は web サイトの制作です。試験は行いません。
-------------------------------------------------------------------------------------

## ●その他

HTML は、web 制作に有効だけでなく、クラウドコンピューティングを活用する上で非常に重要です。基礎から取り組むことがブラックボックスになりがちなコンピュータの理解に繋がります。また web を作るということは、情報を発信することだけが目的ではありません。それはチームの思考の道具であり、発信後の反響を想像しチームのさらなる行動を起こすためのものです。web は、チームで考え、行動し、反響を受け止め、さらに発展させるための現代社会の無くてはならない道具です。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックI	屋敷 聡

### ●授業の概要・到達目標

ICT ベーシックIでは、ICTに関する基本知識、PCの基本操作をはじめとしたICTの利活用、情報倫理などについて、最近の話題に触れながら、主に以下の内容について講義する。また、本講座では講義を中心に行うが、毎回、授業の後半にはタイピング練習や各種アプリケーションソフトウェアの実習を行う。

1. ICT 基礎  
Oh-olMeiji、メール、セキュリティなど
2. インターネット資源活用  
インターネットの仕組み、検索方法、インターネットアプリなど
3. PC、Officeリテラシー  
PC基本操作、Word、Excel、PowerPointなど
4. メディアとのつきあい方  
メディアとつきあう中でのマナー、ルール、モラルなど
5. 論理と法律  
知的財産、著作権、不正アクセス禁止法、学内ルールなど

本講座では、基礎的な情報技術、PCや各種アプリケーションソフトウェアの使い方、インターネットの使い方、情報倫理など情報に関する知識と技能を総合的に習得することを目標とする。

### ●授業内容

- [第1回] イントロダクション、PCの基本的操作、Oh-olMeijiの活用方法
- [第2回] コンピュータの歴史、Meiji Mailの基本的な使い方
- [第3回] コンピュータの仕組み、PCの構成、周辺機器、OSの役割、Wordの基本的な使い方
- [第4回] インターネットの歴史とインターネットに関連する事柄(ドメイン、URL、通信方法、ホームページなど)
- [第5回] これまでの授業内容の確認、Excelの基本的な使い方
- [第6回] 電子メールの仕組み、利用マナー、Meiji Mailの活用方法、PowerPointの基本的な使い方
- [第7回] 検索エンジンの種類と活用方法、明治大学蔵書検索システムなどの活用方法
- [第8回] 最近のインターネットアプリの種類と活用方法、PowerPointの演習(プレゼン資料の作成)
- [第9回] インターネットに潜むリスク、危険性、対処法
- [第10回] メディアとつきあう中でのマナー、ルール、モラル、Excelの演習(様々なグラフの作成)
- [第11回] ネット社会で生活する上で深く関係のある法規・法令、最近の情報セキュリティの脅威
- [第12回] これまでの授業内容の確認、Excelの演習(数値計算)
- [第13回] Wordの演習(レポートの作成)
- [第14回] ICTベーシックIの総括、課題に沿ったレポートの作成

### ●履修上の注意

コンピュータに不慣れな人でも分かるように授業を進めるが、授業時間だけで理解・作業できない者は、授業で配布された資料等を参考にし、各自で自習することを前提とする。  
レポート課題は、その都度講義中に提示する。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

授業では、適宜、小テストにより知識確認を行うので、授業で学んだ内容について、配布された資料を確認し復習しておくこと。また、授業で行った実習についても各自で復習しておくこと。

### ●教科書

教科書は使用しない。  
Oh-olMeijiにて資料を配布し授業を行う。

### ●参考書

情報関連講習会の各種テキスト  
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

小テスト(学習内容の理解度を確認)の解説は、次回の授業時に行う。

### ●成績評価の方法

評価方法の割合については、平常点(授業中の取組姿勢)20%、小テスト・演習40%、レポート課題40%とする。  
出席については、毎時間確認する。欠席が1/3以上の場合には、単位修得できないものとする。  
遅刻(交通機関の遅延等は除く)は平常点へ反映する。  
定期試験は行わない。

### ●その他

1. 遅刻や欠席はしないこと。やむを得ず遅刻や欠席をした場合は、授業内容が分からなくなるので、各自で十分に復習しておくこと。  
特に、遅刻した場合は、授業の進行上、授業中に十分にフォローできない場合がある。
2. 授業では、適宜、タイピングソフト等を使った実習を行う。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックII	屋敷 聡

### ●授業の概要・到達目標

ICT ベーシックIIでは、ICT ベーシックIで学んだ知識を生かし、以下のアプリケーションソフトウェアを使った実習を行う。実習では、教員が行う作業をモニターで確認しながら、技法を習得し、演習課題で習得した技法の確認を行う。

1. ホームページの作成(ホームページ・ビルダー)  
ホームページの作成を通して、情報発信の方法について学ぶ。
2. プログラミング体験(Visual Basic)  
簡単なプログラムの作成を通して、コンピュータの基本的なデータ処理の仕組みについて学ぶ。
3. Excelの活用  
データ分析、グラフの作成など表計算ソフトの活用の仕方について学ぶ。
4. PowerPointの活用  
プレゼンテーション用資料の作成方法について学ぶ。

本講座では、大学生活や社会人生活において、コンピュータを問題解決や表現の手段として活用できる基本的な技術を習得することを目標とする。

### ●授業内容

- [第1回] イントロダクション、Wordの活用(段組、数式エディタなど)
- [第2回] ホームページの作成から閲覧(公開)までを体験
- [第3回] ホームページ作成(アニメーションGIF、クリッカブルマップの作成など)
- [第4回] ホームページ作成(表、JavaScriptの利用、画像加工など)
- [第5回] ホームページ作成(課題に沿ったホームページの作成)
- [第6回] プログラムの作成から実行までを体験
- [第7回] プログラミング体験(計算機の作成)
- [第8回] プログラミング体験(ゲームの作成、課題に沿ったプログラムの作成)
- [第9回] Excelの活用(グラフを使ったレポートの作成)
- [第10回] Excelの活用(集計・分析)
- [第11回] Excelの活用(様々な関数)
- [第12回] Excelの活用(マクロ、課題に沿ったレポートの作成)
- [第13回] PowerPointの活用(グラフデータ、スライドマスター、SmartArtなど)
- [第14回] PowerPointの活用(課題に沿ったプレゼン資料の作成)

### ●履修上の注意

授業時間だけで理解・作業できない者は、授業で配布される資料等を参考にし、各自で自習することを前提とする。  
レポート課題は、その都度講義中に提示する。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

授業で行った実習内容について、授業で配布された資料を確認し復習しておくこと。

### ●教科書

教科書は使用しない。  
Oh-olMeijiにて資料を配布し授業を行う。

### ●参考書

情報関連講習会の各種テキスト  
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

### ●課題に対するフィードバックの方法

レポート課題の講評を講義中に行う(または、Oh-olMeijiで公開する)。

### ●成績評価の方法

評価方法の割合については、平常点(授業中の態度)20%、演習30%、レポート課題50%とする。  
出席については毎時間確認する。欠席が1/3以上の場合には単位修得できません。  
遅刻(交通機関の遅延等は除く)は、平常点へ反映する。  
定期試験は行わない。

### ●その他

1. 遅刻や欠席はしないこと。やむを得ず遅刻や欠席をした場合は、授業内容が分からなくなるので、各自で十分に復習しておくこと。  
特に、遅刻した場合は、授業の進行上、授業中に十分にフォローできない場合がある。
2. 本講座では、各種データなどを保存するための記録媒体(USBメモリ)が必要となるので、各自用意しておくこと。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅠ	山本 和義

●授業の概要・到達目標

「大学生としての情報スキルを確立する」これが、この授業の目的です。インターネットで検索し、パソコンを用いてレポートを作成する。作成するだけでも誰でもできるようになってきました。しかし、外見上も内容面でも手書きよりも低品質なものがたくさんあります。文字の選び方、図表の貼り付け方、引用の仕方など知っていなければならないことがいくつもあります。また、検索にもスキルが必要であり、得られた情報を利用するにはある種の「作法」が必要となります。これらを学び、覚えること自体は大変なことではありません。しかしそれをしようとせず、そのとき「思ったこと」のみで作業を進めることが低品質化を招いているのです。上記の問題を克服し「他人に見せることのできるまともなレポート」を作成できるようにすることがこの授業の大きな目的です。また、ネットワークの活用や Excel の入門等を通じて現代の大学生に必要な情報スキルを確立していきます。

●授業内容

- [第 1 回] 情報スキルへのイントロダクション・基本操作 (1)
- [第 2 回] 基本操作 (2)、PC を取り巻く現状
- [第 3 回] テキスト・電子メール操作 (1)
- [第 4 回] テキスト・電子メール操作 (2)
- [第 5 回] ワードプロソフト (Word)(自由形式)
- [第 6 回] ワードプロソフト (Word) (論文形式)
- [第 7 回] ネットワークの理解と利用、Oh-olMeiji の利用方法
- [第 8 回] 情報倫理と情報検索
- [第 9 回] レポート作成技術 (約束事と表現法)
- [第 10 回] レポート作成技術 (図表の使い方と正しい引用方法)
- [第 11 回] ネットワーク資源の活用とトラブル対策
- [第 12 回] 表計算ソフトの利用 (Excel)
- [第 13 回] プレゼンテーションスキル (PowerPoint)
- [第 14 回] インターネットのスキルとモラル

●履修上の注意

情報スキルの初心者にも対応し、課題も授業時間内で作成可能であるようにします (そのための時間もとります)。ただし、遅れてきたり休んだ場合にはその限りではありません。課題は、授業終了時に提出する形式のものが数題あり、内容は授業時に伝達します。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

授業は連続的なものとなっており、だんだんと高度化していきます。従って、授業で学んだ技術は、自宅等で反復練習をして身に付けておかなければなりません。

●教科書

特に指定しない

●参考書

特に指定しない

●課題に対するフィードバックの方法

授業時・授業解説資料においてチェックポイントの詳細な解説を行います。

●成績評価の方法

平常点 (授業への参加度) 30%、課題提出物 70% によって評価を行う。なお、定期試験は行わない。

●その他

- ・USB メモリ等の保存メディアを毎回持参すること。
- ・実習課題等は授業時に伝達する。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシックⅡ	山本 和義

●授業の概要・到達目標

「論理操作で Excel を簡単に操る」これがこの授業の目的です。この授業では主に表計算ソフトである Excel を使っていきます。Word とは違って、少しだけ暗記しなければならないことがあります。そして、世の中には「罫線がうまく引けない」「思い通りに印刷ができない」「印刷したら文字が何か変だ」といっている人たちがいます。これらは Excel をただ直感的に使っていると引き起こることです。目の前に見えているものを単にクリック・ドラッグするだけでなく、その前に必要な論理的操作を行う。この技術、あるいは癖をつけていくことによって Excel が「まともに」使えるようになってくるのです。直感操作の前に論理操作を付け加えることによって、表やグラフを短時間で作成し、それを標準的な方法で印刷する。これを自分一人で行えるようにする。これがこの授業の目的および到達目標です。

●授業内容

- [第 1 回] 論理操作へのイントロダクション
- [第 2 回] ネットワークデータの管理方法
- [第 3 回] Excel (基本計算)
- [第 4 回] Excel (印刷と表の拡張)
- [第 5 回] Excel (グラフの基本)
- [第 6 回] Excel (応用計算)
- [第 7 回] Excel (度数分布とそのグラフ)
- [第 8 回] Excel (応用的な印刷)
- [第 9 回] Excel (散布図と近似直線)
- [第 10 回] Excel (テキスト文書との統合)
- [第 11 回] Excel (関数で表されたグラフ)
- [第 12 回] Excel (まとめ)
- [第 13 回] プレゼンテーション (1)
- [第 14 回] プレゼンテーション (2)

●履修上の注意

課題は、授業終了時に提出する形式のものが数題あり、内容は授業時に伝達します。この課題は授業時間内で作成可能であるようにします (そのための時間もとります)。ただし、遅れてきたり休んだ場合にはその限りではありません。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

授業は連続的なものとなっており、だんだんと高度化していきます。従って、授業で学んだ技術は、自宅等で反復練習をして身に付けておかなければなりません。

●教科書

特に指定しない

●参考書

特に指定しない

●課題に対するフィードバックの方法

授業時・授業解説資料においてチェックポイントの詳細な解説を行います。

●成績評価の方法

平常点 (授業への参加度) 30%、課題提出物 70% によって評価を行う。なお、定期試験は行わない。

●その他

- ・USB メモリ等の保存メディアを毎回持参すること。
- ・実習課題等は授業時に伝達する。

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシック I	龍前 三郎

## ●授業の概要・到達目標

【授業の概要】  
ICT が基盤となっている社会の現状と近未来への展望を理解することで、これからの社会のメンバーとしての自覚と、社会を支える人材として持つべき ICT の基礎的素養を身に付ける。  
授業では各種の ICT 基礎知識の解説と、ICT の基礎的スキルの演習を行う。

【到達目標】  
本授業の到達目標を示す。  
・ICT を基盤とする社会を理解する  
・ICT 社会のメンバーとしての自覚を持ち、社会的・倫理的に行動できる  
・ICT 社会の利点を生かし欠点を批判できる  
・ICT 社会で活躍する人材としての基礎的な知識を持つ  
・ICT 社会で活躍する人材としての基礎的なスキルを持つ

## ●授業内容

【第 1 回】現代および近未来社会と ICT  
・社会基盤としての ICT  
・Connected Society  
・データサイエンス  
【第 2 回】ICT の基礎知識  
・(コンピュータ) システムの仕組み  
・情報のデジタル表現  
・ネットワークの仕組み  
・ICT 関連技術  
【第 3 回】ICT の基礎的スキル (1)  
・コンピュータの基本操作  
・明治大学の ICT 環境と利用法 (Oh-o/Meiji, Meiji Mail 他)  
・メール利用のリテラシー  
・インターネットへのアクセス  
【第 4 回】ICT の基礎的スキル (2)  
・電子文書の作成 (Word の使用法基礎)  
【第 5 回】情報セキュリティ  
・情報システムのリスクとセキュリティ  
・ICT 時代の情報リスク  
・被害者にならないための対応 (慎重な行動と情報管理)  
【第 6 回】ICT 倫理と情報利活用のルール  
・情報への不正なアクセス  
・個人情報の保護と知的財産権の保護  
・加害者にならないための行動 (倫理的な ICT 利用)  
【第 7 回】メディア・リテラシー  
・メディア利用の現状  
・各種メディア (情報媒体) の特徴と個人・社会への影響  
・メディアを有効に利用するには (メディア利用における注意点)  
【第 8 回】多様な情報源を活用した自主学習のすすめ  
・教養を高める情報源、専門知識を深める情報源  
・インターネット上の情報検索  
・ICT (各種情報活用システム) を利用した情報活用  
《自主活動》課題テーマに関する情報の調査  
【第 9 回】ICT の基礎的スキル (3)  
・表形式情報の扱い (Excel の使用法基礎)  
【第 10 回】情報活用のスキル (1)  
・基本的なデータ処理 (Excel によるデータ処理基礎)  
【第 11 回】ICT の基礎的スキル (4)  
・プレゼンテーション資料の作成 (PowerPoint の基礎)  
【第 12 回】コミュニケーションスキル  
・共同作業とコミュニケーション  
・リーダーとファシリテーター  
・リモートコミュニケーション  
《グループ活動》ディスカッションによる調査情報のまとめ  
【第 13 回】情報活用のスキル (2)  
・効果的なプレゼンテーション技法  
《グループ活動》グループディスカッションによる調査報告資料の作成  
【第 14 回】調査報告のプレゼンテーションと批評

## ●履修上の注意

教科書を使用しませんので授業記録をとるようになしてください。また、授業では ICT スキルとして PC を用いた演習を行います。時間外にも大学の PC や各目的の PC で練習するよう心がけてください。

## ●準備学習 (予習・復習等) の内容

本授業はこれからの ICT 社会で生きるために必要な素養を身に付けるものです。常に社会の動向に注意を払い、疑問点などを整理して授業において質問することを心がけてください。

授業内容は必ず授業後に復習・整理し、自分なりの資料とするよう心がけてください。また、授業時に課題を課しますので、指定期限までに提出できるよう準備してください。

## ●教科書

指定しません。

## ●参考書

有用な参考資料や情報源については、随時授業の中で紹介します。

## ●課題に対するフィードバックの方法

課題の成果・達成度については、授業の中で講評します。

## ●成績評価の方法

授業ではいくつかの自主学習課題を課しその達成度とともに、本授業の目標に沿った積極的な参加状況 (授業活性化への貢献度) を評価します。質問や意見等、積極的に発言してください。評価基準は以下の通りです。

授業活性化への貢献度: 30%  
課題の達成度: 70%

なお、定期試験は実施しません。

## ●その他

出欠確認や課題の提出、授業に関する連絡等に Oh-o/Meiji システムを使用します。個別の質問などは、下記アドレス宛に Meiji Mail (各自の大学メールアドレス) から直接メールしてください。  
ri02017@meiji.ac.jp

科目ナンバー: IF ACD 125 J	
ICTベーシック II	龍前 三郎

## ●授業の概要・到達目標

【授業の概要】  
高度に ICT 化した社会では、マニュアル化されるような定型の仕事の多くが自動化される。このような社会において有用な人材であるためには、産業や経済、社会の仕組みや生活など、あらゆる分野で ICT を活用して新しい「価値」を創出できる素養が求められる。本授業は、大学生として今後このような素養を身につけていくための基礎を提供する。  
具体的には、「価値」の創出に有効であるとされる「デザイン思考」および「システム思考」に基づき、問題の発掘から解決策の策定までのプロセスを解説するとともに、その実践力を体験学習するためのチームプロジェクトとして、実用的なデザインプロジェクトの提案・実行に取り組んでもらう。受講者は各チームのメンバーとして授業期間を通じてプロジェクトに取り組み、最終回にその成果をチームとして報告する。教員は、毎回、プロセス各段階での手法や活用可能な ICT スキルを解説すると共に、アドバイザーとしてプロジェクト実践の支援を行う。

【到達目標】  
本授業の到達目標を以下に示す。  
「デザイン思考」および「システム思考」を理解し実践のためのマインドセットを持つ。  
大学生レベルの課題に関して  
・「価値」創出のプロセスを理解し実践できる。  
・各プロセスにおいて有効な各種の手法を理解し実践できる。  
・各プロセスにおいて活用可能な ICT スキルを活用できる。  
・円滑なチーム活動を実践できる  
・チーム活動に貢献できる

## ●授業内容

※はチームプロジェクトの活動  
【第 1 回】デザイン思考とシステム思考  
・「価値」を創出する「イノベーション」  
・デザイン思考とシステム思考  
・デザイン思考のプロセス  
・プロジェクト管理  
・「イノベーションプラン」の事例  
【第 2 回】調査・観察法  
・調査の方法 (社会調査、ユーザー調査など)  
・各種の調査・観察技法  
※チーム編成、目的の設定に関するフリーディスカッション  
【第 3 回】調査計画  
・調査領域、調査事項、対象、調査方法  
※教室でのインターネット検索による事前情報の取得と調査計画の立案  
【第 4 回】調査・観察結果の整理と効果的な表現  
・Excel によるデータ整理  
・Excel による記述統計の基礎  
・グラフ表現・図表  
・各種の視覚化技法  
※各自、調査・観察結果の整理  
【第 5 回】分析  
・Excel による統計解析の基礎  
・データマイニングの基礎  
・各種の分析技法  
※分析手法の適用とチーム内報告の準備  
【第 6 回】調査・観察結果の報告  
※チーム内での調査・観察結果のプレゼンテーション  
【第 7 回】分析から統合へ  
・インサイト (気づき) の抽出のための諸手法  
・インサイトの整理法  
※インサイトの抽出と整理  
【第 8 回】コンセプトマーケティングと問題定義  
・コンセプトとは?  
・各種のコンセプトマーケティング支援技法  
・コンセプト表現と共有  
・問題の明確化  
・達成目標の設定  
・企画書の役割と記載項目  
※コンセプトマーケティングと問題定義  
【第 9 回】数理シミュレーションの活用  
・諸現象の数理モデル  
・シミュレーションツール  
※企画書の作成  
【第 10 回】問題解決策の創出  
・コンセプト評価  
・コンセプトに基づく解決策の具体化  
・解決策の詳細デザイン  
・ICT による各種のデザイン支援  
※解決策の詳細デザインの決定  
【第 11 回】プロトタイプ検証とテスト  
・各種のプロトタイプ  
・プロトタイプテストの方法  
・テスト結果のデザインサイクルへのフィードバック  
※プロトタイプ検証とテスト計画  
【第 12 回】テスト結果の評価とフィードバック  
・プロトタイプテストの評価基準  
・テスト結果のデザインサイクルへのフィードバック  
※テストの実施と評価  
【第 13 回】問題解決策の実践に向けた検討  
・実践のためのデザイン調整  
・実践計画  
・提案書  
※提案書 (および提案プレゼン資料) の作成  
【第 14 回】プロジェクト報告  
※「イノベーションプラン」提案内容のプレゼンテーション

## ●履修上の注意

授業を通して、チームでプロジェクト活動に取り組んでもらいますので、円滑なコミュニケーションを心がけてください。提出物の作成には Microsoft Office ツールを利用しますので、基礎的な操作には習熟している必要があります。なお、チームプロジェクトの進捗状況を把握するため、ネットワーク利用の授業支援ツールを用いる予定です。なお、成績評価においてはチームとしての成果だけでなく、チーム活動に対するメンバー個人の活動状況 (個人のアウトプットおよびチームへの貢献度) を評価します。

## ●準備学習 (予習・復習等) の内容

授業の合間にもプロジェクトの作業を実施してもらいます。また、プロジェクト各段階で逐次アウトプットを提出してもらいますので、準備してください。

## ●教科書

指定しません。

## ●参考書

・[01] デザインソッド、ヴィジェイ・クマール 著 (渡部典子 訳)、(英知出版)、2015、\2,750  
これ以外でも、デザイン思考 (Design Thinking) 関連書籍であれば参考になります。  
その他の資料は、随時授業内でお知らせします。

## ●課題に対するフィードバックの方法

提出物は授業の中でそれぞれについてコメントします。プロジェクトの成果は最終授業中に講評・評価を行います。

## ●成績評価の方法

プロジェクトに関するメンバー各自のアウトプット: 50% (個人評価)  
チームへの貢献度: 20% (個人評価)  
チームとしての成果: 30% (チーム評価)  
を合計して評価します。

## ●その他

チームは授業を通して固定し、変更は行いません。問題解決の実験演習を主としていますので、授業時間外の活動にかなり時間が必要になります。なお、授業への出欠確認や課題の提出、授業に関する連絡等には主に Oh-o/Meiji システムを使用します。個別の質問などは、下記アドレス宛に MeijiMail (各自の大学アカウント) から直接メールしてください。  
ri02017@meiji.ac.jp

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICT統計解析I	井田 正道

●授業の概要・到達目標

「ICT 統計解析」は、現実を数字に置き換えて真実を明らかにしようという、実証科学の方法論を実習する科目である。本講座では、主として集計データの分析を通じて基礎的な記述統計や統計解析手法を学び、適切なグラフの作成などについても学ぶ。使用するソフトウェアは Microsoft Excel。量的データの処理を行う。初歩から始め、最終的には「ビジネス統計スペシャリスト検定 エクセルベーシック」をパスするレベルにもっていくことを一応の目標とする。

●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション  
本授業の進め方
- [第 2 回] データの種類  
量的データと質的データ  
集計データとローデータ  
全数データと標本データ
- [第 3 回] データの種類と分析手法  
サンプリング  
点推定と区間推定 など
- [第 4 回] 基礎統計量  
平均値、中央値、最頻値、レンジ、など
- [第 5 回] 基礎統計量  
質的データの度数分布表の作成、クロス集計表の作成
- [第 6 回] 基礎統計量と外れ値の検出  
量的データの度数分布表の作成、外れ値の検出
- [第 7 回] データのバラツキに関する指標  
平均偏差、偏差の平方和、分散、標準偏差
- [第 8 回] 各データの相対的位置についての把握  
上位値、下位値、四分位、パーセンタイル、データの並べ替え  
ランク、パーセントランク、データの標準化、偏差値
- [第 9 回] 統計的検定  
平均値の差の検定、分散の検定、カイ二乗検定
- [第 10 回] 2変量間の関係性を探る (1)  
共分散、相関分析、散布図
- [第 11 回] 2変量間の関係性を探る (2)  
回帰分析、重相関係数、近似曲線、外れ値を外した回帰分析、予測値
- [第 12 回] 因果関係型の変量解析  
重回帰分析
- [第 13 回] 発表  
各自の関心で収集したデータの分析結果を発表。
- [第 14 回] 報告書作成  
受講生が集めたデータの分析を行い、報告書を作成する。

●履修上の注意

授業進行に影響を及ぼすので遅刻をしないこと。

●準備学習(予習・復習等)の内容

復習をしっかりすること。

●教科書

特になし。

●参考書

『Excel 統計解析』 日花弘子 (SB Creative)  
『政治・社会意識の現在』 井田正道 (北樹出版)  
『Excel で学ぶビジネスデータ分析の基礎』 玄場公規 他 (オデッセイコミュニケーションズ)

●課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックを行う。

●成績評価の方法

平常点(授業中の態度) (40%)、発表 (30%)、レポート (30%)

●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICT統計解析II	井田 正道

●授業の概要・到達目標

本講座では、集計データおよび社会調査(意識調査)のローデータ(個票データ)を使用し、様々な統計解析手法を紹介し、分析を行う。量的データのみならず、質的データの分析を行い、記述統計、2変量間の分析、および多変量解析を行う。Microsoft Excel および統計解析ソフト SPSS を使用する。最初の段階では SPSS におけるデータの入力、リコード、変数名の付与などについて学ぶ。また、質的データを分析する際には、データの再作成が必要とされる場合が多いことから、どのようにデータ化するかについても学ぶ。到達目標は、集計データおよびアンケートデータを多変量解析を用いた分析を行えるレベルに持っていくことである。

●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション
- [第 2 回] 単純集計と基礎統計量、ヒストグラム
- [第 3 回] データビュー、変数ビューの作成。データのリコード
- [第 4 回] クロス集計  
個票データのクロス集計、連関係数、カイ二乗検定
- [第 5 回] 順序データの相関分析  
順序データへのリコード、スピアマンのロー、ノンパラメトリック検定
- [第 6 回] 相関分析  
ピアソンの積率相関係数、偏相関分析、相関比、無相関検定
- [第 7 回] 単回帰分析と推定値
- [第 8 回] 多変量解析 (1)  
重回帰分析および共線性の診断
- [第 9 回] 多変量解析 (2)  
ダミー変数を用いた重回帰分析
- [第 10 回] 多変量解析 (3)  
主成分分析、クラスター分析
- [第 11 回] 多変量解析 (4)  
ロジスティック回帰分析
- [第 12 回] まとめ
- [第 13 回] 発表
- [第 14 回] レポート作成に関するアドバイス

●履修上の注意

授業進行に影響を及ぼすので遅刻をしないこと。

●準備学習(予習・復習等)の内容

復習をしっかりすること。

●教科書

使用しない。

●参考書

『SPSS による多変量解析』 村瀬洋一他 (オーム社)  
『SPSS による多変量データ解析の手順』 石村貞夫 (東京図書)  
『Excel で学ぶ統計解析入門』 菅民郎 (オーム社)  
『アンケート調査と統計解析がわかる本』 酒井隆 (日本能率協会マネジメントセンター)

●課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックを行う。

●成績評価の方法

平常点(授業中の態度) (40%)、発表 (30%)、レポート (30%)

●その他

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICT統計解析I [M]	小久保 秀之

●授業の概要・到達目標

到達目標  
現代社会におけるデータ・AI 応用の基礎として、統計解析・データ解析の考え方を身に付ける。

概要  
現代は、インターネットを通じて様々なデータが入手できるだけでなく、それを AI 分析など様々な手法で分析・活用できる時代です。しかし、入手したデータや分析結果の意味を理解するには、統計・データ解析の考え方を身に付けておく必要があります。この授業は主として Excel を使った実習を交えた統計解析・データ解析の入門で、初学者を対象とします。

●授業内容

- [第 1 回] さまざまな種類のデータ、統計的確率・数学的確率・主観的確率 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 2 回] 集団の代表値 (平均値、中央値、最頻値) [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 3 回] 大数の法則、一様分布、酔歩運動、正規分布 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 4 回] 仮説検定法: 確率的判断、t 検定、Welch 検定、1 対比較 t 検定 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 5 回] カイ 2 乗検定、F 検定、分散分析 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 6 回] データ解析演習 (1) [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 7 回] データのばらつきと信頼区間 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 8 回] 回帰分析、相関係数 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 9 回] データ解析演習 (2) [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 10 回] データ解析演習 (3) [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 11 回] 相関係数 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 12 回] 正規乱数、ポアソン分布、指数分布 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 13 回] 対数正規分布、べき乗分布 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 14 回] 時系列データの平滑化 (移動平均と LPF) [メディア授業: オンデマンド型]

●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講します。授業はすべて、講義動画を Oh-olMeiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。講義動画は原則、授業日の朝 8 時までに Oh-olMeiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。プリント資料の閲覧で出席確認とするので、動画だけでなく、プリント資料を必ず閲覧してください。また、適宜、小課題を出題します。小課題があった場合は Oh-olMeiji で提出してください。教員への質問・相談窓口として、授業時間に Zoom によるオンライン会議を開催しますが、その時間帯以外はメールで質問してください。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

授業資料は Oh-olMeiji に掲載します。プリント資料で事前に学習してから動画を視聴してください。

●教科書

『サイコロと Excel で体感する統計解析』、石川幹人、(共立出版)、1997。

●参考書

いずれの参考書も授業で扱う内容の一部にだけ関係します。必要に応じて参照してください。  
『未来をひらく心理学入門』、渡辺恒夫 編著、(八千代出版)、2007  
『実験人間学 第 3 版』、小久保秀之、(DTP 出版)、2020  
『実践的メタ分析入門』、岡田涼・小野寺孝義、(ナカニシヤ出版)、2018  
『統計学入門』、東京大学教養部統計学教室編、(東京大学出版会)、1991。

●課題に対するフィードバックの方法

レポート課題は採点后に総評を Oh-olMeiji で連絡する予定です。

●成績評価の方法

課題 50%、平常点 (授業への貢献、授業への参加度) 50% 対面形式の試験は行いません。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICT統計解析II [M]	小久保 秀之

●授業の概要・到達目標

到達目標  
ベイズ統計の基礎的な考え方を理解する。

授業の概要 [On Demand Type]  
近年、ネットデータの分析や行動経済学、心理学、意思決定など、多方面でベイズ理論が応用されるようになってきました。この授業はベイズ統計の初学者を対象として、できるだけ簡明にベイズ統計の考え方を紹介します。

●授業内容

- [第 1 回] 型にはまらないベイズ統計: ベイズ理論の考え方 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 2 回] 正規分布、ベータ分布、最尤推定法 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 3 回] ベイズの定理と基本公式、事前確率と事後確率 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 4 回] ベイズ更新 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 5 回] ベイズ更新の適用 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 6 回] ベイズフィルター [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 7 回] 最近の話題 - 出口調査 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 8 回] ベイズ統計の基本 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 9 回] 自然な共役分布 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 10 回] 自然な共役分布 - 2 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 11 回] ベイズ推定とベイズ決定 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 12 回] ベイズ決定 - 2 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 13 回] 回帰分析 [メディア授業: オンデマンド型]
- [第 14 回] ベイズ統計の話題 [メディア授業: オンデマンド型]

●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講します。授業はすべて、講義動画を Oh-olMeiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。講義動画は原則、授業日の朝 8 時までに Oh-olMeiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。プリント資料の閲覧で出席確認とするので、動画だけでなく、プリント資料を必ず閲覧してください。また、適宜、小課題を出題します。小課題があった場合は Oh-olMeiji で提出してください。

教員への質問・相談は、授業時間に開催する Zoom によるオンライン会議で受け付けます。

ある程度、Excel が使え、簡単なグラフ作成ができることが望ましいです。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

おおむね教科書の順に従って授業する予定です。教科書と Oh-olMeiji 掲載のプリント資料で学習してからビデオを視聴してください。

●教科書

『Excel でスッキリわかるベイズ統計入門』、涌井良幸・涌井貞美、(日本実業出版社)、2010

●参考書

『図解・ベイズ統計「超」入門』、涌井貞美、(SB クリエイティブ)、2013。  
『道具としてのベイズ統計』、涌井良幸、(日本実業出版社)、2009。  
『ベイズ統計の理論と方法』、渡辺澄夫、(コロナ社)、2012。

●課題に対するフィードバックの方法

レポート課題は採点后に総評を Oh-olMeiji で連絡する予定です。

●成績評価の方法

課題 50%、平常点 (授業への貢献、授業への参加度) 50% 期末の対面試験はありません。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICT統計解析I	開沼 泰隆

●授業の概要・到達目標

ICT 統計解析Iは、現代の情報化社会において必須となるデータサイエンスならびに情報処理に関する知識、スキルを身につけることを目的とした統計解析手法の基礎科目です。データとは何か、また、データから情報を引き出すための技術、さらにはデータの概要を数値やグラフで要約する方法、そしてデータから新たな知見あるいは客観的な意思決定を行うための理論と手法について理解することを目標としています。

●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション
- [第 2 回] データと情報 - 質的・量的データ -
- [第 3 回] データ収集方法とサンプリング
- [第 4 回] データの視覚化
- [第 5 回] データの要約 基本統計量(1) - 中心傾向 -
- [第 6 回] データの要約 基本統計量(2) - ばらつき -
- [第 7 回] 中心極限定理・大数の法則
- [第 8 回] 計量値の分布(1) - 正規分布 -
- [第 9 回] 計量値の分布(2) - t分布、 $\chi^2$ 分布、F分布 -
- [第 10 回] 計数値の分布 - 二項分布、ポアソン分布 -
- [第 11 回] 2変量間の関係
- [第 12 回] 相関と回帰分析
- [第 13 回] 仮説検定と推定
- [第 14 回] データによる意思決定方法のまとめ

●履修上の注意

Excel を使用して演習を行うので、Excel の操作ができることが望ましい。

●準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の講義は前後関係がありますので、予習・復習をしっかりやること。

●教科書

特になし。ハンドアウト資料を配布します。

●参考書

講義中に適宜提示します。

●課題に対するフィードバックの方法

各課題に対しての解説を翌週の講義中に行います。

●成績評価の方法

課題 70%、授業への貢献度(発表など) 20%、平常点 10%。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICT統計解析II	開沼 泰隆

●授業の概要・到達目標

ICT 統計解析IIは、ICT 統計解析Iのアドバンスド科目で、統計的推測および多変量解析法についての知識を身につけることを目的とした科目です。講義内容は、統計的推測や多変量解析の理論の講義と演習を組合わせて、統計的検定・推定及び多変量解析を適切にデータ解析に応用できる力を付けること目標としています。実データをを用いた演習では、社会での実例を題材として、“データを読む、説明する、扱う”といった統計的モデルの構築とその活用法について学習します。

●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション
- [第 2 回] 平均値の検定・推定(1) - 母分散既知の場合 -
- [第 3 回] 平均値の検定・推定(2) - 母分散未知の場合 -
- [第 4 回] 分散の検定・推定
- [第 5 回] 2つの母集団の平均値の検定・推定
- [第 6 回] データに対応がある場合の検定・推定
- [第 7 回] 分散分析(1) - 一元配置 -
- [第 8 回] 分散分析(2) - 二元配置 -
- [第 9 回] 多変量解析(1) - 単回帰と重回帰分析 -
- [第 10 回] 多変量解析(2) - 数量化I類 -
- [第 11 回] 多変量解析(3) - タミー変数を用いた重回帰分析 -
- [第 12 回] 多変量解析(4) - 主成分分析 -
- [第 13 回] 多変量解析(5) - 数量化III類 -
- [第 14 回] 統計モデルによる意思決定方法のまとめ

●履修上の注意

基礎科目の「ICT 統計解析I(開沼担当)」を履修済であることが望ましい。

●準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の講義は前後関係がありますので、予習・復習をしっかりやること。

●教科書

特になし。ハンドアウト資料を配布します。

●参考書

講義中に適宜提示します。

●課題に対するフィードバックの方法

各課題に対しての解説を翌週の講義中に行います。

●成績評価の方法

課題 70%、授業への貢献度(発表など) 20%、平常点 10%。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICT統計解析I (M)	野口 喜洋

### ●授業の概要・到達目標

統計学と統計解析は、文科系の学問と理科系の学問の接点です。実験結果だけでなく、社会現象を正しく把握したり、外部からの情報を批判的に評価できるためにも、統計分析の基礎を理解していなくてはなりません。  
ICT統計解析Iでは、Excelを活用して演習中心の授業を行い、データ分析や統計解析の基礎的な概念や手法を学びます。  
この授業の到達目標は、つぎの知識およびスキルを身につけることです。

- 1) 統計解析の原理を理解する。
- 2) Excelを用いてデータ処理や統計解析ができる。
- 3) 統計解析の結果を正しく読み取り解釈できる。
- 4) 報道される調査結果などを見て [b] 統計的に有意か / [b] 判定できる。

### ●授業内容

[第1回]	aのみ:イントロダクション (統計解析とは) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第2回]	表計算ソフト Excelのおさらい (数式や関数の利用) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第3回]	記述統計の概要 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第4回]	度数分布表とヒストグラム [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第5回]	平均、分散など [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第6回]	二変量解析の基本 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第7回]	相関と回帰 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第8回]	課題レポート1:記述統計 (一変量解析、二変量解析) の小テスト [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第9回]	確率変数と確率分布 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第10回]	正規分布、二項分布 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第11回]	推測統計の概要、推定 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第12回]	検定 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第13回]	多変量解析の基礎 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第14回]	課題レポート2:推測統計 (推定と検定) の小テスト [メディア授業 (オンデマンド型)]

### ●履修上の注意

この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web 講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-ol Meiji の科目トップページにリンクがある「[授業ポータル](#)」と、そこからリンクされている各回の「授業フォルダ」に配置します。「授業フォルダ」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒しで公開することもありますので、履修者は「何回目の授業か」に注意してください (表の最下行が今回の授業とは異なります)。  
「課題レポート (この科目では2回の小テスト)」の提出は、Oh-ol Meiji のレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。  
各回の授業開始時には、[ZOOM ミーティング \(OOH:オンライン・オフィス・アワー\)](#) を開きますので、後述の案内を見て、参加していただきます。パスワードは「987782」です。ミーティングでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は10分程度です。  
各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時に Oh-ol Meiji の「クラスウェア/出席送信」機能を用いて行います。各回の出席パスワードは、上記「授業ポータル」に記述されています。出席送信の30分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。  
授業時間内の講師や TA さんへの質問・相談は、上記ミーティングの「グループチャット」で行います。TA さんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「画面共有」機能を利用してください。  
授業時間外は、[講師宛のメール](#)で質問してください。回答までに2〜3日かかる場合があります。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

予習として Web 講義資料の該当部分を読んでください。Web 講義資料はページ上下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「授業フォルダ」が公開されていない場合でも、全回分を読むことができます。  
オンデマンド型ビデオ教材もできるだけ前倒しで公開しますので、予習のために利用するか、授業時間前に視聴するのも自由です。ただし、その場合も上記の「OOH:オンライン・オフィス・アワー」には出席してください。  
また、授業中に理解が不十分だったところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用するなどして復習し、理解してください。  
課題レポート (提出物を伴う課題) について、基本的には、授業時間以外の作業は要求しませんが、提出物の作成に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

### ●教科書

「Excel でできるらくらく統計解析 Excel2019/2016・2013/2010&Office365 対応版」 藤本 竜 (自由国民社) ISBN978-4-426-12585-1  
同じ書名で、Excel のバージョンが違うものもありますから、間違えないようにしてください (ISBN を確認すればよい)。  
テキストおよびリファレンスとして授業中常に参照しながら進めますので、必ず購入・持参してください。

### ●参考書

「[授業ポータル](#)」からリンクされている Web 講義資料は、時間の都合などで、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自の PC 画面を最大限活用するために、Web 講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

### ●課題に対するフィードバックの方法

提出された「課題レポート」については、各回の「授業フォルダ」を用いたファイル共有や、「連絡会 (OOH)」内の「グループチャット」「画面共有」などを用いてフィードバックを返すことがあります。

### ●成績評価の方法

平常点 (授業への参加度および貢献度) 50%、課題レポート 50%。  
部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくださいれば、出席扱いにしています。  
課題レポートの提出は Oh-ol Meiji の「クラスウェア/レポート」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。  
この授業では、定期試験は行いません。

### ●その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、Web 講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴したりして、次回までにキャッチアップ (他の履修者のレベルに追いつく) してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「準備学習 (予習・復習等) の内容」欄に示した方法で予習・復習するのと、内容的には同じです。

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICT統計解析II (M)	野口 喜洋

### ●授業の概要・到達目標

ICT 統計解析 I の授業では、[b] 表計算ソフト Excel [b] を用いて、統計解析の基礎である記述統計と推測統計を学びました。Excel は手軽に使えるアプリであり、統計解析で必要となる「プログラミング」と「データフレーム」をワークシートという形式に具備しているため、基礎の学習には向いています。しかし本質的にはプログラミングであるにもかかわらず、プログラムがワークシートに密結合しているため、統計操作の手順が切り離せず、再利用や、さらなる応用がしにくい欠点があります。  
そこでこの授業では、汎用のスクリプト形プログラミング言語 python と、データフレームを実現するライブラリ pandas (および numpy) を用いて、さまざまな種類のデータを自在に解析・図示 (グラフ化) する手法を学びます。  
受講後は、社会のさまざまな現象をデータ解析を駆使して読み解く「データサイエンティスト」の入口に立てるほか、プログラミングの基礎が身につくメリットもあります。  
この授業の到達目標は、つぎの知識およびスキルを身につけることです。

- 1) 統計解析の各種手法をプログラムとして表現できる。
- 2) 多変量解析など、より進んだ内容が理解・応用できる。
- 3) python による基礎的な数値解析プログラミングができる。
- 4) pandas (および numpy) を用いた統計データの操作ができる。
- 5) matplotlib を用いた解析結果のグラフ化ができる。

### ●授業内容

[第1回]	aのみ:イントロダクション (データサイエンティストになろう)、PC 環境の準備 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第2回]	python の基礎 (1) 初めてのプログラム、変数の使い方 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第3回]	python の基礎 (2) 条件分岐と反復処理 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第4回]	python の基礎 (3) リストとタプル [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第5回]	numpy と pandas 配列・データフレーム・グラフ [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第6回]	データの整理 (1 次元・2 次元) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第7回]	課題レポート1:記述統計 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第8回]	推測統計の基本 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第9回]	離散型確率変数と確率分布 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第10回]	連続型確率変数と確率分布 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第11回]	推定 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第12回]	仮説検定 [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第13回]	回帰分析 (単回帰・重回帰) [メディア授業 (オンデマンド型)]
[第14回]	課題レポート2:推測統計 [メディア授業 (オンデマンド型)]

### ●履修上の注意

この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web 講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-ol Meiji の科目トップページにリンクがある「[授業ポータル](#)」と、そこからリンクされている各回の「授業フォルダ」に配置します。「授業フォルダ」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒しで公開することもありますので、履修者は「何回目の授業か」に注意してください (表の最下行が今回の授業とは異なります)。  
「課題レポート (この科目では2回の小テスト)」の提出は、Oh-ol Meiji のレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。  
各回の授業開始時には、[ZOOM ミーティング \(OOH:オンライン・オフィス・アワー\)](#) を開きますので、後述の案内を見て、参加していただきます。パスワードは「987782」です。ミーティングでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は10分程度です。  
各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時に Oh-ol Meiji の「クラスウェア/出席送信」機能を用いて行います。各回の出席パスワードは、上記「授業ポータル」に記述されています。出席送信の30分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。  
授業時間内の講師や TA さんへの質問・相談は、上記ミーティングの「グループチャット」で行います。TA さんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「画面共有」機能を利用してください。  
授業時間外は、[講師宛のメール](#)で質問してください。回答までに2〜3日かかる場合があります。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

予習として Web 講義資料の該当部分を読んでください。Web 講義資料はページ上下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「授業フォルダ」が公開されていない場合でも、全回分を読むことができます。オンデマンド型ビデオ教材 (各分野の「フィールドサマリー」を収録している) を視聴する必要はありません。  
また、授業中に理解が不十分だったところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用するなどして復習し、理解してください。  
課題レポート (提出物を伴う課題) について、基本的には、授業時間以外の作業は要求しませんが、提出物の作成に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

### ●教科書

「Python で理解する統計解析の基礎」 谷合廣紀 (技術評論社) ISBN978-4-297-10049-0  
テキストおよびリファレンスとして、常に参照しながら進めますので、必ず購入してください。

### ●参考書

「[授業ポータル](#)」からリンクされている Web 講義資料は、時間の都合などで、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自の PC 画面を最大限活用するために、Web 講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

### ●課題に対するフィードバックの方法

提出された「課題レポート」については、各回の「授業フォルダ」を用いたファイル共有や、「連絡会 (OOH)」内の「グループチャット」「画面共有」などを用いてフィードバックを返すことがあります。

### ●成績評価の方法

平常点 (授業への参加度および貢献度) 50%、課題レポート 50%。  
部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくださいれば、出席扱いにしています。  
課題レポートの提出は Oh-ol Meiji の「クラスウェア/レポート」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。  
この授業では、定期試験は行いません。

### ●その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、Web 講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴したりして、次回までにキャッチアップ (他の履修者のレベルに追いつく) してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「準備学習 (予習・復習等) の内容」欄に示した方法で予習・復習するのと、内容的には同じです。



科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICT統計解析I	橋本 政樹

●授業の概要・到達目標

「情報を活かそう、新たな情報を発見しよう」

表計算ソフト Excel、統計解析ソフト SPSS を利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集、編集、分析、表現する方法を学習する。

ここでは主に、スポーツ・生活データの分析とバーチャル株式投資を中心にして、Excel の専門的な操作技法を習得し、

実際のデータを統計的に扱う意味とその方法を理解する。

●授業内容

[第 1 回] インTRODクシヨン  
本講座の目的・内容、課題等について説明し、統計分析の意義を考える。

[第 2 回] Excel の基本操作 1  
データの入力表示の確認、グラフの作成・編集方法を復習する。

[第 3 回] Excel の基本操作 2  
計算方法の復習として、簡単な資産管理(リスクとリターン、ポートフォリオ)を試みる。

[第 4 回] データの収集・整理  
様々なデータ収集法と、データの種類および整理の仕方を学ぶ。

[第 5 回] グラフと表の作成  
世界統計を用いて、度数分布表・ヒストグラム・散布図を作成し、データの特徴を図表で把握する。

[第 6 回] データの代表値・散布度  
平均値・標準偏差等の数値尺度を理解し、グラフ化したデータの特徴を数値で把握する。

[第 7 回] データの標準化  
桁数や種類の異なるデータを比較可能にして、偏差値も求める。

[第 8 回] 質的データの処理  
ピボットテーブルを用いて、クロス集計し、質的データの特徴をみる。

[第 9 回] 従来の統計学の考え方  
ビギナズラックの原理、実験の偏り等を通じて従来の統計学の概要を学ぶ。

[第 10 回] 相関分析  
経済指数や相性診断データを用いて、相関係数を求め、データ間の関連を見つける。

[第 11 回] 回帰分析  
各変数・係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。

[第 12 回] 多項式・ロジスティック回帰分析  
2 次関数や対数関数により、経済や生活のデータの非線形の回帰式を求める。

[第 13 回] VBA を用いた分析 1  
マクロ機能の VBA を使って、オリジナル関数によるデータ分析を行う。

[第 14 回] VBA を用いた分析 2  
企業の財務データを用いて、簡単なプログラムによる投資予測を行う。

●履修上の注意

・課題の提出  
・分析結果の発表

●準備学習(予習・復習等)の内容

各自席に着いたら、PC を操作しながら、前回の実習内容を復習すること。

●教科書

プリントおよび WEB 教材を使用する。  
(東京証券取引所の金融・証券教育支援センターの資料を配布する)

●参考書

適宜紹介する。  
(参考 URL: <https://www.toranoko.net/tokei>)

●課題に対するフィードバックの方法

課題発表による出席者とのコミュニケーション(質問・意見交換)を通して、多くの視点からの批評を体感する。

●成績評価の方法

課題レポート 40%、授業態度 30%、小テスト 30% の割合で成績評価を行う。  
期末の定期試験は行わない。

●その他

就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICT統計解析II	橋本 政樹

●授業の概要・到達目標

「大量のデータの山から、情報の鉱石を掘り起こそう」

表計算ソフト Excel、統計解析ソフト SPSS を利用して、社会調査や経済・投資分野のデータマイニングの実習を行う。

データマイニングの意義を理解し、社会に散在する様々なデータの収集・編集から、分析・知識発見、

そしてそれらを創造的にプレゼンテーションするまでの、統計的な分析手順を学習する。

●授業内容

[第 1 回] SPSS の基本的操作 1  
SPSS を立ち上げ、簡単なデータの入力と保存のやり方を学ぶ。

[第 2 回] SPSS の基本的操作 2  
ファイル機能を活用して、データの読み込みやファイルのコピー・結合・分割のやり方を学ぶ。

[第 3 回] データマイニングの意義  
社会に散在する大量のデータから、価値ある情報を掘り起こす処理技術の概要を理解する。

[第 4 回] データの収集と編集  
様々なデータ収集法と、データの種類およびそれらの整理の仕方を学ぶ。

[第 5 回] データの特徴 1  
世界統計データを用いて、分布表・ヒストグラムを作成し、データの特徴を図表で把握する。

[第 6 回] データの特等 2  
世界統計データを用いて、平均値・標準偏差の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。

[第 7 回] 相関分析  
経済指数や相性診断データを用いて、共相関係数を求め、データ間の関連を見つける。

[第 8 回] 回帰分析  
単回帰、重回帰、多項式回帰、ロジスティック回帰、各分析のやり方と特性を学習する。

[第 9 回] 質的データの処理  
生活アンケートデータを用いて、クロス集計表を作成し、質的データの特徴を抽出する。

[第 10 回] アンケートの作成  
キャンパスライフをテーマとしたオリジナル・アンケートを作成する。

[第 11 回] アンケートの実施と収集  
Google フォームを用いて、WEB アンケートをとり、収集・編集する過程を学ぶ。

[第 12 回] 判別分析とクラスター分析  
アンケート・データを用いて、2 者択一判断、階層クラスターによるグループ分けを試みる。

[第 13 回] 因子分析と主成分分析  
アンケート・データを用いて、共通の因子を見つけ、成分比較する。

[第 14 回] アンケート分析結果の発表  
各自分析したキャンパスライフ・アンケート結果を発表する。

●履修上の注意

・課題の提出  
・分析結果の発表

●準備学習(予習・復習等)の内容

各自席に着いたら、PC を操作しながら、前回の実習内容を復習すること。

●教科書

プリントおよび WEB 教材を使用する。

●参考書

適宜紹介する。  
(参考 URL: <https://www.toranoko.net/tokei>)

●課題に対するフィードバックの方法

課題発表による出席者とのコミュニケーション(質問・意見交換)を通して、多くの視点からの批評を体感する。

●成績評価の方法

課題レポート 40%、授業態度 30%、小テスト 30% の割合で成績評価を行う。  
期末の定期試験は行わない。

●その他

将来の仕事やネットワーク、資格取得、起業などを真剣に考える人に、有用な課題を心掛けています。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICT統計解析 I	龍前 三郎

### ●授業の概要・到達目標

<p><b>【授業の概要】</b>          大学生である皆さんには、世の中の様々な問題に対して、豊富な知識に基づく『科学的』解決能力を身につけることが期待されています。一方で、現在は ICT 技術の活用によって、多種多様に膨大な量の情報が利用できている状況になっており、これからの社会においては、問題解決にこれらの情報を活かすデータサイエンスの素養が必須とされています。</p> <p>この授業ではデータサイエンスにおいて、『問題の発見・発掘』や『問題定義』のための主要な方法論である『データ解析』について、その意味・意義と基礎概念を解説します。また、データ解析の実践手法である統計解析およびデータマイニングについて解説と共に演習を行い、解析目的に応じて適切な手法を選択し実践できる力を習得していただきます。</p> <p><b>【到達目標】</b>          主な到達目標は、以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問題解決におけるデータサイエンスの意味・意義と主要な方法論の概要を理解する</li> <li>2) 解析の対象となるデータの適切な表現(数値表現における測定・尺度・標準化など)を理解する</li> <li>3) 統計的データ解析の役割を理解する</li> <li>4) 記述統計手法である「集計」と「統計量」を理解し実践できる</li> <li>5) 推測統計の考え方とその基礎である確率論の基礎を理解する</li> <li>6) 標本データから母集団統計量の推定を行うことができる</li> <li>7) 母集団分布に関する各種の仮説検定を行うことができる</li> <li>8) データマイニングの考え方を理解し代表的な手法を実践できる</li> </ol>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●授業内容

[第 1 回]	データサイエンス(数理的なデータ活用)の意味・意義と問題解決の流れ
[第 2 回]	現象の数値表現とデータの適切な取り扱い
[第 3 回]	データの分布の特徴を知る(集計と統計量)
[第 4 回]	データにおける値のばらつき(分布)をどう見るか(母集団と標本、確率分布と確率事象、標本抽出の確率シミュレーション)
[第 5 回]	推測統計の考え方(母集団分布と標本統計量の分布、信頼係数と確率的言明、仮説検定の考え方、検定の有意水準)
[第 6 回]	母集団の分布に関する統計量の推定と検定(不偏統計量、区間推定、母集団統計量の仮説検定)
[第 7 回]	集計表からのノンパラメトリック仮説検定(適合度カイ2乗検定、独立性のカイ2乗検定)
[第 8 回]	2つの集団の分布の相同性に関する仮説検定(等分散性 F 検定、平均値の差の t 検定)
[第 9 回]	目的(量的)変数に対する他の(質的)変数の影響の有無を判定する(分散分析 F 検定)
[第 10 回]	データマイニングの考え方と解析の流れ
[第 11 回]	変数の間の関係を関数モデルで表す(回帰分析)
[第 12 回]	分類構造の発見(クラスター分析、判別分析)
[第 13 回]	多変量データを集約する(主成分分析、因子分析)
[第 14 回]	変数間の関係の発見(アソシエーション分析)

### ●履修上の注意

<p>事前の知識は不要ですが、Excel の基本的な操作には慣れておく必要があります。また、授業中の説明は、配布資料や参考書籍等を理解するための基本事項を、わかり易く解説するものですので、各自しっかりノートを取ってください。</p> <p>授業に使用する資料は電子データで閲覧できますので、ノートとともに予習や復習に利用してください。また、授業で解説・例題演習したデータ解析手法は、授業後に課題演習によって各自の実践力がつくように復習してください。</p> <p>なお、授業の一部で使用する統計分析ソフト R はオープンソフトウェア(無償で使用できる)です。Excel で演習した各種の統計解析にも使用できるため、多くの場面で推奨されています。自身が所有する PC でも使用できるようにすることをお勧めします。インストール方法は授業中に解説します。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

[予習] 事前提示資料をよく読んで、授業の概要を理解しておいてください。
[復習] ノートなどを参照しながら理解を深めてください。また、授業で演習を行ったデータ解析手法についての課題を行うと共に、各自さまざまな情報源からデータを取得して練習してください。

### ●教科書

使用しません。Oh-olMeiji に資料を提示します。
------------------------------

### ●参考書

『入門 統計学-検定から多変量解析・実験計画法まで(第2版)』、栗原伸一著、(オーム社)、2021、\2,860
----------------------------------------------------------

### ●課題に対するフィードバックの方法

各自、課題実施結果を保存しておいてください。課題提出期限後に Oh-olMeiji クラスウェブに課題の実施例を配布するとともに、必要な場合は授業中に実施例を解説しますので、自身の結果と比較することで理解を深めてください。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●成績評価の方法

授業中および授業後に課す演習課題の成果 100% で評価します。
----------------------------------

### ●その他

出欠確認や授業に関する連絡等に Oh-ol Meiji クラスウェブを使用します。個別の質問などは、下記アドレス宛に『Meiji Mail (各自の大学メールアドレス)』から直接メールしてください。ri02017@meiji.ac.jp
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICT統計解析 II	龍前 三郎

### ●授業の概要・到達目標

<p><b>【授業の概要】</b>          さまざまな現象の理解や問題解決、計画の立案などにおいて、数理的な考え方や手法を効果的に利用できるようにするための基礎知識を習得します。なお、受講生の分野を考慮し、社会科学・人文科学系の事例を多く取り上げて、数理的取り扱いのコツと効果をわかりやすく解説します。</p> <p><b>【到達目標】</b>          主な達成目標は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現象の数理的な取り扱いの意味・意義と特徴について理解する</li> <li>2) 現象の数理的表現(数値モデリング)の構築と活用(解析やシミュレーション)に関する基本的な考え方を理解する</li> <li>3) さまざまな数理体系の特徴を理解し、現実の問題解決に適切に適用できる             <ul style="list-style-type: none"> <li>・現象の構成要素を表現する(集合)</li> <li>・構成要素間の関係を表現する(関係構造、代数構造、位相構造)</li> <li>・量を表現する(変数、定数、行列など)</li> <li>・量の間の関係を表現する(等式と不等式、関数 など)</li> <li>・変化を表現する(差分方程式、微分方程式)</li> <li>・不確実性を表現する(確率論、ファジイ理論)</li> <li>・機能を表現する(システム理論、オートマトン)</li> <li>・合理的な思考のプロセスを表現する(論理)</li> <li>・知識(規則・ルール)の獲得を表現する(学習システム)</li> <li>・選択、決定、計画立案状況を表現する(意思決定理論)</li> <li>・社会現象を表現する(マルチエージェントシステム)</li> </ul> </li> </ol>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●授業内容

[第 1 回]	現象の数理的表現(数値モデル)のタイプ、特徴と役割、数値モデルの構築と活用プロセス
[第 2 回]	現象の枠組み(問題状況の範囲)と構成要素を表現する(集合)
[第 3 回]	観察対象間のさまざまな「関係」を表現する(数学的構造)
[第 4 回]	対象の状態(量)を表現する(変数、定数、次元、行列とベクトル)
[第 5 回]	対象の状態(量)の関係のモデル(等式と不等式、関数、代数方程式) MATLAB (simlink) の使用法と演習
[第 6 回]	対象の状態(量)の変化のモデル(時系列、差分・微分方程式)
[第 7 回]	状態の不確実性・不確実性のモデル(確率、ファジイ)
[第 8 回]	状態を変化させる働き(機能)のモデル(グラフ理論、状態遷移機械、オートマトン)
[第 9 回]	合理的な体系と思考過程のモデル(論理、推論) Prolog による論理プログラミング演習
[第 10 回]	人工知能(AI)の基盤となる知識獲得のモデル(学習) AI プラットフォームの利用法演習
[第 11 回]	個の集団としての社会現象のモデル(マルチエージェントシステム) artisoc によるシミュレーション演習
[第 12 回]	最適な決定を行う状況のモデル(数値計画、最適化理論)
[第 13 回]	計画立案および計画の運用・管理のモデル(スケジューリング)
[第 14 回]	主体の意思決定状況のモデル(意思決定、決定支援、ゲーム理論)

### ●履修上の注意

<p>特に高度な予備知識は必要ありませんが、現象を記号によって表現するため、高等学校 1 年生程度の数学的知識があると良いでしょう。教科書を使用しませんので、ノートをとるようにしてください。また、事例によってはコンピュータを用いた演習を行いますので、基本的な操作および Excel 等の基本的ソフトの使用には慣れておいてください。</p> <p>授業に使用する資料は電子データで閲覧できますので、各回の内容を事前に読んでください。また、授業で解説した内容に関する演習課題を課すことがあります。必ず実施して授業内容を再確認するようにしてください。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

[予習] 資料や参考書を読んで、授業の概要を理解しておいてください。
[復習] 例題や課題によって授業で解説した内容を確認すると共に、各自で授業に関連する事項・情報を自主的かつ積極的に吸収してください。

### ●教科書

使用しません。資料を Oh-olMeiji クラスウェブに提示します。
-------------------------------------

### ●参考書

<ul style="list-style-type: none"> <li>・『数値モデル』、江崎貴裕 著、(ソシム株式会社)、2020、¥2,860</li> <li>・『思想の中の数学的構造』(文庫版)、山下正男 著、(ちくま学芸文庫)、2006、¥1,540</li> <li>・『理性の限界』、高橋昌一郎 著、(講談社現代新書)、2008、¥880</li> <li>・『なめらかな社会とその敵』(文庫版)、鈴木健 著、(ちくま学芸文庫)、2022、¥1,540</li> <li>・『社会を数値で読み解く』、盛山和夫 編著、(有斐閣)、2015、¥3,080</li> <li>・『社会シミュレーション』、(東京電機大学出版局)、2017、¥1,980</li> <li>・『科学とモデル』、マイケル・ワイスバーグ、(名古屋大学出版会)、2017、¥4,950</li> <li>・『その問題 数値モデルが解決します』、浜田宏 著、(ベレ出版)、2018、¥2,090</li> <li>・『新しいデータサイエンスの教科書』、岩崎学 著、(東洋社)、2019、¥2,420</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施する課題は演習後に解説します。期末レポートは Oh-olMeiji クラスウェブの「レポート」に、提出者個別のコメントを送ります。
-------------------------------------------------------------------------

### ●成績評価の方法

1) 自ら設定したテーマの数理的取扱いに関する期末レポート 50%
2) 授業中に実施する演習課題の成果 50% で評価します。

### ●その他

出欠確認や授業に関する連絡等に Oh-olMeiji システムを使用します。個別の質問などは、下記アドレス宛に『Meiji Mail (各自の大学メールアドレス)』から直接メールしてください。ri02017@meiji.ac.jp データサイエンスについて、あるいは様々な現象の解析に興味を持っていただける、好奇心旺盛な受講生を期待します。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTデータベースⅠ	後藤田 洋伸

### ●授業の概要・到達目標

定期的に蓄積された大量のデータのことを、データベースと呼びます。この授業では、データベースの基礎概念を学びます。また、小規模なものになりますが、実際にデータベースを構築してみます。

大量のデータを管理する時には、データベース管理システム (DBMS) と呼ばれるソフトウェアを用いると便利です。この授業では、まずデータベース管理システムの一例として、Access を取り上げ、その基本的な操作方法を学びます。この過程で、データベース分野で使われている専門用語に触れ、その背景にある基礎概念を理解していきます。続いて、SQL と呼ばれるデータ操作言語をマスターします。これは、数多くのデータベース管理システムで採用されている標準的なデータ操作言語で、簡単なプログラムを書くことによって、大量のデータに対する処理を可能にします。学期の終盤には、Access 以外のデータベース管理システムとして MySQL を紹介します。MySQL は、オープンソースのデータベース管理システムでありながら、実用的なシステムとして広く使われているもので、その名前の示す通り、SQL が利用可能です。

最後に、これらの学習成果を踏まえ、各自で設定したテーマに沿って、実際にデータを収集し、データベースを構築します。

#### [到達目標]

- ・データベース分野で使われている基本的な専門用語が分かる。
- ・Access を使って、データベースを構築できる。また、SQL を使ってデータの処理ができる。
- ・SQL が、様々なデータベース管理システムの共通の基盤になっていることを、理解している。

### ●授業内容

- [第 1 回] 授業の概要や到達目標を説明し、成績評価の方法を提示します。
- [第 2 回] データベースやデータベース管理システム (DBMS) について学びます。
- [第 3 回] DBMS の一例として Access を紹介します。Access を使ってテーブルの作成やレコードの入力を行います。
- [第 4 回] 問い合わせについて学びます。また、レコード検索などの問い合わせを行いません。
- [第 5 回] 複数のテーブルにまたがる問い合わせに取り組みます。
- [第 6 回] キーやリレーションシップという概念を学び、スキーマ設計に活かします。
- [第 7 回] 具体的な事例を通してスキーマ設計についてさらに深く学びます。
- [第 8 回] SQL という問い合わせ言語 (データ操作言語) を紹介します。
- [第 9 回] SQL の演算子について掘り下げ、問い合わせのバリエーションを増やします。
- [第 10 回] SQL でテーブルを結合する方法について学び、複雑な問い合わせが実行できるようにします。
- [第 11 回] 集計演算やサブクエリについて学び、さらに複雑な問い合わせを SQL で実現します。
- [第 12 回] Access 以外の DBMS として MySQL を紹介します。MySQL と Access の共通点や相違点を確認します。
- [第 13 回] これまでに得た知識を踏まえて、各自で独自のテーマを設定し、データベースの構築に取り組みます。
- [第 14 回] 構築したデータベースの概要をまとめ、利用方法等を記したレポートを作成します。

### ●履修上の注意

この授業では、主に Microsoft Access を使いながら授業を進めていきます。Access は有償のソフトウェアで、教室のパソコンで利用できます。自宅でも Access を動かしてみたいという方は、Windows PC をご用意の上、Office365ProPlus をインストールするなどして下さい。Windows PC をお持ちでない方は、生田仮想デスクトップ PC を利用すると、学内の Windows 環境をオンラインで利用できるそうです。詳しくは案内のページをご覧ください。

学期の終盤に一度だけ MySQL に触れてみる機会を設けます。MySQL は、Windows や Mac など様々な種類のパソコンの上で動きます。ここでは「体験する」ことが主な目的なので、自宅のパソコンにまで MySQL をインストールしたりする必要はありません。ただし、必要な方には、インストールの方法等、情報の提供を行います。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

講義資料はすべてクラスウェブで公開します。授業を欠席した場合には、資料をよく読み、授業内容をフォローするようにしてください。予習は基本的に必要ありません。

### ●教科書

教科書の指定はありません。

### ●参考書

参考になる書籍や Web ページなどについては、授業中に適宜紹介します。

### ●課題に対するフィードバックの方法

この授業で出される「課題」には、最終回の授業で提示される学期末の課題と、それよりも前に提示される演習問題があります。このうち、演習問題への回答に対しては、改善点を指摘するなどのフィードバックを返します。演習問題は全員ができるようになることを目指すものです。フィードバックに基づいて、回答を修正し再提出することも可能です。

学期末の課題に対するレポートへのフィードバックは、休業期間中に行われるということも考慮し、希望者に対してのみ行います。ただし、フィードバックを受けてレポートを再提出することは認められません。

### ●成績評価の方法

指定された課題に対するレポートの評価 (70%) と平常点 (30%) を合算します。レポートの課題は、最終回の授業で提示します。レポートの評価基準も併せて提示しますので、レポートを作成する際にはそちらにもよく目を通すようにしてください。レポートを提出する前に、自己採点をしてみると良いでしょう。

演習問題は全部で 2 問あり、第 8 回授業と第 12 回授業にて、それぞれ 1 問ずつ提示する予定です (授業の進行状況によって、演習問題を出す時期が前後することもあります)。演習問題に対する回答には、フィードバックを返します。フィードバックに基づいて回答を修正し再提出することも可能です。

定期試験は実施しません。

### ●その他

各々の履修生には、全授業回のうち 2 分の 1 以上の授業回に出席することを求めます。2 分の 1 以上の出席は困難であると見込まれる場合には、履修をご遠慮下さい。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTデータベースⅡ	後藤田 洋伸

### ●授業の概要・到達目標

この授業では、データベースの応用例を取り上げます。目録データベースや新聞記事データベースなどのように、「データベース」と明示されている応用例も数多くありますが、検索エンジンや SNS などのように、データベースが裏でシステムを下支えているという例も少なくありません。ここでは、データベースが前面に出てくる例として、Access を用いた見積書作成システムを、データベースが影に隠れている例として、MySQL と Web サーバを用いたオンラインショップを紹介します。

見積書作成システムの構築では、Access の持つフォームやレポートといった機能を活用します。これらの機能は、データベースのエンジン (SQL を処理する中核部分) に対し、利用しやすいインターフェースを付加します。Access を使ったデータベースの構築では、通常のスキーマ設計に加えて、こうしたインターフェースの設計も同時に行うのが一般的です。見積書作成を例にとり、これらの設計を行ってみます。

一方、オンラインショップの構築では、WordPress というソフトウェアを活用します。WordPress は、Web コンテンツの管理を行うソフトウェアで、Web ページ上で様々な操作を行うと、その結果が MySQL データベースに書き込まれるという仕組みを持っています。この WordPress に追加の機能 (プラグイン) を導入すると、オンラインショップを構築することが可能です。実際にオンラインショップを構築しながら、WordPress の中でデータベースがどのような役割を果たしているのかを考察します。

#### [到達目標]

- ・データベースの応用例をいくつか挙示することができる。
- ・Access を用いて、フォームやレポートを含んだデータベースを構築できる。
- ・MySQL や WordPress などを利用して、Web 上にデータベースを構築できる。

### ●授業内容

- [第 1 回] 授業の概要や到達目標を説明し、成績評価の方法を提示します。
- [第 2 回] Access のフォームとレポートの概略を学びます。
- [第 3 回] フォーム/レポートの詳細を学びます。
- [第 4 回] 見積書作成データベースの構築 (全体設計)
- [第 5 回] 見積書作成データベースの構築 (テーブルの作成/レコードの入力)
- [第 6 回] 見積書作成データベースの構築 (フォーム/レポートの作成)
- [第 7 回] 見積書作成データベースの構築 (仕上げ)
- [第 8 回] ここからは、MySQL を用いたデータベースの構築に移ります。最初に、MySQL の特徴を学びます。
- [第 9 回] MySQL データベースに接続可能なアプリケーションを作成してみます。
- [第 10 回] WordPress の概略と活用事例について学びます。また、WordPress を支える要素技術を整理します。
- [第 11 回] WordPress を USB メモリにインストールしてみます。また、初期設定を行います。
- [第 12 回] WordPress を使ってブログを作成してみます。また、種々のカスタマイズも行ってみます。
- [第 13 回] WordPress にショッピングカート機能を導入し、ブログをオンラインショップに衣替えします。
- [第 14 回] WordPress の中でデータベースが果たす役割を調べ、より高度な活用方法を模索します。

### ●履修上の注意

この授業の前半では、Microsoft Access を使いながら授業を進めていきます。Access は有償のソフトウェアで、教室のパソコンで利用できます。自宅でも Access を動かしてみたいという方は、Windows PC をご用意の上、Office365ProPlus をインストールするなどして下さい。Windows PC をお持ちでない方は、生田仮想デスクトップ PC を利用すると、学内の Windows 環境をオンラインで利用できるそうです。詳しくは案内のページをご覧ください。

学期の後半では、MySQL や WordPress などを使用します。これらのソフトウェアは、Windows や Mac など様々な種類のパソコンの上で動きます。ただし、複数のソフトウェアを連携させて動かす必要があるため、USB メモリに専用の環境を構築し、データとソフトをまとめて持ち運べるようにします。自宅に Windows PC をお持ちの方は、USB メモリを PC に挿入することで、教室での作業の続きを自宅でも行えるようになります。一方、Windows PC をお持ちでない方で、自宅でも作業を進めたい方には、自宅学習用の環境構築を個別にサポートします。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

講義資料はすべてクラスウェブで公開します。授業を欠席した場合には、資料をよく読み、授業内容をフォローするようにしてください。予習は基本的に必要ありません。

### ●教科書

教科書の指定はありません。

### ●参考書

参考になる書籍や Web ページなどについては、授業中に適宜紹介します。

### ●課題に対するフィードバックの方法

この授業で出される「課題」には、最終回の授業で提示される学期末の課題と、それよりも前に提示される演習問題があります。このうち、演習問題への回答に対しては、改善点を指摘するなどのフィードバックを返します。演習問題は全員ができるようになることを目指すものです。フィードバックに基づいて、回答を修正し再提出することも可能です。

学期末の課題に対するレポートへのフィードバックは、休業期間中に行われるということも考慮し、希望者に対してのみ行います。ただし、フィードバックを受けてレポートを再提出することは認められません。

### ●成績評価の方法

指定された課題に対するレポートの評価 (50%) と平常点 (50%) を合算します。レポートの課題は、最終回の授業で提示します。レポートの評価基準も併せて提示しますので、レポートを作成する際にはそちらにもよく目を通すようにしてください。レポートを提出する前に、自己採点をしてみると良いでしょう。

平常点は、定期的に出す演習問題への回答状況によって評価します。演習問題は全部で 2 問あり、第 8 回授業と第 12 回授業にて、それぞれ 1 問ずつ提示する予定です (授業の進行状況によって、演習問題を出す時期が前後することもあります)。このうち第 8 回授業で出す演習問題の比重 (35%) は、第 12 回授業で出す演習問題の比重 (15%) に比べて高くなっていますので、注意して下さい。なお、演習問題に対する回答には、フィードバックを返します。フィードバックに基づいて回答を修正し再提出することも可能です。

定期試験は実施しません。

### ●その他

各々の履修生には、全授業回のうち 2 分の 1 以上の授業回に出席することを求めます。2 分の 1 以上の出席は困難であると見込まれる場合には、履修をご遠慮下さい。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTデータベースⅠ	高須 淳宏

### ●授業の概要・到達目標

この授業では、テキストを中心としたデータベースに関する知識を習得するとともに、実習をとおして基本的なテキストデータベース処理技術を身につけることを目的としています。

ICT データベースⅠでは、テキスト情報の収集と作成に焦点をあてて授業を進めます。インターネットと World Wide Web の普及によって、データベースはインターネットと結びつけられるようになりました。例えば、サーチエンジンはインターネットによって構成される世界規模の大規模データベースに対する検索機能を提供している。また、ブログ作成ツールなどの進歩に伴い、私たちは効率的に情報発信できるようになりました。そこで、インターネット上のさまざまな文字情報を効果的に検索する方法、また、インターネット上で情報を発信するための方法について学びます。あわせて、スパム対策やウイルス対策などコンピュータを使って安全に仕事するための技術についても適宜紹介します。

ICT データベースⅠの達成目標は以下のとおりです。

- (1) テキスト情報の基本知識の習得
  - ・テキスト情報がコンピュータの中でどのように処理されているかを理解する
  - ・インターネットの基本的な仕組みやインターネット上で個々のコンピュータやページを指定する方法を理解する
- (2) テキスト情報に関するスキルの習得
  - ・ツールを使って Web ページを作成できる。また、HTML で書かれた Web ページのソースファイルを読む。
  - ・CSS を用いて効果的な Web ページを作れる。

### ●授業内容

- [第 1 回] 開講に当たって：授業の目的、内容、単位取得の条件などについて説明します。
- [第 2 回] コンピュータとネットワーク：コンピュータとインターネットの基本事項
- [第 3 回] 文字情報とコンピュータ：文字コードの説明、ファイルの操作、電子百科事典
- [第 4 回] マークアップ言語とは、ハイパーテキストマークアップ言語 (HTML) の概要
- [第 5 回] ネットワーク・URL とハイパーリンク、HTML 作成実習
- [第 6 回] 文章構造の記述、HTML 作成実習
- [第 7 回] テキスト情報とマルチメディア、HTML 作成実習
- [第 8 回] HTML の総合演習
- [第 9 回] 文書の構造とスタイルの記述、CSS の作成実習
- [第 10 回] スタイルの共有、CSS の作成実習
- [第 11 回] ページ構造とスタイル、CSS の作成実習
- [第 12 回] 情報検索 (1)
- [第 13 回] 情報検索 (2)
- [第 14 回] 情報の整理法

### ●履修上の注意

授業中に作成するファイルのバックアップのための USB フラッシュメモリを準備して下さい。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

PC を使用した演習を行います。コンピュータの基本操作 (フォルダの作成やファイル操作等) は事前に学習してください。また、授業の内容を確認する宿題を出題しますので、復習をしてください。

### ●教科書

ありません。  
授業に関連する資料を、Web で閲覧できるようにします。

### ●参考書

ありません。  
授業に関連する資料を、Web で閲覧できるようにします。

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで質問とフィードバックの時間を設けます。

### ●成績評価の方法

平常点 (授業中の態度・実習への積極的参加) 25%、小課題 25%、レポート 50% で評価します。

### ●その他

ICT データベースの基本知識だけでなく、実習を通して技術をより深く理解することをめざします。そのため、コンピュータを用いた実習の時間を多くとります。コンピュータの基本的な操作はできるものとして授業をすすめていきます。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTデータベースⅡ	高須 淳宏

### ●授業の概要・到達目標

この授業では、データベースに関する知識を習得するとともに、実習をとおして基本的なテキストデータベース処理技術を身につけることを目的としています。Web の検索エンジンや図書館の OPAC のように大規模なテキストデータベースがコンピュータで管理・活用されるようになっていきます。ICT データベースⅡでは、このような大規模システムで使われるデータベースの基本的な知識を学びます。特に、関係データベースで扱われる表形式データをとりあげ、データの管理・検索を行う関係データベース管理システムの基礎について学ぶとともに、データ処理や分析を行うためのプログラムの基礎知識とスキルを演習を通して学びます。

ICT データベースⅡの達成目標は以下のとおりです。

- (1) データベースの基本知識の習得
  - ・関係データベースの基本知識の習得
  - ・表形式データの検索・処理の基本知識の習得
- (2) データ処理に関するスキルの習得
  - ・表形式データを処理するための簡単なプログラム作成
  - ・データベースの基本操作

### ●授業内容

- [第 1 回] 開講にあたって：授業の目的、内容、単位取得の条件などについて説明します。
- [第 2 回] データベースの概要 (1)
- [第 3 回] データベースの概要 (2)・データ操作演習 (プログラムの概要)
- [第 4 回] データベース管理システムの概要 (1)・データ操作演習 (変数)
- [第 5 回] データベース管理システムの概要 (2)・データ操作演習 (変数)
- [第 6 回] データベース管理システムの概要 (3)・データ操作演習 (条件分岐と繰返し)
- [第 7 回] 関係データベースの概要 (1)・データ操作演習 (条件分岐と繰返し)
- [第 8 回] 関係データベースの概要 (2)・データ操作演習 (ファイルの入出力)
- [第 9 回] 関係データベースの概要 (3)・データ操作演習 (ファイルの入出力)
- [第 10 回] データ操作演習 (文字列処理)
- [第 11 回] 表形式データの解析 (1)・データ操作演習 (表形式データの検索)
- [第 12 回] 表形式データの解析 (2)・データ操作演習 (表形式データの検索)
- [第 13 回] 表形式データの解析 (3)・データ操作演習 (表形式データの集計)
- [第 14 回] テキストデータの解析・データ操作演習 (テキストデータの検索・処理)

### ●履修上の注意

授業中に作成するファイルのバックアップのための USB フラッシュメモリ等準備して下さい。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

PC を使用した演習を行います。コンピュータの基本操作 (フォルダの作成やファイル操作等) は事前に学習してください。授業の内容を確認する宿題を出題しますので、復習をしてください。

### ●教科書

ありません。授業に関連する資料を、Oh-olMeiji で閲覧できるようにします。

### ●参考書

ありません。  
授業に関連する資料を、Oh-olMeiji で閲覧できるようにします。

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで質問とフィードバックの時間を設けます。

### ●成績評価の方法

平常点 (授業中の態度・実習への積極的参加) 25%、小課題 25%、レポート 50% で評価します。

### ●その他

ICT データベースの基本知識だけでなく、実習を通して技術をより深く理解することをめざします。そのため、コンピュータを用いた実習の時間を多くとります。コンピュータの基本的な操作はできるものとして授業をすすめていきます。

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICTデータベースI (M)	野口 喜洋

## ●授業の概要・到達目標

研究活動やビジネス活動など知的生産活動の大半は、以下に示す知的生産の4フェーズの組合せからできています。

- 1) 収集・入力
- 2) 加工・処理
- 3) 整理・保存
- 4) 発信・出力

ICT (情報通信技術) の進歩発展はこれらすべてのフェーズに変革をもたらしており、個人の知的生産の方法論は、その時代に利用できる ICT 環境と ICT 要素技術群を視野におさめた上で常に更新・変革されなくてはなりません。データベースは「整理・保存」フェーズのキーテクノロジーですから、ICT データベース I/II を通じて、その実践的なスキルを習得します。

この授業の到達目標は、リレーショナルデータベース管理システム Access を用いて、自分の目的に適ったデータベース・システムを構築・利用できることです。

## ●授業内容

[第1回] aのみ:イントロダクション(データベースとは)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第2回] 数値情報の表現(基数変換、デジタル化)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第3回] テキスト情報の表現(文字コード、デジタル化)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第4回] 単一テーブルの作成1(データベース、データ型、テーブル設計、レコード入力)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第5回] 単一テーブルの作成2(演習:住所録、演習:蔵書管理)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第6回] 単一テーブルの作成3(演習:蔵書管理、演習:付せん)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第7回] 課題レポート1:複数テーブルの作成(発想法チャート)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第8回] テーブルの作成[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第9回] リレーションシップの設定(ロックアップフィールド、リレーションシップウィンドウ)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第10回] クエリの作成1(選択、抽出)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第11回] クエリの作成2(パラメータクエリ、演算)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第12回] フォーム/レポートの作成[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第13回] 課題レポート2:自由テーマによるデータベースI[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第14回] 課題レポート2:実装とテスト[メディア授業(オンデマンド型)]

## ●履修上の注意

**[重要]** 各自が受講に使う PC で、Microsoft 社のデータベース管理システムである Access 2019(またはそれ以降)が利用できることが必要条件です。必然的に、受講環境は Windows PC に限られ、Mac による受講はできません。

この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web 講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-ol Meiji の科目トップページにリンクがある「[授業ポータル](#)」と、そこからリンクされている各回の「[授業フォルダ](#)」に配置します。「[授業フォルダ](#)」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒して公開することもありますので、履修者は「[何回目の授業か](#)」に注意してください(表の最下行が今回の授業とは限りません)。

「課題レポート1(1~2回の授業中に作業する課題)」の提出は、Oh-ol Meiji のレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。

各回の授業開始時には、[ZOOM ミーティング\(OOH:オンライン・オフィス・アワー\)](#)を開きますので、後述の案内を見て、参加してください。パスコードは「987782」です。ミーティングでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は10分程度です。各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時に Oh-ol Meiji の「[クラスウェブ/出席送信](#)」機能を用いて行います。各回の出席パスワードは、上記「[授業ポータル](#)」に記述されています。出席送信の30分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。

授業時間内の講師や TA さんへの質問、相談は、上記ミーティングの「[グループチャット](#)」で行います。TA さんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「[画面共有](#)」機能を利用してください。

授業時間外は、[講師宛のメール](#)で質問してください。回答までに2~3日かかる場合があります。

## ●準備学習(予習・復習等)の内容

予習として Web 講義資料の該当部分を読んでください。Web 講義資料はページ下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「[授業フォルダ](#)」が公開されていなくても、全回分を読むことができます。オンデマンド型ビデオ教材(これらは基本的にメディア授業用です)を視聴する必要はありません。

また、授業中に理解が不十分だったところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用するなどして復習し、理解してください。

課題レポート(提出物を伴う課題)について、基本的には、授業時間以外の作業は要求しませんが、提出物の作成に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

## ●教科書

[Access2021 基礎 セミナーテキスト] 日経 BP 社編 (日経 BP 社)  
 ISBN978-4-2960-5042-0  
 同じ書名で「[応用](#)」もあります。また、Access のバージョン違いもありますから、間違えないよう注意してください(ただし、[2019]でも、内容上の違いはほとんどありません。ビデオ教材の中では、一部 [2019] を使用しています)。

第8回~第12回の授業では、テキストおよびリファレンスとして常に参照しますので、必ず購入・持参してください。

## ●参考書

[「\[授業ポータル\]\(#\)」](#) からリンクされている Web 講義資料は、時間の都合などで、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自の PC 画面を最大限活用するために、Web 講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

## ●課題に対するフィードバックの方法

提出された「[課題レポート](#)」については、各回の「[授業フォルダ](#)」を用いたファイル共有や、「[連絡会\(OOH\)](#)」内の「[グループチャット](#)」「[画面共有](#)」などを用いてフィードバックを返すことがあります。

## ●成績評価の方法

平常点(授業への参加度および貢献度)50%、課題レポート50%。  
 部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくださいれば、出席扱いにしています。

課題レポートの提出は Oh-ol Meiji の「[クラスウェブ/レポート](#)」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。

この授業では、定期試験は行いません。

## ●その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、Web 講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴したりして、次回までにキャッチアップ(他の履修者のレベルに追いつく)してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「[準備学習\(予習・復習等\)の内容](#)」欄に示した方法で予習・復習すると、内容的には同じです。

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICTデータベースII (M)	野口 喜洋

## ●授業の概要・到達目標

研究活動やビジネス活動など知的生産活動の大半は、以下に示す知的生産の4フェーズの組合せからできています。

- 1) 収集・入力
- 2) 加工・処理
- 3) 整理・保存
- 4) 発信・出力

ICT (情報通信技術) の進歩発展はこれらすべてのフェーズに変革をもたらしており、個人の知的生産の方法論は、その時代に利用できる ICT 環境と ICT 要素技術群を視野におさめた上で常に更新・変革されなくてはなりません。データベースは「整理・保存」フェーズのキーテクノロジーですから、ICT データベース I/II を通じて、その実践的なスキルを習得します。

この授業の到達目標は、リレーショナルデータベース管理システム Access を用いて、ビジネスレベルのデータベース開発・利用ができることと、Access の利用に限らず、テーブルの正規化や SQL の基礎などリレーショナルデータベースの基礎理論を習得することです。

## ●授業内容

[第1回] aのみ:イントロダクション(実用データベース設計の考え方について)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第2回] テーブルの正規化[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第3回] 課題レポート1:正規化に関する小テスト[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第4回] リレーションシップの詳細(参照整合性、連鎖更新/削除)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第5回] クエリの作成(集計、不一致/重複、アクションクエリ)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第6回] フォームの作成1(メイン/サブフォーム、コンボボックス)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第7回] フォームの作成2(演算コントロール、メイン/サブ連携、動作をとまなうコントロール)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第8回] レポートの作成(グループ集計レポート、メイン/サブレポート)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第9回] マクロの作成[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第10回] 問合せ言語 SQL1(選択・抽出・演算)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第11回] 問合せ言語 SQL2(表の結合、サブクエリ)[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第12回] 課題レポート2:SQLに関する小テスト[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第13回] 課題レポート3:自由テーマによるデータベースII[メディア授業(オンデマンド型)]  
 [第14回] 課題レポート3:実装とテスト[メディア授業(オンデマンド型)]

## ●履修上の注意

**[重要]** 各自が受講に使う PC で、Microsoft 社のデータベース管理システムである Access 2019(またはそれ以降)が利用できることが必要条件です。必然的に、受講環境は Windows PC に限られ、Mac による受講はできません。

この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web 講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-ol Meiji の科目トップページにリンクがある「[授業ポータル](#)」と、そこからリンクされている各回の「[授業フォルダ](#)」に配置します。「[授業フォルダ](#)」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒して公開することもありますので、履修者は「[何回目の授業か](#)」に注意してください(表の最下行が今回の授業とは限りません)。

「課題レポート1(1~2回の授業中に作業する課題)」の提出は、Oh-ol Meiji のレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。

各回の授業開始時には、[ZOOM ミーティング\(OOH:オンライン・オフィス・アワー\)](#)を開きますので、後述の案内を見て、参加してください。パスコードは「987782」です。ミーティングでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は10分程度です。各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時に Oh-ol Meiji の「[クラスウェブ/出席送信](#)」機能を用いて行います。各回の出席パスワードは、上記「[授業ポータル](#)」に記述されています。出席送信の30分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。

授業時間内の講師や TA さんへの質問、相談は、上記ミーティングの「[グループチャット](#)」で行います。TA さんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「[画面共有](#)」機能を利用してください。

授業時間外は、[講師宛のメール](#)で質問してください。回答までに2~3日かかる場合があります。

## ●準備学習(予習・復習等)の内容

予習として Web 講義資料の該当部分を読んでください。Web 講義資料はページ下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「[授業フォルダ](#)」が公開されていなくても、全回分を読むことができます。オンデマンド型ビデオ教材(これらは基本的にメディア授業用です)を視聴する必要はありません。

また、授業中に理解が不十分だったところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用するなどして復習し、理解してください。

課題レポート(提出物を伴う課題)について、基本的には、授業時間以外の作業は要求しませんが、提出物の作成に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

## ●教科書

[Access2021 応用 セミナーテキスト] 日経 BP 社編 (日経 BP 社)  
 ISBN978-4-2960-5049-9  
 同じ書名で「[基礎](#)」もあります。また、Access のバージョン違いもありますから、間違えないよう注意してください(ただし、[2019]でも、内容上の違いはほとんどありません。ビデオ教材の中では、一部 [2019] を使用しています)。

第4回~第9回の授業では、テキストおよびリファレンスとして常に参照しますので、必ず購入・持参してください。

## ●参考書

[「\[授業ポータル\]\(#\)」](#) からリンクされている Web 講義資料は、時間の都合などで、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自の PC 画面を最大限活用するために、Web 講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

## ●課題に対するフィードバックの方法

提出された「[課題レポート](#)」については、各回の「[授業フォルダ](#)」を用いたファイル共有や、「[連絡会\(OOH\)](#)」内の「[グループチャット](#)」「[画面共有](#)」などを用いてフィードバックを返すことがあります。

## ●成績評価の方法

平常点(授業への参加度および貢献度)50%、課題レポート50%。  
 部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくださいれば、出席扱いにしています。

課題レポートの提出は Oh-ol Meiji の「[クラスウェブ/レポート](#)」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。

この授業では、定期試験は行いません。

## ●その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、Web 講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴したりして、次回までにキャッチアップ(他の履修者のレベルに追いつく)してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「[準備学習\(予習・復習等\)の内容](#)」欄に示した方法で予習・復習すると、内容的には同じです。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTデータベースⅠ	山本 和義

### ●授業の概要・到達目標

「論理的な構造記述を用いて高品位文書を作成する」これがこの授業の目的です。

世の中にはボタンによる直感操作があふれています。ブラウザでホームページを閲覧したり、Wordで文書を作成する際も、ボタン・メニューといった直感操作のみで多くは実現可能です。しかし、ホームページの実体はHTMLファイルという名のテキストファイルであり、高度な直感操作を提供しようとすると、テキストレベルでの記述・操作が必要になります。また、ボタン・メニューの操作のみでWordで作成した文書は、商業印刷物とは似て非なるもの、レベルの違うものが出来上がってしまいます。これら直感操作の奥にあるものを理解・体得し、それによって学術論文・卒論としてそのまま出版・印刷できるレベルの高品位文書を作成しようというのがこの授業の目的です。これを実現するために構造的な記述というものを考えます。この授業では構造的な記述を前面に押し出したLaTeXというマークアップ言語を用いて実習を行います。構造的な記述にも、著者レベル・編集者レベルといった段階構造があり、このデータベースⅠの授業では著者レベルでの記述法を学び、それによってレポートのレベルではなく学術論文・卒論としてそのまま用いることができるような文書表現を実現していきます。

### ●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション・成績評価の解説
- [第 2 回] LaTeX の「起動の仕方」
- [第 3 回] 最低限のルール、ファイルの形式
- [第 4 回] テンプレートファイルの作成
- [第 5 回] マークアップ方式の入力
- [第 6 回] 章や節の記述方法 (セクションニング)
- [第 7 回] ページレイアウト
- [第 8 回] 箇条書き
- [第 9 回] 定型文書の作成
- [第 10 回] 学術論文形式の文書作成、脚注、アブストラクト
- [第 11 回] 表組み (基本)
- [第 12 回] 表組み (応用)
- [第 13 回] 文書の論理的構造
- [第 14 回] 文書の視覚的構造

### ●履修上の注意

キーボードによって英数字や漢字が入力できることやフォルダの基本的な取り扱いといった基礎技術は既に習得済みであることを仮定します。

授業終了時に提出する形式の課題が数題あり、内容は授業時に伝達します。この課題は授業時間内で作成可能であるようにします(そのための時間もとります)。ただし、遅れてきたり休んだ場合にはその限りではありません。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

授業は連続的なものとなっており、だんだんと高度化していきます。従って、授業で学んだ技術は、自宅等で反復練習をして身に付けておかなければなりません。

### ●教科書

特に指定しない

### ●参考書

特に指定しない

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業時・授業解説資料においてチェックポイントの詳細な解説を行います。

### ●成績評価の方法

平常点(授業への参加度)30%、課題提出物70%によって評価を行う。なお、定期試験は行わない。

### ●その他

実習課題等は授業時に伝達する。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTデータベースⅡ	山本 和義

### ●授業の概要・到達目標

商業出版物には大まかに分けると二通りのものがあります。一つは雑誌等のレイアウト中心のもの、もう一つは学術書籍等の構造記述中心のものです。TeXは後者の形式に適した組版言語(印刷システム)であり、数式の記述にも定評があります。この授業では、まず、構造の記述のみによって商業出版に匹敵する品質の文書を作成することを学んでいきます。そのためには視覚構造を論理化してテキスト(コマンド)のみによって実現しなければなりません。TeXにおける数式の記述を題材にとってこの技術を習得していくことにします。後半では画像データを取り込むことによって、図形を含む文書をもテキストデータと同じように扱う方法を学んでいきます。また、画像形式の変換や出力形態に合った文書データの変換等を通じてさまざまな形式のデータを扱っていく。最終的にこれらに共通する特性をつかみとり、テキストファイルを用いてコンピュータを操縦していく方法を学び取っていくことを目的としています。

### ●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション・成績評価の解説
- [第 2 回] 基本的な数式
- [第 3 回] 別組みの数式、日本語文書との融和
- [第 4 回] 数式の揃え方
- [第 5 回] array 環境の使い方
- [第 6 回] アクセント記号、数式での文字種、AMS-fonts
- [第 7 回] 高度な数式、AMS-math(アメリカ数学会の形式)の利用
- [第 8 回] 画像の取り込み(基本)
- [第 9 回] 図形の描画、アンダーラインと枠囲みの基本
- [第 10 回] eps 画像と pdf 画像
- [第 11 回] 画像の取り込み(応用)
- [第 12 回] 画像の自由な配置
- [第 13 回] 縦組み文書の作成
- [第 14 回] 論理と視覚の統合

### ●履修上の注意

キーボードによって英数字や漢字が入力できることやフォルダの基本的な取り扱いといった基礎技術は既に習得済みであることを仮定します。LaTeXの基礎技術(私[山本和義]のICTデータベースⅠで行う程度の内容)を身に付けていることが望ましい。

授業終了時に提出する形式の課題が数題あり、内容は授業時に伝達します。この課題は授業時間内で作成可能であるようにします(そのための時間もとります)。ただし、遅れてきたり休んだ場合にはその限りではありません。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

授業は連続的なものとなっており、だんだんと高度化していきます。従って、授業で学んだ技術は、自宅等で反復練習をして身に付けておかなければなりません。

### ●教科書

特に指定しない

### ●参考書

特に指定しない

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業時・授業解説資料においてチェックポイントの詳細な解説を行います。

### ●成績評価の方法

平常点(授業への参加度)30%、課題提出物70%によって評価を行う。なお、定期試験は行わない。

### ●その他

実習課題等は授業時に伝達する。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集Ⅰ	加藤 晋

●授業の概要・到達目標

人間は、視覚から情報の80%を得ているといわれています。そのため、画像による情報表現は、非常に有効であり、情報のビジュアル化が重要とされています。近年、コンピュータ技術の進歩によって、画像情報を身近に扱えるようになってきています。そこで本講義では、以下のようなキーワードに基づき、画像情報に関する基礎知識と技能を養うことを目指します。したがって、いくつかのアプリケーションソフトの基礎的な使い方の実習を含めて、全体的なバランスを考えて、さほど深く専門的なことは行わない予定であり、広く浅くとはなりますが、画像情報の処理や利用を切り口とした様々なソフトの利用や活用等について、実習を通して比較的簡単な実践修得していただくことで、今後のきっかけとなることを目的としています。

- ・コンピュータにおける画像
- ・画像処理
- ・画像を含む情報提供
- ・コンピュータグラフィック
- ・情報の視覚化

●授業内容

- [第1回] イントロダクション:講義の方針、内容等の紹介、アンケートの実施
- [第2回] 情報と画像:情報のビジュアル化と価値、デジタル画像の基礎等
- [第3回] コンピュータにおける画像(1):コンピュータの中の画像情報と取り扱いの基礎、画像の入出力と伝送、ファイル形式、画像の合成と変換等(使用予定ソフト Paint Shop)
- [第4回] コンピュータにおける画像(2):第3回続き(画像操作実習)
- [第5回] 画像処理(1):画像の加工・変換、フィルタ処理等(Paint Shop)
- [第6回] 画像処理(2):第5回続き(画像処理実習)、フィルタ作成課題を予定
- [第7回] 画像を含む情報提供(1):ビジュアルな資料作成、映像の取り込み、図形の張り付け等(PowerPoint等)
- [第8回] 画像を含む情報提供(2):第7回続き(資料作成実習)
- [第9回] 画像を含む情報提供(3):第8回続き、広告作成課題を予定
- [第10回] コンピュータグラフィックス(1):CGの歴史と作画等(Paint Shop)
- [第11回] コンピュータグラフィックス(2):第10回続き(CG作成実習)
- [第12回] 情報の視覚化(1):数値情報のビジュアル化と基礎、グラフ作成、絵グラフ等(Word、Excel)
- [第13回] 情報の視覚化(2):第12回続き(グラフ作成実習)、絵グラフを用いた資料作成課題を予定
- [第14回] 全体総括

なお、コロナ禍において学年暦の変更もあり得ます。さらに、対面授業かオンライン授業となるかについても大学の方針に従いますので、あらかじめ、ご承知おきください。

●履修上の注意

講義への希望や情報関連のトピックスや用語の解説などを講義中におりまぜながら進めます。評価方法は、講義に出席することが基本ですので、ほぼ毎回、出席をとります。また、課題レポート等を実施することにより、理解度のチェックを行う予定です。

●準備学習(予習・復習等)の内容

講義資料や課題については、本講義用のWebページに掲載していきますので、復習や課題の参考にしてください。

●教科書

特に指定しません。

●参考書

本講義用のWebページ上に講義資料や参考文献などを公開していく予定です。

●課題に対するフィードバックの方法

課題に対して提出されたものについては、講義用のWebページに掲載するなどして、他の履修者の方にも参考として見ていただき、さらに良いと思われるものなどへの投票を行う予定です。得票の高い方には加点をします。

●成績評価の方法

平常点(授業中の態度・発言)60%、レポート40%。定期試験は実施しません。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集Ⅱ	加藤 晋

●授業の概要・到達目標

本講義では、以下のようなキーワードに基づき、実習を通してコンピュータを用いたグラフィックに関する理解を深め、画像やグラフィックを用いた情報提供や計算処理に関する基礎知識と技能を養うことを目指します。したがって、いくつかのアプリケーションソフトの基礎的な使い方の実習を含めて、さほど深く専門的なことは行わない予定であり、広く浅くとはなりますが、画像情報の利用や提供を切り口とした様々なソフトの利用や活用等について、実習を通して実践修得していただくことで、今後のきっかけとなることを目的としています。

- ・画像を扱う技術
- ・アニメーション
- ・Webページ
- ・コンピュータプログラミング
- ・シミュレーション

●授業内容

- [第1回] イントロダクション:講義の方針、内容等の紹介、アンケートの実施
- [第2回] 画像を扱う技術:デジタル画像の基礎、圧縮・伝送技術等(使用予定ソフト Paint Shop)
- [第3回] アニメーション(1):基礎、ファイル形式と特徴、パナー等の作成等(Photoshop)
- [第4回] アニメーション(2):第3回続き(作成実習)、アニメーション作成課題
- [第5回] アニメーション(3):物体の位置と動きの変化等を取り入れた作成等(Animate)
- [第6回] アニメーション(4):第5回続き(作成実習)、物体が動くアニメーション作成課題
- [第7回] Webページの作成(1):情報発信、作成方法、画像表示、タグを用いた作成実習等(テキストエディタ等)
- [第8回] Webページの作成(2):ソフトを用いた作成実習(Word、ホームページ・ビルダー)
- [第9回] Webページの作成(3):第8回続き、公開手法等、Webページ作成課題
- [第10回] コンピュータプログラミング(1):プログラム言語、描画等(Visual Basic)
- [第11回] コンピュータプログラミング(2):第10回続き(プログラミング実習)
- [第12回] シミュレーション(1):プログラムの作成等(Visual Basic)
- [第13回] シミュレーション(2):第12回続き(作成実習)、プログラム作成課題
- [第14回] 全体総括

なお、コロナ禍において学年暦の変更もあり得ます。さらに、対面授業かオンライン授業となるかについても大学の方針に従いますので、あらかじめ、ご承知おきください。

●履修上の注意

講義への希望や情報関連のトピックスや用語の解説などを講義中におりまぜながら進めます。評価方法は、講義に出席することが基本ですので、ほぼ毎回、出席をとります。また、課題レポート等を実施することにより、理解度のチェックを行う予定です。

●準備学習(予習・復習等)の内容

講義資料や課題については、本講義用のWebページに掲載していきますので、復習や課題の参考にしてください。

●教科書

特に指定しません。

●参考書

本講義用のWebページ上に講義資料や参考文献などを公開していく予定です。

●課題に対するフィードバックの方法

課題に対して提出されたものについては、講義用のWebページに掲載するなどして、他の履修者の方にも参考として見ていただき、さらに良いと思われるものなどへの投票を行う予定です。得票の高い方には加点をします。

●成績評価の方法

平常点(授業中の態度・発言)60%、レポート40%。定期試験は実施しません。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集Ⅰ	後藤田 洋伸

### ●授業の概要・到達目標

「百聞は一見にしかず」という諺にもあるとおり、私たちは非常に多くの情報を視覚から得ています。テレビをはじめ、Web ページや印刷物などにおいても、画像や動画といったメディアが、情報の主要な伝達媒体として活用されています。こうした画像や動画の多くは、カメラで撮影された生のデータではなく、様々な編集過程を経て加工された画像や動画です。単一のカメラでは撮ることの出来ないような画像や動画が、それとは分からないような形で合成されていることも少なくありません。この授業では、画像編集や動画編集のほか、コンピュータグラフィックスによる映像生成などを、既存のソフトウェアの使用法を学びながら概観します。

春学期の授業では、画像の基本的な性質を学んだ上で、いわゆる画像編集ソフトで、どのようなことが可能なかを見ていきます。具体的には、フォーマット変換、エッジ検出、色調補正などの処理を体験します。また、何枚もの画像を積み重ねて合成画像を作ってみたりもします。学期の後半には、動画編集ソフトを使って、簡単な動画編集を試みます。動画素材をカットし、時系列に沿って並べ、音声メディアと同期させて一つのパッケージにまとめると、動画が完成します。これら一連の流れを見て行きます。

画像編集ソフトとしては Photoshop を、動画編集ソフトとしては Adobe Premiere Pro を使用する予定です。

#### [到達目標]

- ・画像編集や動画編集で使われる専門用語が分かる。
- ・画像編集ソフトを使って、画像の加工・修正・合成ができる。
- ・動画編集ソフトを使って、動画の編集（映像と音声の統合）ができる。

### ●授業内容

- [第 1 回] 授業の概要や到達目標を説明し、成績評価の方法を提示します。
- [第 2 回] 学期の前半では、画像編集を扱います。最初にデジタル画像の基礎知識を学びます。
- [第 3 回] 続いて主要な画像フォーマットの特徴を学びます。画像圧縮技術についても触れます。
- [第 4 回] 画像処理の一部は、簡単な数値計算によって実現されます。エッジ検出などの例を取り上げます。
- [第 5 回] 色調（明暗、色合い、コントラスト等）の変更も、数値の計算によって行われることを見て行きます。
- [第 6 回] 画像編集ソフトには、部分画像を切り出すためのツールが備わっています。これらの使い方を学びます。
- [第 7 回] 画像を部分的に修復したり復元したりするレタッチ技術について学びます。
- [第 8 回] これまでに得た知識を踏まえて、各自で合成画像の制作に取り組みます。
- [第 9 回] 学期の後半では、動画編集を扱います。最初に動画の基礎知識を学びます。
- [第 10 回] 続いて、動画編集ソフトを使って、動画素材を短くカットしたり、時系列に沿って並べたりして行きます。
- [第 11 回] 各々のカットやカットのつなぎ目に対して、様々な表示効果（エフェクト）を加える方法を学びます。
- [第 12 回] 動画（映像データ）に音声データを同期させたり、テロップを加えたりする方法を学びます。
- [第 13 回] アニメーション機能を使って、静止画像から動く画像を生成してみます。
- [第 14 回] これまでに得た知識を踏まえて、各自で動画作品（1 分程度のもの）を作ってみます。

### ●履修上の注意

この授業では、画像編集のために Photoshop を、動画編集のために Adobe Premiere Pro を使用します。どちらも有償のソフトウェアとなります。自宅のパソコンでこれらのソフトウェアが利用できるのであれば、それに越したことはありませんが、そうでない方は自習室の積極的な利用をご検討ください。

### ●準備学習（予習・復習等）の内容

講義資料はすべてクラスウェブで公開します。授業を欠席した場合には、資料をよく読み、授業内容をフォローするようにしてください。予習は基本的に必要ありません。

### ●教科書

教科書の指定はありません。

### ●参考書

参考になる書籍や Web ページなどについては、授業中に適宜紹介します。

### ●課題に対するフィードバックの方法

この授業で出される「課題」には、最終回の授業で提示される学期末の課題と、それよりも前に提示される演習問題があります。このうち、演習問題への回答に対しては、改善点を指摘するなどのフィードバックを返します。演習問題は全員ができるようになることを目指すものです。フィードバックに基づいて、回答を修正し再提出することも可能です。

学期末の課題に対するレポートへのフィードバックは、休業期間中に行われるということも考慮し、希望者に対してのみ行います。ただし、フィードバックを受けてレポートを再提出することは認められません。

### ●成績評価の方法

指定された課題に対するレポートの評価（70%）と平常点（30%）を合算します。レポートの課題は、最終回の授業で提示します。レポートの評価基準も併せて提示しますので、レポートを作成する際にはそちらにもよく目を通すようにしてください。レポートを提出する前に、自己採点をしてみると良いでしょう。

平常点は、定期的に出す演習問題への回答状況によって評価します。演習問題は全部で 2 問あり、第 8 回授業と第 12 回授業にて、それぞれ 1 問ずつ提示する予定です（授業の進行状況によって、演習問題を出す時期が前後することもあります）。演習問題に対する回答には、フィードバックを返します。フィードバックに基づいて回答を修正し再提出することも可能です。

定期試験は実施しません。

### ●その他

各々の履修生には、全授業回のうち 2 分の 1 以上の授業回に出席することを求めます。2 分の 1 以上の出席は困難であると見込まれる場合には、履修をご遠慮下さい。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集Ⅱ	後藤田 洋伸

### ●授業の概要・到達目標

秋学期の授業では、動画編集とコンピュータグラフィックスについて学びます。春学期の授業でも動画編集を取り扱いましたが、「時系列に沿ってカットを並べる」という編集作業が主でした。秋学期の授業では、映像の中身に立ち入り、個々のカットを編集する方法を学びます。具体的には、キーイングによって動画素材の中の背景部分を透明にしたり、モーショントラッキングによって動画素材の中から動く物体を追跡したりして、他の動画素材と重ね合わせて合成動画を作成します。また、3D 合成という手法を用いて、三次元効果の加わった動画編集を行ったりもします。

学期の後半には、コンピュータグラフィックスを取り上げます。コンピュータグラフィックス (CG) とは、人工的に画像や映像を生成する技術のことです。仮想的な三次元の物体をコンピュータの中に取り、この物体に仮想的な光を照射し、物体からの反射光を仮想的なカメラで撮影する、といった手続きを経て画像を生成します。また、物体を動かしたり、光の当て方やカメラの位置や向きに変化を加えたりすると、アニメーション映像を作ることができます。CG ソフトの使い方を紹介しながら、これら一連の作業を概観します。

動画編集ソフトとしては Adobe After Effects を、CG ソフトとしては Blender を使用する予定です。

#### [到達目標]

- ・動画編集やコンピュータグラフィックスで使われる専門用語が分かる。
- ・動画編集ソフトを使って、合成動画を作ることができる。
- ・CG ソフトを使って、画像やアニメーションを生成できる。

### ●授業内容

- [第 1 回] 授業の概要や到達目標を説明し、成績評価の方法を提示します。
- [第 2 回] 学期の前半では、動画編集の中でも動画合成と呼ばれる技術について紹介します。最初に登場するのがキーイングとロスコーピングです。これらは、映像の一部を切り抜くために使います。
- [第 3 回] モーショントラッキングという技術を利用すると、動いている物体の位置を追跡できるようになります。
- [第 4 回] 複数の映像を重ね合わせて合成映像を作ってみましょう。まず二次元合成から始めます。
- [第 5 回] 三次元合成という技術を使うと、三次元効果の加わった映像を作成できます。
- [第 6 回] パーティクル（粒子）を自在に操れるようになると、臨場感のある三次元映像を作成できます。
- [第 7 回] これまでに得た知識を踏まえて、合成動画（15 秒程度のもの）の制作に取り組みます。
- [第 8 回] 学期の後半では、コンピュータグラフィックス (CG) について学びます。最初に登場するのがレンダリングです。「物体に光を当ててカメラで撮影する」という作業を、コンピュータの中で行います。
- [第 9 回] カメラや光源、物体などの配置を変えながらレンダリング（画像生成）をしてみます。
- [第 10 回] 立方体や球体などの簡単な形状の物体を組み合わせて、もう少し複雑な形をした物体を作ってみます。
- [第 11 回] 物体表面の反射特性を指定したり、テクスチャを貼り付けたりして、写実感のある映像を生成してみます。
- [第 12 回] 物体に動きをつけたり、カメラを動かしてみたりして、アニメーション映像を生成してみます。
- [第 13 回] CG ソフトの中には、アニメーション映像と実写映像との合成を可能にするものもあります。カメラトラッキングという技術を紹介しながら、こうした合成を試してみます。
- [第 14 回] これまでに得た知識を踏まえて、各自で動画作品（15 ～ 30 秒程度のもの）を作ってみます。

### ●履修上の注意

この授業では、動画編集のために Adobe After Effects を、コンピュータグラフィックスのために Blender を使用します。このうち、Adobe After Effects は有償のソフトウェアとなります。自宅のパソコンでこのソフトを利用できるのであれば、それに越したことはありませんが、そうでない方は自習室の積極的な利用をご検討ください。

Blender は無償で利用できますので、自宅のパソコンにもインストールして使ってみましょう。

### ●準備学習（予習・復習等）の内容

講義資料はすべてクラスウェブで公開します。授業を欠席した場合には、資料をよく読み、授業内容をフォローするようにしてください。予習は基本的に必要ありません。

### ●教科書

教科書の指定はありません。

### ●参考書

参考になる書籍や Web ページなどについては、授業中に適宜紹介します。

### ●課題に対するフィードバックの方法

この授業で出される「課題」には、最終回の授業で提示される学期末の課題と、それよりも前に提示される演習問題があります。このうち、演習問題への回答に対しては、改善点を指摘するなどのフィードバックを返します。演習問題は全員ができるようになることを目指すものです。フィードバックに基づいて、回答を修正し再提出することも可能です。

学期末の課題に対するレポートへのフィードバックは、休業期間中に行われるということも考慮し、希望者に対してのみ行います。ただし、フィードバックを受けてレポートを再提出することは認められません。

### ●成績評価の方法

指定された課題に対するレポートの評価（70%）と平常点（30%）を合算します。レポートの課題は、最終回の授業で提示します。レポートの評価基準も併せて提示しますので、レポートを作成する際にはそちらにもよく目を通すようにしてください。レポートを提出する前に、自己採点をしてみると良いでしょう。

平常点は、定期的に出す演習問題への回答状況によって評価します。演習問題は全部で 2 問あり、第 8 回授業と第 12 回授業にて、それぞれ 1 問ずつ提示する予定です（授業の進行状況によって、演習問題を出す時期が前後することもあります）。演習問題に対する回答には、フィードバックを返します。フィードバックに基づいて回答を修正し再提出することも可能です。

定期試験は実施しません。

### ●その他

各々の履修生には、全授業回のうち 2 分の 1 以上の授業回に出席することを求めます。2 分の 1 以上の出席は困難であると見込まれる場合には、履修をご遠慮下さい。



科目ナンバー：IF ACD 226 J	
ICTメディア編集Ⅰ〔M〕	高見澤 秀幸

### ●授業の概要・到達目標

ICTメディア編集Ⅰでは、画像情報の取り扱いを学びます。具体的には、授業の前半で私たちの身の回りにある画像情報をどのようにデジタル化し、保存し、また活用するかといったメディアに対する知識を学んだ後、後半では静止画のPhotoshop Elements (30日間の試用期間を利用) およびOpenShot VideoEditorなどのフリーソフトウェアを使用します。  
※受講生の皆さんに費用負担の無いソフトウェアを用います。ソフトウェアは実施時点で変更となる場合があります。  
最終的には受講者自身が撮影する30秒作品を作成することを目標とします。(到達目標) このために、撮影技術、コンテ作成の基礎を学び、素材の収集から編集まで行って作品を完成させます。

【メディア授業(オンデマンド型)】  
動画の視聴・課題の提出・掲示板やメール等による意見交換・指導によって実施される授業です。キャンパスで行われる対面授業ではありませんので注意して下さい。

### ●授業内容

【メディア授業(オンデマンド型)】 すべての授業がオンデマンドで行われます。  
[第1回] アナログとデジタル  
・2進数とデジタル表現  
・ビットマップとベクタグラフィックス  
[第2回] 画像のデジタル化(1)  
・デジタルカメラの構成要素  
・ピクセルと色深度  
・ペイヤー配列とデモザイキング処理  
[第3回] 画像のデジタル化(2)  
・画像と情報量の計算  
[第4回] 画像の伝送と圧縮  
・可逆圧縮と非可逆圧縮  
・ランレングス法とハフマン符号  
[第5回] 画像編集ソフト(1)  
・画像ファイルと編集  
・明るさとコントラスト  
[第6回] 画像編集ソフト(2)  
・レイヤとベクタグラフィックス  
[第7回] 動画編集ソフト(1)  
・動画データの作成と取り扱い  
[第8回] 動画編集ソフト(2)  
・動画データファイルのフォーマットと利用方法  
・トランジションとエフェクト  
・音楽(BGM)の取り込み  
[第9回] 作品づくりに必要なこと  
・絵コンテ  
・イマジナリーライン  
・様々な作品の鑑賞  
[第10回] 撮影(1)  
・動画作品の素材の撮影  
[第11回] 撮影(2)  
・動画作品の素材の撮影  
[第12回] 編集(1)  
・コンテを確認しながら編集を始めます。  
・不足した素材の追加撮影  
[第13回] 編集(2)  
・作品の編集  
[第14回] まとめ  
・編集の最終仕上げと作品提出

### ●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて講義動画を Oh-olMeiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。講義動画は、時間割上の日付の前日までに配信を開始し、当該学期中の視聴を可能とします。  
原則として、各回の講義の後、そこで課せられた課題の提出を求めます。教員への質問・相談は、専用のメールアドレスまたは質問・意見交換掲示板で行ってください。

受講に必要な環境  
・パソコン(WindowsまたはMac OS)  
パソコンが必要となります。ソフトウェアはWindows/Macの両対応のものを選びますが、資料やOSに起因するトラブルに対するアドバイスは、Windowsのみとなります。PCには、メモリ4GB以上、ディスク空き領域30GB程度が必要です。比較的低いスペックのPCでも問題ありませんが、ディスクの空き領域には注意して下さい。  
・ビデオカメラ  
最終課題の作成のため、ビデオ撮影機能を持ったカメラ等が必要です。スマートフォンでも可能ですが、スマートフォンからPCへの撮影動画の転送は各々調べたうえで各自で行ってください。  
・インターネット回線  
動画の視聴や、提出などの取り扱いを行うため十分な速度・容量のインターネット回線も必要です。スマートフォンでの視聴には通信量無制限もしくはWi-Fi環境が必要となるでしょう。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

[第1回]～[第3回]の内容は、高等学校でしっかり「情報」の教科書を勉強した人にとってはやさしい内容です。授業を受ける前に「情報」の教科書の該当部分を見直しておきましょう。また映像制作を行うには、よい作品をたくさん見ることも重要です。特に課題に近い長さであるCM映像を良く観察しておくことも役に立ちます。静止画や動画の編集パートでは、できなかったことやわからなかったことをそのままにしておくで最終作品のクオリティに影響が出ますので復習が必要です。また、前述のようにビデオカメラの代わりにスマートフォンを使う場合、スマートフォンからPCへのファイル転送は自分で行う必要があります。予習が必要です。

### ●教科書

プリントを配布します。

### ●参考書

かなり広範な内容を盛り込んだ講義のため一冊で参考書となる本はありません。個別的にはマルチメディア検定関連書籍が参考になると思います。また各種 Adobe 製品のマニュアルや解説書も参考にします。

### ●課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に問題があったり、課題に対する正しい回答になっていない場合、Oh-olMeiji によってコメントを付記します。また必要所で、今後の授業進行に問題が生じる場合、すべての課題に対するコメント返信を行います。

### ●成績評価の方法

試験は実施せず平常点(各回の課題等)60%とレポート(映像作品)40%により評価します。映像作品は、撮影技術・編集技術・ストーリー(シナリオ)の3つの点から採点します。

オンデマンド式のメディア授業のため、毎回の提出課題が提出されたことをもって「出席」とみなします。  
※対面での期末試験はございません。

### ●その他

科目ナンバー：IF ACD 226 J	
ICTメディア編集Ⅱ〔M〕	高見澤 秀幸

### ●授業の概要・到達目標

ICTメディア編集Ⅱでは、プログラミング言語「Python」を使ってインタラクティブ(ユーザーが操作可能)なコンテンツの作成などを学びます。また、フリーソフトを利用を行い、コンテンツの中でそのキャラクターを動かしたり、音楽や効果音とのシンクロなどを行います。

最終課題において、自分自身でゲームをデザインし必要なイラストを作成または取り込み、音楽などの要素を含めたコンテンツとして完成したものを制作できるようにします。(到達目標)

【メディア授業(オンデマンド型)】  
動画の視聴・課題の提出・掲示板やメール等による意見交換・指導によって実施される授業です。キャンパスで行われる対面授業ではありませんので注意して下さい。

### ●授業内容

すべての授業は、【メディア授業(オンデマンド型)】で行われます。  
[第1回] マルチメディアとプログラミング  
・プログラミング言語「Python」の紹介  
・イベントドリブンの考え方  
[第2回] フリーソフトを使った描画(1)  
・ツールの紹介  
・基本図形を使ったイラストの作成  
[第3回] フリーソフトを使った描画(2)  
・自由描画ツール  
・グラデーション  
[第4回] プログラミング言語 Python 入門(1)  
・Pythonを使ったプログラミング環境の構築  
・もし・・・したら、・・・する。  
[第5回] プログラミング言語 Python 入門(2)  
・アルゴリズム  
・変数とメソッド  
・四則演算  
[第6回] プログラミング言語 Python 入門(3)  
・乱数の発生  
・GUIを使ったプログラム  
[第7回] 時計とタイマー  
・タイマー(並列処理)  
[第8回] 画像の表示  
・JPEGやPNG形式の画像を表示する  
[第9回] 自律的に動くムービー  
・タイマー処理との組み合わせ  
・衝突の判定  
・ゲーム的な動き  
[第10回] サウンド  
・フリー素材の紹介  
・プログラム中で効果音を使う  
・プログラム中でBG Mを使う  
[第11回] ムービーを使ったゲーム(1)  
・これまで学習した要素を組み合わせてミニゲームを作成します。  
[第12回] ムービーを使ったゲーム(2)  
・これまで学習した要素を組み合わせてミニゲームを作成します。  
[第13回] その他の機能  
・ゲームを発展させていくためのさまざまな Tips を紹介します。  
[第14回] 最終作品提出とまとめ

### ●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて講義動画を Oh-olMeiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。講義動画は、時間割上の日付の前日までに配信を開始し、当該学期中の視聴を可能とします。  
原則として、各回の講義の後、そこで課せられた課題の提出を求めます。教員への質問・相談は、専用のメールアドレスまたは質問・意見交換掲示板で行ってください。

受講に必要な環境  
・パソコン(WindowsまたはMac OS)  
パソコンが必要となります。ソフトウェアはWindows/Macの両対応のものを選びますが、資料やOSに起因するトラブルに対するアドバイスは、Windowsのみとなります。  
・インターネット回線  
動画の視聴や、課題の提出などを行うため十分な速度・容量のインターネット回線も必要です。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

Pythonは汎用のプログラミング言語ですが、この講義ではPythonのすべての機能を入門的に取り扱うのではなく、インタラクティブコンテンツやゲームの作成に特化した内容で進めていきます。Pythonは、その制作環境をフリーソフトで構築できるため、自宅での予習・復習で学習が可能です。特に最終制作では、みなさんの積極的な取り組みを期待します。

### ●教科書

プリントを配布します。

### ●参考書

Python (ver.3)に関連した書籍が参考になります。

### ●課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に問題があったり、課題に対する正しい回答になっていない場合、Oh-olMeiji によってコメントを付記します。また必要所で、今後の授業進行に問題が生じる場合、すべての課題に対するコメント返信を行います。

### ●成績評価の方法

平常点(各回の課題60%)と最終提出作品(40%)によって評価します。  
提出作品(プログラム)は、次の条件を満たす必要があります。  
(1)どのように扱っても正常に動作する(2)開始と終了がある(3)得点が表示される(4)ゲームの途中で変化を伴う。  
なお作品は、ゲーム性、ビジュアル、完成度の3点から評価します。

平常点はメディア授業(オンデマンド)のため、各回の課題の提出を持って出席の判断、授業参加についての評価を行います。

※対面での期末試験はございません。

### ●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集Ⅰ	古屋 俊彦

●授業の概要・到達目標

写真の作品を作る芸術の授業です。芸術作品として写真を作る方法を十九世紀からの写真作品の歴史を参照しながら理解します。写真が芸術作品として成立する過程を具体的な作品の資料を手掛かりに追体験していきます。多様な写真作品の可能性を考え、デジタル写真でそれを応用するやり方を試していきます。作品への応用はデジタルカメラとコンピュータの活用を前提に説明します。最後に修了制作作品を投影する発表会を行います。

●授業内容

- [第 1 回] 授業の説明、自己紹介
- [第 2 回] 写真の技術
- [第 3 回] デジタル写真の技術、写真撮影の技術
- [第 4 回] 画像修整と加工の方法
- [第 5 回] 写真の技法と作品 1 風景画と写真 カメラオブスキュラ
- [第 6 回] 写真の技法と作品 2 肖像写真と風景写真 ダゲレオタイプ、カロタイプ
- [第 7 回] 写真の技法と作品 3 絵画としての写真 ピクトリアリズム
- [第 8 回] 写真の技法と作品 4 記録としての写真 異国の写真、戦争写真
- [第 9 回] 写真の技法と作品 5 ストレートフォトグラフィー、新即物主義
- [第 10 回] 写真の技法と作品 6 タイポグラフィ
- [第 11 回] 写真の技法と作品 7 フォトモンタージュ、フォトグラム
- [第 12 回] 修了作品の仕上げと提出
- [第 13 回] 発表会 1
- [第 14 回] 発表会 2

●履修上の注意

デジタルカメラを自分で用意する必要があります。ソフトウェアは教室と自習室の Photoshop CC を使います。練習と作品制作はほぼすべて自習室などを使った宿題となります。授業時間は資料を視聴しながら説明を聞いて考えて理解することが中心です。その中でソフトウェアの使い方も説明し試す時間を少し設けますが作品制作には時間がかかるので授業時間外に行うこととなります。

●準備学習(予習・復習等)の内容

デジタル写真を使った写真作品の練習と制作を進めていきますのでファイルの管理が不可欠です。撮影したデータの転送や分類整理、ファイルの形式と容量の把握などはあらかじめ予習が必要です。ソフトウェアの使い方を授業で習ったらただちに繰り返し練習しておく必要があります。修了制作作品のための準備、撮影、加工、仕上などは授業時間外で進めていかなければいけません。そのために必要なことは授業の中で説明していきます。

●教科書

なし

●参考書

なし

●課題に対するフィードバックの方法

対面とオンラインで対応します。オンラインでの対応に関しては初回の授業で説明します。

●成績評価の方法

宿題および修了作品提出80%、受講状況などの平常点20%

●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集Ⅱ	古屋 俊彦

●授業の概要・到達目標

音楽の作品を作る芸術の授業です。伝統的な作曲手法だけではない音楽作品制作の幅広い考え方を事例を通して理解します。録音編集と自動演奏という考え方で音楽作品を作る方法を音楽の歴史を参照しながら理解します。参照するのは主に20世紀の実験音楽とその応用ですが、それ以前の西洋音楽も参照します。重要な作品に関する様々な資料を参照しながら実際にどんなものが作品として成り立つかを理解します。作品制作への応用は録音編集と自動演奏(MIDI)の活用を前提に説明します。最後に修了制作作品の発表会を行います。

●授業内容

- [第 1 回] 授業の説明
- [第 2 回] 音響の原理と録音の技術
- [第 3 回] 録音編集による音楽作品の考え方
- [第 4 回] 録音編集の練習
- [第 5 回] 録音編集の技法と作品 1 ミュージックコンクレート、電子音楽
- [第 6 回] 録音編集の技法と作品 2 ミュージックコンクレートと電子音楽の応用
- [第 7 回] 自動演奏による音楽作品の考え方
- [第 8 回] 自動演奏の練習
- [第 9 回] 自動演奏の技法と作品 1 記譜法、音律と音階
- [第 10 回] 自動演奏の技法と作品 2 プリペアドピアノ、プレイヤーピアノ
- [第 11 回] 自動演奏の技法と作品 3 反復音楽、環境音楽
- [第 12 回] 修了作品の仕上げと提出
- [第 13 回] 発表会 1
- [第 14 回] 発表会 2

●履修上の注意

デジタルレコーダー(ICレコーダー)を自分で用意する必要があります。ソフトウェアは教室と自習室の Audacity と Music Studio Producer を使います。練習と作品制作はほぼすべて自習室などを使った宿題となります。授業時間は資料を視聴しながら説明を聞いて理解することが中心です。その中でソフトウェアの使い方も説明し試す時間を少し設けますが作品制作には時間がかかるので授業時間外に行うこととなります。

●準備学習(予習・復習等)の内容

デジタル情報を使った音楽作品の制作を進めていきますのでファイルの管理が必要です。作成したデータの分類整理、ファイルの形式と容量の把握などはあらかじめ予習が必要です。ソフトウェアの使い方を授業で習ったらただちに繰り返し練習しておく必要があります。修了制作作品のための準備、録音、作曲、加工、仕上などは授業時間外で進めていかなければいけません。そのために必要なことは授業の中で説明していきます。

●教科書

なし

●参考書

なし

●課題に対するフィードバックの方法

対面とオンラインで対応します。オンラインでの対応に関しては初回の授業で説明します。

●成績評価の方法

宿題および修了作品提出80%、受講状況などの平常点20%

●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集 I	元村 直樹

### ●授業の概要・到達目標

近年、映像はそれを専門とする企業のみならず、あらゆるコミュニケーションの場において活用されています。企業が宣伝や広報のために、個人が日々の出来事を伝えるために、映像をインターネット上にアップロードすることは珍しいことではなくなりました。さらには、ユーチューバーに代表されるように映像発信を職業とする者、あるいはインターネット上のコミュニティづくりに利用する者も現れています。

この授業では、映像制作に必要な知識と技術を習得していただき、最後にグループでプロモーションビデオを制作します。こうした実践を通して、映像メディアのリテラシーを身につけ、映像メディアの特性について考えるのが、授業の目的です。

映像制作の工程は大きく分けて、企画、撮影、編集の3つになります。企画については、どのような映像を作るのかを考え、計画する能力を習得します。撮影については、ビデオカメラによる撮影を経験し、自分の意図に合わせて被写体を撮影する知識と技術を習得します。編集段階ではパソコンを使用した編集を経験し、映像の効果的な見せ方について知識と技術を習得します。

「ICTメディア編集 I」では、ビデオカメラと映像編集用アプリケーションの基本操作に慣れることを目標とします。より詳しい撮影方法や映像編集方法を学びたい方、作品を作りたい方は「ICTメディア編集 II」も併せて履修してください。

### ●授業内容

映像制作に必要な知識、技術を習得するための講義と並行して、2～3分のプロモーションビデオを制作する。

- [第 1 回] イントロダクション：授業の目的や進行についての説明を行う。
- [第 2 回] 映像制作の流れと企画：映像制作の工程と企画と構成の基本的な考え方を学ぶ。
- [第 3 回] 企画実習：何かをプロモーションする映像を企画する。履修者全員が何をプロモーションしたいかを発表し、企画を絞り込み、グループを編成する。
- [第 4 回] 撮影とは：何を撮るか、どのように撮るか、撮影の基本的な考え方、ビデオカメラの基本操作を習得する。
- [第 5 回] 撮影の確認テスト：ビデオカメラの操作方法を確認するテストを行う。
- [第 6 回] 編集とは：編集の基本的な考え方、映像編集アプリケーション Adobe Premiere Pro の操作方法を習得する。
- [第 7 回] 編集の確認テスト：映像編集アプリケーションの操作方法を確認するテストを行う。
- [第 8 回] 制作実習（企画）：プロモーションビデオの企画会議を行う。
- [第 9 回] 企画発表：各グループが制作するプロモーションビデオの概要について発表する。
- [第 10 回] プロモーションビデオ制作の流れ：制作の進め方について改めて説明。各企画についてアドバイスを行う。
- [第 11 回] 制作実習（準備）：プロモーションビデオ制作のための準備を行う。
- [第 12 回] 制作実習（撮影）：プロモーションビデオを撮影する。
- [第 13 回] 制作実習（編集）：プロモーションビデオを編集する。
- [第 14 回] 作品発表：各班の作品を発表。作品についてディスカッションする。

### ●履修上の注意

映像制作の経験は問いません。全く映像を制作したことのない人を想定して授業を行います。ただし、映像を編集する際、パソコンを使用するため、ファイルをコピーしたり、フォルダを作成するなどの基本的な操作方法は習得しておいてください。

また、ただ機材やアプリケーションの操作を教える授業ではありません。グループワークが中心となりますので、協調性やコミュニケーションを学ぶ場となることを期待しています。

### ●準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、プロモーションビデオを制作することが目標となりますので、ミュージックビデオなどの映像をたくさん見ておいて下さい。何を制作するかが決まったら、参考になる映像を探し、鑑賞してください。

復習については、ビデオカメラの操作方法、編集用アプリケーションの使用方を教わり次第、各自が誰の助けもなく使用できるよう、テキストを見直したり、自習室のパソコンで Adobe Premiere Pro を使ってみて下さい。

制作実習期間は、授業時間外に作品のための撮影や編集を各グループで行ってください。

### ●教科書

プリントを配布します。

### ●参考書

なし

### ●課題に対するフィードバックの方法

確認テストについては授業中にフィードバックします。

課題作品については、最終回の上映時に教員が講評します。そして、履修者も各作品に対して感想を書き、それもフィードバックします。

### ●成績評価の方法

期末レポート10%、制作した作品30%、作品の企画10%、操作方法確認テスト20%、授業への貢献度30%

### ●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集 II	元村 直樹

### ●授業の概要・到達目標

「ICTメディア編集 I」よりも高度な撮影、編集方法を習得していただき、グループでCMを制作します。

ビデオカメラのオート機能による撮影を行うと、様々な不都合や意図した表現ができない等の問題が起きます。ビデオカメラを手動操作することにより、制作者の意図した表現が可能になります。フォーカス、明るさ、シャッタースピード、ホワイトバランスについて学びます。

編集について「ICTメディア編集 I」では、映像素材の必要な部分を並べるだけのカット編集を習得しましたが、「ICTメディア編集 II」では、テロップの挿入、色補正、トランジション、音量調整について学びます。

### ●授業内容

より高度な撮影、編集方法を習得するための講義と並行して、CMを制作する。

- [第 1 回] イントロダクション：授業の目的や進行についての説明を行う。
- [第 2 回] 高度な撮影方法：カメラの手動操作方法（フォーカス、露出、ホワイトバランス）を習得する。
- [第 3 回] 高度な編集方法：映像編集アプリケーション Adobe Premiere Pro の操作方法（テロップ、色補正、トランジション、音量調整）を習得する。
- [第 4 回] 企画実習（プレゼンテーション）：何かのCMを企画する。履修者全員が何のCMを制作するかを発表し、企画を絞り込み、グループを編成する。
- [第 5 回] 撮影の確認テスト：高度な撮影方法を学んだことをふまえ、課題にそった撮影を行う。
- [第 6 回] 編集の確認テスト：高度な編集方法を学んだことをふまえ、課題にそった編集を行う。
- [第 7 回] 企画実習（企画内容の深化と準備）：企画を練り上げる。撮影の準備を行う。
- [第 8 回] 撮影実習（1本目の撮影）：撮影を行う。
- [第 9 回] 撮影実習（2本目の撮影）：撮影を行う。
- [第 10 回] 撮影実習（撮影予備日）：撮影を行う。
- [第 11 回] 編集実習（1本目の編集）：編集を行う。
- [第 12 回] 編集実習（2本目の編集）：編集を行う。
- [第 13 回] 編集実習（仕上げ）：できあがった作品を点検し、細かな修正を加える。
- [第 14 回] 作品発表：各班の作品を発表。作品についてディスカッションする。

### ●履修上の注意

必ず元村が担当する ICT メディア編集 I を履修し、映像制作の基本を学んでから、本講義を履修してください。カメラを使用して動画を撮影できること、Adobe Premiere Pro で基本的な編集ができることを前提に授業を行います。

### ●準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、CMを制作することが目標となりますので、様々なCMをたくさん見ておいて下さい。何を制作するかが決まったら、参考になる映像を探し、鑑賞してください。

復習については、ビデオカメラの操作方法、編集用アプリケーションの使用方を教わり次第、各自が誰の助けもなく使用できるよう、テキストを見直したり、自習室のパソコンで Adobe Premiere Pro を使ってみて下さい。

制作実習期間は、授業時間内で終わらなかった撮影や編集を各グループで行ってください。

### ●教科書

プリントを配布する

### ●参考書

なし

### ●課題に対するフィードバックの方法

確認テストについては授業中にフィードバックします。

課題作品については、最終回の上映時に教員が講評します。そして、履修者も各作品に対して感想を書き、それもフィードバックします。

### ●成績評価の方法

期末レポート10%、制作した作品30%、作品の企画10%、撮影・編集の確認テスト20%、授業への貢献度30%

### ●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集Ⅰ	龍前 三郎

## ●授業の概要・到達目標

【授業の概要】  
表現手段として画像や音声メディアを活用する際に必要となる基本的知識、およびコンピュータをはじめとする様々な機器をメディア編集に活用するための、画像・音声のデジタル表現に関する知識と技術の基礎を解説します。また、コンピュータ等を用いて、画像や音声コンテンツの作成・編集などに関する実際のスキルを養います。

【到達目標】  
主な到達目標は以下の通りです。  
1) 各種のメディアの特性を理解する  
2) 画像メディア・音声メディアの特徴を理解する  
3) 人間の感覚（視覚、聴覚等）の仕組みを理解する  
4) 画像および音声による情報表現の特性を理解する  
5) 画像や音声を用いたさまざまな情報の表現法を習得する  
6) 画像および音声のデジタルデータ表現の仕組みを理解する  
7) デジタル画像処理およびデジタル音声処理の理論を理解し技法を実践できる  
8) 3DCG が制作できる

## ●授業内容

【第1回】メディアの特性とメディアによる（情報）表現・編集  
【第2回】人間の感覚の仕組み・特性（特に視覚・聴覚）  
【第3回】視覚情報（画像、映像）・聴覚情報（音声）のデジタル表現  
【第4回】デジタル画像データ・デジタル音響データの処理プロセスとソフトウェア  
【第5回】画像編集 ～撮影技術の基礎知識と撮影技法～  
【第6回】画像データ作成 ～デジタルペッサン（ペイント）と描画（ドロー）～  
【第7回】画像編集 ～画像処理の原理、（基本編集）レタッチング、（特殊効果）フィルターリング～  
【第8回】a. 音響データ採集と作成 ～デジタル録音、音響データ作成（作曲）～  
b. 音響編集 ～音響処理の原理、各種の音響処理～  
【第9回】3次元コンピュータグラフィクス（3DCG）の原理と手法およびソフトウェア  
【第10回】基本的な3DCG制作  
【第11回】より高度な3DCG制作  
【第12回】アルゴリズムによる3DCGアニメーション制作  
【第13回】a. 新しいメディア表現と活用の可能性  
b. GC 検定模擬試験と解説  
【第14回】課題作品のプレゼンテーション

## ●履修上の注意

事前の知識、技術としては、コンピュータの基本操作ができれば十分です。授業では資料を用いた解説のほか、画像処理ソフト・3DCGソフトの使い方を練習します。教科書はありませんので、授業中は解説を良く聞いてください。また、ノートをとることを勧めます。

本コースで使用するソフトウェアは  
○デジタル画像作成と処理  
・Adobe Creative Cloud (Photoshop, Illustrator 等)  
○デジタル音声処理  
・Adobe Creative Cloud (Premiere Pro) または Audacity  
○3DCG制作  
・モデリング: Metasequoia 4 または Blender  
・レンダリング: POV-Ray 3.7.0 または Blender  
を予定しています。

教室、自習室にインストールされている Adobe 社のソフトウェアの使用にはライセンス登録が必要です。事前に「明治大学の学生アカウント（メールアドレス）」で登録してください。Metasequoia（一部）、Audacity、POV-Ray、Blender はフリーウェア（使用条件付）です。各サイトから入手できますので、自身の PC にインストールし、授業と並行して練習することを勧めます。

## ●準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】 Oh-olMeiji クラスウェブに提供する資料を参照して、授業の概要を理解してください。  
【復習】 資料とノートを見直して、授業内容に対する理解を深めてください。また、画像データの編集や3DCG制作は、インターネットで公開されているチュートリアルを参考にして、各自が自習室や自宅の PC でも練習してください。

## ●教科書

指定しません。授業用の電子データ資料を Oh-olMeiji クラスウェブで閲覧できるようにします。

## ●参考書

授業内で随時最新の参考資料を紹介いたします。

## ●課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題は授業中に講評を行います。課題作品は最終回のプレゼンテーションの際に個別に講評します。

## ●成績評価の方法

0) 「CG 検定模擬試験」の受験 成績評価の必要条件  
1) 授業で随時与える課題の提出および内容 60%  
2) 「課題テーマ」に基づくマルチメディア作品制作の成果 40%  
で評価します。  
【第13回】に実施する「CG 検定模擬試験」は自身の理解度確認用で、受験していただく必要がありますが、評点は成績に影響させません。

## ●その他

出欠確認や授業に関する連絡等に Oh-olMeiji システムを使用します。個別の質問などは、下記アドレス宛に「Meiji Mail（各自の大学メールアドレス）」から直接メールしてください。ri02017@meiji.ac.jp

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTメディア編集Ⅱ	龍前 三郎

## ●授業の概要・到達目標

【授業の概要】  
映像作品の製作を主に、マルチメディア作品の製作に必要な一般的知識、および作品制作にかかわる各種の技法を習得します。また、作品の製作プロセスの解説と課題演習を通して、プロデューサー、ディレクター、クリエイターとして、作品製作の全体を統括できる実務的素養を修得します。

【到達目標】  
主な到達目標は、以下の通りです。  
1) マルチメディア産業（コンテンツ産業）の現状とこれを取り巻く環境について理解する  
2) マルチメディアに関わる知的財産権やモラルについて理解する  
3) 作品制作を行うプロダクションワークの業務とそれを担当するスタッフについて理解する  
4) 作品制作の流れと各フェーズで行われる作業および要求される技術・技法を理解する  
5) 作品制作に関する各種の技術・技法を実践できる  
6) マルチメディア作品について多面的な批評ができる  
7) クリエイティブな活動に必要なデザイン思考、システム思考に対する意識を持つ

## ●授業内容

【第1回】 a. マルチメディア利活用の現状  
b. コンテンツ産業の現況と展望とコンテンツに関する諸問題  
【第2回】映像コンテンツのプロダクションワーク ～製作プロセスとスタッフ～  
【第3回】映像作品の表現要素、製作企画  
【第4回】プリプロダクション1 ～シナリオ・絵コンテによる設計（各種設定、場面イメージ等）～  
【第5回】プリプロダクション2 ～撮影・制作の準備（機材、美術、ロケーション等）～  
【第6回】プロダクション ～撮影・収録、作画等（撮影技術、カメラワーク、原画と動画等）～  
【第7回】ポストプロダクション1 ～編集の基礎とデジタル編集ソフトウェア～  
【第8回】ポストプロダクション2 ～デジタル映像編集技術演習～  
【第9回】ポストプロダクション3 ～デジタル音声編集技術演習～  
【第10回】映像表現の効果 ～撮影・編集技法とその効果～  
【第11回】簡易アニメーション制作演習  
【第12回】（映像）作品批評  
【第13回】クリエイティブプロセスにおけるデザイン思考とシステム思考（映像制作と製品開発）  
【第14回】課題作品のプレゼンテーションと相互批評

## ●履修上の注意

ICTメディア編集Ⅰ程度の内容を理解している必要があります。  
本コースにおいては実際のマルチメディア作品制作を行います。授業時間以外での撮影や編集作業が必要になることを承知しておいてください。なお、制作に必要な機材等は貸与できるものもありますが、詳細は授業中に紹介します。

授業では以下のソフトウェアを使用します。  
○デジタル編集  
・Adobe Creative Cloud (Premiere Pro 他) または lightworks, Blender

教室、自習室にインストールされている Adobe 社のソフトウェア、および lightworks の使用にはライセンス登録が必要です。事前に「明治大学の学生アカウント（メールアドレス）」で登録してください。

## ●準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】 事前に Oh-olMeiji クラスウェブに提示する資料を読んで、授業の概要を理解しておいてください。  
【復習】 資料とノートを読み返して、理解を深めてください。また、映像作品制作の課題を課しますので、授業の進行に合わせて制作を進めておいてください。特にデジタル編集ソフトウェアの使用法については、インターネットに公開されているチュートリアルを参考にして各自練習してください。

## ●教科書

指定しません。事前に資料を電子データで配布します。

## ●参考書

・「デジタル映像表現 -CGによるアニメーション制作- [改訂新版]」、(CG-ARTS 協会)、2016 画像・映像クリエイター関連検定試験のテキストです。  
・「新版 映像制作ハンドブック (玄光社 MOOK)」、グラスバレー株式会社、(玄光社)、2014 映像制作全般を理解するための解説書です。  
・「映像演出の教科書 (玄光社 MOOK)」、藍河 兼一 著、(玄光社)、2011 演出法とそれを伝えるための絵コンテのコツに関する解説書です。  
・「大学生のための動画制作入門: 言いたいことを映像で表現する技術」、黒岩 亜純・宮 徹 著、(慶應義塾大学出版会)、2017 自分で映像作品をつくる際の入門書になります。  
・「映画表現の教科書 - 名シーンに学ぶ決定的テクニック」、ジュニアファー・ヴァン・シル 著 (吉田俊太郎 訳)、(フィルムアート社)、2012 さまざまな優れた映像表現の事例を紹介しています。  
・「デザインはストーリーテリング」、エレン・ラプトン 著 (ヤナガワ智子 訳)、(ピー・エヌ・エヌ新社)、2018 新しいモノやコトの創造において「魅力」を高めるためのヒントが得られます。  
その他、随時参考になる情報源を紹介いたします。

## ●課題に対するフィードバックの方法

演習課題は授業の中で講評を行います。課題作品はプレゼンテーションの際に制作者個別の講評を行います。

## ●成績評価の方法

1) 授業中に与える演習課題の評価 50%  
2) マルチメディア作品制作の実施状況と制作した作品の評価 50%  
で評価します。

## ●その他

課題としての作品制作は各自でスケジュールを立てて進めてください。出欠確認や授業に関する連絡等に Oh-olMeiji システムを使用します。個別の質問などは、下記アドレス宛に「Meiji Mail（各自の大学メールアドレス）」から直接メールしてください。ri02017@meiji.ac.jp

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTアプリ開発Ⅰ	異 久行

### ●授業の概要・到達目標

1. 授業の概要  
ICT アプリを開発するための基礎技術を身につけることを目的とする。コンピュータでアプリ開発するには、与えられた問題を解くための手順を考えて、コンピュータ上で動作するソフトウェアでプログラムを作成する必要がある。本講義では、プログラムの作成を通して問題解決に必要な論理的思考を身につけると共に、プログラミングに対する基本的な知識と技能を習得する。授業では、最初に教育用のプログラミング学習システムである「Scratch」を用いて、条件分岐や繰り返し処理といった制御構文や配列操作を理解する。次に、シンプルなお手軽な仕様にもかかわらず汎用性が高く、人工知能を始めとする様々なアプリ開発で使われている「Python」言語を用いてプログラミングの基礎を学ぶ。

2. 到達目標  
プログラミングの基本的な考え方が説明できる。簡単な問題ならば独力でプログラムを作成できる。作成したプログラムの誤りを見つけて修正することができる。プログラミングで分からない部分についてはオンラインマニュアル等を利用して自分で調べることができる。

### ●授業内容

- [第 1 回] プログラミングの流れを学ぶ  
Scratch の紹介 (Scratch プログラミングは S#1 ~ S#6)
- [第 2 回] S#1: 図形の移動と描画
- [第 3 回] S#2: 変数の利用と演算
- [第 4 回] S#3: 繰り返し処理
- [第 5 回] S#4: 条件分岐
- [第 6 回] S#5: 配列
- [第 7 回] S#6: Scratch によるゲームプログラム  
レポート課題 1 「Scratch プログラムの作成」
- [第 8 回] Python の紹介 (Python プログラミングは P#1 ~ P#7)  
P#1: 対話モードとスクリプト、変数・文字列
- [第 9 回] P#2: 制御構文 (1)、選択構造
- [第 10 回] P#3: 制御構文 (2)、反復構造
- [第 11 回] P#4: リスト、辞書型、文字列操作
- [第 12 回] P#5: 関数、ラムダ式、イテレータとジェネレータ
- [第 13 回] P#6: 例外処理、モジュールとパッケージ
- [第 14 回] P#7: 基本プログラミング、講義のまとめ  
レポート課題 2 「Python プログラムの作成 (基本)」

### ●履修上の注意

実習を伴う授業なので欠席や遅刻はしないこと。作成したプログラムやデータを保存するための USB メモリを用意すること。授業時の演習とレポート課題 (2 題) を出題します。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

Scratch プログラミングの授業に先立って講義資料を読んでおくこと。また、Python プログラミングの授業に先立って教科書の指示した該当ページを読んでおくこと。授業内演習は基本的に授業内での作業ですが、次週までの演習問題を指示することがあります。授業外での質問はメールで対処します。  
オンラインの情報関連講習会 (<https://www.meiji.ac.jp/edu-info/menu/koshukai.html>) のうち、「Scratch で学ぶ初めてのプログラミング」講習会は授業内容に該当するので受講のこと。  
また、オンラインの生田システム講習会 (<https://www.meiji.ac.jp/isvs/seminar/system.html>) のうち、「Python」講習会内の「Python 入門」講習会は授業内容に該当するので受講のこと。なお、講習会の名称は適宜変更になる場合があります。

### ●教科書

『実践力を身につける Python の教科書』、クジラ飛行機、(マイナビ出版)  
※上記教科書のうち、「Chapter1 ~ Chapter4」の内容を行います。

### ●参考書

『やさしい Python』、高橋麻奈、(SB クリエイティブ)  
※説明がやさしくて分かりやすいので独学可能です。  
『入門 Python 3 第 2 版』、Bill Lubanovic (鈴木駿 監訳、長尾高弘 訳)、(オライリージャパン)  
※実践的なプログラミング演習が豊富に含まれています。

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業内での演習やレポート課題のフィードバックは「Oh-ol!Meiji」システムを利用して実施します。

### ●成績評価の方法

平常点 (授業内の演習を含めて) 60%、レポート課題 (2 題ほど) 40% で判断します。定期試験は行いません。授業内演習の未提出とレポート課題の提出遅延は減点するので注意すること。

### ●その他

授業内演習やレポート課題は Oh-ol!Meiji にて提出のこと。その際、ファイル名は「演習/課題の番号・授業時限・学部・学年・組・番号・氏名」とすること (例えば、「演 1 (もしくは課 1) 月 3 法 1-10-100 明治太郎。拡張子」)。電子メールで提出する場合は件名も指示するので順守すること。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTアプリ開発Ⅱ	異 久行

### ●授業の概要・到達目標

1. 授業の概要  
ICT アプリを開発するための応用技術を身につけることを目的とする。アプリ開発は具体的に意味のあるプログラムを書くことを目標として、プログラミングにおける総合的かつ実践的な知識と技術の習得が必要である。本講義では、プログラムで実現したいことを理解し、他者に説明できるレベルまで整理し、コンピュータが処理できる形まで落とすという、プログラミング開発の流れを体験する。授業では、ICT アプリ開発Ⅰの後半に引き続いて Python プログラミングを発展させ、実践的なプログラミングやアプリ (デスクトップアプリや Web アプリ) プログラミング、最近人気の機械学習プログラミングなどを学ぶ。

2. 到達目標  
KISS 原則 (Keep It Short and Simple) を意識したプログラミングの概念と設計方法を実践できる。小規模なコードなら他者の書いたプログラムを理解して動作を説明できる。修正や管理がしやすいプログラミングを意識して検証も行うことができる。

### ●授業内容

- [第 1 回] 実践的プログラミングの流れを学ぶ  
ファイル処理、コマンドラインツール
- [第 2 回] 正規表現、リスト内包表記、デコレータ
- [第 3 回] デスクトップアプリ
- [第 4 回] Web アプリ
- [第 5 回] Tkinter による GUI プログラミング
- [第 6 回] PyGame によるゲームプログラミング
- [第 7 回] Pandas によるデータ分析プログラミング  
レポート課題 1 「Python プログラムの作成 (応用)」
- [第 8 回] 機械学習プログラミングの流れを学ぶ  
Anaconda, Google Colaboratory
- [第 9 回] 機械学習プログラミング (1)、Scikit-learn の利用
- [第 10 回] 機械学習プログラミング (2)、Colaboratory の利用
- [第 11 回] TensorFlow & Keras によるディープラーニング (1)、画像分類
- [第 12 回] TensorFlow & Keras によるディープラーニング (2)、画像認識
- [第 13 回] オブジェクト指向について
- [第 14 回] Python でデータベース (SQLite)  
レポート課題 2 「機械学習プログラムの作成」

### ●履修上の注意

実習を伴う授業なので欠席や遅刻はしないこと。作成したプログラムやデータを保存するための USB メモリを用意すること。授業時の演習とレポート課題 (2 題) を出題します。  
授業の後半で「Google Colaboratory」を利用するので、各自で Google アカウントを取っておくこと。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

授業に先立って教科書の指示した該当ページ (もしくは、ファイルで用意した講義資料) を読んでおくこと。授業内演習は基本的に授業内での作業ですが、次週までの演習問題を指示することがあります。授業外での質問はメールで対処します。  
オンラインの生田システム講習会 (<https://www.meiji.ac.jp/isvs/seminar/system.html>) のうち、「Python」講習会内の、「Python 応用 (データ分析)」講習会および「Python 応用 (機械学習)」講習会は授業内容に該当するので受講のこと。なお、講習会の名称は適宜変更になる場合があります。

### ●教科書

『実践力を身につける Python の教科書』、クジラ飛行機、(マイナビ出版)  
※上記教科書のうち、「Chapter4 ~ Chapter6」の内容を行います。  
※教科書に記載のない事項については講義資料を用意します。

### ●参考書

『すぐに使える!業務で実践できる! Python による AI・機械学習・深層学習アプリの作り方 TensorFlow2 対応』、クジラ飛行機、杉山陽一、遠藤俊輔、(ソシム)  
※機械学習アプリを作成するための考え方やコーディング手法が具体的にです。  
『Python ではじめる機械学習 —scikit-learn で学ぶ特微量エンジニアリングと機械学習の基礎』、Andreas C. Muller, Sarah Guido (中田秀基 訳)、(オライリージャパン)  
※初心者向きではありませんが機械学習に必要な内容がコンパクトに記載されています。

### ●課題に対するフィードバックの方法

授業内での演習やレポート課題のフィードバックは「Oh-ol!Meiji」システムを利用して実施します。

### ●成績評価の方法

平常点 (授業内の演習を含めて) 60%、レポート課題 (2 題ほど) 40% で判断します。定期試験は行いません。授業内演習の未提出とレポート課題の提出遅延は減点するので注意すること。

### ●その他

授業内演習やレポート課題は Oh-ol!Meiji にて提出のこと。その際、ファイル名は「演習/課題の番号・授業時限・学部・学年・組・番号・氏名」とすること (例えば、「演 1 (もしくは課 1) 月 3 法 1-10-100 明治太郎。拡張子」)。電子メールで提出する場合は件名も指示するので順守すること。

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICTアプリ開発Ⅰ [M]	野口 喜洋

## ●授業の概要・到達目標

現代では、あらゆる研究活動やビジネス活動がPC・携帯端末・クラウドを含むICT環境という新しい情報(伝達)メディア上で展開されるようになりました。  
ICTベースシミュレーションでは、ハードウェア、OS、アプリの利用法を中心とした授業が行われています。しかし、PCの処理内容を指示するプログラムを自分で書き、動かすスキルを身につければ、汎用情報処理装置としてのICT環境の威力は100%自分のものにできます。とれか1種類であってもプログラミング言語を習得し、自分の目的をプログラムとして表現できる人は、アプリの使い方も知らない人に比べ、知的生活を営む上ではるかに優位に立てます。現在、発展が著しい人工知能(AI)やモノのインターネット(IoT)も、自分の仕事や生活のために使いこなすことができます。  
この授業では、現在世界一学習者が多いといわれるpython言語を用い、プログラミングの初歩を学びます。ICT環境における数値・文字情報の表現から始め、プログラムの考え方、言語の基本文法などを、演習を通じて習得してもらいます。  
この授業の到達目標は、pythonを用いて、

- ・与えられた要求仕様を満たすプログラムが書ける。
- ・わからないことをWeb上で自ら調べ、解決できる。

ことです。これは、自分の目的に沿った要求仕様を書き、プログラムとして実現するというICTアプリ開発Ⅰ/Ⅱの到達目標のちょうど折り返し点にあたります。

## ●授業内容

- [第1回] aのみ:イントロダクション、プログラミングとは[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第2回] ICTにおける数値情報の表現[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第3回] ICTにおける文字情報の表現[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第4回] 初めてのプログラム、変数の使い方[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第5回] 条件分岐と反復処理[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第6回] リストとタプル[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第7回] コマンドライン引数[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第8回] 入力リダイレクト、ファイルの読み書き[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第9回] 課題レポート1:ファイルマネージャールの作成[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第10回] 書式設定と正規表現[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第11回] 関数とモジュール[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第12回] 集合とディクショナリ[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第13回] 課題レポート2:電話帳DBプログラムの作成1(設計、コーディング)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第14回] 課題レポート2:電話帳DBプログラムの作成2(デバッグ、システムテスト)[メディア授業(オンデマンド型)]

## ●履修上の注意

この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-ol Meijiの科目トップページにリンクがある「[授業ポータル](#)」と、そこからリンクされている各回の「授業フォルダ」に配置します。「授業フォルダ」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予約のために前倒して公開することもあります。履修者は「何回目の授業か」に注意してください(表の最下行が今回の授業とは限りません)。  
「課題レポート(この科目では2種類のプログラム)」の提出は、Oh-ol Meijiのレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。  
各回の授業開始時には、[ZOOM ミーティング\(OOH:オンライン・オフィス・アワー\)](#)を開きますので、後述の案内を見て、参加していただきます。パスワードは「987782」です。ミーティングでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は10分程度です。  
各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時にOh-ol Meijiの「クラスウェブ/出席送信」機能を用いています。各回の出席パスワードは、上記「授業ポータル」に記述されています。出席送信の30分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。  
授業時間内の講師やTAさんへの質問・相談は、上記ミーティングの「グループチャット」で行います。TAさんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「画面共有」機能を利用してください。  
授業時間外は、[講師宛のメール](#)で質問してください。回答までに2~3日かかる場合があります。情報コミュニケーション学部の学生は、基本的に同一内容ですから、対面授業の「プログラミング実習Ⅰ」か、この授業のどちらか一方を履修してください(併願しない)。ただし、私が担当する「プログラミング実習Ⅱ」と、他の先生が担当される「ICTアプリ開発」は、授業内容が異なりますから、自由に併願してかまいません。

## ●準備学習(予習・復習等)の内容

予習としてWeb講義資料の該当部分を読んでください。Web講義資料はページ下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「授業フォルダ」が公開されていなくても、全回分を読むことができます。  
オンデマンド型ビデオ教材もできるだけ前倒して公開しますので、予習のために利用するか、授業時間前に視聴するのも自由です。ただし、その場合も上記の「OOH:オンライン・オフィス・アワー」には出席してください。  
また、授業中に理解が不十分だったところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用するなどして復習し、理解してください。  
課題レポート(提出物を伴う課題)について、基本的には、授業時間以外の作業は要求しませんが、提出物の作成に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

## ●教科書

【入門 Python 3 第2版】ビル・ルパノヴィック、長尾高弘訳(オライリー・ジャパン)  
ISBN978-4-87311-932-8  
授業中も頻繁に参照するので必ず持参してください。初心者には難しい部分もありますが、リファレンス本として一生物の良書です。

## ●参考書

「[授業ポータル](#)」からリンクされているWeb講義資料は、時間の都合などで、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自のPC画面を最大限活用するために、Web講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

## ●課題に対するフィードバックの方法

提出された「課題レポート」については、各回の「授業フォルダ」を用いたファイル共有や、「連絡会(OOH)」内の「グループチャット」「画面共有」などを用いてフィードバックを返すことがあります。

## ●成績評価の方法

平常点(授業への参加度および貢献度)50%、課題レポート50%。  
部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくださいれば、出席扱いにしています。  
課題レポートの提出はOh-ol Meijiの「クラスウェブ/レポート」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。  
この授業では、定期試験は行いません。

## ●その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、Web講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴したりして、次回までにキャッチアップ(他の履修者のレベルに追いつく)してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「準備学習(予習・復習等)の内容」欄に示した方法で予習・復習すると、内容的には同じです。

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICTアプリ開発Ⅱ [M]	野口 喜洋

## ●授業の概要・到達目標

現代では、あらゆる研究活動やビジネス活動がPC・携帯端末・クラウドを含むICT環境という新しい情報(伝達)メディア上で展開されるようになりました。  
ICTベースシミュレーションでは、ハードウェア、OS、アプリの利用法を中心とした授業が行われています。しかし、PCの処理内容を指示するプログラムを自分で書き、動かすスキルを身につければ、汎用情報処理装置としてのICT環境の威力は100%自分のものにできます。とれか1種類であってもプログラミング言語を習得し、自分の目的をプログラムとして表現できる人は、アプリの使い方も知らない人に比べ、知的生活を営む上ではるかに優位に立てます。現在、発展が著しい人工知能(AI)やモノのインターネット(IoT)も、自分の仕事や生活のために使いこなすことができます。  
この授業では、プログラミング実習Ⅰでpython言語の基礎を学んだ学生を対象に、各種ライブラリを駆使して実用的なツールや本格的なゲームの作成法を学びます。さらに最先端の深層学習(ディープラーニング)にも触れることで、プログラミングがもたらす無限大の可能性を感じ取ってもらいます。  
この授業の到達目標は、pythonを用いて、

- ・自分の目的を要求仕様として書ける。
- ・Web上で自ら必要なモジュール(ライブラリ)を調べ、インストールして利用できる。
- ・自分がICT環境にさせたいことをプログラムとして正確に表現できる。

ことです。ここでくれば、もう誰に習わずとも、プログラミングのスキルを将来にわたって自身の知的生活のためにとして役立つと考えられます。

## ●授業内容

- [第1回] aのみ:イントロダクション、GUIプログラミングとは[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第2回] 2Dグラフィックスの基礎[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第3回] クラスとオブジェクト(クラス、オブジェクト変数、メソッド)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第4回] クラスとオブジェクト(図形クラスライブラリ)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第5回] tkinterライブラリの使い方[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第6回] 課題レポート1:電卓プログラムの作成(ゲーム電卓、整数電卓)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第7回] 課題レポート1:電卓プログラムの作成(小数電卓、機能追加)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第8回] pygameライブラリの使い方、洞窟探検ゲーム[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第9回] ブロック崩しゲーム、ノベルゲーム[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第10回] 課題レポート2:pythonアプリコンテスト(チーム分けと企画立案)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第11回] 課題レポート2:pythonアプリコンテスト(開発着手)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第12回] 課題レポート2:pythonアプリコンテスト(コーディング、コンテンツ制作)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第13回] 課題レポート2:pythonアプリコンテスト(テスト、デバッグ、改良)[メディア授業(オンデマンド型)]
- [第14回] 課題レポート2:pythonアプリコンテスト(発表会、講評)[メディア授業(オンデマンド型)]

## ●履修上の注意

この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-ol Meijiの科目トップページにリンクがある「[授業ポータル](#)」と、そこからリンクされている各回の「授業フォルダ」に配置します。「授業フォルダ」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予約のために前倒して公開することもあります。履修者は「何回目の授業か」に注意してください(表の最下行が今回の授業とは限りません)。  
「課題レポート(この科目では2種類のプログラム)」の提出は、Oh-ol Meijiのレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。  
各回の授業開始時には、[ZOOM ミーティング\(OOH:オンライン・オフィス・アワー\)](#)を開きますので、後述の案内を見て、参加していただきます。パスワードは「987782」です。ミーティングでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は10分程度です。  
各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時にOh-ol Meijiの「クラスウェブ/出席送信」機能を用いています。各回の出席パスワードは、上記「授業ポータル」に記述されています。出席送信の30分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。  
授業時間内の講師やTAさんへの質問・相談は、上記ミーティングの「グループチャット」で行います。TAさんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「画面共有」機能を利用してください。  
授業時間外は、[講師宛のメール](#)で質問してください。回答までに2~3日かかる場合があります。情報コミュニケーション学部の学生は、基本的に同一内容ですから、対面授業の「プログラミング実習Ⅱ」か、この授業のどちらか一方を履修してください(併願しない)。ただし、私が担当する「プログラミング実習Ⅱ」と、他の先生が担当される「ICTアプリ開発」は、授業内容が異なりますから、自由に併願してかまいません。

## ●準備学習(予習・復習等)の内容

予習としてWeb講義資料の該当部分を読んでください。Web講義資料はページ下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「授業フォルダ」が公開されていなくても、全回分を読むことができます。  
オンデマンド型ビデオ教材もできるだけ前倒して公開しますので、予習のために利用するか、授業時間前に視聴するのも自由です。ただし、その場合も上記の「OOH:オンライン・オフィス・アワー」には出席してください。  
また、授業中に理解が不十分だったところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用するなどして復習し、理解してください。  
課題レポート(提出物を伴う課題)について、基本的には、授業時間以外の作業は要求しませんが、提出物の作成に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

## ●教科書

【入門 Python 3 第2版】ビル・ルパノヴィック、長尾高弘訳(オライリー・ジャパン)  
ISBN978-4-87311-932-8  
授業中も頻繁に参照するので必ず持参してください。初心者には難しい部分もありますが、リファレンス本として一生物の良書です。

## ●参考書

「[授業ポータル](#)」からリンクされているWeb講義資料は、時間の都合などで、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自のPC画面を最大限活用するために、Web講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

## ●課題に対するフィードバックの方法

提出された「課題レポート」については、各回の「授業フォルダ」を用いたファイル共有や、「連絡会(OOH)」内の「グループチャット」「画面共有」などを用いてフィードバックを返すことがあります。

## ●成績評価の方法

平常点(授業への参加度および貢献度)50%、課題レポート50%。  
部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくださいれば、出席扱いにしています。  
課題レポートの提出はOh-ol Meijiの「クラスウェブ/レポート」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。  
この授業では、定期試験は行いません。

## ●その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、Web講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴したりして、次回までにキャッチアップ(他の履修者のレベルに追いつく)してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「準備学習(予習・復習等)の内容」欄に示した方法で予習・復習すると、内容的には同じです。

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICTアプリ開発Ⅰ [M]	茨田 大輔

●授業の概要・到達目標

近年、Web サイトにアクセスして利用するサービスの需要が高まっている。Web を通して利用するアプリケーションソフトウェアは Web アプリと呼ばれる。Web アプリは JavaScript というプログラミング言語によって記述されるが、JavaScript から利用できる API (Application Programming Interface) が充実してきており、コンピュータグラフィックスだけでなく、センサーやマイクやカメラなどのメディアデバイスを用いたアプリ開発も可能である。

本授業では、Web アプリ開発を用いて ICT アプリ開発の基礎に関する講義および実習を行う。実習課題は本学のサーバーにアップロードし、各自のホームページ上で教員および受講者に限定公開することによって教員および学生間で確認が行えるようにする。

●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション、Web アプリ開発の準備 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 2 回] HTML と DOM [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 3 回] 変数と演算 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 4 回] 条件分岐 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 5 回] 繰り返し処理 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 6 回] 関数 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 7 回] 要素オブジェクト [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 8 回] イベント処理 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 9 回] CGI の基礎 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 10 回] サーバーへのデータ転送 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 11 回] 簡易 SNS の作成 1 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 12 回] 簡易 SNS の作成 2 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 13 回] Web アプリ開発実習 1 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 14 回] Web アプリ開発実習 2 [メディア授業 (リアルタイム型)]

●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。授業は原則 Zoom によるリアルタイム配信と専用システムを使ったリアルタイム型で行う。スマートフォンでもアプリ開発の作業が可能な内容であるが、PC を用いることが望ましい。受講状況は専用システムを用いて確認を行う。実習課題は各自のホームページ上で教員および受講者に限定公開するため、事前にホームページを公開できる状態にしておくことが望ましい。また、Oh-ol Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

ホームページ公開に関する参考サイト：<https://www.meiji.ac.jp/isvs/doc/website/index.html>

●準備学習 (予習・復習等) の内容

講義と実習を中心に行う。

●教科書

毎回提示する講義資料を教材とする。

●参考書

特になし

●課題に対するフィードバックの方法

電子メール、Oh-olMeiji のフィードバックコメント、専用システムを用いて行う。

●成績評価の方法

平常点 (授業への参加態度) (20%)、実習課題 (80%) によって評価する。定期試験は行わない。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 226 J	
ICTアプリ開発Ⅱ [M]	茨田 大輔

●授業の概要・到達目標

近年、Web サイトにアクセスして利用するサービスの需要が高まっている。Web を通して利用するアプリケーションソフトウェアは Web アプリと呼ばれる。Web アプリは JavaScript というプログラミング言語によって記述されるが、JavaScript から利用できる API (Application Programming Interface) が充実してきており、コンピュータグラフィックスだけでなく、センサーやマイクやカメラなどのメディアデバイスを用いたアプリ開発も可能である。

本授業では、Web アプリ開発を用いて ICT アプリ開発の基礎に関する講義および実習を行う。実習課題は本学のサーバーにアップロードし、各自のホームページ上で教員および受講者に限定公開することによって教員および学生間で確認が行えるようにする。

●授業内容

- [第 1 回] イントロダクション、Web アプリ開発の準備 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 2 回] Canvas 要素と図形の描画 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 3 回] Web ペイントアプリの作成 1 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 4 回] Web ペイントアプリの作成 2 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 5 回] ファイルの読み込み、保存 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 6 回] Video 要素とメディアストリーム [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 7 回] Web Audio API [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 8 回] Web 電子オルガンの作成 1 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 9 回] Web 電子オルガンの作成 2 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 10 回] Audio 要素とメディアストリーム [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 11 回] 音声と動画の合成 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 12 回] カメラ、マイク、センサー等のデバイスの利用 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 13 回] Web アプリ開発実習 1 [メディア授業 (リアルタイム型)]
- [第 14 回] Web アプリ開発実習 2 [メディア授業 (リアルタイム型)]

●履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。授業は原則 Zoom によるリアルタイム配信と専用システムを使ったリアルタイム型で行う。スマートフォンでもアプリ開発の作業が可能な内容であるが、PC を用いることが望ましい。受講状況は専用システムを用いて確認を行う。実習課題は各自のホームページ上で教員および受講者に限定公開するため、事前にホームページを公開できる状態にしておくことが望ましい。また、Oh-ol Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

ホームページ公開に関する参考サイト：<https://www.meiji.ac.jp/isvs/doc/website/index.html>

また、同一教員の ICT アプリ開発Ⅰを受講していることが望ましい。

●準備学習 (予習・復習等) の内容

講義と実習を中心に行う。

●教科書

毎回提示する講義資料を教材とする。

●参考書

なし

●課題に対するフィードバックの方法

電子メール、Oh-olMeiji のフィードバックコメント、専用システムを用いて行う。

●成績評価の方法

平常点 (授業への参加態度) (20%)、実習課題 (80%) によって評価する。定期試験は行わない。

●その他

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTコンテンツデザインI	小林 信三

### ●授業の概要・到達目標

生成 AI 時代で活躍するためのタイパ重視「即席デジタルコンテンツ」をつくってみよう！

このクラスでは、これから始まる生成 AI 時代の「新たな学び方」を実習とおとして構想&デザインしていきます。

このクラスの学習テーマ / 達成目標は、  
～「私たちの理想の未来社会」を実現する教材と学びのプラットフォームを即席で作る～  
です。

前期 (I) では、主にコンテンツ (学習教材) の企画・制作を行います。  
後期 (II) では、前期で習得したコンテンツの制作ノウハウを活かして、オンラインコース (講座) を数名のチームで企画・実装します。

このクラスの実習で使用する ICT ツールは、主に Google や YouTube などのクラウドサービスやオンラインアプリですので、普段パソコンやスマホを使い慣れている学生であれば特に専門的な知識やプログラミング技術は必要ありません。  
また、クラス内での情報共有やコミュニケーションにおいて、メジャーリーガーの大谷翔平選手も利用したこと知られている「マンダラ」(DMM: Diamond Mandala Matrix) を「思考言語ツール」として使用します。

みなさんの興味関心や大学生活で学んだ専門分野の知識をぜひこのクラスで「かたち=コンテンツ」にしてみてください！

### ●授業内容

このクラスでは以下の 4 つのセクションでそれぞれの課題についてデジタルコンテンツを制作・発表していきます。

<セクション課題 (1)>

～自分の関心テーマでデジタルコンテンツを構想・企画してみよう！～

[第 1 回] どんなコンテンツをつくってみよう？だれに見てもらいたい？学んでもらいたい？

[第 2 回] コンテンツのイメージをデジタル・マンダラと生成 AI で言語化する

[第 3 回] 成果発表交流会 (1)

<セクション課題 (2)>

～デジタル紙芝居でデジタルコンテンツをつくってみよう！～

[第 4 回] デジタル紙芝居 (スライドショー) の仕組みを学ぶ

[第 5 回] 企画したコンテンツ案をデジタル紙芝居にしてみる

[第 6 回] 成果発表交流会 (2)

<セクション課題 (3)>

～YouTube ショート動画でデジタルコンテンツをつくってみよう！～

[第 7 回] YouTube ショート動画の仕組みを学ぶ

[第 8 回] 企画したコンテンツ案を YouTube ショート動画にしてみる

[第 9 回] 成果発表交流会 (3) <セクション課題 (4)>

～電子書籍でデジタルコンテンツをつくってみよう！～

[第 10 回] デジタル・マンダラを使ってデジタル紙芝居と YouTube ショート動画を合体させる

[第 11 回] デジタル・マンダラから電子書籍をつくってみる (1)

[第 12 回] デジタル・マンダラから電子書籍をつくってみる (2)

[第 13 回] 成果発表交流会 (4)

[第 14 回] 学習成果の振り返り

### ●履修上の注意

- ・普段使い慣れているパソコン、タブレット PC があればそれを使ってください。(Windows、Mac、Chromebook 等、機種 OS は問いません)
- ・スマホがあれば、授業の補助ツールとして適宜利用してください。
- ・授業では筆記用具を必ず持参してください。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

事前学習 (予習)

・各回の授業テーマについての事前知識 (知っていること、興味関心、疑問・知りたいことなど) を「学びのアルバム」に登録する。

事後学習 (復習)

・各回の授業で学んだこと (重要だと思ったこと、講師やクラスの仲間に伝えたいこと、関連する情報など) を「学びのアルバム」に登録する。

### ●教科書

特に指定なし

### ●参考書

参考サイト:

「銀河まんだら村」>> [https://note.com/mandala\\_village](https://note.com/mandala_village)

### ●課題に対するフィードバックの方法

各セクションでの実習成果の発表に対してクラス内での相互評価 (コメント・アドバイス等) を行います。

### ●成績評価の方法

以下の 4 つの課題提出物について成績を評価・採点します (知識ベースの試験は行いません)。なお、それぞれの課題の提出基準 / 評価基準については、授業のなかで説明します。不明な点があれば都度講師に確認してください。

- 1) 事前学習: 10%
- 2) 事後学習: 10%
- 3) 成果発表: 60%
- 4) 授業貢献 (各成果発表に対する相互評価): 20%

### ●その他

このクラスでは、担当講師の知識や経験だけでなく、実社会で ICT を活用しているさまざまな分野の方々による体験談や情報交換などの機会も積極的に取り入れていきます。

科目ナンバー: IF ACD 225 J	
ICTコンテンツデザインII	小林 信三

### ●授業の概要・到達目標

生成 AI 時代で活躍するためのタイパ重視「即席オンラインコース」をつくってみよう！

このクラスでは、これから始まる生成 AI 時代の「新たな学び方」を実習とおとして構想&デザインしていきます。

このクラスの学習テーマ / 達成目標は、  
～「私たちの理想の未来社会」を実現する教材と学びのプラットフォームを即席で作る～  
です。

前期 (I) では、主にコンテンツ (学習教材) の企画・制作を行います。  
後期 (II) では、前期で習得したコンテンツの制作ノウハウを活かして、オンラインコース (講座) を数名のチームで企画・実装します。

このクラスの実習で使用する ICT ツールは、主に Google や YouTube などのクラウドサービスやオンラインアプリですので、普段パソコンやスマホを使い慣れている学生であれば特に専門的な知識やプログラミング技術は必要ありません。  
また、クラス内での情報共有やコミュニケーションにおいて、メジャーリーガーの大谷翔平選手も利用したこと知られている「マンダラ」(DMM: Diamond Mandala Matrix) を「思考言語ツール」として使用します。

みなさんの興味関心や大学生活で学んだ専門分野の知識をぜひこのクラスで「かたち=コンテンツ」にしてみてください！

### ●授業内容

このクラスでは前期で学んだデジタルコンテンツの制作ノウハウを活用して、以下の 3 つのセクションでそれぞれの課題についてオンラインコースをチームで制作・発表していきます。

<セクション課題 (1)>

～オンラインコースの開講を目指したプロジェクトチームをつくってみよう！～

[第 1 回] どんなオンラインコースをつくってみよう？このコースをだれに受講してもらいたい？

[第 2 回] オンラインコースのイメージをデジタル・マンダラと生成 AI で言語化する

[第 3 回] 成果発表交流会 (1)

<セクション課題 (2)>

～オンラインコースで提供するデジタルコンテンツをつくってみよう！～

[第 4 回] オンラインコースのデジタルコンテンツをチームで考えてみる (1)

[第 5 回] オンラインコースのデジタルコンテンツをチームで考えてみる (2)

[第 6 回] デジタル紙芝居でデジタルコンテンツをつくってみる

[第 7 回] YouTube ショート動画でデジタルコンテンツをつくってみる

[第 8 回] 電子書籍でデジタルコンテンツをつくってみる

[第 9 回] 成果発表交流会 (2)

<セクション課題 (3)>

～チームでオンライン・クラスルームをつくってみよう！～

[第 10 回] Google クラスルームの仕組みを学ぶ

[第 11 回] オンライン・クラスルームに学習コンテンツを配置する (1)

[第 12 回] オンライン・クラスルームに学習コンテンツを配置する (2)

[第 13 回] 成果発表交流会 (3) (オンライン・クラスルームの開講)

[第 14 回] 学習成果の振り返り

### ●履修上の注意

- ・普段使い慣れているパソコン、タブレット PC があればそれを使ってください。(Windows、Mac、Chromebook 等、機種 OS は問いません)
- ・スマホがあれば、授業の補助ツールとして適宜利用してください。
- ・授業では筆記用具を必ず持参してください。

### ●準備学習 (予習・復習等) の内容

事前学習 (予習)

・各回の授業テーマについての事前知識 (知っていること、興味関心、疑問・知りたいことなど) を「学びのアルバム」に登録する。

事後学習 (復習)

・各回の授業で学んだこと (重要だと思ったこと、講師やクラスの仲間に伝えたいこと、関連する情報など) を「学びのアルバム」に登録する。

### ●教科書

特に指定なし

### ●参考書

参考サイト:

「銀河まんだら村」>> [https://note.com/mandala\\_village](https://note.com/mandala_village)

### ●課題に対するフィードバックの方法

各セクションでの実習成果の発表に対してクラス内での相互評価 (コメント・アドバイス等) を行います。

### ●成績評価の方法

以下の 4 つの課題提出物について成績を評価・採点します (知識ベースの試験は行いません)。なお、それぞれの課題の提出基準 / 評価基準については、授業のなかで説明します。不明な点があれば都度講師に確認してください。

- 1) 事前学習: 10%
- 2) 事後学習: 10%
- 3) 成果発表: 60%
- 4) 授業貢献 (各成果発表に対する相互評価): 20%

### ●その他

このクラスでは、担当講師の知識や経験だけでなく、実社会で ICT を活用しているさまざまな分野の方々による体験談や情報交換などの機会も積極的に取り入れていきます。



科目ナンバー：IF ACD 225 J	
ICTコンテンツデザインI	宮原 俊之

### ●授業の概要・到達目標

この授業では、eラーニングコンテンツ(人に物事を伝えるコンテンツ)の制作体験をとおして、様々な分野で応用できるデザインする力や人にも伝える力の育成を図ります。その際、インストラクショナルデザイン(教え方や伝え方の理論と考えてください)という方法論の基礎を学びます。みなさん、「eラーニング」って知ってますか?「インストラクショナルデザイン」はどうでしょうか?この言葉聞いて、漠然とでもよいので少しでも興味を持った方は、是非受講してみてください。

2020年から世界中で流行した新型コロナウイルス感染症の影響もあり、これからの時代、一層この「eラーニング」や「インストラクショナルデザイン」は、重要なキーワードになってきます!!2020年以降、多くの教育機関や企業内教育でeラーニングを活用する事例は増えてきましたが、有効かつ効果的に活用できている例はまだ少ないのが現実です。しかしながら、eラーニングを方法の一つと捉え効果的に活用することによって、通常の対面授業以上の効果も期待できるものなのです。

単に「技術的に凝ったeラーニングコンテンツの制作」を行うわけではありませんので、ICTベシクを受講した方、少しでも情報技術を理解している方、同程度のスキルを持ってれば、受講に際して心配はありません。

なお、本授業を受講される方は、できるだけ、春学期(I)・秋学期(II)とも履修してください。なぜなら、(I)・(II)も eラーニングコンテンツの制作を行うのですが、(I)は制作することが目標、(II)はインストラクショナルデザインの考え方を踏まえて「良い」コンテンツの制作を行うことが目標だからです。また、1回の制作で終えるのではなく、1回目の制作を振り返り2回目にはチャレンジすることで学んだことを使えるようにもなります。

教育分野に、ICTを効果的に教育に活用することに、情報技術の分野に、興味がある方には、特に役立つでしょう。

### ●授業内容

[第1回] イントロダクション(導入)  
自己紹介と具体的な授業の内容と進め方、計画、評価方法などについて説明します。

[第2回] eラーニングとは  
eラーニングの定義など、eラーニングの全体像について取り上げます。  
[課題] 身近なeラーニングを探してみよう

[第3回] 課題発表、インストラクショナルデザインの基本の基本  
eラーニングを生きたものにするための手法であるインストラクショナルデザインについて基本的な事項を説明します。

[第4回] 使用するシステムに触れてみよう1  
eラーニングコンテンツを制作する際に使用するシステムを実際に使ってみます。

[第5回] 使用するシステムに触れてみよう2、スタジオ見学  
前回に引き続き、eラーニングコンテンツの制作ツールを体験するほかに、スタジオ見学も行います。

[第6回] eラーニングコンテンツを制作する準備をしよう  
eラーニングコンテンツを制作する上で欠かせない著作権について説明します。  
その後、春学期に制作するeラーニングコンテンツのテーマを決め、企画書(簡易版)の作成に入ります。  
[課題] 制作するコンテンツの企画書(簡易版)を作成しよう

[第7回] 制作演習1  
今後の工程策定、素材作成

[第8回] 制作演習2  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第9回] 制作演習3  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第10回] 制作演習4  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第11回] 制作演習5  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第12回] 制作演習6  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第13回] 制作演習7  
最終チェック、コンテンツ提出

第13回と第14回の間相互評価を行います。  
[第14回] 発表会、まとめ

### ●履修上の注意

基本的なパソコンの操作ができること、「授業の概要・到達目標」に興味があることが受講の前提条件です。  
また、自分で考え、手を動かす演習を多く行う授業です。最後まであきらめずに新しいことに自ら挑戦できる自信も必要です。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

授業時間では制作演習を多く行うため、授業時間外に、課題への取り組みや、制作演習に関係する準備、作業が発生します。  
また、一部、反転授業を取り入れる可能性があります。

### ●教科書

特に定めませんが、参考書としてあげる書籍は持っていません。

### ●参考書

・[教材設計マニュアル]、鈴木克明著、(北大路書房)  
・[学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン]、J. M. ケラー著、鈴木克明監訳(北大路書房)  
他は、随時授業中にお知らせします。

### ●課題に対するフィードバックの方法

毎回、「大福帳」というコメントシートを使用して、学生・教員間のコミュニケーションを実現します。詳細は、初回の授業で説明します。  
その他、必要に応じて、適切な方法でフィードバックを行います。

### ●成績評価の方法

[課題など提出物・取り組み姿勢] 45%  
[最終成果物] 55% (制作物一式と最終レポートなど)  
※状況に応じて多少の割合の調整はあります。  
※無断での欠席が4回を超えた場合は評価対象外とします。  
※定期試験は行いません。

### ●その他

コンテンツの発表会、相互評価については、状況に応じてやり方を変えます。  
できるだけ多くの演習時間を確保するために前倒しして進めます。  
履修者の人数や皆さんの希望を踏まえて、制作演習開始前に「グループまたは個人」のどちらの取り組みにするかを決めます。  
個人制作となった場合でも、意見交換できる場を設けます。

科目ナンバー：IF ACD 225 J	
ICTコンテンツデザインII	宮原 俊之

### ●授業の概要・到達目標

この授業では、eラーニングコンテンツ(人に物事を伝えるコンテンツ)の制作体験をとおして、様々な分野で応用できるデザインする力や人にも伝える力の育成を図ります。その際、インストラクショナルデザイン(教え方や伝え方の理論と考えてください)という方法論の基礎を学びます。

春学期(I)は、皆さんに「eラーニング」コンテンツの制作を体験してもらうことが目標でしたが、秋学期(II)は、それを踏まえてインストラクショナルデザインの考え方を学び、「良い」eラーニングコンテンツの制作を行うことが目標です。

単に「技術的に凝ったeラーニングコンテンツの制作」を行うわけではありませんので、ICTベシクを受講した方、少しでも情報技術を理解している方、同程度のスキルを持ってれば、受講に際して、心配はありません。

秋学期は、理論/再構成編として、「インストラクショナルデザイン」を少し掘り下げ、eラーニングを効果的に活用するために必要な事項を整理し、春学期に制作したコンテンツ(またはいままで制作したコンテンツ)を評価しつつ、「良い」eラーニングコンテンツに変化させることを行います。「目標の立て方」や「評価技法」についても取り上げます。

皆さんと新しい教育方法の可能性を探りたいと考えています。  
教育分野に、ICTを効果的に教育に活用することに、情報技術の分野に、興味がある方には、大いに役立つことでしょう。

### ●授業内容

[第1回] イントロダクション、ICTコンテンツデザインIの復習  
具体的な授業の内容と進め方、計画、評価方法などについて説明します。

[第2回] ICTコンテンツデザインIの復習を中心に  
「インストラクショナルデザインの基本の基本」などについて復習を中心に取り上げます。

[第3回] 「良いコンテンツ」を考える  
一分動画の制作をとおして良いコンテンツの仮説を立てます。

[第4回] 目標の明確化  
インストラクショナルデザインから、「目標設定の明確化」について説明します。

[第5回] 学習者評価と動機づけモデル  
インストラクショナルデザインから、「学習者評価」と「動機づけモデル」について説明します。

[第6回] eラーニングの成功をデザインしよう、教材企画書の原案を考える  
eラーニングの成功をデザインするために、一分動画を振り返ります。  
春学期の振り返りとインストラクショナルデザインを活かして制作するコンテンツの企画書について説明します。  
[課題] 教材企画書(初版)を完成させよう

[第7回] 制作演習1  
教材企画書の発表会と意見交換、それに基づく設計修正 など

[第8回] 制作演習2  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第9回] 制作演習3  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第10回] 制作演習4  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第11回] 制作演習5  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など

[第12回] 制作演習6と形成的評価  
素材作成、撮影・編集、コンテンツ化 など  
ここでは、コンテンツをチェックする手法である形成的評価についても説明します。

[第13回] 制作演習7  
最終チェック、コンテンツ提出

第13回と第14回の間相互評価を行います。  
[第14回] 発表会、まとめ

### ●履修上の注意

基本的なパソコンの操作ができること、「授業の概要・到達目標」に興味があることに加えて、宮原担当の「ICTコンテンツデザインI」受講相当の知識・経験があることが前提条件です。  
最後まであきらめずに新しいことに自ら挑戦できる自信も必要です。

### ●準備学習(予習・復習等)の内容

授業時間では制作演習を多く行うため、授業時間外に、課題への取り組みや、制作演習に関係する準備、作業が発生します。  
また、一部、反転授業を取り入れる可能性があります。

### ●教科書

特に定めませんが、参考書としてあげる書籍は持っていません。

### ●参考書

・[教材設計マニュアル]、鈴木克明著、(北大路書房)  
・[教材設計マニュアル—教師のためのインストラクショナルデザイン]、稲垣忠・鈴木克明著、(北大路書房)  
・[学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン]、J. M. ケラー著、鈴木克明監訳(北大路書房)  
他は、随時授業中にお知らせします。

### ●課題に対するフィードバックの方法

毎回、「大福帳」というコメントシートを使用して、学生・教員間のコミュニケーションを実現します。詳細は、初回の授業で説明します。  
その他、必要に応じて、適切な方法でフィードバックを行います。

### ●成績評価の方法

[課題など提出物・取り組み姿勢] 50%  
[最終成果物] 50% (制作物一式と最終レポートなど)  
※状況に応じて多少の割合の調整はあります。  
※無断での欠席が4回を超えた場合は評価対象外とします。  
※定期試験は行いません。

### ●その他

コンテンツの発表会、相互評価については、状況に応じてやり方を変えます。  
できるだけ多くの演習時間を確保するために前倒しして進めます。  
履修者の人数や皆さんの希望を踏まえて、制作演習開始前に「グループまたは個人」のどちらの取り組みにするかを決めます。  
個人制作となった場合でも、意見交換できる場を設けます。

科目ナンバー: IF ACD 325 J	
ICT総合実践I	小林 信三

## ●授業の概要・到達目標

人々の暮らしと社会が大きく変わる「生成 AI 時代」の ICT 実践スキルを身につけよう！

このクラスでは、これから始まる生成 AI 時代に向けて、「文系的センス」をフルに活かした「理想の未来社会」を ICT を駆使して構想していきます。

このクラスでは、こんな学生を受講を期待しています：

- ・生成 AI や ICT を実践的ツールとして身につけたい文系学生
- ・大学で学んだ専門知識を実社会やビジネスで活かしたい文系学生
- ・IT は詳しくないけど、IT の利活用には興味がある文系学生

このクラスでは、ICT 演習の実践場として、担当講師が参画する以下の社会実装プロジェクトと連携して授業を進めていきます。

2023 年トヨタ財団国内助成プログラム採択事業  
「次世代の自治型社会を担う若き冒険者たちを応援するプロジェクト」(未来クエスト推進チーム)  
> <https://www.tovotafound.or.jp/community/2023/>

このクラスの学習テーマ / 達成目標は、  
～「私たちの理想の未来社会」を実現する“しくみ”をつくる～  
です。

前期 (I) では、個々人の「理想の未来社会」を想定し、その未来に向けた ICT や生成 AI の活用方法について実践的な演習をおして学んでいきます。

後期 (II) では、前期で習得した「理想の未来像」と「ICT や生成 AI の実践的活用ノウハウ」を活かして、「新たな自治社会を支える ICT プラットフォーム」を数名のチームで構想・実装します。

このクラスの実習で使用する ICT ツールは、主に Google や YouTube などのクラウドサービスやオンラインアプリですので、普段パソコンやスマホを使い慣れている学生であれば特に専門的な知識やプログラミング技術は必要ありません。

また、クラス内での情報共有やコミュニケーションにおいて、メジャーリーガーの大谷翔平選手も利用したことで知られている「マンダラ」(DMM: Diamond Mandala Matrix) を「思考言語ツール」として使用します。

みなさんの興味関心や大学生活で学んだ専門分野の知識をぜひこのクラスで「かたち=プラットフォーム」にしてみてください！

## ●授業内容

このクラスでは「バックキャスト思考法」(将来のあるべき理想の姿から考える思考法)を用いて、以下の4つのセッションでそれぞれの課題について実習と発表をおこなっていきます。

<セッション課題 (1) >

～私の理想の未来社会を描いてみよう！伝えてみよう！～

[第 1 回] マンダラで理想の未来社会を可視化してみる

[第 2 回] 生成 AI で理想の未来像を言語化してみる

[第 3 回] 成果発表交流会 (1)

<セッション課題 (2) >

～30 年後の未来社会の“しくみ” (政治、経済、教育、福祉、etc.) を想像してみよう！～

[第 4 回] マンダラで 30 年後の未来社会の“しくみ”を可視化してみる

[第 5 回] 生成 AI で 30 年後の未来社会の“しくみ”を言語化してみる

[第 6 回] 成果発表交流会 (2)

<セッション課題 (3) >

～現状の社会課題や将来的なリスク、ポテンシャルを探り出してみよう！～

[第 7 回] マンダラで現状の社会課題や将来的なリスク、ポテンシャルを可視化してみる

[第 8 回] 生成 AI で現状の社会課題や将来的なリスク、ポテンシャルを分析してみる

[第 9 回] 成果発表交流会 (3)

<セッション課題 (4) >

～30 年後の理想の未来社会に向けて、今私ができること、すべきことを考えてみよう！～

[第 10 回] 現在有効な ICT ツールやサービス、要素技術を調査する

[第 11 回] 30 年後の「理想の未来」に向けて、今 ICT を使ってできること、その効果をマンダラで可視化してみる

[第 12 回] 30 年後の「理想の未来」に向けて、今 ICT を使ってできること、その効果を生成 AI で言語化してみる

[第 13 回] 成果発表交流会 (4)

[第 14 回] 学習成果の振り返り

## ●履修上の注意

- ・普段使い慣れているパソコン、タブレット PC があればそれを使ってください。(Windows, Mac, Chromebook 等、機種 OS は問いません)
- ・スマホがあれば、授業の補助ツールとして適宜利用してください。
- ・授業では筆記用具を必ず持参してください。

## ●準備学習 (予習・復習等) の内容

事前学習 (予習)

- ・各回の授業テーマについての事前知識 (知っていること、興味関心、疑問・知りたことなど) を「学びのアルバム」に登録する。

事後学習 (復習)

- ・各回の授業で学んだこと (重要だと思ったこと、講師やクラスの仲間に伝えたいこと、関連する情報など) を「学びのアルバム」に登録する。

## ●教科書

特に指定なし

## ●参考書

参考サイト：  
「銀河まんだら村」  
>> [https://note.com/mandala\\_village](https://note.com/mandala_village)  
「未来創造・集団思考実験装置 ～ドレーモンの『もしもボックス』を再現してみる～」  
>> <https://t.ly/felIUW>  
「トヨタ財団 2023 年度国内助成プログラム」  
>> <https://www.tovotafound.or.jp/community/2023/>

## ●課題に対するフィードバックの方法

各セッションでの実習成果の発表に対してクラス内での相互評価 (コメント・アドバイス等) を行います。

## ●成績評価の方法

以下の4つの課題提出物について成績を評価・採点します (知識ベースの試験は行いません)。なお、それぞれの課題の提出基準 / 評価基準については、授業のなかで説明します。不明な点があれば都度講師に確認してください。

- 1) 事前学習 : 10%
- 2) 事後学習 : 10%
- 3) 成果発表 : 60%
- 4) 授業貢献 (各成果発表に対する相互評価) : 20%

## ●その他

このクラスでは、担当講師の知識や経験だけではなく、実社会で ICT を活用しているさまざまな分野の方々による体験談や情報交換などの機会も積極的に取り入れていきます。

「次世代の自治型社会を担う若き冒険者たちを応援するプロジェクト」の概要  
> <https://tovotafound.my.salesforce-sites.com/psearch/losetDetail?name=D23-LG-0017>

自治型社会とは地域社会の課題を、自治体・NPO・企業・大学など多様なセクターや人々と協働しながら住民コミュニティ自身が主体的に問題解決にある社会との認識の下、本プロジェクトでは主体的な活動の源泉となるモチベーションを一人ひとりの心に如何に生み出すか引き出すか、ということをも根本理念とした「ミライクエスト」を実施・展開する。

「ミライクエスト」は、サスティナブルな世界を創っていく人を育て、若き冒険者たちを応援する場と機会を提供することを目的とした取り組みである。若き冒険者たち、すなわち子どもたちや学生たちを「起点」とし、同心円状に大人たちの輪が広がっていくことで、世代・地域・国籍などに関わらず多様な人々がつながりながら、地域内外の関係人口の拡がりを生み出していく、新しい視点をもった自治システムの創出と人材の育成につながる社会の実現をめざす。

科目ナンバー: IF ACD 325 J	
ICT総合実践II	小林 信三

## ●授業の概要・到達目標

人々の暮らしと社会が大きく変わる「生成 AI 時代」の ICT プラットフォームを構想・構築してみよう！

このクラスでは、これから始まる生成 AI 時代に向けて、「文系的センス」をフルに活かした「理想の未来社会」を ICT を駆使して構想していきます。

このクラスでは、こんな学生を受講を期待しています：

- ・生成 AI や ICT を実践的ツールとして身につけたい文系学生
- ・大学で学んだ専門知識を実社会やビジネスで活かしたい文系学生
- ・IT は詳しくないけど、IT の利活用には興味がある文系学生

このクラスでは、ICT 演習の実践場として、担当講師が参画する以下の社会実装プロジェクトと連携して授業を進めていきます。

2023 年トヨタ財団国内助成プログラム採択事業  
「次世代の自治型社会を担う若き冒険者たちを応援するプロジェクト」(未来クエスト推進チーム)  
> <https://www.tovotafound.or.jp/community/2023/>

このクラスの学習テーマ / 達成目標は、  
～「私たちの理想の未来社会」を実現する“しくみ”をつくる～  
です。

前期 (I) では、個々人の「理想の未来社会」を想定し、その未来に向けた ICT や生成 AI の活用方法について実践的な演習をおして学んでいきます。

後期 (II) では、前期で習得した「理想の未来像」と「ICT や生成 AI の実践的活用ノウハウ」を活かして、「新たな自治社会を支える ICT プラットフォーム」を数名のチームで構想・実装します。

このクラスの実習で使用する ICT ツールは、主に Google や YouTube などのクラウドサービスやオンラインアプリですので、普段パソコンやスマホを使い慣れている学生であれば特に専門的な知識やプログラミング技術は必要ありません。

また、クラス内での情報共有やコミュニケーションにおいて、メジャーリーガーの大谷翔平選手も利用したことで知られている「マンダラ」(DMM: Diamond Mandala Matrix) を「思考言語ツール」として使用します。

みなさんの興味関心や大学生活で学んだ専門分野の知識をぜひこのクラスで「かたち=プラットフォーム」にしてみてください！

## ●授業内容

このクラスでは、前期で習得した「理想の未来像」と「ICT や生成 AI の実践的活用ノウハウ」を活かして、「新たな自治社会を支える ICT プラットフォーム」を実際のシステム構築のプロセスに基づいて構想・実装していきます。具体的には、以下の3つのセッションでそれぞれの課題について数名のチームで演習をおこなっていきます。

<セッション課題 (1) >

～開発フェーズ1: 理想の ICT プラットフォームをチームで構想・企画してみよう！～

[第 1 回] マンダラで生成 AI でプロジェクトチームを編成する

[第 2 回] マンダラでそれぞれの「理想の未来社会」を統合する

[第 3 回] チームで「理想の ICT プラットフォーム構想」を企画する

[第 4 回] 成果発表交流会 (1)

<セッション課題 (2) >

～開発フェーズ2: 理想の ICT プラットフォームを設計・構築してみよう！～

[第 5 回] 「理想の ICT プラットフォーム構想」を実現するためのツールやサービスを探す

[第 6 回] 「理想の ICT プラットフォーム構想」を実現するためのツールやサービスを組み合わせる

[第 7 回] 「理想の ICT プラットフォーム」のユーザー・インターフェースやコンテンツを整える

[第 8 回] 「理想の ICT プラットフォーム」の全体設計図をまとめる

[第 9 回] 成果発表交流会 (2)

<セッション課題 (3) >

～開発フェーズ3: 理想の ICT プラットフォームをまずは自分たちで使ってみよう！ Eat Your Own Dog Food～

[第 10 回] 開発した「理想の ICT プラットフォーム」の課題・問題点を洗い出す

[第 11 回] 開発した「理想の ICT プラットフォーム」を改修・改善する

[第 12 回] 開発した「理想の ICT プラットフォーム」を世界にアピールする「プレスリリース」をつくる

[第 13 回] 成果発表交流会 (3)

[第 14 回] 学習成果の振り返り

## ●履修上の注意

- ・普段使い慣れているパソコン、タブレット PC があればそれを使ってください。(Windows, Mac, Chromebook 等、機種 OS は問いません)
- ・スマホがあれば、授業の補助ツールとして適宜利用してください。
- ・授業では筆記用具を必ず持参してください。

## ●準備学習 (予習・復習等) の内容

事前学習 (予習)

- ・各回の授業テーマについての事前知識 (知っていること、興味関心、疑問・知りたことなど) を「学びのアルバム」に登録する。

事後学習 (復習)

- ・各回の授業で学んだこと (重要だと思ったこと、講師やクラスの仲間に伝えたいこと、関連する情報など) を「学びのアルバム」に登録する。

## ●教科書

特に指定なし

## ●参考書

参考サイト：  
「銀河まんだら村」  
>> [https://note.com/mandala\\_village](https://note.com/mandala_village)  
「未来創造・集団思考実験装置 ～ドレーモンの『もしもボックス』を再現してみる～」  
>> <https://t.ly/felIUW>  
「トヨタ財団 2023 年度国内助成プログラム」  
>> <https://www.tovotafound.or.jp/community/2023/>

## ●課題に対するフィードバックの方法

各セッションでの実習成果の発表に対してクラス内での相互評価 (コメント・アドバイス等) を行います。

## ●成績評価の方法

以下の4つの課題提出物について成績を評価・採点します (知識ベースの試験は行いません)。なお、それぞれの課題の提出基準 / 評価基準については、授業のなかで説明します。不明な点があれば都度講師に確認してください。

- 1) 事前学習 : 10%
- 2) 事後学習 : 10%
- 3) 成果発表 : 60%
- 4) 授業貢献 (各成果発表に対する相互評価) : 20%

## ●その他

このクラスでは、担当講師の知識や経験だけではなく、実社会で ICT を活用しているさまざまな分野の方々による体験談や情報交換などの機会も積極的に取り入れていきます。

「次世代の自治型社会を担う若き冒険者たちを応援するプロジェクト」の概要  
> <https://tovotafound.my.salesforce-sites.com/psearch/losetDetail?name=D23-LG-0017>

自治型社会とは地域社会の課題を、自治体・NPO・企業・大学など多様なセクターや人々と協働しながら住民コミュニティ自身が主体的に問題解決にある社会との認識の下、本プロジェクトでは主体的な活動の源泉となるモチベーションを一人ひとりの心に如何に生み出すか引き出すか、ということをも根本理念とした「ミライクエスト」を実施・展開する。

「ミライクエスト」は、サスティナブルな世界を創っていく人を育て、若き冒険者たちを応援する場と機会を提供することを目的とした取り組みである。若き冒険者たち、すなわち子どもたちや学生たちを「起点」とし、同心円状に大人たちの輪が広がっていくことで、世代・地域・国籍などに関わらず多様な人々がつながりながら、地域内外の関係人口の拡がりを生み出していく、新しい視点をもった自治システムの創出と人材の育成につながる社会の実現をめざす。

科目ナンバー: IF ACD 325 J	
ICT総合実践I	岡田 昭夫

## ●授業の概要・到達目標

この授業は【対面】だよ、オンラインじゃないぞー。  
ちょっとそのキミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電(いでん)にかける？ ケータイにかけるでしょ。なぜ? 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。この感覚に共感できるキミ、ネット上の授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみて。キミが就職して、大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客である Aさんと呼び出してもらおう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って呼び出してもらえるかい? 無理でしょ!!  
キミたちは明治大学の多彩な情報カリキュラムでスキルの研鑽に励んできた。ICT 総合実践はそれらの知識やスキルを横断的に駆使して学問研究を行い、卒業後には社会人として活躍するための資質を涵養する授業だ。ここでは、情報スキルを駆使する者の人間力の涵養にも主眼を置きたい。例えばどんなに優れたコンテンツを制作しても、それを伝えようとする者の伝達力が貧弱であれば、その優秀性を分かってもらえないんだよ。その意味では情報スキルを極めることは、それを使用する人間の人間力を極めねばならないというアナログの側に立ち至るというパラドックスをボクと一緒に一年間かけて理解してほしい。  
そこで ICT 総合実践 I では、メディアとインターネットに知らず知らず歪曲された社会の中で幸せに、自分らしく生きていく方法を考えてみよう。ICT の中でも「ソーシャルコミュニティ」や「ソーシャルネットワーキング」と呼ばれる部分を、キミと一緒に考えていきたい。その後はプレゼンテーション力のみならず、話術やディベート力等のアナログ力を情報論の観点から養っていく。その意味では、社会に出るための「実学教育」だ。  
まあ、この授業を履修するに必要な資質は、最大限に「楽しむ」ことだ。キミも仲間に入らないかい。

## ●授業内容

[第1回] イントロダクション 「今、キミの何がヤバイのか」「今、社会の何がヤバイのか」  
お約束の授業の説明だぞ。この授業(春学期)では、メディアを使うキミの人間性の部分の涵養を目指す。今回は「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の基本理解を目指すぞ。そしてそれを払しょくするものが極めて困難な場合が社会にはあることを知って欲しい。今年度前期は、これを払しょくするのが大きなテーマだ。なんでそんなことが必要なのか、しっかり理解してくれよ!!

[第2回] 今どきの大学生のライフプランニング  
キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れるからだ。Covid-19 を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我がが将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。  
大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍しているかということだ。それには「今、なにに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく。今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起せ。それには日本人が戦後ずっと培ってきた因習的な価値観は勇氣をもって捨てなければならぬかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。

[第3回] 「前へ」「前へ2」、「立ち止まる勇氣を」「遠回りを楽しむ余裕を」  
むかしは、ワセダの学生「も」明治の学生同様、元気だった… いまは…? 大丈夫か? ボク心配なんだよ。 なんて、今(含むボク)には、明治のような Moral Code という原点座標がないんだよ。ここでいう明治の Moral Code とは…それは「前へ」だ。今日は前へをめぐる2つの話題について考えてもらう。  
先日この3月に卒業予定の4年生が我が家に遊びに来てくれた。彼女「ワタシ、早稲田も受けたけど明治に来てホントによかったぞ!!」ってさ。ボク、今はこの言葉がなぜかとても嬉しい…

[第4回] 失った社会性を求めて  
ボクワセダの授業の最終プレゼンで発表した学生が「疾病」を「しつびょう」と読んだ。ちがう学生が「外科」を「がいこ」を読んだ、ボクは悲しくてさめざめと泣いた。  
キミたちは語彙力も、作文力も、会話力も、安全感覚も、あれもこれも… みーんな減退している。そして大衆同調性が力増している。そして SNS で自分のアイデンティティを隠してじゃあない意見が言えない、中には匿名性に隠れとんでもないことをやる。そこで輔導される問題生徒は、昼間学校で見るソイツとはまるで別人格になってインターネット上を暗躍している。完全に人格解離が起きているわけだ。このような状況下で、知らないうちにキミが喪失した社会性を特定すると、そこに極めて深刻な状況が見えてくる。相当な覚悟をして、明治を巣立つまでに取り戻す努力をしないと大変なことになるぞ!!

[第5回] 失った社会性を求めて2、メディアの医学的側面(準備)  
前回の授業の続きだ。キミが卒業までに涵養しなければならない「社会性」はあまりにも多い。そのことを知ることができたキミはそれを手に入れることができるんだよ。がんばれ!!  
それと、次回に本格的に行う「メディアの医学的側面」の準備をしよう。

[第6回] メディアの医学的側面(本論)  
きょうは久しぶりに実習ではなくアタマで考えよう。この社会のコマーシャルズのおかげで、我々は「毎日生きていること=人体実験」という恐ろしい状況に立ち至っていることを認識しよう。自分の健康のために、回避できるものは回避する努力を!!

[第7回] 働くってどういうこと?  
唐突だけど言っておくぞ。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」expendables なんだよ。例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒト誰でもができることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけなければならぬ。そして脱消耗品を目標していかなければならない。そうじゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける… これってめっちゃ恐ろしいことじゃないか?? 働くってどういうことなんだろう…

[第8回] 品格を磨く  
いろんな教え子を見ていてホント思う… 「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ。もちろんボクもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して」品格を磨こう!! もう「親の育て方が云々」言いわけすんな!! 自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こう!!

[第9回] 印象に残るしゃべり方入門(面接攻略法)  
きょうは、印象に残るしゃべり方入門だ。考えてみろよ、社会性を取り戻さなければならぬキミが面接を受けるんだから、ロクなことにならない、だろ。だろ?? 実はプレゼンの話術と面接の話術は共通しているんだ。だからプレゼンの上手い学生は、面接に行っても印象に残れる。おそらくこの機を逃すと天下の楽えある明治大学とはいえ、もう誰も教えてくれないぞ。しっかりカラダに叩きこめ。

[第10回] 目指せ超上級!! プレゼンスキルトレーニング その1 PowerPoint 作図講習会  
これから3回にわたってプレゼン講習会をやるぞ。まずはPowerPointの作図とアニメーションスキルで超上級を目指すぞ。  
ボクのBasicを受講したキミには復習で重複する部分もあるけれど、あの時より更に、更に上の究極の動きを目指すぞ!!

[第11回] 目指せプレゼン超上級者!! その2 PowerPoint アニメーション講習会1  
きょうもPowerPoint 修行がまっているぞ!! きょうは作図とアニメの総合的課題が待っているよ。がんばらずに楽しめ!!

[第12回] 目指せプレゼン超上級者!! その3 PowerPoint アニメーション講習会 – PowerPoint スキル完結編  
きょうは、精緻な作画を、スムーズに動かして、わかりやすいモーション動画に仕上げているけど。きょうの「修行」が終わると、「オレ(ワタシ)こんなことまでできるようになったんだ!!」とびびっくりすると思う。そうしたら自分を褒めてやれ!!

[第13回] プレゼンのコツ  
キミたちは、明治駿河台の上級生だ。このあと就活や卒業を控えていることだろう。就活でも、社会人になっても最も必要とされるスキルは、自分のメッセージをうまく相手に伝えることだ。きょうはその一端を、いや「門外不出の奥義?」をしつかり身に付けてくれ!! 必ず、大切ところはメモを取ること!! 先輩たちの成功例と失敗例を見せるから、楽しめ!!

[第14回] 「啓子さんのこと」「ももちゃんのこと」  
ボクの授業は、「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだよね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業の「きょうのひとつ」等でキミの真摯なコトバを見た以上、ボクはここで手を抜かない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披露する。  
この授業が終わると、明治大学が授業の底流で掲げ続けてきた「メディアから理想的な距離を置くこと」、そしてボクが一貫して唱えてきた「メディアは人を大切にするために」ということを、キミは雄弁に友達に語るようになっていくはずだ。授業の終わりはキミの「生きざま」の始まりに過ぎない!

## ●履修上の注意

[履修上の注意]  
とにかく出席を心がけてほしい。ゼミ形式を前提としているので、キミたちが抱えている悩みや課題も大切な教材として取り上げよう!

[以下のトレーニングを実施するので、それに資する経験を日ごろから心掛けてほしい。]  
1.事例の図式化トレーニング  
さて Computing って何だ?? コンピュータを人間の知的活動に適用・応用していくことを言う。とくにこの授業ではコンピュータの画像処理能力に注目したい。それを利用して既存の理論や事実関係を、聴衆が平易に理解できるように図式化するトレーニングを行う。ここでは裁判の事実関係、疾病の医学的機序等の所与の課題につき、作図・作画等によるコンテンツを駆使し平易に説明する訓練を行う。  
2.プレゼンスライドの即時製作トレーニング  
企業担当者の話を聞くと、よく「現場で時間をかけずにスライドを作れる人材が欲しい」という話を聞く。スライドプレゼンテーションの分野において実社会が求めるスキルのひとつに、時間をかけずに見栄えの良いスライドを制作するというものがある。表計算や文書作成に比して、スライド作成には長時間を要してしまうという現状の打破を目指す。現場で完成度の高いスライドを速成するにはどのようなコツが必要なかを経験的に身につけていく。  
3.しゃべり方トレーニング  
大衆同調性の強いこの国の国民性故に、学生は、就活面接においても「同じスーツ」を着て「同じ髪型」をして、マニュアル本で覚えた「同じ答え」をする。採用側は「誰に会っても同じに見える」という印象を持つ。そこで面接の採否は第一印象を決めてしまうということをはじめに耳にする。相手が第一印象を決定するにはキミのしゃべりの印象は極めて重要なファクターとなる。そこでキャリアビルディングとしてしゃべり方の習熟をこの授業のテーマのひとつとしたい。積極的に授業に参加して、どんどんしゃべってほしい。

## ●準備学習(予習・復習等)の内容

- (1) 授業で学んだ情報化社会の批判的分析力を駆使し、日々のニュースの背後に存在する真の社会的意義を特定する知的作業に常に取り組んでいくこと。
- (2) 「社会という巨大な書物」を読むことを心がける。すなわち授業外で、同じ課題研究班の仲間たちと、社会に飛び出し、フィールドワークを積極的に展開すること。

## ●教科書

教材は当方からさまざまなものを適宜配布する。  
また授業用 Web ページにオンデマンド教材が格納されている。

## ●参考文献

授業の底流には常に、「メディアを通じて人を大切にする」というコンセプトがある。メディア社会で自分の基本座標が見えなくなったとき読んでもらうためにサブテキストを用意する。  
『シナモンロールにハチミツをかけて – 太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語ー』 岡田昭夫著  
(銀の鈴社 刊) ISBN : 978-4-87786-274-9 C0095

## ●課題に対するフィードバックの方法

この授業は、比較的低人数で対面で実施している。したがって毎回、授業終了後、履修者が様々な感想を述べてくれる。また相談やアドバイスを求めてくれる。その授業後の時間を大切にしていきたい。そこでコミュニケーションを確立していく。

## ●成績評価の方法

各グループで制作したプレゼンテーションの巧拙 60%  
授業の後に記入する授業の感想「きょうのひとつ」の熱心さ 30%  
各自の各グループへの貢献度 10%  
筆記試験はこれを実施しない。

## ●その他

出席を心がけて欲しい。課題研究班単位の活動も多くなるので、ここで素敵な仲間達といひ出会いをして欲しい。  
そして半年経ったとき、仲間と素敵な達成感を味わって欲しい。  
キミに会えるのを楽しみにしている!

科目ナンバー: IF ACD 325 J	
ICT総合実践Ⅱ	岡田 昭夫

## ●授業の概要・到達目標

この授業は【対面】だよ、オンラインじゃないぞー。  
 ちよっとそのキミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電(いいでん)にかける？ ケータイにかけるでしょ。なぜ?? 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。この感覚に共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみてくれ。キミが就職して、大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客である A さんと呼び出してもらおう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って呼び出してもらえるかい? 無理でしょ!!  
 キミたちは ICT ベーシック等で、情報スキルの研鑽に励んできた。ICT 総合実践はそれらの知識やスキルを横断的に駆使して学問研究を行い、卒業後には社会人として活躍するための資質を涵養する授業だ。  
 特に後期は、実社会で即戦力になるために必要なスキルをしっかり身に付けていく。例えば、キミが営業担当になったとして、クライアント宅への訪問アポを午後7時に取ったとしよう。キミは何時にクライアント宅のインターフォンを鳴らす?? 「エッ、だって7時」じゃないんすか?? なんて言っているキミ、「寝言は寝て言え!!」この授業では徹底的に社会人スキルを身に付けてもらうぞ!! 事情が許せばこの授業から果立って社会人としてバリバリ活躍している先輩を招いて、実社会での即戦力となるためのアドバイスをもらう機会も作っていかうと計画している。就活や就職を控えているキミにいい刺激になるぞ。  
 つまり、ICT 総合実践Ⅱでは、3年生と4年生の上級生が履修するんだから、就職活動やその後の実社会で通用するしゃべり方や論議の仕方等、またプロジェクトの実施手順等の実践的スキルを徹底的に身に着的トレーニングを実施していくことさ。  
 そのために、秋学期では、キミたちにバーチャル企業を設立してもらい、その企業の企画や営業として商品開発を行ってもらおう。どのような商品開発か、それは明治大学駿河台の特性を活かして、千代田区岩本町という日本で最高峰の土地をめぐる土地活用だ。仮想の土地オーナーのところに、建築の打ち合わせという形で企画・営業訪問してもらおう!! 先輩たちはそれを通じて、卒業までに涵養しなければならぬ社会性の多さに凛然としているよ。 だけど、その洗礼を受けて明治を果立せば、ほかの同僚に一歩も二歩も先んじることができると。一緒に楽しんで身につけよう!  
 とにかく就活や面接、プレゼンコンテストやビジコンで、勝ちにいて結果を出せる人材にキミを仕上げたい!! キミも仲間に入らないか。

## ●授業内容

[第1回] イントロダクション—即戦力養成としての商品開発—  
 秋学期は、100分の授業時間の中に可能な限り実習時間を取り込んで、建物デザインという「商品開発」に夢と妄想を一杯抱いて、最高に楽しんで行こう!  
 キミたちの中に「なんで、建築構造とかやっつてんの?? オレたちどこへ向かっているの??」とか、「先生、オレらに何を求めているの??」とか戸惑っているヤツもいるんじゃないかな。そこでまず、「商品開発コンペの全体の流れ」を説明する。それを理解するとともに、営業スキルとしてのプレゼン力がどれほど重要でかつ厳しいものかをこの半年の間に身を以て実感して欲しい。  
 そのあと、キミの計画土地に対する「漠然とした夢と先読み」の内容を聞かせてもらうよ。  
 [第2回] マーケットの動向の検討  
 前回は対計画土地に関する漠然とした夢を語った。きょうはその夢が具体化できるか、マーケットの今と将来を考えよう。ここでは ICT で培った情報収集力の復習もしよう。  
 [第3回] イメージの具体化  
 今回は、キミが有望と考えたマーケットを計画土地で生かすために、実際にあの土地は国や自治体にどのような規制を受けているかを調べよう。ここでも情報収集力を駆使しよう。  
 [第4回] 建築構造の基礎  
 だいぶ計画土地に建物を建てるための知識が増えてきたね。そこで今回は、ある意味で「キモ」の部分だ。実際にどんな建築の方法で建物を建てるか、近い将来キミがクライアントに提案するプランニングの中心になる「建物の構造」について、基礎知識を身につけよう。  
 [第5回] 全体の流れを理解して実社会でのプレゼン力の重要性を実感する。自治体の助成制度を調べる。  
 キミの土地活用プランを、クライアントさんが採用してくれるのは「立派で素敵なプランで、建築コストが安い」ということが大切だ。そのためには、「誰か、あるいは外部の組織が、助成金を出してくれる事業」を導入すれば、建築費を抑えられる。そんな助成対象事業を、情報収集のスキルを使用して探そう!!  
 [第6回] プレゼンコンペ共通の建築ルールを決める。  
 今までの授業で、実社会でプレゼンを行うということの厳しさを実感として理解できたことと思う。つまり、契約できれば売り上げは数億円。できなければコンペ参加のための費用が百数十万円、もし負けたら売り上げはゼロで参加費分は赤字だ。こんな敗北が続けば、キミは戦力外で居場所がなくなる。わかってもらえてるよな、実社会は厳しいんだよ。  
 きょうはこのような厳しい実社会のコンペを競合他社と行うためのルールをしっかりと理解して、次週は「クライアントとのバーチャル面談第1回」を実施して、クライアントの要望を情報として入手する。それを基にしてキミの会社が勝ちに行くための具体的な土地活用プランを練り上げていく。そのための大切な「競技ルール」だ。しっかりと理解して実践に活かさないでキミの会社は負けるぞ。  
 [第7回] 第1回クライアント面談準備  
 いよいよ時間の授業から、バーチャル「クライアント面談」だ。クライアントさん役は TA さんにやってもらおう。アポは 19:00 に計画土地にある既存のクライアント家だ。何時までに到着し、何時何分にインターフォンを押し、どう挨拶や自己紹介をして、どこで雑談を入れて、そのあと会社説明を行うか… 事前に計画をしなければならぬことは山ほどあるぞ。ところでキミ、ちゃんと名刺渡せるの?  
 こういう経験を積んで、仕事のできる社会人になっていくさ。  
 [第8回] 第1回クライアント面談  
 きょうはいよいよ、第1回のバーチャル面談だ。クライアントの家のインターフォンを鳴らすところから、営業として、忘れてはならない心配りのスキルを体験してもらおう。実社会に出た時、「瞬時に判断」しなくてはならないのは、どんなことなのかを体験してくれ。今回はクライアントを前にした瞬時の判断が大切だ!!  
 [第9回] 第1回面談でのクライアントへのキミの対処法の検討と第2回クライアント面談  
 今回は、前回の「第1回面談」でのキミの対応で、瞬時に考えるべきことがどれだけあるかに驚愕したと思う。それを体験的に知ることがこの授業の最も重要な目標だ。社会に果立つまでに少しでも多くそのソーシャルスキルを身につけてくれ。ただ、これもゼッタイ忘れるな。「人間関係に正解はない」。人の受け止め方はみんな違う。いいと思ってる間でも、相手の受け止め方は千差万別だ。さあ、思い知ったら第2回クライアント面談だ。  
 [第10回] 第2回面談後の対処と第3回面談の準備  
 前2回の、営業訪問で「瞬時の判断」「瞬時の対応例」を、キミたちは卒業までに涵養しなければならないことを痛感しただろう。それはこのあと地道に努力を続けてくれ。さあ、今回の第3回面談からは、更に細心の注意で、いよいよ提案書作りに必要ないろいろある情報を、疎漏なくクライアントから聞き出さなければならない。今回は計画土地の具体的な数値データを提供するため、それを基に、具体的な建築プランを次の面談で提示しよう。そのための詳細な準備を行うのが今回の授業だ。

[第11回] 第3回面談の実施  
 前2回の面談で収集した情報、そして前回の授業で計画したヒアリングでクライアントから適格に情報を得ることを目指そう。そろそろ当該敷地にどのような形の建物をクライアントが望んでいるのかを的確に聞き出そう。それを基に最終のコンペプレゼンでは PowerPoint に作るぞ。クライアントから情報を聞き漏らすと、そろそろ致命傷に因るぞ。  
 [第12回] 最終(第4回)面談の実施  
 今回は、最終面談だ。必要な情報を聞き漏らすと取り返しのつかないことになる。クライアントに採用してもらえる素敵な提案を作って欲しい。そのための最後の機会だ。  
 [第13回] 「勝ちに行く」プレゼンの作り方講習会  
 ようやく聞取り図プラン等も完成し始めているだろうから、今回は実際のコンペでの決戦に勝ちに行けるスライドの構成・演出を企画しよう。今回は実在の大手建築会社がコンペに使用して勝負にいった本物のプレゼンを教材として見せるよ。それを基にして、プレゼンすべき内容をどのような順番で並べたら上手くいくかを考えよう。  
 [第14回] 最終コンペプレゼン本番!!  
 いよいよ、プレゼン本番。キミの会社が勝てるよう、がんばれよ!! 勝ったチームだけ単位やるからな!! (うそだよ)。

## ●履修上の注意

【履修上の注意点】  
 とにかく出席を心がけてほしい。ゼミ形式を前提としているので、キミたちが抱えている悩みや課題も大切な教材として取り上げていこう!  
 【以下のトレーニングを行うので、それに資する経験を日ごろから積んでほしい】  
 ICT 総合実践は、ICT ベーシックを修了した学生が履修することが多いであろう。そういうキミたちはごく近い将来就職活動やインターンシップに従事することになる。そこでつぎのようなトレーニングを行う。  
 1. ディベートトレーニング  
 この単元では、演習系の授業や集団面接等における合理的な論議の進め方の涵養を目指す。特にキミ達が苦手に感じ忌避する質問への答え方は徹底的に訓練していきたい。ここでは、効果的な意見主張や傾聴の方法、効果的な(視覚)補助資料の利用方法等をトレーニングしていく。この単元は全4回とし、キミ達には課題研究班ごとに、ディベーターと審査員を各2回ずつ体験してもらおう。他者のディベートを審査の視点から観察することで、ディベートのコツがよく理解できる。各班が2回行うディベートのテーマのうち1回は日常的話題とし、もう1回は課題研究のテーマから、ボクが提示する。  
 2. 画像・図表コンテンツ作成トレーニング  
 この授業に出会う前に、キミたちの中には、メディアコンテンツの製作を学んだヤツもいるだろうし、数値解析が得意なヤツもいる。またプレゼンスライドの制作が好きなヤツもいる。そこで各人のそれらの得意なスキルを活かして、秋学期の最終プレゼンの制作にあたる。3D-CAD の体験も含めて、スチール画の編集、動画や音楽のノンリニア編集、数値解算様々なワザを用いて、個性豊かなスライド製作に励んでほしい。得意技のないヤツも大丈夫。ここで磨けばいいんだから。  
 3. 実社会でのビジネス疑似体験  
 多くの学生がこの授業の履修段階で、インターンシップの経験をしていることと思う。そこでその経験を呼び起こし、実社会で仕事をすることの緊張感(言葉づかいや所作からプレゼンに至るまで)を継続して身につけておこう機会としてほしい。

## ●準備学習(予習・復習等)の内容

- 就職活動で体験した内容(不足したスキル、話し方の問題点等)を授業で皆で共有し、それらを克服するスキルの涵養を目指したい。したがって、授業中にそれらの体験を気軽に共有できる雰囲気を作りたい。
- コンペプレゼンの実習では、土地活用をテーマとする。指定された計画土地を頻繁に見学に行くこと。
- 「社会という巨大な書物」を読むことを心がける。すなわち授業外で、同じ班の仲間たちと、社会に飛び出し、フィールドワークを積極的に展開すること。

## ●教科書

教材は当方からさまざまなものを用意配布する。  
 また授業用 Web ページにオンデマンド教材が格納されている。

## ●参考書

授業の底流には常に、「メディアを通じて人を大切にすること」というコンセプトがある。メディア社会での自分の基本座標が見えなくなったとき読んでもらうためにサブテキストを用意する。  
 『シナモンロールにハチミツをかけて —太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語—』岡田昭夫著  
 (銀の鈴社 刊) ISBN: 978-4-87786-274-9 C0095

## ●課題に対するフィードバックの方法

この授業は、比較的少人数で対面を実施している。したがって毎回、授業終了後、履修者が様々な感想を述べてくれる。また相談やアドバイスを求めてくれる。その授業後の時間を大切にしていきたい。そこでコミュニケーションを確立していく。

## ●成績評価の方法

・各自が毎回の授業履修後に提出する授業の感想である「きょうのひとこと」を参考にして把握した「授業をどのくらい楽しんでいるか」20% 楽しんでいるヤツほど評価が高くなる。  
 ・商品開発コンペプレゼンの巧拙 60%  
 各自のグループへの貢献度 20%  
 を斟酌して算定する。  
 筆記試験は、これを実施しない。

## ●その他

出席を心がけて欲しい。  
 課題研究班単位の活動も多くなるので、ここで素敵な仲間達といひ出会いをして欲しい。そして半年経ったとき、仲間と素敵な達成感を味わって欲しい。  
 キミに会えるのを楽しみにしているよ!

## A. 明治大学の情報サービスについて

# MIND利用上の遵守事項ガイドライン

～インターネットを使う上で守るべきこと～

MIND(マインド)とは:Meiji University Integrated Network Domain の略。

明治大学に整備されたネットワークのこと。

このガイドラインは、MIND利用基準(<https://www.meiji.ac.jp/mind/rule/mind-riyoutokijun.html>)第7条に定める遵守事項(4ページ参照)を分かりやすく説明するためのものです。ガイドラインを十分に理解し、明治大学の一員としてMINDの良識ある利用を心がけてください。

### 1. はじめに

**MINDでは、以下のような行為は不正利用として禁止されています！！【重要】**

- ① 他者になりすましてMINDを利用すること、およびそれを助長すること。

#### 要注意！

例えば・・・ID/パスワードを貸し借りすると、貸した者も借りた者も不正利用となります。  
「自分のID/パスワードを使い学内パソコンにログオンし、そばについて友人に利用させる」等も、実質的に代人利用ですので不正です！

- ② 他人の権利を不当に侵害する情報、公序良俗に反する情報を取り扱うこと。
- ③ 知的財産権により保護された情報を不当に扱うこと。
- ④ 教育・研究、およびその支援に関する目的以外に利用すること。
- ⑤ 特別に許可された場合を除き、営利目的のために利用すること。
- ⑥ 通信の秘密を侵害すること。
- ⑦ MINDの運用に支障を来すような利用をすること。

### ★不正利用に対する措置★

MINDを不正利用した者に対しては、MIND関連規程に則り、利用停止や利用資格取消等の厳しい措置がとられます。これらの措置を受けた者は、以下のような深刻な状況になります。

- Webでの履修申請ができなくなる。
- 証明書自動発行機が利用できなくなる。
- Oh-o! Meiji システムの利用ができなくなる。
- 授業や研究等で使用する場合であっても、MINDを利用することができなくなる。
- 教室や自習室に設置してあるパソコンの利用ができなくなる。
- 各キャンパス図書館の情報検索用パソコンの利用ができなくなる。
- 学内の情報コンセントの利用ができなくなる。
- 大学の電子メールが利用できなくなる。
- 図書館が提供する電子ブック・電子ジャーナル・データベースが使えなくなる。
- その他MINDを利用する全てのサービスが受けられなくなる等...

このような状況を招かないためにも、以降の説明を熟読したうえで、適正にMINDを利用してください。

## **2. MIND利用の目的**

MINDは、一般のプロバイダなどでのネットワーク利用とは異なり、「教育・研究及びその支援」以外の目的の利用を禁止しています(MIND利用基準第7条第1項第1号)。

したがって、MINDは、ゲームその他の娯楽や趣味の目的、ネット・ショッピングサイト開設などのような営利目的、純然たる政治活動の目的、特定の宗教の布教等の目的で利用できるシステムではありません。まして、ネットワークを利用したいいわゆる「出会い系サイト」の運営、「援助交際」や「ねずみ講」まがいの行為、あるいは「ギャンブル」などは許されません。ソフトウェアの違法コピーのための利用も許されません。この他、ネットワーク上の迷惑行為、例えば商業的な広告宣伝の目的で不特定多数の人に電子メールを送りつける行為等も許されません。

## **3. 通信の秘密とプライバシーの保護**

MINDでは、電子メールなどを利用して情報をやり取りすることができます。

情報のやり取りについては、憲法で保障された基本的人権である「通信の秘密」をはじめとして、「プライバシー」及び「個人情報」の保護が強く求められます。したがって、他人の電子メールの内容を勝手に見たり、本人の承諾を得ないまま電子メールの内容を他人に知らせたりすることは許されませんし、その他システム上のトラブルを招く行為も禁止されています。

サークルやゼミなどでは、お互いの連絡のためにメンバー限定で個人情報が共有されている場合があります。メーリングリストの参加者のアドレスを含め、公開されていない個人情報を、本人の承諾なく他人に知らせる行為も許されません。

## **4. システムの適正な利用**

MINDは、非常に高機能なネットワーク・システムです。そして、とても多くの人たちが毎日このシステムを利用しています。

システムが円滑に運営されるためには、MINDを支えているコンピュータ・システムが安全に機能していることが不可欠です。システムの安全の確保にとって最も大きな脅威は、コンピュータ・ウイルスなどのマルウェアです。出所不明のプログラムや電子メールの転送、知らない人から送られてきた添付ファイルを安易に開くことは、とても危険なことです。

従来、パソコンのセキュリティ上の欠陥が発見される度に、それを悪用する新しいマルウェアが何者かによって作成されてきました。本学でも、こうしたマルウェアによって、多くのパソコンが感染による機能不全に陥り、その結果として、ネットワークが遅くなるなど、大きな影響を受けたことがありました。このようなマルウェアの感染被害を防止するためには、MINDに接続する各パソコンにおいて、セキュリティ上の欠陥を修正するプログラムを実行すること(Windows Update 等)が大切です。

他の利用者の存在やシステムの負荷を考慮せず、利己的な都合だけで大量の電子メールを送受信することなどもシステムの円滑な利用を阻害します。なかなかネットワークにつながらないからといって、自分の端末装置(クライアント)をネットワークに接続し続ける行為やVPN 接続等の受け口を独占するような行為は、結果的に、システム全体の接続状況を悪化させることとなります。

また、図書館が提供するオンライン情報源(電子ブック・電子ジャーナル・データベース)など、外部のウェブサイトにはアクセスする場合には利用規定等を確認し、適正に利用してください。

## **5. 社会常識に反する行為**

ホームページの開設やメーリングリストの利用などにより、一定の社会関係が形成されます。そこでは、参加する利用者、人間としての尊厳を相互に尊重し合うことが求められます。このことは、一般の社会における人間関係とまったく同じです。したがって、ネットワーク上での誹謗中傷や名誉毀損行為、感情の流れにまかせた個人攻撃、不合理

な差別行為、ストーカー行為やセクハラ行為などは、決して許されるものではありません。状況をわきまえないで、面白半分だけのからかいや卑わいな言動をすることなども禁止されています。

## **6. 遵守事項違反行為に対する措置**

MINDの遵守事項を守らない利用者に対しては、一定の措置が適用されます。

措置には、利用資格の取消・停止・変更、その他の教育的措置などがあります。MIND審査委員による最終的な措置が決定されるまでの間、仮の措置として、MINDの利用が暫定的に停止または制限されることがあります。

利用資格の停止がなされると、停止が解除されるまでの間はMINDにアクセスすることができません。その結果、ネットワークを利用する授業科目を受講できなくなることもあります。

学内に設置されているほとんどの共有施設のパソコンは、IDとパスワードによる認証を前提として運用されています。よって、IDとパスワードの貸借は詐称行為に相当し、MINDの適正かつ正常な運用を妨げる不正行為として、貸した側の学生と借りた側の学生の両者が措置を受けることになります。

MINDの利用者のうち、MINDに接続する機器(サーバやパソコン、無線LAN接続を行ったスマートフォン等)を所有する者は、その管理責任を負うことから、「接続責任者」と呼ばれています。研究室や実験室のパソコンの接続責任者は、通常、その研究室や実験室の教員です。研究室や実験室のパソコンでネットワークを学生に使用させている場合、学生のいずれかが違反行為をすると、利用資格の取消などは接続責任者である教員に対してなされます。この場合、接続責任者である教員の利用権限に基づいて、それらの研究室や実験室などのパソコンでネットワークを利用している他の学生も、一同にネットワークの利用ができなくなってしまうため、ネットワークを利用して教育活動をする教員は、学生などのユーザに対し、接続責任者としての教育・指導を徹底するように義務づけられています。ただし、情報コンセント接続、無線LAN接続、VPN接続をモバイル・アカウントで行う場合には、接続をする人が学生であっても接続責任者となります。

みなさんが管理・所有しているパソコンが、新たなマルウェアの発生源と認定された場合は、正常な状態に回復したことが確認されるまで、一時的に学内ネットワークへの接続を停止する、モバイル・アカウントを停止する等の措置をとらせていただくこともあります。

## **7. コンピュータ犯罪と民事賠償責任**

MINDの利用上の違反行為が悪質な場合、コンピュータ犯罪として処罰されたり、民事上の責任として損害賠償責任を負うこともあります。たとえば、他の利用者のデータを勝手に書き換えたり壊したりすると犯罪になります。詐欺目的で課金システムに偽のデータを送信したりプログラムを書き換えたりすれば、重い罪になります。ネットワーク上の名誉毀損、業務妨害行為、ソフトウェアの違法コピーなども処罰対象となる行為です。さらに、いせつな画像や文章などをホームページに掲載するのも犯罪行為です。犯罪行為の場合には、刑事事件として警察の捜査対象となります。

コンピュータ犯罪にならないものも含めて、ネットワーク上で他人の権利を害する行為をすると、民事上の損害賠償責任を問われることがあります。たとえば、電子メールやメーリングリストあるいはホームページでの名誉毀損行為、誹謗中傷行為、脅迫行為、差別発言行為、ソフトウェアの違法コピーなどで悪質なものは、それが犯罪にならない程度のものであっても、民事上の損害賠償責任を負わされることがあるのです。わざとやったのではなく、まちがってネットワーク・システムを壊してしまった場合でも、そのあやまち(過失)の内容と程度によっては、損害賠償責任を負うことがあります。この場合、賠償金額がかなり巨額になる可能性があります。まちがいは言えないにしても度が過ぎた場合で、それが社会的な相当性を欠く場合も同じです。もし学生がMINDの規程違反行為及び、その他の不都合な行為をしてしまい、法的責任を負わされる可能性があるときは、その後の対応(弁護士相談を含む)について、速やかに各キャンパスのメディア支援事務室または中野キャンパス事務室の窓口申し出てください。

## 8. ネットワークの快適な利用に向けて

MIND利用基準上の遵守事項は、大学の情報ネットワーク・システムを利用する上での最低限度のルールを定めるものです。

大事なことは、ネットワーク上であっても、一般の社会生活と同様に、社会の一員としての良識に従った利用が必要だということを自覚すること、すなわち、きちんとしたモラルを身につけることです。ネットワークの利用者は、相手の人格と生活を相互に尊重し、誰もが快適にネットワークを利用できるように気配りすることを心がけましょう。一人ひとりの心がけにより、快適で実り多いネットワーク利用が保障されるのです。

### 明治大学総合情報ネットワーク(MIND)利用基準 第7条 1項

(遵守事項)

第7条 MINDの利用者は、その利用に当たっては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 教育・研究及びその支援に関連する目的以外に利用しないこと。
- (2) 営利活動のために利用しないこと。ただし、本学学生・生徒及び教職員等の本学に係る個人、団体又は法人が行う本学の学生・生徒及び教職員を対象とする教育・研究支援及び福利・厚生を目的とする活動に付帯するものについては、この限りでない。
- (3) 通信の秘密を侵害しないこと。
- (4) プライバシー、名誉等の他人の権利を不当に侵害する情報又は公序良俗に反する情報を取り扱わないこと。
- (5) 著作権、特許権等の知的財産権により保護された情報を取り扱うときは、それを適正に利用すること。
- (6) MINDの適正かつ正常な運用のために協力し、運用に支障を来すような利用をしないこと。
- (7) その他本部長が必要と認める事項



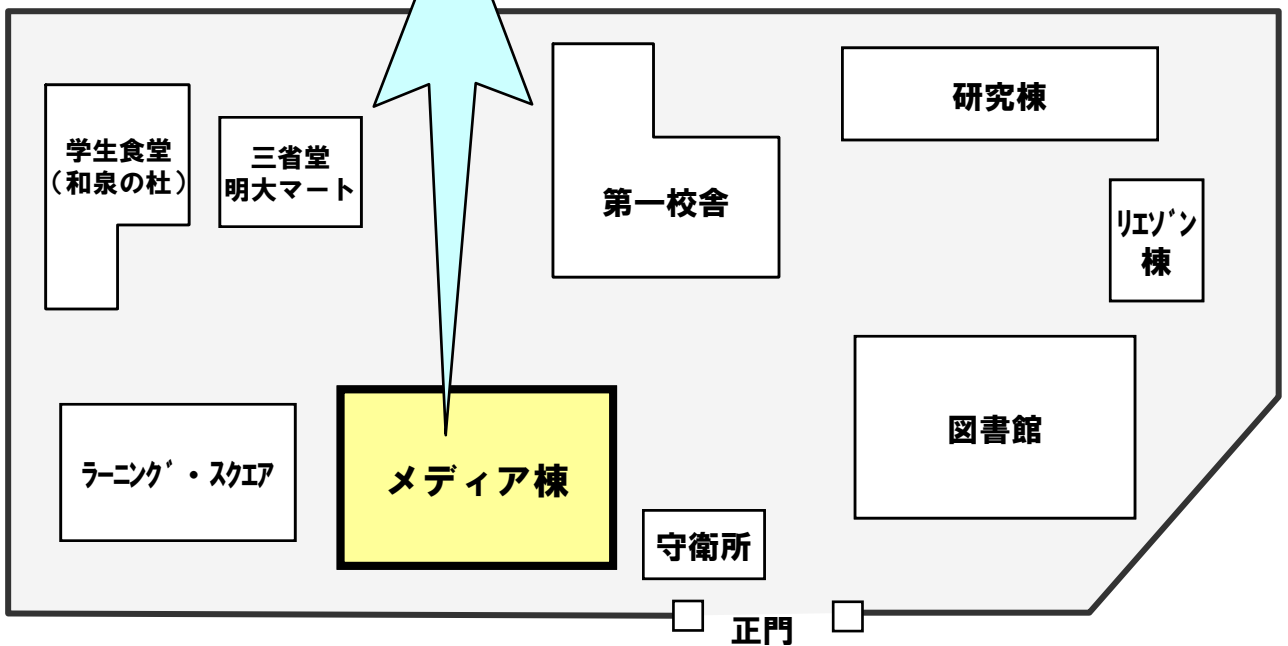
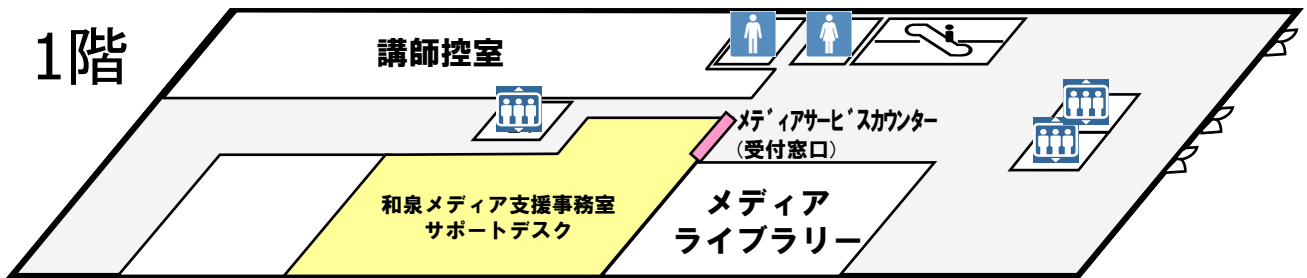
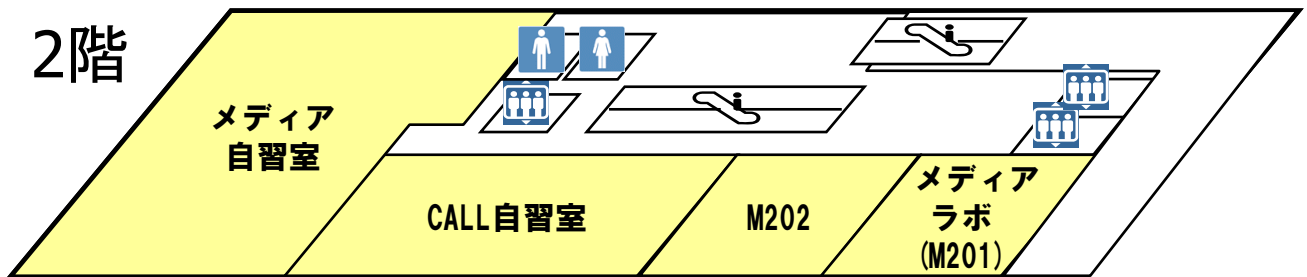
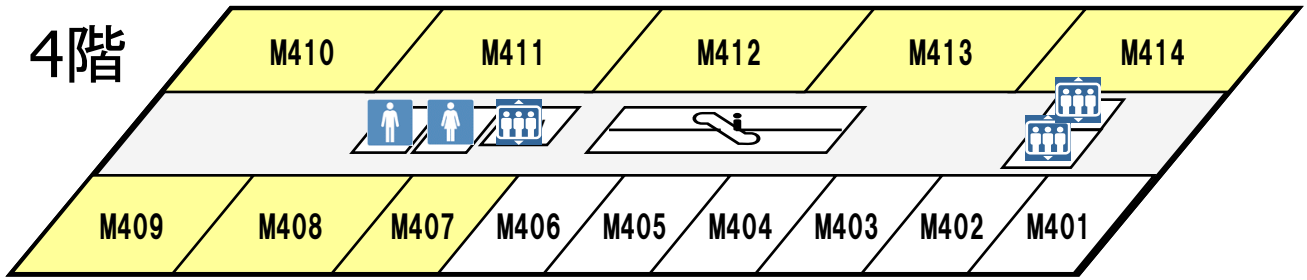
発行日	2024年4月1日
発行	明治大学 情報基盤本部
URL	<a href="https://www.meiji.ac.jp/mind/">https://www.meiji.ac.jp/mind/</a>

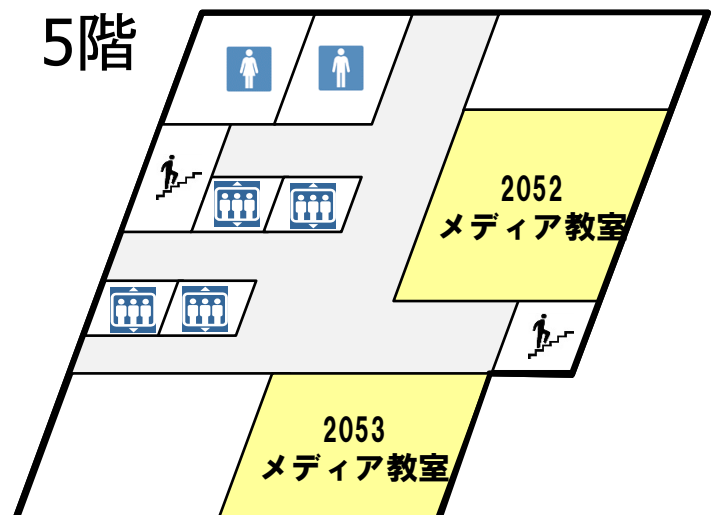
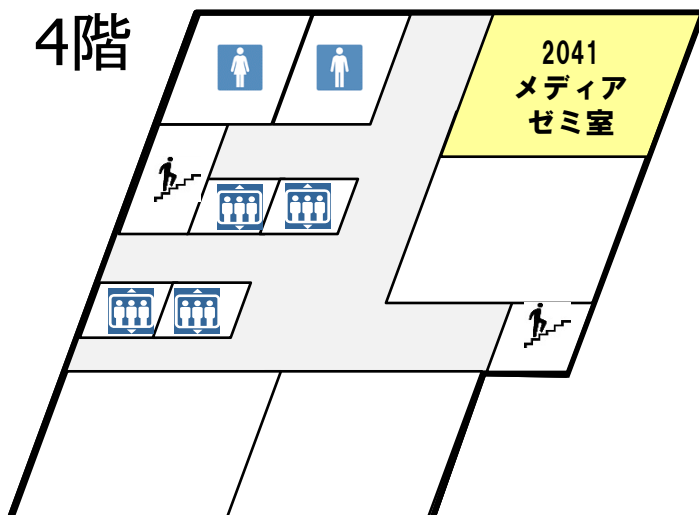
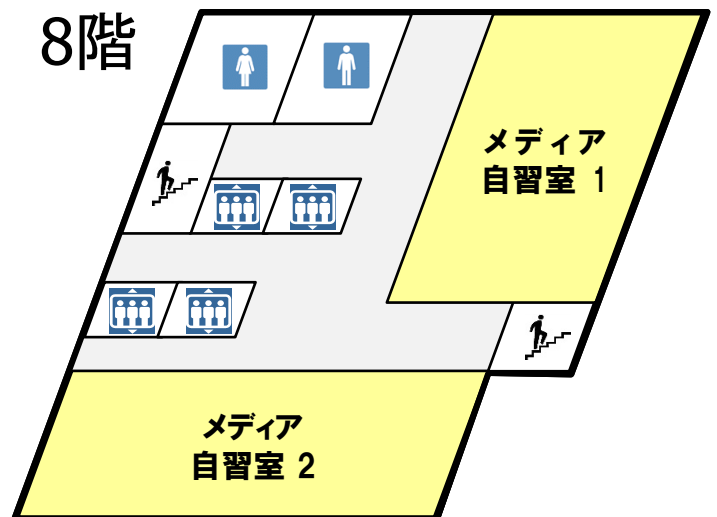
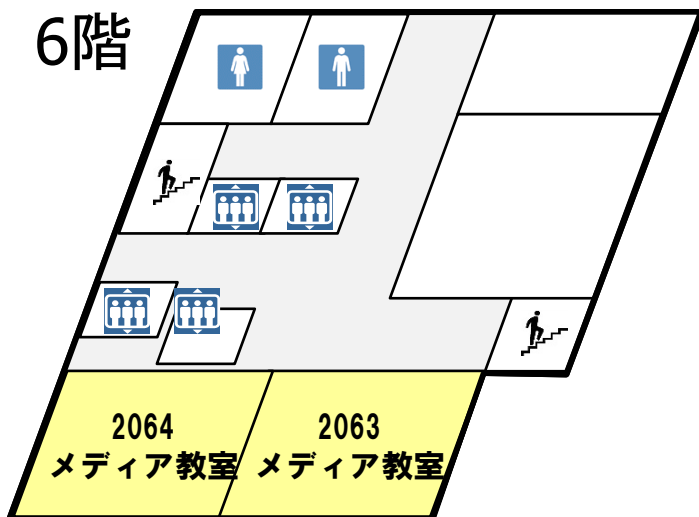
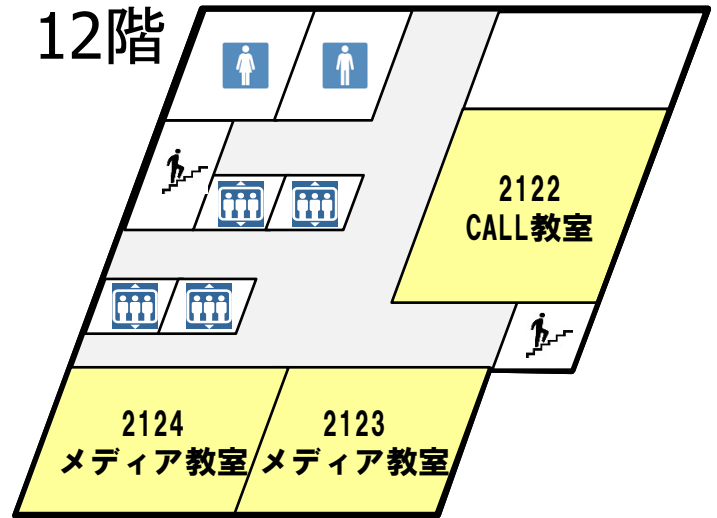
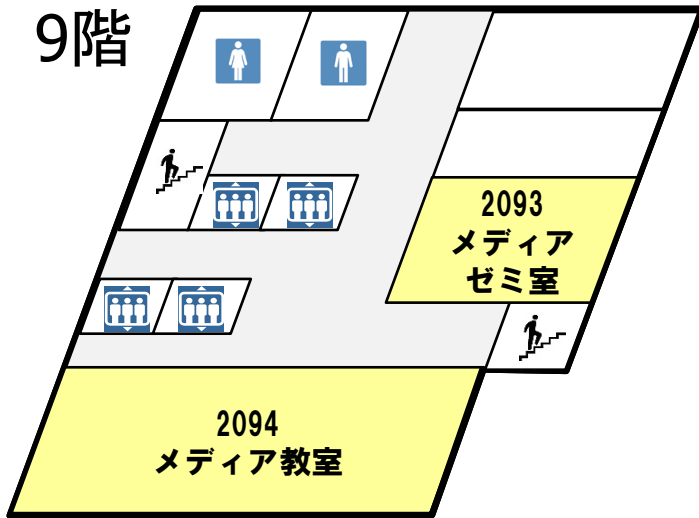


B. 施設案内図

和泉キャンパス

メディア棟 情報メディア関連施設 案内図



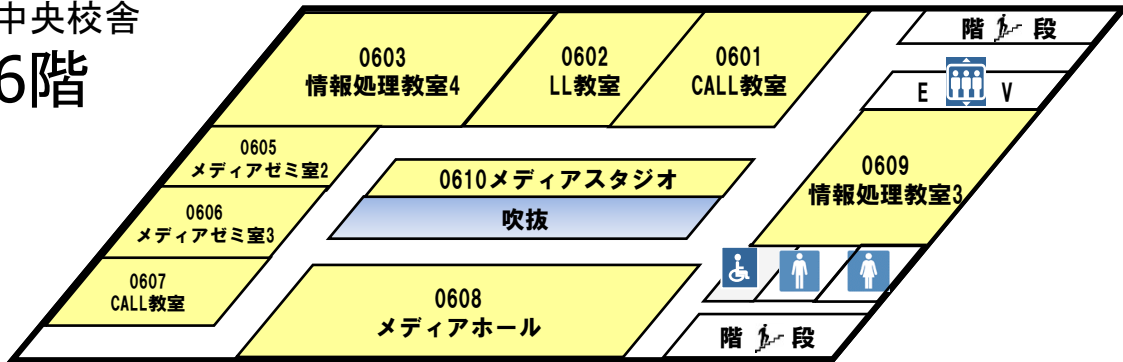


メディア支援事務室・サポートデスク・メディアライブラリーは7階です。

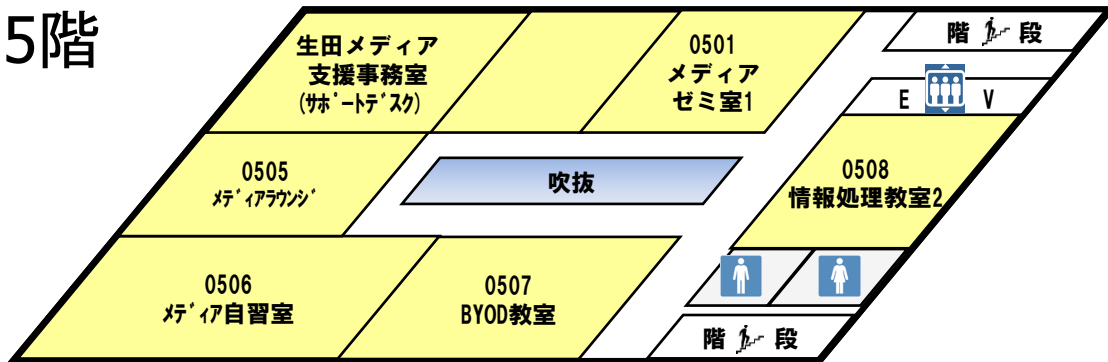
生田キャンパス

情報メディア関連施設 案内図

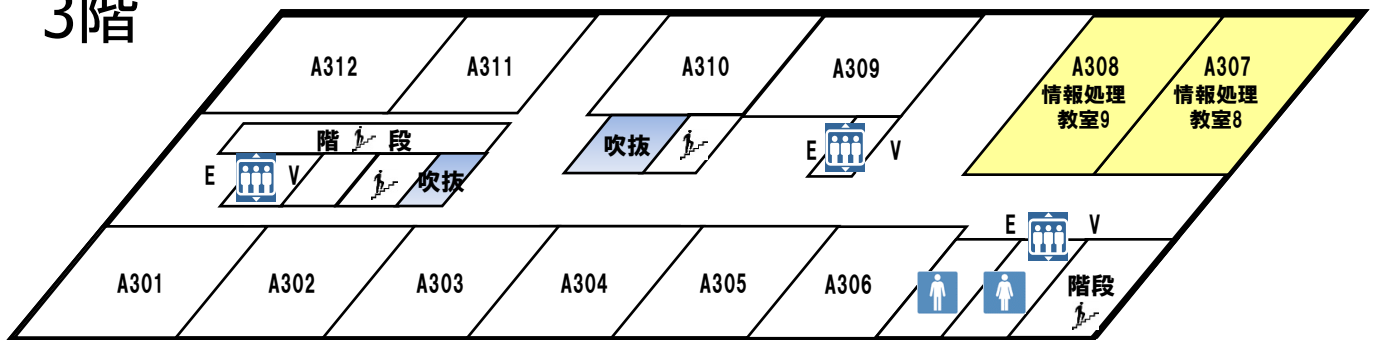
中央校舎  
6階



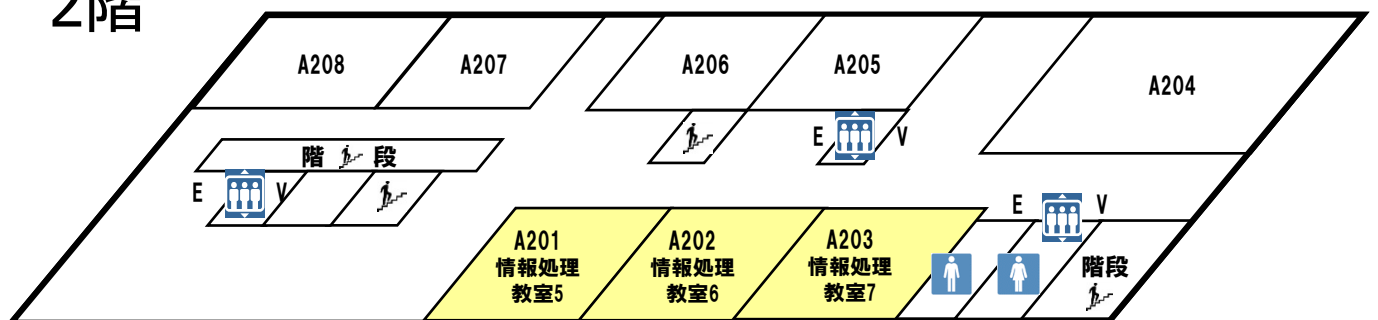
中央校舎  
5階



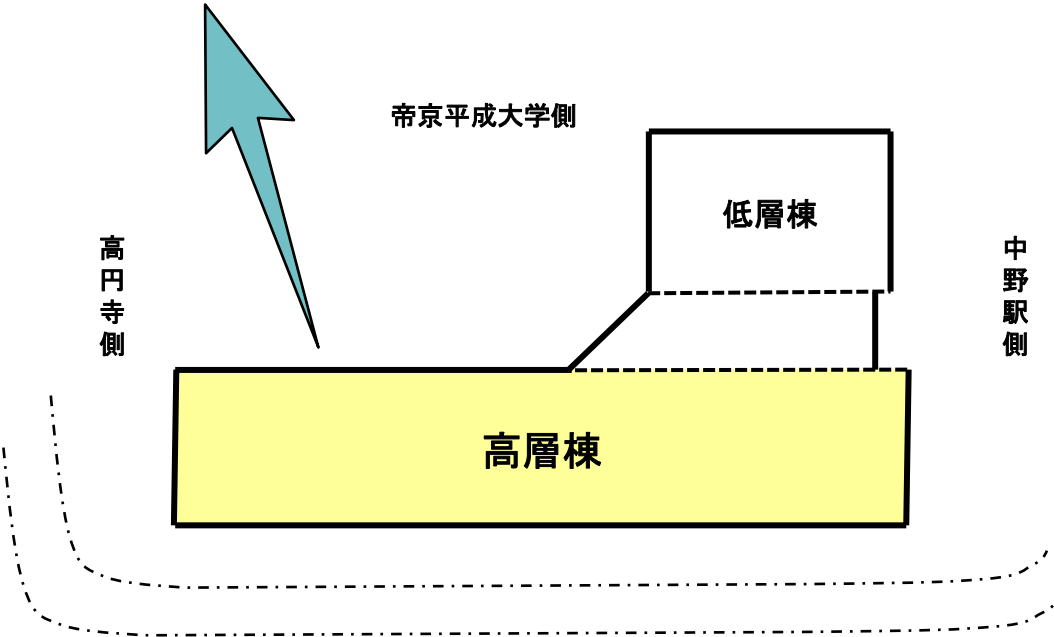
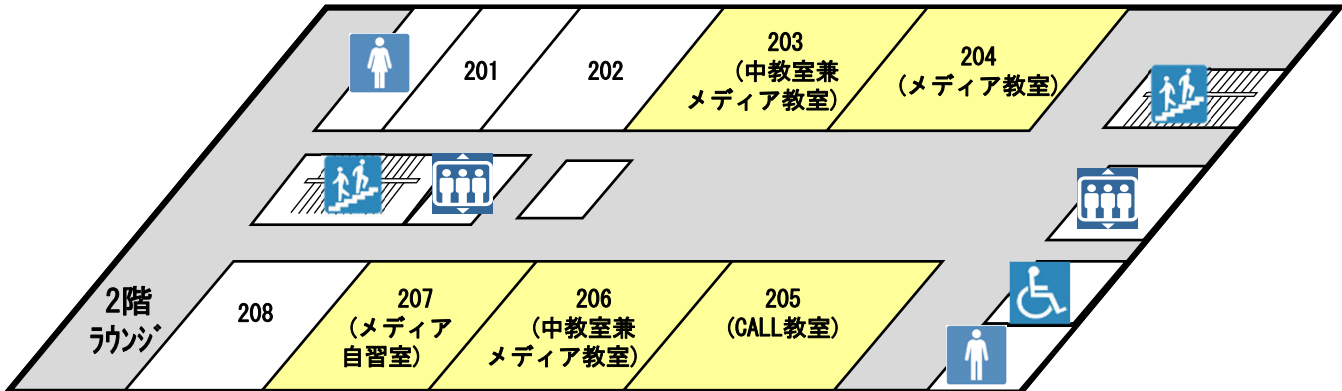
第二校舎A館  
3階



第二校舎A館  
2階



高層棟 2階



中野キャンパス事務室	低層棟 3階
サポートデスク	低層棟 4階
ラーニング・ラウンジ (メディアライブラリー)	高層棟 1階

## C. 情報関連講習会について

### 情報関連講習会の目的

情報関連講習会は基本的なコンピュータリテラシーを習得することに主眼を置いたもので、情報関係科目履修者に限らず、一般の学生、教職員等を対象に開催されます。情報関係科目はある程度のコンピュータリテラシーを前提に授業が行なわれることもありますので、履修者は講義の予習・復習に情報関連講習会を活用してください。また、情報関連講習会のテキスト・動画等は各キャンパスの情報メディアホームページで公開していますので、各自で自習することも可能です。自習の際に発生した疑問は、情報アシスタントに気軽に尋ねてください。

### 開講日時・実施形態・受講手続きについて

<オンライン>

現在下記のページにて公開をしています。ご確認ください。

<https://www.meiji.ac.jp/edu-info/menu/koshukai.html>

<対面形式>

#### 【駿河台】

- ・ 事前予約制です。講習会の前日までにメディア支援事務室の窓口で予約申込をしてください。
- ・ 開催日時・実施形態については、掲示板・ホームページ( <https://www.meiji.ac.jp/ksys/> )にてお知らせします。

#### 【和泉】

- ・ 開催日時・実施形態・申し込み方法等の詳細については、下記ホームページ及び Oh-o!Meiji でのお知らせをご確認ください。  
→和泉メディアホームページ( <https://www.meiji.ac.jp/wsys/> )

#### 【生田】

- ・ 事前の申し込みは不要です。講習会を開催する教室へ直接集合してください。
- ・ 先着順に受け付けます。定員をオーバーした場合は、他の曜日・時間帯で受講してください。
- ・ 講習会参加者は、事前に基盤サービス利用アカウント（ユーザ ID・パスワード）を確認しておいてください。
- ・ 開催日時・実施形態については、Oh-o!Meiji システム・生田情報メディアホームページ( <https://www.meiji.ac.jp/isys/> )にてお知らせします。
- ・ 生田キャンパスでは、上記の講習会のほかに、夏季休業中及び春季休業中に「生田システム講習会」を実施します。詳細は生田情報メディアホームページで確認してください。

## 講習会の主な内容（過去年度実績）

※開催する講座は変更となる可能性があります

- ・ Word 入門
- ・ Word レポート作成
- ・ Excel 基礎
- ・ PowerPoint 入門
- ・ PowerPoint デザイン
- ・ Access 基礎
- ・ Unix/Linux1(入門)
- ・ Photoshop 基礎
- ・ Illustrator 基礎
- ・ PremierePro 基礎

---

## 2024 年度 情報関係科目シラバス

発行日 2024 年 4 月 1 日

発 行 明治大学 教育の情報化推進本部

情報メディア部 メディア支援事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

TEL 03-3296-4438 FAX 03-3296-4296

URL <https://www.meiji.ac.jp/ksys/>

情報メディア部 和泉メディア支援事務室

〒168-8555 東京都杉並区永福 1-9-1

TEL 03-5300-1426 FAX 03-5300-1205

URL <https://www.meiji.ac.jp/wsys/>

情報メディア部 生田メディア支援事務室

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1

TEL 044-934-7710 FAX 044-934-7904

URL <https://www.meiji.ac.jp/isys/>

中野キャンパス事務部 中野キャンパス事務室

〒164-8525 東京都中野区中野 4-21-1

TEL 03-5343-8060 FAX 03-5343-8029

URL <https://www.meiji.ac.jp/nksd/>

---